2025年度
ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目
300番台
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧 ［発行日：2025/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6101】漢字･漢文学A［加納　留美子］春学期授業/Spring …… 1
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6102】漢字･漢文学B［加納　留美子］秋学期授業/Fall …… 2
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6103】教養ゼミⅠ［藤村　耕治］春学期授業/Spring 3
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6104】教養ゼミⅡ［藤村　耕治］秋学期授業/Fall 5
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6107】日本芸能論A［阿部　真弓］春学期授業/Spring …… 6
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6108】日本芸能論B［阿部　真弓］秋学期授業/Fall 7
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6109】身体表現論A［深谷　公宣］春学期授業/Spring …… 8
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6110】身体表現論B［深谷　公宣］秋学期授業/Fall 9
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6111】美術論A［稲垣　立男］春学期授業/Spring 10
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6112】美術論B［稲垣　立男］秋学期授業/Fall . 13
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6113】芸術と人間A［岡村　民夫］春学期授業/Spring …… 15
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6114】芸術と人間B［岡村　民夫］秋学期授業/Fall 16
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6115】仏教思想論A［計良　隆世］春学期授業/Spring …… 17
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6116】仏教思想論B［計良　隆世］秋学期授業/Fall 19
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6121】中国の民族と文化A［齋藤　勝］春学期授業/Spring …… 21
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6122】中国の民族と文化B［齋藤　勝］秋学期授業/Fall …… 22
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6125】古代日本･中国の法と社会A［岡野　浩二］春学期授業/Spring …… 23
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6126】古代日本･中国の法と社会B［岡野　浩二］秋学期授業/Fall …… 24
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6127】アジア・太平洋島嶼国際関係史A［新崎　盛吾］春学期授業/Spring …… 25
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6128】アジア・太平洋島嶼国際関係史B［水谷　明子］秋学期授業/Fall …… 27
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6129】教養ゼミⅠ［神谷　丹路］春学期授業/Spring 28
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6130】教養ゼミⅡ［神谷　丹路］秋学期授業/Fall 29
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6131】クィア・スタディーズA［LETIZIA GUARINI］春学期授業/Spring …… 30
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6132】クィア・スタディーズB［LETIZIA GUARINI］秋学期授業/Fall …… 32
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6133】キリスト教思想史A［鵜澤　和彦］春学期授業/Spring …… 34
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6134】キリスト教思想史B［鵜澤　和彦］秋学期授業/Fall …… 36
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6137】異文化コミュニケーション論A［山本　そのこ］春学期授業/Spring …… 38

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6138】異文化コミュニケーション論B［山本　そのこ］秋学期授業/Fall 40
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6141】教養ゼミⅠ［矢澤　美佐紀］春学期授業/Spring 42
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6142】教養ゼミⅡ［矢澤　美佐紀］秋学期授業/Fall 43
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6143】イギリスと帝国A［大澤　広晃］春学期授業/Spring 44
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6144】イギリスと帝国B［大澤　広晃］秋学期授業/Fall 45
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6145】教養ゼミⅠ［副島　健作］春学期授業/Spring 46
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6146】教養ゼミⅡ［副島　健作］秋学期授業/Fall 48
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6147】徳と倫理A［内山　真莉子］春学期授業/Spring 50
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6148】徳と倫理B［内山　真莉子］秋学期授業/Fall 51
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6149】人間存在論A［森村　修］春学期授業/Spring 52
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6150】人間存在論B［森村　修］秋学期授業/Fall 54
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6201】法哲学A［内藤　淳］春学期授業/Spring 56
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6202】法哲学B［内藤　淳］秋学期授業/Fall ... 58
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6203】教養ゼミⅠ［坂根　徹］春学期授業/Spring 60
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6204】教養ゼミⅡ［坂根　徹］秋学期授業/Fall 61
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6209】人文地理学セミナーA［増淵　敏之］春学期授業/Spring 62
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6210】人文地理学セミナーB［増淵　敏之］秋学期授業/Fall 64
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6211】文化人類学方法論A［菊池　真理］春学期授業/Spring 66
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6212】文化人類学方法論B［菊池　真理］秋学期授業/Fall 68
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6215】人間行動学A［久木田　敦志］春学期授業/Spring 70
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6216】人間行動学B［久木田　敦志］秋学期授業/Fall 71
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6217】教養ゼミⅠ［浅川　希洋志］春学期授業/Spring 72
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6218】教養ゼミⅡ［浅川　希洋志］秋学期授業/Fall 73
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6219】沖縄を考えるA［中野　勝郎、大里　知子］春学期授業/Spring 74
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6220】沖縄を考えるB［中野　勝郎、大里　知子］秋学期授業/Fall 75
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6225】ヨーロッパ政治経済論A［千葉　千尋］春学期授業/Spring 76
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6226】ヨーロッパ政治経済論B［千葉　千尋］秋学期授業/Fall 77
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6303】数理論理学A［安東　祐希］春学期授業/Spring 79
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6304】数理論理学B［安東　祐希］秋学期授業/Fall 80
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6305】計算と言語のしくみ［倉田　俊彦］春学期授業/Spring 81
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6306】コンピュータと数理の活用［倉田　俊彦］秋学期授業/Fall 82
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6307】確率の世界A［池田　宏一郎］春学期授業/Spring 83
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6308】確率の世界B［池田　宏一郎］秋学期授業/Fall 84
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6311】相対性理論と宇宙A［石川　壮一］春学期授業/Spring 85

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6312】相対性理論と宇宙Ｂ［石川　壮一］秋学期授業/Fall 86
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6313】現代の錬金術Ａ［井坂　政裕］春学期授業/Spring 87
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6314】現代の錬金術Ｂ［井坂　政裕］秋学期授業/Fall 88
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6315】原子核と素粒子Ａ［吉田　智］春学期授業/Spring 89
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6316】原子核と素粒子Ｂ［吉田　智］秋学期授業/Fall 90
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6317】教養ゼミⅠ［島野　智之］春学期授業/Spring 91
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6318】教養ゼミⅡ［島野　智之］オータムセッション/Autumn Session 93
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6323】イオンの科学Ａ［向井　知大］春学期授業/Spring 95
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6324】イオンの科学Ｂ［向井　知大］秋学期授業/Fall 96
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6327】物質の科学Ａ［中田　和秀］春学期授業/Spring 97
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6328】物質の科学Ｂ［中田　和秀］秋学期授業/Fall 98
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6329】ＩＴリテラシー［児玉　靖司］春学期授業/Spring 99
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6330】コンピュータ科学［児玉　靖司］秋学期授業/Fall 100
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6335】人間と地球環境［宇野　真介］春学期授業/Spring 101
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6336】Human Impact on the Global Environment［宇野　真介］秋学期授業/Fall 103
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6337】ボルボックス生物論Ａ［植木　紀子］春学期授業/Spring 105
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6338】ボルボックス生物論Ｂ［植木　紀子］秋学期授業/Fall 106
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6339】教養ゼミⅠ［中田　和秀］春学期授業/Spring 107
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6340】教養ゼミⅡ［中田　和秀］秋学期授業/Fall 108
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6341】バイオイメージングの世界Ａ［木原　章］春学期授業/Spring 109
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6342】バイオイメージングの世界Ｂ［木原　章］秋学期授業/Fall 110
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6343】環境の科学Ａ［田中　雅人］春学期授業/Spring 111
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6344】環境の科学Ｂ［田中　雅人］秋学期授業/Fall 112
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6403】Issues in Modern Japanese Society A［LASSEGARD JAMES］春学期授業/Spring 113
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6404】Issues in Modern Japanese Society B［LASSEGARD JAMES］秋学期授業/Fall 114
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6421】第三外国語としてのドイツ語Ａ［林　志津江］春学期授業/Spring 115
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6422】第三外国語としてのドイツ語Ｂ［林　志津江］秋学期授業/Fall 117
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6423】ドイツ語コミュニケーション中級Ａ［Annette Gruber］春学期授業/Spring 118
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6424】ドイツ語コミュニケーション中級Ｂ［Annette Gruber］秋学期授業/Fall 119
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6425】教養ゼミⅠ［上田　知夫］春学期授業/Spring 120
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6426】教養ゼミⅡ［上田　知夫］秋学期授業/Fall 121
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6427】ドイツの思想Ａ［吉田　敬介］春学期授業/Spring 122

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6428】ドイツの思想B［吉田　敬介］秋学期授業/Fall 123
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6429】カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏A［林　志津江］春学期授業/Spring 124
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6430】カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏B［林　志津江］秋学期授業/Fall 126
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6431】比較文化A［D. ハイデンライヒ］春学期授業/Spring 128
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6432】比較文化B［D. ハイデンライヒ］秋学期授業/Fall 129
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6437】ドイツ語圏の公共哲学A［上田　知夫］春学期授業/Spring 130
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6438】ドイツ語圏の公共哲学B［上田　知夫］秋学期授業/Fall 131
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6439】ドイツ語圏の歴史A［辻　英史］春学期授業/Spring 132
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6440】ドイツ語圏の歴史B［辻　英史］秋学期授業/Fall 134
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6441】ドイツ語講読A［吉田　敬介］春学期授業/Spring 135
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6442】ドイツ語講読B［吉田　敬介］秋学期授業/Fall 137
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6501】スポーツ科学A［西村　一帆］春学期授業/Spring 139
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6502】スポーツ科学B［西村　一帆］秋学期授業/Fall 141
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6505】スポーツ科学A［佐藤　優希］春学期授業/Spring 143
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6506】スポーツ科学B［佐藤　優希］秋学期授業/Fall 145
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6507】スポーツ科学A［白井　隆長］春学期授業/Spring 147
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6508】スポーツ科学B［白井　隆長］秋学期授業/Fall 149
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6509】スポーツ科学A［武井　敦彦］春学期授業/Spring 151
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6510】スポーツ科学B［武井　敦彦］秋学期授業/Fall 153
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6511】スポーツ科学A［佐藤　優希］春学期授業/Spring 155
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6512】スポーツ科学B［佐藤　優希］秋学期授業/Fall 157
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6513】スポーツ科学A［吉田　康伸］春学期授業/Spring 159
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6514】スポーツ科学B［吉田　康伸］秋学期授業/Fall 160
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6517】スポーツ科学A［中澤　史］春学期授業/Spring 161
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6518】スポーツ科学B［中澤　史］秋学期授業/Fall 163
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6519】スポーツ科学A［魚住　智広］春学期授業/Spring 165
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6520】スポーツ科学B［魚住　智広］秋学期授業/Fall 166
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6529】スポーツ科学A［西村　一帆］春学期授業/Spring 167
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6530】スポーツ科学B［西村　一帆］秋学期授業/Fall 169

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6534】エビデンスから学ぶ健康と身体の変化A［林 容市］春学期授業/Spring 171
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6535】エビデンスから学ぶ健康と身体の変化B［林 容市］秋学期授業/Fall 173
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6538】スポーツ科学A［朝比奈　茂］春学期授業/Spring 175
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6539】スポーツ科学B［朝比奈　茂］秋学期授業/Fall 177
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6540】教養ゼミⅡ［朝比奈　茂］秋学期授業/Fall 179
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6601】第三外国語としてのフランス語A［廣松 勲］春学期授業/Spring 181
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6602】第三外国語としてのフランス語B［廣松 勲］秋学期授業/Fall 182
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6605】教養ゼミⅠ［大中　一彌］サマーセッション/Summer Session 183
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6606】教養ゼミⅡ［大中　一彌］オータムセッション/Autumn Session 185
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6607】教養ゼミⅠ［ル ルー 清野　ブレンダン］春学期授業/Spring 187
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6608】教養ゼミⅡ［ル ルー 清野　ブレンダン］秋学期授業/Fall 189
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6609】フランス語コミュニケーション(中･上級)A［ル ルー 清野　ブレンダン］春学期授業/Spring 191
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6610】フランス語コミュニケーション(中･上級)B［ル ルー 清野　ブレンダン］秋学期授業/Fall 193
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6701】第三外国語としてのロシア語A［佐藤　裕子］春学期授業/Spring 195
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6702】第三外国語としてのロシア語B［佐藤　裕子］秋学期授業/Fall 196
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6703】第三外国語としてのロシア語中級A［エレーナ　三神］春学期授業/Spring 197
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6704】第三外国語としてのロシア語中級B［エレーナ　三神］秋学期授業/Fall 198
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6705】実用ロシア語A［エレーナ　三神］春学期授業/Spring 199
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6706】実用ロシア語B［エレーナ　三神］秋学期授業/Fall 200
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6707】ロシア語講読A［木部　敬］春学期授業/Spring 201
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6708】ロシア語講読B［木部　敬］秋学期授業/Fall 202
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6709】時事ロシア語A［油本　真理］春学期授業/Spring 203
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6710】時事ロシア語B［油本　真理］秋学期授業/Fall 204
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6801】第三外国語としての中国語A［岩田　和子］春学期授業/Spring 205
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6802】第三外国語としての中国語B［岩田　和子］秋学期授業/Fall 206
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6803】第三外国語としての中国語中級A［木村 佳代子］春学期授業/Spring 207
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6804】第三外国語としての中国語中級B［木村 佳代子］秋学期授業/Fall 208
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6805】中国語視聴覚中級A［劉　渇氷］春学期授業/Spring 209
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6806】中国語視聴覚中級B［劉　渇氷］秋学期授業/Fall 210

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6807】中国語作文中級A［楊　心苗］春学期授業/Spring 211
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6808】中国語作文中級B［楊　心苗］秋学期授業/Fall 212
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6809】中国語コミュニケーション中級A［周　重雷］春学期授業/Spring 213
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6810】中国語コミュニケーション中級B［周　重雷］秋学期授業/Fall 214
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6811】中国語翻訳･通訳A［王　安］春学期授業/Spring 215
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6812】中国語翻訳･通訳B［王　安］秋学期授業/Fall 216
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6817】中国語講読中級A［岩田　和子］春学期授業/Spring 217
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6818】中国語講読中級B［岩田　和子］秋学期授業/Fall 218
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6821】資格中国語上級A［任　麗潔］春学期授業/Spring 219
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6822】資格中国語上級B［任　麗潔］秋学期授業/Fall 220
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6823】教養ゼミⅠ［岩田　和子］春学期授業/Spring 221
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6824】教養ゼミⅡ［岩田　和子］秋学期授業/Fall 222
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6901】第三外国語としてのスペイン語A［杉下由紀子］春学期授業/Spring 223
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6902】第三外国語としてのスペイン語B［杉下由紀子］秋学期授業/Fall 224
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6905】スペイン語上級A［佐々木　直美］春学期授業/Spring 225
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6906】スペイン語上級B［佐々木　直美］秋学期授業/Fall 226
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6907】スペイン語コミュニケーション中級A［OSNO I DE SASAKUBO H］春学期授業/Spring 227
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6908】スペイン語コミュニケーション中級B［OSNO I DE SASAKUBO H］秋学期授業/Fall 229
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6909】教養ゼミⅠ［久木　正雄］春学期授業/Spring 231
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6910】教養ゼミⅡ［久木　正雄］秋学期授業/Fall 232
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6911】スペイン語講読A［若林　大我］春学期授業/Spring 233
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6912】スペイン語講読B［若林　大我］秋学期授業/Fall 234

LIT300LA（文学 / Literature 300）

漢字･漢文学Ａ

2017年度以降入学者

加納　留美子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水2**/Wed.2
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「漢字と中国文学」をテーマに、関連する作品を先秦時代から清代まで縦断的に取り上げ、中国文学について多角的な視座から考察する。
中国で用いられる漢字は、古来特別な存在として扱われていた。他人への情報伝達という機能のほかに、吉凶の予言・運命の転換・文字占いなどの神秘的なエピソード、文字を利用した論争などの知的なエピソードに事欠かない。私たちが日常生活で使い慣れている漢字の新たな一面を紹介する。
学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】
１．作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
２．作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
３．特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
４．作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式。配布資料をもとに進行する。
授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。
フィードバックについて、毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。
共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・中国史の概要紹介
第2回	漢字のなりたち	・「六書」の紹介 ・漢字の起源と歴史 ・「字謎」の紹介
第3回	権力者と文字による予言	・予言の種類 ・歴史書に見える予言 ・「拆字」の紹介
第4回	文字が左右した運命①	・「志怪」と「伝奇」 ・文字が動かした寿命 ・読めない文字
第5回	文字が左右した運命②	・三つの予言 ・詩を用いた予言
第6回	日本・西洋・中国の「こっくりさん」	・近代諸国での流行 ・中国の「扶鸞」信仰
第7回	中国「扶鸞」信仰と知識人①	・「扶鸞」の方法と来歴 ・「扶鸞」の流行と評価
第8回	中国「扶鸞」信仰と知識人②	・宋代知識人の体験 ・明代のオカルト趣味 ・近代中国と「扶鸞」信仰
第9回	恋愛作品と文字	・『詩経』と「楽府」 ・恋のうたと言葉遊び
第10回	知識人の頓智と奇想	・外交における機知 ・知識人の応酬
第11回	伝統的「姓名」観	・避諱の制 ・姓名が左右した運命
第12回	創作活動と文字①	・「推敲」 ・現実と表現の衝突
第13回	創作活動と文字②	・詩が招いた幸運と悲運 ・「詩讖」の説
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。
本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】
参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
＜成績評価＞
平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）４０％、期末の試験またはレポート６０％。
＜基準＞
・授業における取り組み（態度・意見）
・指示された課題に対応する能力
・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】
毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。
共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This class focuses on Chinese characters and Chinese literature. We read literary works from the pre-Qin to the Qing Dynasty, and then analyze them to understand their characteristics.
From ancient times, Chinese people think of Chinese characters as a very noble existence. The basic function of conveying information to others, in addition, there are mysterious abilities. For example, Chinese characters can predict good or bad luck ； they also can transform the fate of individuals. In addition, we can easiliy find the intelligent topics which the ancient scholars seriously argued about how to use of Chinese characters.
Through various stories, introduce the true face of the Chinese characters we think are familiar with.
[Learning Objectives]
1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.
[Learning activities outside of classroom]
Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policy]
Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

漢字･漢文学Ｂ

2017年度以降入学者

加納　留美子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水2**/Wed.2
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「夢と中国文学」をテーマとする。中国人がどのような夢を見たか、様々な作品を通して紹介する。古来、中国では夢には特別な力があると信じられ、時に政治運営にも影響を与えた。時代を下るに伴い、夢を見る主体は特権階級から知識人・庶民・女性・下僕など拡大していき、夢の内容や意味も多様化していく。あわせて日本人が見た夢についても言及する。
学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】
１．作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
２．作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
３．特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
４．作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式。配布資料をもとに進行する。
授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。
フィードバックについて、毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。
共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・「ゆめ」の多義性 ・中国の夢分類
第2回	古代中国の吉夢	・誕生の予言 ・優れた人材を教示 ・栄達の予言
第3回	古代中国の凶夢①	・死期を悟る ・病魔の会話
第4回	古代中国の凶夢②	・国家滅亡の暗示 ・不明瞭な悪夢
第5回	知識人たちが得たお告げ	・文学的才能の獲得と喪失 ・創作のヒント
第6回	夢主に働きかける夢①	・夢と夢主 ・夢と現実の関連性 ・宗教的神秘体験
第7回	夢主に働きかける夢②	・死者の訴え ・前世の自分の訴え
第8回	復讐する死者	・生者に託した復讐 ・死者による復讐 ・復讐の為の転生
第9回	人外との交流	・助命嘆願 ・報恩と復讐 ・逆恨み
第10回	夢と恋愛文学	・夢での逢瀬 ・恋愛成就の神 ・夫婦の別離と再会
第11回	夢の世界の冒険	・怪異との接触 ・儚い栄達 ・動物への変身
第12回	他人と共有された夢	・「二人同夢」 ・危機の通達 ・夢での邂逅
第13回	日本における夢	・他人が見る夢 ・日本文学における夢
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。
本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】
参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
＜成績評価＞
平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）４０％、期末の試験またはレポート６０％。
＜基準＞
・授業における取り組み（態度・意見）
・指示された課題に対応する能力
・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】
毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。
共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【Outline (in English)】
The theme of this class is "Dreams and Chinese Literature". Through the various works from Pre-Qin dao Qing dynasty, introduce what dreams Chinese people have made and how to understand them.
Since ancient times, Chinese people have a great belief that dreams have special power. Sometimes, some dreams can affect the political operation. With the change of the times, the subject of dreams has expanded from royalty class to intellectuals, commonalty, women, servants and so on. This expansion seems to diversify the content of dreams.
In addition, this class will intends to talk about the stories of Japanese dreams.
[Learning Objectives]
1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.
[Learning activities outside of classroom]
Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policy]
Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

藤村　耕治

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。
特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の作品を読むという経験を通して、おのれの個性を生かしつつ、独りよがりではない表現、人に伝わる表現とはどのようなものかを、実感を通して理解し、よりよい作品に練り上げていくことが目的です。

【到達目標】
小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのように形にするか、さまざまな認識や思いを表現し、定着させて読み手に伝えるにはどのような技術や工夫が必要かという、創作的文章表現（クリエイティヴ・ライティング）における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。
他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
受講者の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（デティール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一コマにつき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。
講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。
受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。
今セメスターで書いた作品は、秋セメスターで冊子化するので、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために①	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	文芸創作のために②	受講者各自の読書歴・関心・モチーフなどについての発表してもらい、創作意識を高めあう。
第三回	過去の学生創作作品の読解と分析①	過去の受講者の作品をテキストに、読解や分析の方法論を学ぶ。
第四回	過去の学生創作作品の読解と分析②	引き続き、過去の受講者の作品を読みながら、その優れた点や問題点などについて考える。
第五回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第六回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き、受講生による作品について班別または全体で討議する。
第七回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第九回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析①	第二作目として受講生が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第十回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析②	引き続き、受講生の作品について班別または全体で討議する。
第十一回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析③	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十二回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析④	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十三回	総括①	今セメスターにおける自身の創作作品について振り返り、より完成度の高い作品にするための方法を考える。
第十四回	総括②	今セメスターにおける他者の創作作品を振り返り、評価される作品とはどのような作品かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
作品は授業時間外に制作してもらいます。
創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。体験から多くのものを得て創作に生かしてください。
また、授業に向けて他の多の受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は、各自の力に応じて、1週間にもなれば2時間にもなります。

【テキスト（教科書）】
過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】
過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】
作品の提出50％、授業内討議への積極的な参加30％、期末に課す課題（自分の作品のブラッシュアップ）20％。

【学生の意見等からの気づき】
高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】
Couse outline/Leaning Objectives
Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express there own world view and imagination.
By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".
Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.
Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.
Grading Criteria/Policy
50%submission of the work, 30％　active participation in the discussion, 20%of the semester-end assignment.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

藤村　耕治

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。
特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。
また、作品を一冊の冊子にまとめますが、それに必要な推敲・校正の方法のほか、編集に関する基礎的な方法論を身につけます。

【到達目標】
小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのようにして形にするか、さまざまな思いや認識を表現し、定着させて他者に伝えるにはどのような工夫や技術が必要かという、創作における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。
他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評し、評価する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。
受講者の作品を一冊の作品集にまとめる過程で、校正・編集などにかかわる基礎的な方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
受講生の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（デティール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一回につき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。
講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。
受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。
今セメスターでは、受講者の書いた作品を冊子化します。その過程で、校正や編集の基本的な方法についても適宜講義します。そのため、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	作品読解・分析の方法①	学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第三回	作品読解・分析の方法②	引き続き、学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第四回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第五回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き受講者の作品についての班別または全体で討議を行う。
第六回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第七回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析⑤	受講者の作品についての討議を行い、作品集に掲載する作品を決定する。
第九回	校正の方法①	作品の推敲や構成についての基本的な知識と方法を学ぶ。
第十回	校正の方法②	作品集に掲載する作品について、自身で校正する。
第十一回	作品集の編集①	本文レイアウト、誌名、表紙などを決定する。
第十二回	作品集の編集②	自分の作品および他の受講者の作品を校正する。
第十三回	作品集の編集③	念校し、校了とする。
第十四回	作品集の編集④	納品された作品集を確認し、すぐれた作品についての批評文を書く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
作品は授業時間外に制作してもらいます。
創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。
また、授業に向けて他の多の受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は各自の力に応じて、1週間にもなれば2時間にもなります。
編集委員長および編集委員になる受講者には、時間外に編集作業に従事してもらうこともあります。

【テキスト（教科書）】
過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】
過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】
作品の提出35％、授業内討議および編集作業への積極的な参加35％、期末に課すレポート（自分以外の受講者の作品［三作以上］への批評文）30％。

【学生の意見等からの気づき】
高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】
Couse outline/Leaning Objectives
Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express there own world view and imagination.
By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".
Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.
Students also learn to edit their work books.
Learning activities outside of classroom
All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.
Grading Criteria/Policy
35%submission of the work, 35%cooperation in participation in discussions and editing work, 30%of semester-end assignment.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

日本芸能論A

2017年度以降入学者

阿部　真弓

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本で豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。
なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】
①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
前半は、ビデオ、DVD等視聴覚教材を適宜用い、パワーポイントによる講義形式で、中世までに成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。
その後の授業では、受講生に、一人もしくはグループ（3人まで）で、関心を持っている芸能（時代・ジャンルは問いません）について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。
授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。
〔参考〕これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。
「歌舞伎舞台の変遷」「香道について」「寄席の歴史」「日本における『第九』の受容と定着について」「マクロの解体ショー」「青森ねぶた祭り 芸術を作る」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第2回	芸能とは何か(1)	日本の芸能に関する概説
第3回	芸能とは何か(2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第4回	伝統芸能概説(1)	雅楽について
第5回	伝統芸能概説(2)	伎楽について
第6回	伝統芸能概説(3)	能について
第7回	伝統芸能概説(4)	狂言について
第8回	受講生による発表・討論	グループAの発表
第9回	受講生による発表・討論	グループBの発表
第10回	受講生による発表・討論	グループCの発表
第11回	受講生による発表・討論	グループDの発表
第12回	受講生による発表・討論	グループEの発表
第13回	受講生による発表・討論	グループFの発表
第14回	まとめ	春学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表準備については、数週間を要します。
発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】
発表内容70％（①②③）またはレポート70％（①②④）※、平常点および討論への参加状況30％（③）という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。
その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。
※春学期「日本芸能論A」のみ履修する人は必ず発表してください。発表しない場合、単位を履修することはできません。秋学期「日本芸能論B」も続けて履修し、そちらで発表する予定の人は、春学期「日本芸能論A」については、発表の代わりにレポートにすることができます。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に学習支援システムに提出されたコメントは、教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】
当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。
秋学期「日本芸能論B」の選抜も、春学期受講者選抜と同時に行いますので、秋学期の受講希望者も、春学期「日本芸能論A」の学習支援システム上で行う連絡を必ず確認してください。

【Outline (in English)】
This course deals with the Japanese performing arts.
The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

日本芸能論Ｂ

2017年度以降入学者

阿部　真弓

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】
①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
前半は、ビデオ、DVD等視聴覚教材を適宜用い、パワーポイントによる講義形式で、近世に成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、それぞれ関心を持っている芸能（時代・ジャンルは問いません）について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

〔参考〕これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。
「薪能」「文楽の歴史と現在」「茶道の歴史」「落語の演技」「石見神楽の現在に至るまでの変化」「アイヌ文化と芸能の歴史」「新たな芸能の形としての2.5次元ミュージカル」「書道パフォーマンス～表現形態の変遷～」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第2回	芸能とは何か(1)	日本の芸能に関する概説
第3回	芸能とは何か(2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第4回	伝統芸能概説(1)	人形浄瑠璃の成立について
第5回	伝統芸能概説(2)	人形浄瑠璃の様相について
第6回	伝統芸能概説(3)	歌舞伎の成立について
第7回	伝統芸能概説(4)	歌舞伎の様相について
第8回	受講生による発表・討論	グループAの発表
第9回	受講生による発表・討論	グループBの発表
第10回	受講生による発表・討論	グループCの発表
第11回	受講生による発表・討論	グループDの発表
第12回	受講生による発表・討論	グループEの発表
第13回	受講生による発表・討論	グループFの発表
第14回	まとめ	秋学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表準備については、数週間を要します。

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】
発表内容70％（①②③）またはレポート70％（①②④）※、平常点および討論への参加状況30％（③）という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。
※秋学期「日本芸能論Ｂ」のみ履修する人は必ず発表してください。発表しない場合、単位を履修することはできません。春学期「日本芸能論Ａ」から続けて履修し、そちらですでに発表した人は、秋学期「日本芸能論Ｂ」については、発表の代わりにレポートにすることができます。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に、学習支援システムに提出されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】
当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。

秋学期「日本芸能論Ｂ」の選抜も、春学期受講者選抜と同時に行いますので、当科目の受講を希望する人は、「日本芸能論Ａ」の学習支援システム上で行う連絡を確認してください。

なお、秋学期「日本芸能論Ｂ」のみ履修することもできますが、理解を深めるために春学期科目「日本芸能論Ａ」の受講を強くおすすめします。

【Outline (in English)】
This course deals with the Japanese performing arts.
The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

身体表現論 A

2017年度以降入学者

深谷　公宣

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火3**/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋舞踊の文化史について講義する。舞踊は最も古い芸術形式であるが、それがどのように生まれ、発展してきたかについて概観する。また、時代ごとに異なる舞踊のスタイルを紹介し、それがどのように文化や社会を反映しているのかについても検討する。舞踊のテクニックについての講義ではないので、注意すること。

【到達目標】
・西洋舞踊の文化史について考察し、叙述できる。
・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
・舞踊作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス～先史時代の舞踊	授業に必要な概念・用語の説明～舞踊の発生と種類
2	古代文明の舞踊	古代エジプト、古代ギリシア、古代ローマの舞踊
3	中世～ルネサンスの舞踊	中世の社会階層、コメディア・デラルテ、宗教・祭祀と舞踊、死の舞踏、世俗の舞踊
4	ルネサンスの舞踊～宮廷舞踊（16～17世紀）	宮廷舞踊、宮廷バレエの種類（バレエ・コミック、他）、仮面劇、仮面舞踏会
5	宮廷舞踊から劇場へ（18～19世紀）	カマルゴとサレ、ノヴェールのバレエ・ダクシオン、メヌエット、オペラとバレエ
6	ロマンティック・バレエ（19世紀）	タリオーニ、グリジ、エルスラー、ワルツの登場、『ラ・シルフィード』と『ジゼル』
7	クラシック・バレエ（19世紀）	『コッペリア』、プティパとイワノフ、『眠れる森の美女』、『くるみ割り人形』
8	クラシック・バレエからバレエ・リュスへ（19～20世紀）	『白鳥の湖』、フォーキン、ディアギレフのバレエ・リュス
9	19世紀アメリカの舞台芸術	ミンストレル・ショー、フリーク・ショー、ヴァラエティ・ショー、ヴォードヴィル・ショー
10	アメリカのダンスの誕生	社交ダンス、ジャズ・ダンス
11	アメリカのダンスの成熟	モダン・ダンス～アメリカン・バレエ～ディスコ、ストリート・ダンス
12	ポストモダン・ダンス（1）	モーリス・ベジャール、ピナ・バウシュ
13	ポストモダン・ダンス（2）	ウィリアム・フォーサイス、ローザス
14	講義のまとめ	講義の補足とまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
積極的に舞台鑑賞するように努める。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】
Gayle Kassing. History of Dance. Second Edition. Human Kinetics. Kindle.
クルト・ザックス『世界舞踊史』
邦正美『舞踊の文化史』

【成績評価の方法と基準】
平常点50%: 講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
期末レポート50％：舞踊の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
・Course Outline: An introduction to the history of western dance culture. Dance is the most ancient form of art. This course will survey the origin and development of dance as an art, and present dance styles of various ages. The class will focus on how these dance styles reflect culture and society of a specific age. Be sure that this course will not teach the technique of dance, but the culture of dance.
・Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to
(1) analyze and describe the history of western dance culture, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of dance critically and aesthetically.
・Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.
・Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

身体表現論 B

2017年度以降入学者

深谷　公宣

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火3**/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋演劇史を概観する。演劇は日常生活の身体の動きを解放し、新たな運動の可能性を示す。この授業では西洋演劇史を辿ることにより、人間がどのように身体運動の可能性を追究してきたかを考える。また、演劇はその時代の文化と社会を反映している。各時代の文化や社会が、身体表現にどのように影響を及ぼしているかを検討する。

【到達目標】
・西洋演劇の歴史について考察し、叙述できる。
・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
・演劇作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考資料等の紹介
2	古代ギリシア演劇（1）	原始社会から古代文明における演劇の発生、アイスキュロス、ソフォクレスについて
3	古代ギリシア演劇（2）	劇場の構造、ソフォクレス（続）、エウリピデスについて
4	中世演劇～エリザベス時代演劇（1）	奇跡劇・道徳劇、キリスト教の演劇への影響から、エリザベス時代演劇への歴史的展開について
5	エリザベス時代演劇（2）	シェイクスピアの喜劇について
6	エリザベス時代演劇（3）	シェイクスピアの悲劇について
7	フランス古典主義演劇	コルネイユとル・シッド論争、モリエールについて
8	風俗喜劇、オペレッタ	イギリスの風俗喜劇、オッフェンバックのオペレッタについて
9	ロマン主義演劇	ドイツ・ロマン主義演劇、特にゲーテとシラーについて
10	近代演劇（1）	ヨーロッパ近代演劇、特にストリンドベリ、チェーホフについて
11	近代演劇（2）	ヨーロッパ近代演劇、特に、バーナード・ショー、オスカー・ワイルドについて
12	現代演劇（1）	１９世紀の象徴主義から未来派、シュルレアリスム、不条理演劇までの流れについて
13	現代演劇（2）	アメリカのリアリズム演劇について
14	講義のまとめ	秋学期の講義のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
積極的に舞台鑑賞するように努める。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】
『ギリシア悲劇〈1〉～〈4〉』（ちくま文庫）
シェイクスピア（福田恆存訳）『ハムレット』（新潮文庫）
シェイクスピア（安西徹雄訳）『リア王』（光文社古典新訳文庫）
日本演劇学会『ベスト・プレイズー西洋古典戯曲』（相田書房）
岩瀬孝『フランス演劇史序説』（早稲田大学出版部）

【成績評価の方法と基準】
平常点50%: 講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
期末レポート50％：演劇の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
・Course Outline: An introduction to the history of western drama. Acting frees the actor's body which is anchored in everyday life and reveals the possibility of a new movement of the body. This course will reconsider how human beings have explored the possibility of body movement. Theatre is always a reflection of culture and society. The class will focus on examining how culture and society of a particular age have influenced the movement of the human body.
・Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to
(1) analyze and describe the history of western drama, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of theatre critically and aesthetically.
・Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.
・Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

美術論A

2017年度以降入学者

稲垣　立男

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水3**/Wed.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2024年度の美術論Aでは、古代から現代までの西洋美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要な西洋近代美術史がテーマとなります。
特に
・美術を理解するための基礎となる美術史とその理論
・各時代のアーティストの実践（アイディアや制作論）
について段階的に幅広い視点で学んでいきます。
以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）
・古代美術、中世美術、近世美術
・近代美術
・現代美術
また、単元毎に実施するワークショップを通じて実践的に美術を学びます。

【到達目標】
西洋美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、具体的な作品や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの実践的なチャレンジに取り組みます。美術の理論と実践の密接な結びつきを理解し、創造的なアプローチを身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に対面授業を予定していますが、新型コロナウィルスの感染状況によりオンラインで行う場合もあります。対面授業とオンライン授業について、学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。
資料
授業前にGoogle sitesで資料を配布します。授業中の閲覧の他、予習復習に活用して下さい。
課題
受講後Google Formsで課題とレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
質問・相談
一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4/9	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
4/16	古代美術 原始美術/先史美術、メソポタミア美術、エジプト美術、エーゲ美術、ギリシャ美術、ローマ美術	文字の生まれる以前=先史時代の美術や、西洋美術史の出発点となるメソポタミアやエジプトなどの最古の文明から生まれた美術など古代美術について学びます。原始・先史美術からメソポタミア、エジプト、ギリシア、ローマまでの古代美術について扱います。かなり広範囲になります。歴史を学ぶことはその広がりを考えると果てがありませんが、まずは大きな流れを捕まえておくことが大切だと思います。
4/23	中世美術 初期キリスト美術、ビザンティン美術、初期中世美術、ロマネスク美術、ゴシック美術	ルネサンス以前の、多くの民族や地域とキリスト教美術が結びついた中世美術について学びます。ローマ時代からルネサンス以前までのキリスト教と関連した美術の流れについて学びます。この後出てくるルネサンスの美術と比較して、シンプルでわかりやすい装飾的な図像という印象です。悪くいうと形骸化しているとも言えますが、キリスト教の拡大のために必要であったと想像できます。 それぞれの美術が展開した場所と時期は以下のようになっています。 初期キリスト教美術（西ヨーロッパ）（2〜7世紀） ビザンティン美術（東ヨーロッパ）（4〜15世紀） 初期中世美術（ドイツ、フランス、アイスランド）（5〜10世紀頃） ロマネスク美術（西ヨーロッパ）（11 12世紀） ゴシック美術（西ヨーロッパ）（12 15世紀）
5/7	近世美術 ルネサンス美術、バロック美術、ロココ美術	ギリシア美術やローマ美術を見直し人間の尊厳が再認識されたルネサンス美術、ポルトガル語で「歪んだ真珠」を意味するバロック美術、フランスで発展した装飾性の強いロココ美術について学びます。
5/14	ワークショップ1単元の復習 ・古代美術、中世美術、近世美術 ワークショップ・伝える方法・絵から文字へ	これまで学んだ時代の文化を違うベクトルから見てみましょう。この時代は文字の発達した時代でもあり、情報を残し、伝えるために絵を描くことの発見、それらが発展（もしくは変化）して現在の文字の発明につながっていきました。ギリシア時代には現在使われているアルファベットとほとんど同じものが使われていました。 絵画や文字が発明されたことで、人間は様々な過去の事柄を記録することができるようになり、これらはコミュニケーションの手段の一つとなって、メディアが登場します。芸術の分野でも近代になってコンセプチュアル・アートのような概念的な表現が多くなり、文字は中心的な存在となります。

5/21	近代美術1 新古典主義　ロマン主義　写実主義　バルビゾン派　ラファエル前派	近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が開けられました。この時期の重要な出来事や社会の変遷が、芸術にも深い影響を与えました。市民革命によって生まれた新しい社会秩序や価値観、そして産業革命による技術の進化が、芸術家たちに新たな表現の手段を提供しました。古典（ルネサンス）への回帰としての新古典主義、自由な感性や多様な美の表現を尊重したロマン主義、ありのままの日常を客観的に描こうとする写実主義、ありのままの自然を描こうとするバルビゾン派、芸術を通じて道徳や真実を探求するラファエル前派について学びます。
5/28	近代美術2 印象派 、新印象派、ポスト印象派 ナビ派　世紀末芸術　象徴主義（ロシア象徴主義）　素朴派　アーツアンドクラフツ運動　アール・ヌーヴォー　分離派	写実主義の考えを引き継ぎ、現実をそのままに鮮やかで明るい色彩の印象派 、印象派の色彩理論をさらに化学的に追求した新印象派、印象派を批判的に受け継ぎ、乗り越えようとするポスト印象派について学びます。19世紀のフランスを中心としたヨーロッパでは、印象派を軸として次々と新しい芸術運動が現れてきます。アーツ・アンド・クラフツ運動やアール・ヌーボーなど、生活と結びついた芸術運動も生まれてきました。今回の授業ではそうした様々な動向について扱いますが、見るものをどのように解釈するのか、心の中で感じ取ったものをどのように表現するのかといった写真が発明された以降の課題（そっくりそのまま写しと売るのではなく、絵画独自の特徴を追求する）について、様々な取り組みや実験がスタートします。
6/4	ワークショップ2 単元の復習・近代美術1、近代美術2 ワークショップ・デッサンの手法	中世、近世、近代美術の復習とワークショップをします。ワークショップでは、絵画を違う観点から考えてみましょう。絵画の目的は現実の世界を平たい神やキャンバスに定着させることにありますが、歴史の中で様々なテクニックが生まれました。色をだんだん薄くしてみる、前後のものを重ねてみる、近いものを下、遠いものを上の方に描いてみるなどで、奥行きは表現できます。私たちの学んだ中世、近世から近代美術にかけて最も進化したのは線遠近法と呼ばれる方法です。今日は遠近法について理解を深めましょう。
6/11	近代美術3 野獣派、キュビズム、表現主義、ナビ派 、世紀末芸術 、象徴主義、素朴派、アール・ヌーヴォー	ポスト印象派以降の絵画の新しい試みに関しての講義です。ポスト印象派と呼ばれた画家のゴーギャン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降の20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与えました。後期印象派という言葉は1906年に美術批評家ロジャー・フライが最初に使い、また1910年にロンドンのグラフトン・ギャラリーで彼は「マネと後期印象派の作家たち」という展覧会を企画し、そのタイトルで正式にこの言葉をいました。ゴーギャンやゴッホの大胆な色彩や画家の内面性を追求する姿勢は印象派にはなかったもので、またセザンヌは形態の解釈にエネルギーを注ぎました。これらの発想は、フランスを中心としたフォービスムやキュビスム、ドイツを中心とした表現主義の芸術運動に大きな影響を与えました。
6/18	近代美術4 未来派、ダダイズム、シュルレアリスム、デ・スティル、バウハウス 、ロシア構成主義	1914年から起きた第一次世界大戦は、ドイツ・オーストリア・イタリアが中心の同盟国とロシア・フランス・イギリスの連合国との戦いでした。また、1917年のロシア革命を発端としてソビエト連邦ができました。この講義では、ロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて、また第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて学びます。また、現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるような作品が登場します。
6/25	ワークショップ3 ワークショップ・単元の復習　近代美術3 、近代美術4	今日は「表現の生まれる場所」というテーマで表現の原理原則のような出来事を体験するワークショップをしましょう。特に以下のキーワドについて考えていきます。 ・テキスト ・音 ・身体
7/2	現代美術1 アンフォルメル　抽象表現主義ヌーボー・レアリズム、アルテ・ポーヴェラ	第二次世界大戦前後の芸術運動についてお話をします。大戦を挟んでアートの現場がヨーロッパからアメリカに移行します。第二次世界大戦で大きなダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。抽象表現主義などアメリカを中心として登場した芸術運動、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテ・ポーヴェラなどヨーロッパの動向についても学びます。

7/9	現代美術2 ネオダダ、ポップアート、ミニマルアート、コンセプチュアルアート　新表現主義	1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。この時代には絵画や彫刻ではない表現が多く登場します。概念的なアートや、ハプニング、パフォーマンスアート、社会関与などの動向が多く登場します。1970年代の嵐のようなカウンターカルチャーの時代が過ぎ去り1980年代に入り登場したアメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメントである新表現主義についても学びます。
7/16	現代美術3 YBA、リレーショナル・アート、ソーシャリー・エンゲージド・アート ワークショップ4単元の復習・現代美術1、現代美術2 ワークショップ「テキストとアート」	1989年にベルリンの壁が崩壊し東西ドイツの境界線がなくなり、さらに東ヨーロッパ全体が消滅、冷戦構造が終焉を迎えます。そして、東西対立の時代からアフリカやアジア、南米などを含んだ多文化の時代に移行します。アートの世界でも、アメリカやヨーロッパ中心からグローバルな考え方が一般的になります。アメリカのコマーシャリズムを一つのきっかけとして生まれた新表現主義の時代を経て、ミレニアム前夜に起こったイギリスおよびフランスを中心としたヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist、リレーショナルアート）についての理解を深めます。21世紀に入り、ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという社会に関与する芸術運動が盛んになっています。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Google siteで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウィルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google siteを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
参考書
山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、201
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2014年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】
初回授業はオンラインで実施します。
実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
Course outline
In this course, we will learn the basic contents of modern contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical perspective.
* Art history and art theory which is the basis for understanding art
* Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism.
We will learn about these in a step-by-step manner.
Learning Objectives
Some keywords are taken up about the thoughts and basic ideas about art, and the background viewpoints and ideas are considered while considering concrete examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, you will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what you learned in each unit.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60%or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

美術論B

2017年度以降入学者

稲垣　立男

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2025年度の美術論Bでは日本の美術史および近現代美術の基本的な内容について俯瞰的、実践的に学びます。
・美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論
・より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評
これらについて段階的に幅広く学んでいきます。
以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）
・原始・古代美術
・中世美術、近世美術
・近代美術
・現代美術
さらに、各単元ごとにワークショップを実施し、実践的な美術活動を通じて学びを深めていきます。

【到達目標】
日本美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。
ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に対面授業を予定していますが、状況によりオンラインで行う場合もあります。
対面授業とオンライン授業について、学ぶ内容については同一です。
まずはシラバスで授業の内容を確認してください。
資料
授業前にGoogle sitesで資料を配布します。授業中の閲覧の他、予習復習に活用して下さい。
課題
受講後、Google Formsで課題と簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
質問・相談
一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
9/24	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
10/1	原始美術 縄文・弥生・古墳時代	先史時代の縄文・弥生・古墳時代の文化・美術 について学びます。縄文時代は約1万年前から約3千年前までの時代であり、人々は主に狩猟採集生活を営み、豊かな自然環境と共存しながら、土器や土偶などの芸術作品を生み出しました。紀元前3世紀から紀元3世紀ごろまでの弥生時代には、農耕や稲作が発展し、集落が形成されました。弥生時代の終わりから紀元7世紀頃までの古墳時代には、各地に巨大な古墳が築かれ、そこからは豪華な副葬品や装飾品が発見されています。
10/8	古代美術 飛鳥・白鳳時代、奈良・平安時代	仏教が伝来し飛躍的な発展を遂げた飛鳥・白鳳時代、律令制度が確立した奈良時代、日本独自の文化を形成した平安時代 について学びます。6世紀後半から7世紀前半にかけての飛鳥・白鳳時代には、仏教が伝来して社会や文化に大きな影響を与えました。8世紀から9世紀にかけての奈良時代には、律令制度が確立し国家の行政や法制度が整備されました。9世紀後半から12世紀半ばまでの平安時代には、貴族文化が隆盛し、平安時代の文学や芸術が栄えました。
10/15	ワークショップ（1） 単元の復習・原始美術、古代美術 プレゼンテーションとディスカッション	原始美術、古代美術に関する単元の復習と、縄文時代以前の道具に関するワークショップを行います。
10/22	中世美術 鎌倉・室町時代	貴族にとって代わって武士の時代が始まりました。禅宗や新興宗教が文化や芸術に影響を及ぼした鎌倉時代、禅宗美術にはじまり水墨画が発達した室町時代の美術について学びます。12世紀末から14世紀半ばまでの鎌倉時代は、武士の政権が台頭しました。禅宗や浄土宗などの新興宗教が台頭しました。室町時代は、14世紀後半から16世紀前半までの時代であり、禅宗美術が更なる発展を遂げ、水墨画が盛んになりました。
10/29	近世美術 桃山・江戸時代	支配階級から次第に民衆、町人のエネルギーが結実していった桃山・江戸時代の美術について学びます。16世紀後半から17世紀初頭にかけての桃山時代は、戦国時代の混乱から徳川家康による統一を経た時代です。この時代には茶道、茶室建築が隆盛し、また絵画や彫刻、陶芸など、豊かな文化が花開きました。17世紀初頭から19世紀末までの江戸時代には、風俗や歌舞伎、日常生活の情景を描いた浮世絵が大衆の間で広く愛されました。また、琳派や俳句、狂言など様々な文化が栄えました。
11/5	ワークショップ（2） 単元の復習・中世美術、近世美術 プレゼンテーションとディスカッション	中世美術、近世美術に関する単元の復習と「異文化交流」と「身の回りにある江戸時代」に関するワークショップを行います。

11/12	近代美術のはじまり 明治時代・西洋画と日本画、大正デモクラシー、戦争画	明治維新後の西欧化、近代化制作により西洋画が盛んとなった明治時代、その一方で新日本画運動も起こり大きく揺れ動きました。大正時代に入ると印象派以降のアバンギャルドなどの新傾向が紹介されました。第二次世界大戦の最中にはプロパガンダのための戦争画 が描かれます。
11/19	戦後美術 アンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンター、実験工房	第二次世界大戦後の1950年代には実験工房、具体美術協会が結成され、従来の美術の枠を超えた実験的なアプローチや表現が試みられました。続いて1960年代にはアンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンターなど新しい芸術運動が始まります。これらの芸術運動は、戦後の日本の芸術に新たな風を吹き込み、アーティストの多様な表現を促進しました。
11/26	ワークショップ（3） 単元の復習・近代美術のはじまり、戦後美術 プレゼンテーションとディスカッション	近代美術のはじまり、戦後美術に関する単元の復習と、教室内の人と人との関係性に関するワークショップを行います。
12/3	1960-1970年代 もの派ともの派以降、新しい表現	1960年代から1970年代の美術に大きな影響力を持ったもの派ともの派以降の美術やアーティストについて学びます。
12/10	新しい表現 パフォーマンス、ビデオアート、インスタレーション	1980年代には若いアーティストたちは、前衛的な動きを引き継ぎながら、新たな表現手法に挑戦しました。特にビデオアート、インスタレーション・パフォーマンスなどが注目されました。
12/17	1990-2020年代 1990年代、ミレニアム以降、ゼロ年代、2010年以降	1990年代からミレニアム、ゼロ年代から現在に至るまでの日本の美術について学びます。
1/14	ワークショップ（4） 単元の復習・1960-1980 年代、1990-2020年代 プレゼンテーションとディスカッション	1960-1980 年代、1990-2020年代に関する単元の復習と、授業全体のまとめのワークショプを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウィルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】
初回授業はオンラインで実施します。
実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
Course outline
We will learn the essential contents of Japanese art history and modern art in a bird's-eye view and practical way.
1.　Art history and art theory which is the basis for understanding art
2.　Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism
I will learn a wide range of them step by step.
Learning Objectives
We will take up some keywords about Japanese art's ideas and basic ideas and consider the viewpoints and ideas behind them, based on specific examples such as works and discourses related to the works.　At the workshop, we will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what we learned in each unit.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you.　There are also many museums and galleries near the university.　If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports.　We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60%or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

芸術と人間A

2017年度以降入学者

岡村　民夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木2**/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（50）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとどのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もっとも具体的に検討してきた表現領域である。主に古典的映画の空間の諸要素を通し、乗り物や建物などの映画的表現を学ぶ。

【到達目標】
空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深めることができる。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を身につける。自分で観る映画のジャンル・年代・地域を拡げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回、映画（サイレント映画から2000年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、hoppiiを通して感想を書いてもらったりすることになる。フィードバックはhoppiiおよび講義を通じて行う。
初回に選抜テスト（上映するシーンの分析）を行うので、これに出席する必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	地を歩く	-ジョン・フォード -宮崎駿
3	地を走る	-チャールズ・チャップリン -バスター・キートン
4	地で踊る	-フレッド・アステア -ジーン・ケリー
5	階段を昇降する	-S・エイゼンシュテイン -アルフレッド・ヒッチコック
6	斜面を昇降する	-キング・ヴィダー -ニコラス・レイ
7	馬に乗る	-ジョン・フォード -黒沢明
8	列車に乗る2	-アルフレッド・ヒッチコック -黒沢明
9	自動車に乗る	-アルフレッド・ヒッチコック -濱口竜介
10	ドアを開け閉めする	-エルンスト・ルビッチ -ジャック・タチ
11	壁の向うを聴く	-フリッツ・ラング -ロベール・ブレッソン
12	窓を見る	-アルフレッド・ヒッチコック -宮崎駿
13	鏡を見る	-オーソン・ウェルズ -吉田喜重
14	まとめ	講義のまとめや補足 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布したプリントの再読や、映画館やDVDでの作品鑑賞等。本授業の復習時間は1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
随時プリントを配布する。

【参考書】
『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】
平常点50％＋レポート50％（ただしレポートを提出しなければE評価とする）。
平常点は単に出席したことではなく、毎回のコメントシートをカウントする。

【学生の意見等からの気づき】
レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
初回に出席すること。５０名以上受講希望者がいる場合、初回（対面式なので注意）に選抜試験を実践し、受講資格を得た学生が受講できる。
毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期5回以上の無断欠席はD評価になる。

【Outline (in English)】
【Course outline】In this class. we study the space structure of classical films.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to be able to analyse the sale of a film.
【Learning activities outside of classroom】After each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

芸術と人間Ｂ

2017年度以降入学者

岡村　民夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**2/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（50）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとどのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もっとも具体的に検討してきた表現領域です。本講義は「芸術と人間A」の発展形にあたり、より大きな空間的スケールで映画表現を学びます。主に古典的作品を通し、都市や自然の表現が問題となります。

【到達目標】
空間という角度から映画を捉えなおすことで、鑑賞力を深めることができます。表現技法や映画史の基本知識も身につきます、自分の観る映画のジャンル・年代・地域を拡げことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回、映画（サイレント映画から2000年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させます。鑑賞力を鍛えるために、毎回、hoppiiを通して感想を書いてもらいます毎回提出してもらう。フィードバックはhoppiiおよび講義を通じて行います。
初回（対面式）に、「芸術と人間A」を受講していない学生に対してのみ選抜テスト（上映するシーンの分析）を行いますので注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと選抜	-授業の概要の説明 -「芸術と人間A」を受講していない学生に対する選抜試験
2	高層都市	-キング・ヴィダー -フリッツ・ラング
3	迷宮都市	-ジャック・タチ -ホセ・ルイス・ゲリン
4	記憶都市	-アルフレッド・ヒッチコック -黒沢清
5	日本家屋	-成瀬巳喜男 -小津安二郎
6	水と船	-溝口健二 -ジャン・ヴィゴ
7	雨	-山中貞雄 -宮崎駿
8	水の宇宙	-アンドレイ・タルコフスキー -ユーリー・ノルシュテイン
9	風	-ジャン・エプスタン -グル・ダッド
10	動物１	-ハワード・ホークス -濱口竜介
11	動物２	-本多猪四郎 -円谷英二
12	外国人監督による東京１	-クリス・マルケル -ヴィム・ヴェンダース
13	外国人監督による東京２	-ジャン=ピエール・リモザン -ホウ・シャオシェン
14	まとめ	補遺 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布したプリントの再読や、宿題、映画館やDVDでの映画観賞等。本授業の復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時プリントを配布します。

【参考書】
『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫
その他、随時提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％＋レポート50％（ただしレポートを提出しなければE評価）。
平常点は単に出席したことではなく、毎回のコメントシートをカウントする。

【学生の意見等からの気づき】
レポートを早めに返却します。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
「芸術と人間A」（春学期）未受講者は選抜試験をするので必ず初回に出席すること。
毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期5回以上の無断欠席はD評価とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】In this class. we study the space structure of classical films.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to be able to analyse the sale of a film.
【Learning activities outside of classroom】After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

仏教思想論 A

2017年度以降入学者

計良　隆世

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木4**/Thu.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インド初期仏教思想・仏教史
釈迦（仏陀）自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。
この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を試みます。
（初期仏教の学習だけでは仏教思想の本質の理解として不十分です。秋学期の「仏教思想論B」も必ず履修してください。）

【到達目標】
・釈迦（仏陀）自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。
・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされうるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を通して考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。
学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います(4～5回実施予定)。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	仏教成立の経緯（1）	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第2回	仏教成立の経緯（2）	ヴェーダ文明 ブラフマニズム 自由思想家の登場
第3回	仏教の成立	仏陀の生涯
第4回	仏教の教育指導法（説法法）	対機説法 仏教思想の多様性・段階性
第5回	仏教の基本思想（1）	五蘊・十二処・十八界 三つの真理（三法印） 「諸行無常」 比較思想的考察
第6回	仏教の基本思想（2）	「一切皆苦」 四つの真理（四諦説） 十二支縁起 八支聖道・中道 『はじめての説法』
第7回	仏教の基本思想（3）	仏陀のさとり得た真理とその特徴 『梵天勧請』 『縁』経，他 比較思想的考察
第8回	仏教の基本思想（4）	「諸法無我」 人無我と法無我 ミリンダ王経
第9回	仏教教団と教団運営	律蔵文献 戒・波羅提木叉
第10回	初期仏典講読（1）	『ダンマパダ』
第11回	初期仏典講読（2）	『スッタニパータ』 「慈しみ」他
第12回	初期仏典講読（3）	『スッタニパータ』 「田を耕すバーラドヴァージャ」他
第13回	初期仏典講読（4）	『スッタニパータ』 真理についての争い
第14回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。
授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読
授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】
佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK出版新書、２０１３年
その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末の授業内筆記試験の成績(60%)と授業内容確認小テストの成績(30%)と平常点(10%)により評価します。
学期末試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。
試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠でもって評価できているか(恣意的で偏った見方で評価していないか)、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】
仏陀自身のことば・思想を、先入見を持たずに、正しく真直ぐに捉え、深く理解することに努めてください。解説は丁寧に行います。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】
仏教思想の本質、特に仏教の人生観・世界観の理解のためには、春学期の「仏教思想論A」だけでは不十分です。秋学期の「仏教思想論B」も必ず履修してください。

【Outline (in English)】
This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy.
The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
1. The Buddha's philosophy consisting in dependent arising, impermanence, sufferings and selflessness.
2. His own idea on nirvana.
3. His ideas exposed in the Sutta Nipata and Dhammapada.
4. Buddhist morality explained in the vinaya.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

仏教思想論Ｂ

2017年度以降入学者

計良　隆世

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木4**/Thu.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インド初期・部派仏教から大乗仏教への展開：世界観・人生観の変遷
インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乗仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化したのか、これらを学びながら、インド大乗仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。
（本授業は、初期仏教思想の理解・知識を前提としています。春学期の「仏教思想論Ａ」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】
・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乗仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
・仏教思想はどうして多様化したのか、その理由を理解する。
・初期・部派仏教から大乗仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化したのかを理解する。
・大乗仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。
単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4回実施予定）。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	この授業について インド仏教思想展開史概説
第2回	部派仏教の成立	仏教思想の多様性・多様化 諸部派成立から大乗仏教へ
第3回	部派仏教（説一切有部）の思想（1）	ダルマの体系（1）： 五位七十五法
第4回	部派仏教（説一切有部）の思想（2）	ダルマの体系（2）： 有為ダルマの二性質
第5回	仏教の世界観	『倶舎論』が説く世界観 大乗仏教の世界観
第6回	大乗仏教（1）	大乗仏教の教理的特徴
第7回	大乗仏教（2）	大乗諸経典 『般若経』 『阿閦仏国経』 『維摩経』
第8回	大乗仏教（3）	ナーガールジュナ 思想史上の位置づけ 二真理説、空、中道
第9回	大乗仏教（4）	縁起の思想（1） 外縁起・内縁起 『入楞伽経』 『稲芊経』
第10回	大乗仏教（5）	縁起の思想（2） 縁起二種観察法 『稲芊経』・『稲芊経註』
第11回	大乗仏教（6）	大乗仏教の人生観（1） 到達目標・理想的境地・中道
第12回	大乗仏教（7）	大乗仏教の人生観（2） 『維摩経』
第13回	大乗仏教（8）	大乗仏教の人生観（3） 仏教論理学派と後期中観思想： 仏陀・経典の権威について
第14回	まとめ・授業内試験	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読
授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】
佐々木閑著『仏教は宇宙をどう見たか　アビダルマ仏教の科学的世界観』、Dojin選書、２０１３年
桜部健・上山春平著『仏教の思想２　存在の分析＜アビダルマ＞』、角川ソフィア文庫、１９９６年
計良龍成著『中道を生きる：中観』、春秋社、２０２３年
その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末の授業内筆記試験の成績（６０％）と授業内容確認小テストの成績（３０％）と平常点（１０％）により評価します。
学期末試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。
試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠でもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】
東アジアには殆ど伝わらなかった後期中観思想を含め、インド本来の大乗仏教思想を初めて学ぶことで、その人生観等の思想に新鮮な驚きを感じる学生が多いようです。初期仏教より思想内容が高度になりますが、わかりやすい丁寧な解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】
授業内容の深い理解のために、春学期の「仏教思想論Ａ」から履修することを強く推奨します。

【Outline (in English)】
This is a course to learn Indian Hinayana (Shrâvakayâna) Buddhism and Mahayana (Bodhisattvayâna) Buddhism.
The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
1. Sarvâstivâdin's interpretation of impermanence, i.e., momentaliness of conditioned dharmas.
2. Later Madhyamaka philosophy consisting of the ideas of dependent origination, emptiness, middle way and non-abiding nirvana.
3. Dharmakîrti's and later Mâdhyamika position on scriptural authority.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

HIS300LA（史学 / History 300）

中国の民族と文化A

2017年度以降入学者

齋藤　勝

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月2**/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】
漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を講義にて行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。
なお、秋学期の「中国の民族と文化B」は春学期の学習を前提に授業を進めていくので、秋学期の履修を考えている方は必ず春学期も履修してください。
あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第2回	漢文の基礎(1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第3回	漢文の基礎(2)	否定・可能
第4回	漢文の基礎(3)	使役・受身
第5回	漢文の基礎(4)	疑問・反語
第6回	漢文の基礎(5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか
第7回	漢文史料から見る歴史(1)	『史記』の描く春秋時代
第8回	漢文史料から見る歴史(2)	『史記』の描く戦国時代
第9回	漢文史料から見る歴史(3)	『史記』の描く前漢時代
第10回	漢文史料から見る歴史(4)	『後漢書』の描く後漢時代
第11回	漢文史料から見る歴史(5)	『三国志』の描く魏
第12回	漢文史料から見る歴史(6)	『三国志』の描く呉
第13回	漢文史料から見る歴史(7)	『三国志』の描く蜀
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。
扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】
原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】
試験100％
試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】
Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.
Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA（史学 / History 300）

中国の民族と文化Ｂ

2017年度以降入学者

齋藤　勝

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】
漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。秋学期には比較的長い文章の読解を行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。
なお、春学期の「中国の民族と文化A」の履修を前提として授業を進めていくので、秋学期だけの履修は避けてください。
あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	漢民族の思想(1)	『論語』と儒家
第2回	漢民族の思想(2)	『論語』と政治
第3回	漢民族の思想(3)	『孟子』と国家
第4回	漢民族の思想(4)	『孟子』と性善説
第5回	漢民族の思想(5)	『荀子』と性悪説
第6回	漢民族の思想(6)	『荀子』と学問
第7回	漢民族の思想(7)	『韓非子』と法家
第8回	漢民族の思想(8)	『韓非子』と秦
第9回	儒家思想と政治の展開(1)	唐の太宗と『貞観政要』
第10回	儒家思想と政治の展開(2)	王安石と宋学
第11回	儒家思想と民族・学問(1)	朱子学と歴史学
第12回	儒家思想と民族・学問(2)	顧炎武の人生と明清交替
第13回	儒家思想と民族・学問(3)	顧炎武の学問と国家観
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】
原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Ｚ会、2008年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】
試験100％
試験は漢文の読解力のみで評価します。
なお、試験は白文を読んでもらう予定です。入試漢文を前提とすると全くできないと思いますので、ご留意ください。

【学生の意見等からの気づき】
「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】
Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.
Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA（史学 / History 300）

古代日本･中国の法と社会Ａ

2017年度以降入学者

岡野　浩二

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本古代の国家や文明は、中国を祖型として形成されたといっても過言ではない。また古代の寺院は、仏教受容のみならず、国家や貴族・豪族の権威や、技術を象徴するものである。寺院を素材として、日本・中国の古代国家や社会のありかたを比較する。

【到達目標】
日本・中国の古代寺院の実相を理解する。また、日本の寺院が政治・社会とどのように関係していたのかを、中国から継承した要素と、日本独自の要素という観点から考える。その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。 2回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。 リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。 課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	仏教伝来	講義内容のガイダンス。尼・仏殿・法会の始まり
2	飛鳥寺	仏舎利・塔・仏像を備えた寺院の成立
3	法隆寺	推古朝の仏教政策、飛鳥と斑鳩の寺
4	大官大寺・薬師寺	天武・持統朝の仏教政策
5	平城京の寺院	大安寺・薬師寺・興福寺・東大寺・唐招提寺・西大寺
6	国分寺・国分尼寺	国分寺建立の詔とその前後の実情
7	奈良時代の地方寺院	地方豪族の仏教受容と寺院建立
8	平安京周辺寺院	桓武朝の仏教統制と官寺・私寺
9	北魏の寺院	永寧寺の九重塔、仏教の興隆と統制
10	隋・唐の各州の官寺	文帝の仏教政策、大雲寺・竜興寺・開元寺
11	長安の寺院	大興善寺と玄都観
12	中国の廃仏政策	三武一宗の法難、廃仏の実態と理由
13	日本と中国の寺院比較	日本の寺院、中国の寺院の共通点と相違点の考察
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】
岡野浩二『日本史特講（日本仏教史）』（法政大学通信教育部、2023年）
末木文美士編『新アジア仏教史　11日本1　日本仏教の礎』（佼成出版社、2010年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）
仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法藏館、2017年）
藤善眞澄『中国仏教史研究』（法藏館、2013年）
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、1985年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（最終回に実施）50％、毎回の出席確認の小テスト50％をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの2段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
(1)この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。（2）疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Buddhism temples.
（Learning Objectives）
By the end of course,students should be to understand the followings: How temples in Japanese ancient was related to politics, how that was related to China.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Yuor study time will be more than four hours for a class.
（Granding Criteria/Policies）
Yuor overall grade in the class will be decided based on the following.Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.

HIS300LA（史学 / History 300）

古代日本･中国の法と社会Ｂ

2017年度以降入学者

岡野　浩二

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代の日本は、中国から多くの文明・文物を移入した。その重要な役割を担ったのが入唐僧である。ここでは9世紀の円珍の関係史料を主な素材として、入唐僧の実情を探る。その前提として7・8世紀の入唐僧について概観する。9世紀には、円仁が『入唐求法巡礼行記』、円珍が『行歴抄』という旅行記を残しており、円珍関係の古文書も園城寺に現存する。それらの記事から、日本・唐の宗教・政治・社会を比較研究する。

【到達目標】
円珍の旅行記『行歴抄』、円珍の伝記『天台宗延暦寺座主円珍伝』、円珍関係の古文書『園城寺文書』の主要な記事を読解する。それらを素材として、日本・唐の宗教・政治・社会の相違点や特質を把握する。そして、その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要を説明する
2	道昭・玄昉・鑑真	７・８世紀の入唐交流を概観する
3	最澄・空海・円仁	９世紀の入唐僧を概観する
4	円珍の入唐と身分証	僧侶・俗人の身分証について日唐を比較する
5	円珍の通行許可証	唐の交通路と許可証を考察する
6	円珍がみた天台山	会昌の廃仏とその影響を概観する
7	円珍と円載	入唐僧どうしの交流と確執を読み取る
8	円珍がみた長安・洛陽	唐の寺院・施設・人物を概観する
9	円珍がみた唐の文物	仏教行事や風俗を日唐で比較する
10	円珍の帰国	仏典の保管、天皇・貴族との交流を概観する
11	後続の入唐僧	宗叡・高丘親王らの入唐と円珍との関係を探る
12	円珍と唐の僧侶・商人	帰国後の円珍と天台山・長安の僧侶や貿易商との交流を概観する
13	日本と唐の関係・比較	入唐僧の活動から日本と唐の関係を考察する
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】
佐伯有清『円珍』（吉川弘文館、1990年）
佐伯有清『智証大師伝の研究』（吉川弘文館、1989年）
小野勝年『入唐求法行歴の研究』上下（法蔵館、1982・83年）
園城寺編『園城寺文書　第一巻』（講談社、1998年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）
道端良秀『中国仏教史全集　第一巻　中国仏教通史』（書苑、1985年）
鎌田茂雄『中国仏教史　第三巻　南北朝の仏教（上）』（東京大学出版会、1984年）
鎌田茂雄『中国仏教史　第五巻　隋唐の仏教（上）』（東京大学出版会、1994年）
山崎宏『隋唐仏教史の研究』（法蔵館、1967年）
藤善眞澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、19865年）

【成績評価の方法と基準】
①最終回の試験（50％）、②途中で実施する確認試験（30％）、③予習事項の紙面での提出（20％）。以上の３者を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。（２）疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。（３）①探究心や向上心、②漢文読解の能力、③日本史・東洋史の基礎知識、④文章作成の能力。以上の４者が必要である。授業に出席するだけでなく、各自が積極的に取り組まなければならない。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Enchin's historical materials .
（Learning Objectives）
By the end of course,students should be to understand the followings: Through the travelogues written by monks who visited China from Japan, what is the religious, political, and social differences between ancient Japan and China.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Yuor study time will be more than four hours for a class.
（Granding Criteria/Policies）
Yuor overall grade in the class will be decided based on the following.Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.

HIS300LA（史学 / History 300）

アジア・太平洋島嶼国際関係史Ａ　2017年度以降入学者

新崎　盛吾

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火4**/Tue.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今も多くの米軍基地を抱える沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策や中国・朝鮮半島との国際関係、太平洋の島々との関わり、辺野古の新基地建設に反対する民意形勢の過程などを学びます。沖縄は太平洋戦争で、県民の４人に１人が犠牲になる最も過酷な被害を受け、１９７２年に日本に復帰するまで米国の施政下に置かれました。日本政府は米軍基地の縮小に取り組むことを約束しましたが、米国のアジア戦略や米中関係が変化する中で基地が沖縄に集中する状況は変わらず、台湾有事への備えという名目で自衛隊の配備も進んでいます。沖縄について学ぶことは、日本の近代史やアジアの国々との国際関係を理解する上でも役立つはずです。

【到達目標】
・在日米軍基地が集中する沖縄の現状や、太平洋戦争後の米国施政下から現在に至るまでの歴史的経緯を知る。
・辺野古の新基地建設に反対する沖縄の民意の形成過程を理解する。
・沖縄戦の実態や戦後の日米関係の中で沖縄が果たした役割、日本政府の政治的な思惑に翻弄された状況を理解する。
・沖縄の歴史や現状を通して、中国や朝鮮半島との国際関係、米国や日本のアジア戦略への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
教室でリアルタイムに受講する形式を基本とします。市ケ谷キャンパス以外の学生の履修や、部活・就活による欠席者らに配慮し、「Ｚｏｏｍ」で撮影した授業内容の映像を可能な限り後日配信します。毎回の授業後、感想や質問をリアクションペーパーで提出してもらい、次の授業に活用します。リアルタイムで受講できなかった学生がリアクションペーパーを提出した場合は、出席扱いとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバスの解説や授業全体の流れを説明。沖縄の政治、経済、基地の現状について
2	グループディスカッション	沖縄について何を知っているのか、何を学びたいのか
3	沖縄の米軍基地を巡る現状	戦後の米国施政下や本土復帰後の米軍基地をめぐる状況の変化
4	新たな基地建設が進む辺野古の現状と歴史（１）	ドキュメンタリー動画などを参考に、辺野古の歴史を学ぶ
5	辺野古の現状と歴史（２）	現在の基地建設の状況。辺野古の民意の形成過程、政府の対応に変化
6	１９９５年の出来事	少女暴行事件を契機に、普天間返還に至る政治の流れと日米政府の思惑
7	沖縄県政の流れ、県知事の戦略と決断	太田知事の代理署名拒否、稲嶺知事の１５年使用期限の軍民共用構想など。沖縄復帰後の政治と基地の関係
8	オール沖縄の台頭と自民党政権の巻き返し	元自民党の翁長知事誕生とオール沖縄の登場。現在に至る日本政府との対立構造
9	沖縄戦の実態	県民の４人に１人が命を落とした戦争被害の実態。本土決戦の捨て石とされた背景
10	戦後から日本復帰までの沖縄	米国施政下の日本と沖縄。沖縄への基地集中と日米安保、日本への復帰運動
11	米国のアジア戦略の変化	冷戦から現代に至る時代ごとの米軍の戦略変化と日本の思惑
12	朝鮮半島の戦後史（１）	韓国や北朝鮮の国の成り立ち。日本や米国、中国との関係
13	朝鮮半島の戦後史（２）	北朝鮮とはどのような国か。現地の映像を参考にして考察。
14	総括	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・『いま沖縄をどう語るか～ジャーナリズムの現場から』　高文研、２０２４年

【参考書】
・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、２０１６年
・『観光コースでない沖縄・第５版』　高文研、２０２３年

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーの提出、授業への参加度（５０％）
期末レポート（５０％）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の６０％以上を達成した者を合格とする。
指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】
質疑応答や学生同士の議論など、受講生が自主的に参加ができる授業環境をつくるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
共同通信の社会部系記者として約３０年を過ごしたジャーナリストとしての経験を生かし、新聞記者ならではの視点から、日本の政治や国際情勢を巡る日々のニュースの見方なども示したいと考えています。
２０１４年から１６年まで、「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、今もメディア業界に就職を希望する学生への支援活動に取り組んでいます。共同通信社に勤務する一方で、日本と韓国でジャーナリストを目指す学生が交流を深める「日韓学生フォーラム」（年に２回）や、出版社の「週刊金曜日」と連携して学生がジャーナリズムを学ぶ「金曜ジャーナリズム塾」（毎月開催）なども主宰しています。
【その他の注意事項】
①やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由の証明書を提出すれば評価に考慮する。
②私語、やむを得ない事情以外の遅刻・途中退席・教室への出入り、授業と関係ない目的でのスマホやPCの使用など、講義の進行、他の受講生の学習を妨げる行為については厳しく対処する。
③本授業は「アジア・太平洋島嶼国際関係史Ｂ」の前提となるため、Ｂを受講予定の学生には本授業の受講を強く推奨する。

【Outline (in English)】
【Course outline】

Through the current situation and history of Okinawa, which still hosts many U.S. military bases, students will learn about Japan's security policy, international relations with China and the Korean Peninsula, relations with the Pacific islands, and the process of forming public opinion against the construction of a new base in Henoko. Okinawa suffered the most severe damage during the Pacific War, with one in four prefecture residents killed, and was under U.S. administration until it was returned to Japan in 1972. The Japanese government has promised to work on reducing U.S. military bases, but the situation of bases concentrated in Okinawa remains unchanged despite changes in the U.S. Asia strategy and U.S.-China relations, and the deployment of the Self-Defense Forces is also progressing under the pretext of preparing for a Taiwan emergency. Learning about Okinawa should also be useful in understanding Japan's modern history and international relations with Asian countries.

HIS300LA（史学 / History 300）

アジア・太平洋島嶼国際関係史Ｂ　2017年度以降入学者

水谷　明子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火4**/Tue.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アジア・太平洋地域には多くの島嶼および島嶼国家があります。この授業では、その中で特に、沖縄に注目します。沖縄は現在日本の一県、一地域ですが、前近代には琉球王府の統治する別の政治体制に属し、「琉球処分」による日本への併合、その後の「同化」政策、沖縄戦と戦後の米軍統治、「日本復帰」（沖縄返還）、その後も続く基地強化など外からの政策決定と、それに対する沖縄人のさまざまな異議申し立ての中で、独自の歴史を辿っています。この授業では、沖縄近現代史を中心に、アジア・太平洋島嶼の国際関係から生じる現代社会の諸問題を検討し、この地域に生きる生活者としての問題意識を養います。

【到達目標】
「琉球処分」以降の沖縄近現代史を確認し、アジア・太平洋国際関係の中で、沖縄が現在直面している課題・問題について具体的にリサーチし、議論します。生活者の視点から、国際関係の中で、地域の問題を考え、受講生それぞれの関心あるテーマについて、資料を通じて調査し、議論する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
各回の内容・テーマについて講義、授業内でのグループ・ディスカッションを中心に授業を進めます。各回のテーマについてリアクションペーパーを提出し、学期末には各自の問題関心に沿って、リサーチレポートを作成します。レポート作成に向けて、中間発表があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標と課題について確認します。
第2回	「琉球処分」ー東アジア国際関係史の視点から	「琉球処分」について内容、現在の研究状況を確認し、東アジア、世界史の視点から議論します。
第3回	近代沖縄の政治変動と思想・文化	近代沖縄における政治変動、特に「同化」政策について確認し、それに対するアイデンティティーの模索と思想・文化について考えます。
第4回	アジア・太平洋戦争と沖縄戦	第二次世界大戦からアジア・太平洋戦争に至る過程、更に沖縄戦の経緯とその特徴について、国際関係史の視点から議論します。
第5回	占領とサンフランシスコ平和条約	沖縄戦後の占領政策とサンフランシスコ講和条約による状況について確認します。
第6回	「銃剣とブルドーザー」から島ぐるみ土地闘争・復帰運動へ	沖縄の基地化とそれに抗う民衆運動の展開について確認します。
第7回	施政権返還と密約	日米外交における問題を「沖縄返還交渉」のなかで生じた密約から考えます。
第8回	「世替わり」後の沖縄	「日本復帰」後の沖縄における政治・経済・社会の変化について確認し、現在まで続く課題についてリサーチテーマを検討します。
第9回	沖縄の課題（1）：戦争の記憶とその継承	「日本復帰」後の沖縄の状況について、沖縄戦を記録する活動と教科書問題から考えます。
第10回	現代沖縄の課題（2）：アジア・太平洋島嶼の安全保障と在日米軍基地	沖縄の在日米軍基地についてアジア・太平洋島嶼における安全保障の観点より考えます。
第11回	現代沖縄の課題（3）：アジア・太平洋島嶼の自然と環境	アジア・太平洋島嶼の自然と環境の視点から沖縄の課題を考えます。
第12回	現代沖縄の課題（4）：自治・自立（自律）の思想と試み	戦後沖縄における自治・自立（自律）の思想と試みを確認し、その可能性について議論します。
第13回	現代沖縄の課題（5）：沖縄のネットワーク：移動の経験を考える	「移民県」と言われる沖縄の移動の経験から沖縄の課題解決のための連帯の試みと可能性を考えます。
第14回	リサーチレポート中間発表	リサーチレポートの内容について中間発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。参考文献、レジュメ・資料について、読破し、理解した上で、リアクションペーパーを書く。リサーチレポート、およびリサーチレポート中間発表の準備をする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業ごとにレジュメを準備します。

【参考書】
宮里政玄ほか『沖縄「自立」への道を求めて』高文研、2009年。
田仲康博『風景の裂け目―沖縄、占領の今―』せりか書房、2010年。
川瀬光義『基地維持政策と財政』日本経済評論社、2013年。
新崎盛暉『日本にとって沖縄とは何か』岩波書店、2016年。
金城正篤ほか編著『沖縄県の百年』山川出版社、2005年。
屋嘉比収『沖縄戦、米軍占領史を学びなおす－記憶をいかに継承するか』世織書房、2009年。

【成績評価の方法と基準】
コメントシート（４０％）
レポート中間発表（３０％）
リサーチレポート（３０％）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の ６０％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
レポートの文字数、枚数は、受講生の専門やリサーチテーマによって図表を用いるなどの場合を踏まえて、検討します。

【Outline (in English)】
This course introduces the basic knowledge on the history of Okinawa after the annexation to modern Japan in 1879, and the ways to grasp and consider some problems caused in the international relations of Asia-Pacific region, to the students taking this course. At the end of the course, students are expected to research and discuss some issues for their own interests. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Study time for students taking this course will be more than two hours for a class. The overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end research report: 30 %、Short presentation for the research report: 30 %、comments to fill in every class: 40 %

HIS300LA（史学 / History 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

神谷　丹路

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火2**/Tue.2
単位数：**2単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
在日コリアンの歴史を学び、グローバル時代の多文化共生を考える：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、また日本国籍を保持するがルーツは朝鮮半島にあるという人々も多数住んでいる。現代日本は、こうした人々とともに社会が構成されている。本授業では在日コリアンの歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】
文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本授業の基本的な流れは、以下の通りである。
　ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために,随時,映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明、映像
2	在日コリアン概説	世界のコリアン、日本のコリアン、映像
3	1）「口絵・プロローグ」	学生によるテキストの報告、討論.
4	2）映像①	関連映像視聴、討論.
5	3）「密航1946年 関釜の間の海～」	学生によるテキストの報告、討論.
6	4）映像②	関連映像視聴、討論.
7	5）「第1章植民地の子ども1朝鮮 1911-24　鯨の町長生浦～」	学生によるテキストの報告、討論.
8	6）映像③	関連映像視聴、討論.
9	7）「第1章植民地の子ども2日本 1924-44　関東大震災の横浜で～」	学生によるテキストの報告、討論.
10	8）映像④	関連映像視聴、討論.
11	9）「第1章植民地のこども3朝鮮 1944-46　朝鮮に逃げる～」	学生によるテキストの報告、討論.
12	10）「送還1946　失敗した密航～」	学生によるテキストの報告、討論.
13	資料館見学	資料館見学
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
宋恵媛・望月優大『密航のち洗濯ときどき作家』柏書房　1800円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】
水野直樹・文京洙『在日朝鮮人歴史と現在』岩波新書　990円。

【成績評価の方法と基準】
討論への積極的な参加など授業への貢献度50％、プレゼンテーション・期末レポート50％。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】
共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】
秋学期に開講される教養ゼミⅡ「在日コリアンの歴史」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に活きてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】
< Course outline>
This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.
< Learning Objectives>
The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report&Presentation : 50%,in-class contribution:50％.

HIS300LA（史学 / History 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

神谷　丹路

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火2**/Tue.2
単位数：**2単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
在日コリアンの歴史を学び、グローバル時代の多文化共生を考える：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、また日本国籍を保持するがルーツは朝鮮半島にあるという人々も多数住んでいる。現代日本は、こうした人々とともに社会が構成されている。本授業では在日コリアンの歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】
文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
ゼミ形式で進める。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を整理しつつ学習していく。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために,随時,映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・在日コリアン概説	自己紹介、授業計画の説明、在日コリアン概説、映像。
2	1）「第2章洗濯屋の家族1 尹紫遠（1）密航のち18年の人生～163Pまで）	戦後の在日コリアンの歴史。学生によるテキストの報告、映像、討論。
3	2）映像⑤	関連映像視聴、討論。
4	3）「第2章洗濯屋の家族1 尹紫遠（2）横浜の検閲生活～（164P～）」	学生によるテキストの報告、討論。
5	4）映像⑥	関連映像視聴、討論。
6	5）「第2章2大津登志子 満州から38度線へ～」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
7	6）映像⑦	関連映像視聴、討論。
8	7）「第2章泰玄 money,money,money～」	学生によるテキストの報告、討論。
9	8）映像⑧	関連映像視聴、討論。
10	9）「第2章逸己　歴史を準備する人～」	学生によるテキストの報告、討論。
11	10）映像⑨	関連映像視聴、討論。
12	12）「エピローグ、補遺密航の時代」	学生によるテキストの報告、討論。
13	13）資料館見学	資料館見学
14	14）まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
宋恵媛・望月優大『密航のち洗濯ときどき作家』柏書房　1800円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】
水野直樹・文京洙『在日朝鮮人歴史と現在』岩波新書　990円。

【成績評価の方法と基準】
討論への積極的な参加など授業への貢献度50％、プレゼンテーション・期末レポート50％。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】
共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】
春学期に開講された教養ゼミⅡ「在日コリアンの歴史」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだことが、秋学期の学習に活きてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】
< Course outline>
This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.
< Learning Objectives>
The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report&Presentation : 50%,in-class contribution:50％.

GDR300LA（ジェンダー / Gender 300）

クィア・スタディーズA

2017年度以降入学者

LETIZIA GUARINI

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**5/Thu.5
単位数：**2単位**
定員制（100）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、フェミニズムやクィア・スタディーズの基礎的な知識について学びます。
私たちは、日々の生活の中で常にジェンダー化されます。それゆえに性やジェンダーと無関係に生きることはできません。この授業では、私たちの性、身体、欲望がどのように歴史的・社会的に作られているかについて考えます。ジェンダー・セクシュアリティの概念や歴史的背景を理解し、日本や世界各国におけるフェミニズム運動とLGBTQ＋運動の歴史について学びます。また、普段の生活の中で「当たり前」とされている様々な事象を批判的に分析する力を培います。

【到達目標】
1）クィア・スタディーズについての基礎的な知識を身につける。
2）ジェンダー・セクシュアリティの表象を批判的に分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。グループディスカッションも行います。
フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。ジェンダー、セクシュアリティという概念について考える。
第2回	クィア・スタディーズとは何か？	クィア・スタディーズの基本概念について講義する。
第3回	第一波フェミニズム、第二波フェミニズム	フェミニズム運動の歴史について講義する。
第4回	第三波フェミニズム、ポストフェミニズム、#MeToo運動	90年代から今日までのフェミニズム運動について考える。
第5回	同性愛の病理化からストーンウォールの暴動まで	LGBTQ運動の歴史を振り返る。
第6回	日本におけるLGBTQ運動	「府中青年の家」裁判について講義する。
第7回	クィア・スタディーズの誕生	クィア・スタディーズの誕生について講義する。
第8回	中間試験	第7回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第9回	ダイバーシティについて考える	現代社会における多様性について考える。
第10回	インターセクショナリティ	インターセクショナリティとトランスジェンダー問題について考える。
第11回	カミングアウトとアウティング	具体的な例を挙げながらカミングアウトとアウティングについて考える。
第12回	クィア・ペダゴジー	ジェンダー・セクシュアリティの教育について考える。
第13回	児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティ	絵本や児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティの表象について考える。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を事前に読む、授業内で示される課題（リアクション・ペーパー、レポート）対応など、準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
岩渕功一（編）『多様性との対話―ダイバーシティ推進が見えなくするもの』（青弓社年、2021年）
菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく 1』（晃洋書房、2019 年）
菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく 2』（晃洋書房、2022 年）
菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく 3』（晃洋書房、2023 年）
清水晶子『フェミニズムってなんですか?』（文春新書、2022 年）
周司あきら、高井ゆと里『トランスジェンダー入門』（集英社新書、2023年）
新ヶ江章友『クィア・アクティビズム はじめて学ぶ〈クィア・スタディーズ〉のために』（花伝社、2022 年）
森山至貴『ＬＧＢＴを読みとくークィア・スタディーズ入門ー』（ちくま新書、2017年）
トッド・マシュー『ヴィジュアル版　ＬＧＢＴＱ運動の歴史』（原書房、2022年）

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクション・ペーパー、グループワーク、ディスカッション：20%
中間試験：40%
学期末レポート：40％ (2,000文字程度)
毎回出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。
15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの論点をより具体的に示し、ファシリテーションする必要があることに気づいた。

【学生が準備すべき機器他】
レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】
基本的に教授言語は日本語ですが、英語の資料を使うこともあります。講義内容にセンシティブな内容が含まれている可能性があります。

【Outline (in English)】
This course is designed to enhance students' understanding of basic concepts in queer studies.
We cannot live unaffected by sex or gender. Every day we encounter and perform a wide range of social and cultural ideas and values that constitute the concept of gender.
In this class, students will study how our sexuality, bodies, and desires are historically and socially constructed. Students will understand the concept and historical background of gender and sexuality, and learn about the history of the feminist and LGBTQ+ movements in Japan and around the world.
Learning objectives:
By the end of the course, students should be able to do the following:
a) Have basic knowledge of queer studies.
b) Develop the ability to critically analyze representations of gender and sexuality.

Learning activities outside of the classroom:
Students are required to read the reference material by the next session and submit comment sheets (one to three hours for every session).
Grading criteria/Policy:
The final grade will be decided based on the following:
Discussion and participation (comment sheets, involvement during discussion): 20%
Active participation in class is required. Submit your comments via Hosei University Learning Management System at the end of each session.
Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.
Midterm exam: 40%
Final essay (1000-1500 characters): 40%

GDR300LA（ジェンダー / Gender 300）

クィア・スタディーズB

2017年度以降入学者

LETIZIA GUARINI

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**5/Thu.5
単位数：**2単位**
定員制（100）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、文学作品、映画、ドラマ、マンガなどにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象について学びます。さまざまなジャンルや作品を取り上げ、歴史的・社会的な背景を考えながら、メディアにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象を分析するための視座を身につけます。

【到達目標】
1）フェミニズム批評やクィア・スタディーズの分析方法について学ぶ。
2）クィア・スタディーズの視座から表象作品を批判的に読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めますが、グループディスカッションも行います。
フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。クィア・スタディーズの基礎について講義する。
第2回	フェミニズム批評	文学とフェミニズム批評について講義する。
第3回	性暴力と文学	#MeToo運動と文学の関係について講義する。
第4回	文学とミソジニー	川上未映子「恥」や松田青子『おばちゃんたちのいるところ』を取り上げる。
第5回	トランスジェンダーの過去と現在	トランスジェンダーの歴史について講義する。
第6回	トランスジェンダー問題	トランスジェンダーの表象について考える。
第7回	ゲイ解放運動	映画におけるLGBT運動の表象について考える。
第8回	中間試験	第7回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第9回	アートと身体	アート作品における妊娠、出産、授乳の表象について考える。
第10回	ヘテロノーマティヴィティと家族	『ハッシュ！』を取り上げる。
第11回	日本におけるレズビアンの歴史	レズビアンの可視性やその表象について講義する。
第12回	表象分析実践	『きのう何食べた？』（漫画と映画）と『作りたい女と食べたい女』（漫画とドラマ）についてグループでディスカッションを行う。
第13回	カミングアウトとアウティング	映像作品におけるカミングアウトとアウティングについて考える。
第14回	期末試験	第13回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を事前に読む、授業内で示される課題（リアクション・ペーパー、レポート）対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
菅野優香『クィア・シネマ・スタディーズ』（晃洋書房、2021年）
黒岩裕市『ゲイの可視化を読む - 現代文学に描かれる〈性の多様性〉？』（晃洋書房、2016年）
新ヶ江章友『クィア・アクティビズム　はじめて学ぶ〈クィア・スタディーズ〉のために』（花伝社、2022年）
平林美都子『女同士の絆　レズビアン文学の行方』（彩流社、2020年）
森山至貴『LGBTを読みとく　クィア・スタディーズ入門』（筑摩書房、2017年）
マシュー・トッド『[ヴィジュアル版]LGBTQ運動の歴史』（原書房、2022年）
Mary K. Holland and Heather Hewett (Eds.), #MeToo and Literary Studies. Reading, Writing, and Teaching about Sexual Violence and Rape Culture, Bloomsbury, 2021

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクション・ペーパー、グループワーク、ディスカッション 20%
中間試験：40%
期末試験：40%
毎回出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。
15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの論点をより具体的に示し、ファシリテーションする必要があることに気づいた。

【学生が準備すべき機器他】
授業内試験のためノートパソコンを用意してください。

【その他の重要事項】
基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。
講義内容や鑑賞作品などにセンシティブな内容が含まれている可能性があります。

【Outline (in English)】
In this class, we will study the representation of gender and sexuality in literary works, films, dramas, comics, etc.
Students will learn to analyze how gender and sexuality are represented in the media while considering the historical and social background of various genres and works.
Learning objectives:
By the end of the course, students should be able to do the following:
a) Learn about the analytical methods of feminist literary criticism and queer theory.
b) Develop the ability to interpret the representation of gender and sexuality in the media.
Learning activities outside of the classroom:
Students must read the reference material by the next session and submit comment sheets (one to three hours for every session).
Grading criteria/Policy:
The final grade will be decided based on the following:

Discussion and participation (comment sheets, involvement during discussion): 20%
Active participation in class is required. Submit your comments via Hosei University Learning Management System at the end of each session.
Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.
Midterm exam: 40%
Final exam: 40%

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

キリスト教思想史A

2017年度以降入学者

鵜澤　和彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金4**/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キリスト教は、わたしたち人間存在、人間社会と生活環境、そして、それらの創造主としての神に関する教義を通して、西欧の人間社会及び文化の諸領域に甚大な影響を与えてきました。本授業は信仰（信じること）と理性（知ること）の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。受講生がこれらの学習を通して、キリスト教思想史の理解を深めていくことを目的とします。春期授業（キリスト教思想史A）は、初代教会と聖書の成立から中世後期の神秘主義思想までを学びます。

【到達目標】
①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化（芸術など）に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義は授業支援システムHoppiiを使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、4回から5回に1度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。質問と感想は、授業時に配布するリアクションペーパーに記入してください。このペーパーの提出でもって、出席と判断します。質問へのフィードバックは次回の授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppiiを使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、キリスト教思想史の意義を解説します。
第2回	第1章　ギリシア思想の特質	神話に現れた「霊」、ギリシア宗教の諸段階、哲学の誕生などを学びます。
第3回	第2章　ヘブライズムの思想的特質	旧約聖書の思想、キリスト教の成立、イエスの教えなどについて説明します。
第4回	グループワークと質疑応答	第1章と第2章の内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第5回	第3章　教父思想の特質	ユスティノスとプラトン主義、オリゲネス、ニカイア公会議などについて学びます。
第6回	第4章　アウグスティヌスの思想	思想と基礎経験、プラトン主義とキリスト教、「神の像」の探求などを解説します。
第7回	第5章　中世思想の構造と展開	中世思想の構造と展開、修道制の確立、中世的な霊性の形成などについて学びます。
第8回	第6章　中世初期の思想家とスコラ哲学	ボエティウス、スコトゥス、エリウゲナ、アンセルムスなどについて解説します。
第9回	グループワークと質疑応答	第3章から第6章までの内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第10回	第7章　トマス・アクィナスの神学体系	神学大全の構成と方法、自然神学の諸問題、恩恵と自由意志などについて学びます。
第11回	第8章　後期スコラ哲学の展開	トマスとスコトゥス、オッカムの二重真理説、ルターによる後期スコラ哲学の批判を解説します。
第12回	第9章　神秘的霊性思想の展開	アウグスティヌスの伝統、ベルナールの霊性思想、ボナヴェントゥラの神秘神学、エックハルトの神秘主義を学びます。
第13回	第10章　ダンテと中世文学の思想	中世文学の展開、宮廷的恋愛詩、ダンテの『新生』『新曲』、ペトラルカなどついて学びます。
第14回	グループワークと質疑応答	グループワークと質疑応答を行いながら、春期授業の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。（2時間）
復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppiiの投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。（2時間）

【テキスト（教科書）】
金子 晴勇 (著)『ヨーロッパ思想史 ―理性と信仰のダイナミズム―』筑摩選書、ISBN-13 : 978-4480017284、1980円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】
若松英輔・山本芳久（共著）『キリスト教講義』文芸春秋、ISBN-13 : 978-4163909455、2019年、1850円

【成績評価の方法と基準】
①毎回の課題評価、②春学期の期末レポート（到達目標の技術の習得）。①を50%、②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】
病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システムHoppiiにアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムHoppiiを利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】
その他の詳細は、授業支援システムHoppiiに記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】
What kind of beings are we as human beings? How should we understand the world around us and God as its origin? Christianity has a rich intellectual heritage that explores these fundamental questions of existence. This course examines this heritage from the perspectives of faith (believing) and reason (knowing). The course aims to:(1) Deepen students' understanding of Christian doctrine and its historical development. (2) Enhance comprehension of philosophical concepts closely related to Christianity. (3)

Explore Christianity's influence on politics, economics, society, and culture (including art and the liberal arts). Grading Criteria: (1) Evaluation of assignments submitted after each class. (2) Final report at the end of the semester. Each component (1) and (2) will account for 50%of the final grade, and students' overall performance will be assessed comprehensively. Preparation: Students should read the relevant sections of the textbook in advance. Additionally, they should use reference books to understand technical terms and key concepts (2 hours). Review: Students should go through the materials distributed in class (lecture notes and reference materials). After each session, they must complete the assigned tasks using the class support system. Furthermore, they should summarize their thoughts on the topic, incorporating insights from discussions with other students (2 hours).

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

キリスト教思想史Ｂ

2017年度以降入学者

鵜澤　和彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金4**/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キリスト教は、わたしたち人間存在、人間社会と生活環境、そして、それらの創造主としての神に関する教義を通して、西欧の人間社会及び文化の諸領域に甚大な影響を与えてきました。本授業は信仰（信じること）と理性（知ること）の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。受講生がこれらの学習を通して、キリスト教思想史の理解を深めていくことを目的とします。秋期授業（キリスト教思想史B）は、ルネサンスと宗教改革から近代ヨーロッパ文学の人間観までを学びます。

【到達目標】
①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化（芸術など）に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義は授業支援システムHoppiiを使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、3回から4回に1度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。出席、質問、感想は、Google Formを通じて提出してもらいます。質問へのフィードバックは次回の授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppiiを使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、春期授業の内容を振り返ります。
第2回	第10章　ダンテと中世文学の思想	中世文学の歴史的展開、ダンテの『新生』『神曲』、ペトラルカの文学を学びます。
第3回	第11章　キリスト教共同体の終焉と近代への移行	ダンテの『帝政論』、マルシリウスの『平和の擁護者』、クザーヌスの『普遍的一致』を解説します。
第4回	グループワークと質疑応答	第10章と第11章の内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第5回	第12章　ルネサンスと宗教改革の思想	ルネサンスとは何か、イタリア人文主義の思想、ルターの信仰特質およびキリスト教的霊性の定義などについて説明します。
第6回	第13章　宗教改革から近代思想へ	プロテスタンティズムの歴史的な成果と残された問題などについて学びます。
第7回	第14章　近代的自我の確立	デカルトのコギトと哲学の出発点、パスカルの問いと人間の理解などを解説します。
第8回	第14章続き　パスカルと信仰	パスカルの生涯、決定的回心（メモリアル）、イエズス会との論争について学びます。
第9回	グループワークと質疑応答	第12章から第14章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第10回	第15章　啓蒙思想と敬虔主義	欧州各国の啓蒙思想、敬虔主義の覚醒運動、シュライアマッハーの宗教論について解説します。
第11回	第16章　ヘーゲルの思想体系	ヘーゲルとフランス革命、歴史の弁証法とその影響などについて学びます。
第12回	第17章　ヘーゲル体系の批判と解体	フォイエルバッハ、マルクス、キルケゴールの思想などを解説します。
第13回	第18章　近代ヨーロッパ文学の人間観	中世から近代への歴史的変遷、近代ヨーロッパ文化および文学について学習します。
第14回	秋期授業のまとめと質疑応答	秋期授業の内容を振り帰った後で、第15章から第18章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。（2時間）
復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppiiの投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。（2時間）

【テキスト（教科書）】
金子 晴勇 (著)『ヨーロッパ思想史 ―理性と信仰のダイナミズム―』筑摩選書、2021年、ISBN-13 : 978-4480017284、1980円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】
若松英輔・山本芳久（共著）『キリスト教講義』文芸春秋、2019年、ISBN-13 : 978-4163909455、1850円

【成績評価の方法と基準】
①毎回の課題評価、②秋学期の期末レポート（到達目標の技術の習得）。①を50%、②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】
病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システムHoppiiにアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムHoppiiを利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】
その他の詳細は、授業支援システムHoppiiに記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】
This course aims to explore the intellectual heritage of Christianity through the lenses of both faith and reason. The goal is to provide a comprehensive understanding of the historical progression of Christian doctrine. Moreover, we will delve into the philosophical concepts closely related to Christianity and how they have influenced various aspects of society, including politics, economics, and culture. Scope of autumn classes: students will study everything from the Renaissance and Reformation to modern European literature's view of the human person.

In preparing for the assignment, students should start by reading the assigned text to understand technical terms (2 hours). They will revise their responses to the questions and complete assignments for the class (2 hours).
Your performance in this course will be evaluated based on two factors: assignment evaluation each time and a final report at the end of the semester. Both carry equal weightage in the grading criteria.

LIN300LA（言語学 / Linguistics 300）

異文化コミュニケーション論Ａ　2017年度以降入学者

山本　そのこ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月4**/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、異文化接触、異文化混在の状況が加速度的に進んでおり、それに伴う文化の国際化や融合と共に、「違和感」や多文化間の摩擦も顕在化しつつある。しかし、そもそも「文化」とは何なのか。自分は、そして他者はどのような文化背景を持っているのか。また、「文化」と「言語」はどのように関係し合っているのか。
この授業では、普段あまり意識されていない日本語と日本文化の具体的な例を取り上げ、他の言語・文化と対照することで、意識化・相対化することを計る。★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】
①言葉と文化の問題がいかに人の認識に関わるか理解する。
②自分が今まで意識していなかった文化（主に日本文化）を意識化、また相対化する。
③グローバル社会、多文化共生などについて、日本と他国の現状を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・第1～3回目は、講義形式。第14回目は期末試験を行う。
・第4～13回の授業内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。
・Google Classroom を使って授業を行う。
連絡や課題／試験の提示、リアクションペーパーも主にGoogle Classroomを使い、Hoppiiは補助的な位置づけとなるので、履修が決定したらGoogle Classroomに登録すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ステレオタイプ①定義・要因・具体例	・授業運営に関する打ち合わせ ・アンケート ・ステレオタイプとは
第2回	ステレオタイプ②メディア・個人的／社会的影響	・メディアとステレオタイプ ・ステレオタイプの影響 ・「差別」と「自己規制」 ・春学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	ステレオタイプ③「日本人」についてのステレオタイプ	・日本と日本人のイメージ ・集団主義、年功序列、本音と建て前、男尊女卑など
第4回	異なる基準	・「美しさ」の基準 ・「恥ずかしさ」の基準
第5回	文化によって異なる色彩認識	・虹の色、太陽の色
第6回	カテゴリー分類	・「北京ダック」はアヒルかカモか？
第7回	日本語の諸問題①	・文法：統語法、品詞、人称、指示詞、感情表現
第8回	日本語の諸問題②表記	・ラジオ型言語とテレビ型言語 ・文字言語としての日本語と他言語との比較。 ・音声言語としての日本語と他言語との比較
第9回	言語とアイデンティティ	・母語に対する認識 ・各国の言語政策 ・外国語教育
第10回	宗教観	・日本人の宗教観 ・無神論・一神論・多神論 ・新しい外来宗教との折り合い
第11回	住居と自然	・自然との闘い／自然との共存 ・日本住宅の特徴 ・都市計画、インフラ
第12回	日本の「文化多様性」	・マイノリティ問題（過去から現在まで）
第13回	世界の「文化多様性」	・グローバル化と固有文化の維持 ・世界の動向
第14回	期末試験	・第1～14回のまとめ試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、授業前にテキストの次回授業該当箇所や、与えられた文献を読んでおくこと。
・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
・本授業の復習・予習時間は、発表担当時は5時間以上（資料集め、その他含む）、平常時は60分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜資料を配付する。

【参考書】
今井むつみ『ことばと思考』岩波新書
高野陽太郎『日本人論の危険なあやまち』ディスカバー掲書鈴木孝夫『日本語教のすすめ』新潮新書
鈴木孝夫『日本語と外国語』岩波新書
G.ドイッチャー『言語が違えば世界も違って見えるわけ』
R.E.ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度	15%
リアクションペーパー	15%
クイズ	10%
発表	20%
期末試験	40%

・4回以上授業を欠席した場合、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
・グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
・インターネット接続可能な機器：ＰＣ、タブレット端末、スマートフォン。
・期末試験時にはＰＣまたはタブレット端末
★事前に、グーグルクラスルームへの登録を行うこと。
https://classroom.google.com/c/NzM3NTYxMzU4OTY1?cjc=zk5hfer
授業コード：zk5hfer

【その他の重要事項】
★受講希望者数によっては、第1回目（4月7日）の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は第1回目に必ず出席すること。

【Outline (in English)】
(Outline)

In this course, students will read various materials on Japanese language and culture, comparing with other cultures. Eventually they are expected to relativize the cultures of their own, and to deepen the understanding of other ones. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. The interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.
(Learning Objectives)
At the end of this course, students will be expected to realize how human recognition will be affected by languages and cultures, and to have better understanding of relativity of the cultures.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required reading assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.
(Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination 40%
Presentation 20%
Reaction Paper Writing 15%
in class contribution 15%
Quiz 10%
＊Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIN300LA（言語学 / Linguistics 300）

異文化コミュニケーション論 B　2017年度以降入学者

山本　そのこ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月4**/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年「グローバル化」や「国際化」が加速度的に進み、異文化との接触は身近かつ無視できない問題となっている。その一方、異文化接触による摩擦問題が次々と表面化してもいる。特に、外交やビジネスで異文化間の接触が予想される場面では、異文化間コミュニケーションの基本的な知識は必須となる。
この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互いによりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。
★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】
①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
②異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
③実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
④異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・第1・2回目は講義と教室内活動中心。
・第3～13回は、指定の内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 文化とコミュニケーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・受講者アンケート記入 ・文化モデルと主なコミュニケーション・モデル
第2回	非言語コミュニケーションとは	・非言語コミュニケーションの種類 対立管理スタイルと異文化適応力 ・秋学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	コミュニケーション・スタイル①　コンテキスト	・高コンテキスト文化と低コンテキスト文化 （学生発表と質疑応答。以下13回まで）
第4回	コミュニケーション・スタイル②　ターンテ-キングとパラ言語	・会話場面における」発話のターンの取り方の違い、文化差や特徴。 ・イントネーション、リズム、ポーズ、声質など、周辺言語の基本的知識と文化的な特徴
第5回	言語コミュニケーション①　褒め方・叱り方・謝り方	文化によって異なる「ほめ方・しかり方・謝り方」 ・ポライトネス理論の基本的概念
第6回	言語コミュニケーション②　誘い方と断り方	・「誘い方・断り方」に見られる文化差
第7回	言語コミュニケーション③　自己紹介と自己開示	・「自己紹介」の仕方と好まれる話題や態度。 ・「自己開示」の深さ、広さなどがコミュニケーションや対人関係に及ぼす影響と、文化的特徴。
第8回	非言語コミュニケーション①　表情・アイコンタクト	・人類共通の本能的、基本的な表情分析と、文化に依存する表情表現。 ・視線によるコミュニケーション、いわゆるアイコンタクトに見られる文化差。
第9回	非言語コミュニケーション②　しぐさとジェスチャー・タッチング	・異なる文化圏で見られる様々なしぐさやジェスチャー ・危険なしぐさ、あるいはコミュニケーションを円滑にするジェスチャーなどの具体例。 ・タッチングの文化差や性別、年令、人間関係による変化。
第10回	非言語コミュニケーション③　空間と対人距離、時間感覚	・ソーシャル・ディスタンスやパーソナルスペースなど、空間の扱いに見られる文化差。 ・対人距離がコミュニケーションに与える影響。 ・時間感覚の地域、時代、個人による差異。 ・MタイムとPタイム
第11回	価値観	・基本的価値志向 ・ホフステードの6次元モデル ・ことわざ、昔話などに見る基本的価値観 ・家族関係、道徳観など基本的価値観と異文化接触
第12回	ジェンダーとLGBTQ	・偏見・差別と逆差別 ・幼少者への対応 ・日本と世界の動向
第13回	ポリティカル・コレクトネス	・メディア、行政、または個人による配慮とその影響 ・「多文化共生社会」におけるコミュニケーション
第14回	期末試験	・第1回～第13回までの内容についての筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
・本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。（ただし、発表担当の場合は例外。さらに多くの時間を要する）

【テキスト（教科書）】
適宜資料を配付する。

【参考書】
R.E.ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション論』丸善ライブラリー
池田理知子　E.M.クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ
八代京子　他『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
吉田暁・石井敏　他『異文化コミュニケ－ションキーワード』有斐閣
E.ホール　『沈黙のことば－文化・行動・思考』南雲堂

宮津多美子『異文化コミュニケーション入門　ことばと文化の共感力』勁草書房
八島智子／久保田真弓『異文化コミュニケーション論　グローバル・マインドとローカル・アフェクト』松柏社
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】
授業参加度 15％
リアクションペーパー 15％
クイズ　10%
発表　20%
期末試験　40％

【学生の意見等からの気づき】
・グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
・インターネット接続可能な機器：ＰＣ、タブレット端末、スマートフォン。
・期末試験時にはＰＣまたはタブレット端末
★授業の運営は、初回アンケートを含めてグーグルクラスルームで行うので、事前にグーグルクラスルームへの登録を行うこと。
https://classroom.google.com/c/NzQ5NTM0MDk1NjQ0?cjc=a5if4dd
授業コード：a5if4dd

【その他の重要事項】
・受講希望者数によっては、第1回目(9/22）の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。
・法政のメールアカウントをこまめにチェックすること。

【Outline (in English)】
(Outline)
This course will provide students with basic knowledge of multicultural communication, such as stereotypes, verbal/non-verbal communication, values, etc. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. Interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.
(Learning Objectives)
At the end of this course, students will be expected to have knowledge of the basic terms, concepts and to be able to apply them for their real lives in the multicultural society.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.
(Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination 40%
Presentation　20%
Reaction Paper Writing 15%
in class contribution 15%
Quiz　10%
*Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

矢澤　美佐紀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木4**/Thu.4
単位数：**2単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、マンガや小説を通じて、主に女性作家が愛や性といった＜家族＞にまつわるジェンダーの問題や、労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の実相を考察することにあります。それは、社会における＜居場所さがし＞の軌跡に迫ることでもあり、ジェンダー規範の生成を検証することでもあります。

歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」やマンガを視座に、日本の近代国家としての歩みを踏まえつつ、現代文学やマンガの生成と変容、芸術と社会の関係について学びます。

受講人数によりますが、可能な限りグループワークを取り入れます。また、各自が意見を発表することで自分自身の読みを深化させ、既成の芸術概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】

ジェンダーにまつわる様々な問題を、多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景（作家個人・社会全体）を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、表現の特徴がいかに時代と結びついているのかを学びます。

現在の豊かなマンガ等の女性表現を生み出すに至った女性史の内側や、文学史の外部を参照しながら、抑圧される側にとっての「書くこと」の意味を追求します。適宜、映画・ドラマなどの映像作品や世界文学も参照します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は演習方式です。受講人数によりますが対象作品についてグループワークを行い、発表を通じて討議をしてもらいます。後半には、作品を選んで本格的な発表をしてもらい、まとめの講評をします。また、リアクションペーパーを使って、随時教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応します。

＊校外学習の日程に関しては、学生の予定を配慮して前後することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業の目的、授業の進め方、成績のつけ方について
対面授業	池田理代子『ベルサイユのばら』	＜男装＞による居場所の追求 ・グループワークと意見交換
対面授業	手塚治虫『リボンの騎士』	＜男装＞の系譜を探る ・グループワークと意見交換
対面授業	よしながふみ『大奥』	男女逆転劇の真相を考察する ・グループワークと意見交換
対面授業	萩尾望都『あそび玉』	管理社会における居場所さがし① ・グループワークと意見交換
対面授業	小川洋子『密やかな結晶』	管理社会における居場所さがし② ・グループワークと意見交換
対面授業	桐野夏生『日没』	管理社会における居場所さがし③ ・グループワークによる意見交換
対面授業	大島弓子『ロングロングケーキ』	＜病＞における居場所さがし ・グループワークと意見交換
対面授業	グループ発表のための準備	・作品を選んでグループワーク ・レジュメの作成
対面授業	グループ発表①	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	グループ発表②	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	グループ発表③	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	一葉記念館か自由学園へ校外学習	作品の時代的背景を学習する
対面授業	授業のまとめ	質問への対応 期末レポートの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
指定された作品や関連資料を事前によく読み込み、自分の意見をまとめておきましょう。授業後は、講義内容や教員のコメント、グループワークでの課題をふまえて、自分の考えを簡潔に文章化しておきましょう。

【テキスト（教科書）】

取り扱う作品は、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】

矢澤美佐紀『女性文学の現在ー貧困・労働・格差』（２０１６・４、菁柿堂）、『［新編］日本女性文学全集』全12巻（矢澤・12巻責任編集、２０２０・３、六花出版）、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む　愛・性・家族』（２００６・１０，東京堂出版）、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史　現代編』（２００５・５、ミネルヴァ書房）、脇田晴子他編『女性文学史』（１９８７・８，吉川弘文館）その他、マンガや映像作品については授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度とグループ発表等の平常点が50％、期末レポートが50％とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業資料はできるだけ早めに配布します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにて適宜資料を配布します。自宅でサイトが見られるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】

Course outline： Considering modern Japanese sexual issues through women's literature and comic.
Learning Objectives： Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.
Learning activities outside of classroom： Take two hours for review and preparation.
Grading Criteria /Policy： Normal score is 50%, term-end report is 50%.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

矢澤　美佐紀

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木4**/Thu.4
単位数：**2単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、マンガや小説を通じて、主に女性作家が愛や性といった＜家族＞にまつわるジェンダーの問題や労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の内実を考察することにあります。それは、社会における＜居場所さがし＞の軌跡に迫ることでもあり、ジェンダー規範の生成を検証することでもあります。
歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」やマンガを視座に、日本の近代国家としての歩みを踏まえつつ、現代文学やマンガの生成と変容、芸術と社会の関係について学びます。
各自が意見を発表することで自分自身の読みを深化させ、既成の芸術概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】
ジェンダーにまつわる様々な問題を、多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景（作家個人・社会全体）を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、表現の特徴がいかに時代と結びついているのかを学びます。
現在の豊かなマンガ等の女性表現を生み出すに至った経緯を女性史の内側や文学史の外部を参照しながら追求し、抑圧される側にとっての「書くこと」の意味を考えます。
適宜、映画・ドラマ等の映像作品や世界文学も参照します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は演習方式です。担当者は、あらかじめ対象作家・作品に関する考察をまとめた簡単なレジュメを作成して報告をしてください。それに基づいて、皆で討議をします。積極的に参加してください。また、適宜リアクションペーパーを使って、教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応するよう努めます。
＊校外学習の日程に関しては、学生の予定等を配慮して前後することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業方法、成績のつけ方について／春学の振り返り／発表の分担を決める
対面授業	吉本ばなな『キッチン』	性の多様化における居場所さがし① ・グループワークと意見交換
対面授業	江國香織『きらきらひかる』	性の多様化における居場所さがし② ・グループワークと意見交換
対面授業	よしながふみ『きのう何食べた？』	性の多様化における居場所さがし③ ・グループワークと意見交換
対面授業	須藤佑実『夢の端々』	性の多様化における居場所さがし④ ・グループワークと意見交換
対面授業	津村記久子『ポトスライムの舟』	職場における居場所さがし① ・グループワークと意見交換
対面授業	小山田浩子『工場』	職場における居場所さがし② ・グループワークと意見交換
対面授業	益田ミリ『すーちゃん』、『ツユクサナツコの一生』	職場における居場所さがし③ ・グループワークと意見交換
対面授業	村田沙耶香「無」（『絶縁』）	コロナ禍における居場所さがし① ・グループワークと意見交換
対面授業	川上未映子『春のこわいもの』	コロナ禍における居場所さがし② ・グループワークと意見交換
対面授業	個人発表①	報告者による報告と討議
対面授業	個人発表②	報告者による報告と討議
対面授業	一葉記念館か自由学園を見学する	作品の背景を学習する
対面授業	授業のまとめ	質問への対応 春秋学期を通じた振り返り 期末レポートの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
【予習】報告者は、担当した作家と作品について調査と考察を行い、レジュメを作成してください。他の受講生は、対象作品をじっくり読み、資料を確認するなどして考えをまとめておきましょう。【復習】教員のコメントや担当者の発表をふまえて、自分の考察を深化させましょう。

【テキスト（教科書）】
取り扱う作品は、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】
矢澤美佐紀『女性文学の現在ー貧困・労働・格差』（２０１６・４、菁柿堂）、『［新編］日本女性文学全集』全12巻（矢澤・12巻責任編集、２０２０・３、六花出版）、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む　愛・性・家族』（２００６・１０，東京堂出版）、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史　現代編』（２００５・５、ミネルヴァ書房）、脇田晴子他編『女性文学史』（１９８７・８，吉川弘文館）その他、マンガや映像作品については授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度とグループ発表の平常点が50％、期末レポートが50％とします。

【学生の意見等からの気づき】
授業資料は事前にできるだけ早く配布します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにて適宜資料を配布します。自宅でサイトが見られるようにしておいてください。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】
Course outline： Considering modern Japanese sexual issues through women's literature and comic.
Learning Objectives： Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.
Learning activities outside of classroom： Take two hours for review and preparation.
Grading Criteria /Policy： Normal score is 50%, term-end report is 50%.

HIS300LA（史学 / History 300）

イギリスと帝国A

2017年度以降入学者

大澤　広晃

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水1**/Wed.1
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
18世紀から20世紀にかけてのイギリスは、巨大な帝国であった。イギリスの海外進出は、国内はもとより、世界各地にさまざまな影響を及ぼした。本授業では、18世紀末から20世紀初頭までのイギリス帝国の歴史を考えてみたい。

【到達目標】
・18世紀末から20世紀初頭までのイギリス帝国の歴史的特徴を理解する。
・帝国支配がイギリス国内と世界各地に与えた多様な影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づくディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第2回	近世のイギリス帝国概観：アメリカ植民地の独立まで	18世紀末までのイギリス帝国の動向を概観する。
第3回	革命の時代の帝国	フランス革命の時代のイギリスと帝国について学ぶ。
第4回	奴隷制と奴隷貿易	19世紀初頭までの帝国を支えていた奴隷制と奴隷貿易について学ぶ。
第5回	奴隷貿易・奴隷制への反対運動	奴隷貿易と奴隷制への反対運動とその同時代的意義を学ぶ。
第6回	帝国の拡大と植民地自治	19世紀前半の帝国の拡大と植民地自治の発展について学ぶ。
第7回	インド	帝国の要であったインドとその支配について学ぶ。
第8回	非公式帝国	帝国を理解するうえで重要な非公式帝国という概念とその問題点を学ぶ。
第9回	帝国の支配者たち	帝国を支配した人々とその役割について学ぶ。
第10回	帝国の経済	帝国の経済構造について学ぶ。
第11回	支配の文化、文化の支配	帝国支配を文化の観点から学ぶ。
第12回	帝国とジェンダー	帝国支配をジェンダーの視点から学ぶ。
第13回	帝国主義の時代	帝国主義の時代におけるイギリスと帝国のありようを学び、授業内容を総括する。
第14回	授業内試験とまとめ　期末試験とまとめ及び解説。	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料についての宿題を課す。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】
川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史―帝国=コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000年
木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と20世紀』（全5巻）ミネルヴァ書房、2004～2009年
秋田茂『イギリス帝国の歴史』（中公新書）中央公論新社、2012年

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50％
・期末試験：50％

【学生の意見等からの気づき】
引き続き学生の知的関心を喚起するような授業を心がけていきます。

【Outline (in English)】
< Course outline>
This course explores the history of the British empire from the 18th century through to the early 20th century. It analyzes the empire's entanglement with British domestic affairs as well as its impact on other parts of the world.
< Learning objectives>
1) Students are able to acquire basic knowledge about early modern and modern British imperial history.
2) Students are able to assess varied impact that the empire had on Britain and wider world.
< Learning activities outside of classroom>
Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.
< Grading policy>
Class participation and assignments 50%, Final examination 50%

HIS300LA（史学 / History 300）

イギリスと帝国B

2017年度以降入学者

大澤　広晃

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**1/Wed.1
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近現代のイギリス帝国は、世界史の動向を大きく規定した。20世紀後半に帝国は崩壊したが、植民地支配の過去は現在の世界にも影響を及ぼし続けている。本授業では20世紀のイギリス帝国に焦点をあて、その歴史的意義を考えてみたい。

【到達目標】
・20世紀のイギリス帝国の特徴を理解する。
・現代世界が直面するさまざまな問題をイギリス帝国史の視座から批判的に考察する力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づくディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。春学期に開講する「イギリスと帝国A」と内容面で連続性があるので、当該授業を履修したうえで登録することを強く勧める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第2回	世紀転換期までのイギリス帝国	19～20世紀転換期までのイギリスと帝国についての概要を学ぶ。
第3回	南アフリカ戦争の時代①：イギリス国内への影響	南アフリカ戦争がイギリス国内に与えたインパクトを学ぶ。
第4回	南アフリカ戦争の時代②：帝国・国際関係の視点から	南アフリカ戦争をイギリス帝国と国際関係の視点から学ぶ。
第5回	第一次世界大戦とイギリス帝国	第一次世界大戦への植民地のかかわりを学ぶ。
第6回	植民地ナショナリズム	植民地支配に抵抗するナショナリズムの諸特徴を学ぶ。
第7回	中東のイギリス帝国	戦間期の中東地域におけるイギリスの支配について学ぶ。
第8回	イギリス帝国と日本	第二次世界大戦までのイギリス帝国と日本の関係について学ぶ。
第9回	コモンウェルスの形成	コモンウェルスの形成過程を学ぶ。
第10回	第二次世界大戦とイギリス帝国	第二次世界大戦期のイギリス帝国について学ぶ。
第11回	帝国＝コモンウェルス体制の変容と脱植民地化	脱植民地化とコモンウェルスの変容について学ぶ。
第12回	帝国のほころび	20世紀後半における帝国の崩壊について学ぶ。
第13回	帝国支配の過去と現在	帝国支配の過去が現在のイギリスと旧植民地にどのような影響を及ぼしているかを学び、授業内容を総括する。
第14回	授業内試験とまとめ	期末試験とまとめ及び解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料についての宿題を課す。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】
川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史―帝国=コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000年
木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と20世紀』（全5巻）ミネルヴァ書房、2004～2009年
小川浩之『英連邦―王冠への忠誠と自由な連合』中央公論新社、2012年

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50％
・期末試験：50％

【学生の意見等からの気づき】
引き続き学生の知的関心を喚起するような授業を心がけていきます。

【Outline (in English)】
< Course outline >
This course explores the history of the British empire in the 20th century. It analyzes the empire's structures, decline, and continued impact on the contemporary world.
< Learning objectives >
1) Students are able acquire basic knowledge about modern and contemporary British imperial history.
2) Students are able to acquire critical views of various global issues in reference to the history of the British empire.
< Learning activities outside of classroom >
Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.
< Grading policy >
Class participation and assignments 50%, Final examination 50%

LANj300LA（日本語 / Japanese language education 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

副島　健作

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火1**/Tue.1
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の様子を知り，全体を概観する。
・日本語を外国語として教える「日本語教育」について基礎的な知識を幅広く身につけ，何をどう教えるかを考える。
・自分自身が身につけている言語観，教育観，学習スタイルをふりかえり，時代のニーズにあわせて変化してきた日本語教育の現状を踏まえて，よりよい教育方法について考察する。

【到達目標】
(1)日本語教育とはどのような分野であるのか理解し，具体的にイメージできる。
(2)日本語や日本社会を日本語教育の視点で，客観的に捉えることができる。
(3)日本語教育の意義，社会における役割について理解し，自分のことばで説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
グループやペアでの協働的な活動が多く設定されている。活動に積極的に参加し，クラスメイトと共に主体的に学ぶことが期待される。
　課題等に対するフィードバックは授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本語教育の特色	社会における日本語教育の意義・役割について考える。
第2回	日本語教育を取り巻く社会情勢	世界の日本語教育事情と日本の留学生政策について概観する。
第3回	母語の学習と外国語学習	第二言語習得と第一言語習得の違いについて理解する。
第4回	日本語の音の特徴とその指導	音声学と音韻論について概観し，日本語の音の特徴について理解する。
第5回	日本語の文字・語彙とその指導	文字・語彙論について概観し，日本語の音の特徴について理解する。
第6回	動詞の活用と初級文型	日本語の動詞の活用の説明について，国語文法と日本語教育でどう違うかを理解する。
第7回	初級の文型の導入とドリル	初修学習者に日本語を教える場合，どんな文型をどんな順序で教えるかを考える。
第8回	シラバスとコースデザイン	シラバスの種類を知るとともに，コースがどうやってデザインされるかを理解する。
第9回	教授法について	どんな教授法があるかや，歴史的変遷や理論，特色ある指導法などについて学ぶ。
第10回	教室活動と授業計画の立て方	現場でどのような教室活動が行われているか，また，1つ1つの授業がどのように計画されるのかを学ぶ。
第11回	各国の日本語教育についての発表-東アジア・東南アジア	東アジア・東南アジアの国・地域の日本語教育事情を受講生が調べて発表する。
第12回	各国の日本語教育についての発表-オセアニア・南米	オセアニア・南米の国々の日本語教育事情を受講生が調べて発表する。
第13回	各国の日本語教育についての発表-ヨーロッパ・アメリカ	ヨーロッパ・アメリカの国々の日本語教育事情を受講生が調べて発表する。
第14回	討論・議論（授業内での期末試験実施の可能性あり）	これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
設定されたテーマに関して，自分なりの意見が披歴できるように普段から情報収集等を行うこと。
　本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】
田中望(1988)『日本語教育の方法―コース・デザインの実際―』大修館書店
縫部義憲（1991）『日本語教育学入門』創拓社
石田敏子(1998)『日本語教授法』大修館書店
高見澤孟(2004)『新・はじめての日本語教育２・日本語教授法入門』アスク
川口義一・横溝紳一郎（2005）『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】
期末試験（40％）
発表のパフォーマンス（25％）
受講態度 (議論への積極的参加など)（20％）
課題提出（15％）
・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】
日頃から日本語教育や国際理解等に関わる機会があれば，積極的に参加することが望ましい（具体的な学習者や教育現場をイメージすることで，授業内容がより深く理解でき，更なる問題意識が醸成されます）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course provides an overview of the field of Japanese language teaching, based on a variety of materials and specific situations in the field. In other words, it introduces a wide range of basic knowledge about teaching Japanese as foreign language, and what and how it is taught, to students taking course.

It also provides an opportunity for students to reflect on their own views of language, education, and learning styles, and to consider better teaching methods based on the current state of Japanese language education, which has changed in response to the needs of the times.
【Learning Objectives】
After completing this course, students will be able to:
(1) understand what kind of field Japanese language education is and to be able to visualize it concretely.
(2) see Japanese language and Japanese society objectively from the perspective of Japanese language education.
(3) understand the significance of Japanese language teaching and its role in society, and explain it in one's own words.
【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to gather information on a regular basis so that they can express their own opinions on a given theme.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Final examination (40%)
Presentation performance (25%)
Attitude (active participation in discussions, etc.) (20%)
Submission of assignments (15%)
Based on this grading system, students who have achieved at least 60%of the course objectives will be considered to have passed the course.

LANj300LA（日本語 / Japanese language education 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

副島　健作

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火1**/Tue.1
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の様子を知り，全体を概観する。
・日本語を外国語として教える「日本語教育」について基礎的な知識を幅広く身につけ，何をどう教えるかを考える。
・学習者主体の授業とはどういうものかを検討し，時代のニーズにあわせて変化してきた日本語教育の現状を踏まえて，具体的に日本語の教材作成や授業実践について考える。

【到達目標】
(1)外国語としての日本語を教えるにはどのような教室運営がなされ，そこではどのような教材が望ましいかを理解できる。
(2)学習者に合ったカリキュラム設定を行い，具体的な授業計画を立て，教材選定，教材作成ができる。
(3)日本語の授業で，文法の導入・説明を適切に行い，定着を図るタスクを効果的にできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
グループやペアでの協働的な活動が多く設定されている。活動に積極的に参加し，クラスメイトと共に主体的に学ぶことが期待される。
　課題等に対するフィードバックは授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本語教育の歴史	日本語教育の歴史について概観する。
第2回	学習者中心の指導法	学習者中心の指導法とはどういうものかについて考える。
第3回	教材・教具	日本語を教える際に使用される教材や教具の特徴について理解する。
第4回	直接法による教え方	日本語を日本で直接教える方法とはどういうものか理解する。
第5回	タスク中心の指導法	実際に教える時に使われるタスクにはどのようなものがあるか概観するとともに，タスク中心の指導法について理解する。
第6回	初級と中・上級	学習者のレベルによって教え方がどう違うかを考える。
第7回	作文指導	作文，ライティング能力の向上のためにどんな指導法があるかをみて，効果的な方法を考える。
第8回	読解指導	読解力向上のためのどんな指導法があるかをみて，効果的な方法を考える。
第9回	会話の指導	会話やスピーチ能力の向上のためのどんな指導法があるかをみて，効果的な方法を考える。
第10回	スピーチの指導	コミュニケーションの4つの要素について考え，授業内での活動を実際のコミュニケーションにできるだけ近づける工夫をする。
第11回	視聴覚教材の使い方	視聴覚教材の効果的な使い方について考える。
第12回	教材作成の実践	教材の自作方法の基本を知り，受講生自ら教材を作成してみる。
第13回	作成教材を用いた模擬授業	受講生が自ら作成した教材を使って，実際に日本語を教えてみる。
第14回	討論・議論（授業内での期末試験実施の可能性あり）	これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
設定されたテーマに関して，自分なりの意見が披歴できるように普段から情報収集等を行うこと。
　本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】
田中望(1988)『日本語教育の方法―コース・デザインの実際―』大修館書店
縫部義憲（1991）『日本語教育学入門』創拓社
石田敏子(1998)『日本語教授法』大修館書店
高見澤孟(2004)『新・はじめての日本語教育２・日本語教授法入門』アスク
川口義一・横溝紳一郎（2005）『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】
期末試験（40％）
発表のパフォーマンス（25％）
受講態度 (議論への積極的参加など)（20％）
課題提出（15％）
・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
日頃から日本語教育や国際理解等に関わる機会があれば，積極的に参加することが望ましい（具体的な学習者や教育現場をイメージすることで，授業内容がより深く理解でき，更なる問題意識が醸成されます）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course provides an overview of the field of Japanese language teaching, based on a variety of materials and specific situations in the field. In other words, it introduces a wide range of basic knowledge about teaching Japanese as foreign language, and what and how it is taught, to students taking course.

It also provides an opportunity for students to examine what learner-centered classrooms are, and to consider the creation of Japanese language teaching materials and class practices based on the current state of Japanese language education, which has been changing in accordance with the needs of the times.
【Learning Objectives】
(1) understand what kind of classroom management and what kind of teaching materials are desirable for teaching Japanese as a foreign language.
(2) set up a curriculum suited to the learners, make concrete lesson plans, select teaching materials, and create teaching materials.
(3) to introduce and explain grammar appropriately in Japanese classes and effectively perform tasks to ensure retention.

【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to gather information on a regular basis so that they can express their own opinions on a given theme.
　The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Final examination (40%)
Presentation performance (25%)
Attitude (active participation in discussions, etc.) (20%)
Submission of assignments (15%)
Based on this grading system, students who have achieved at least 60%of the course objectives will be considered to have passed the course.

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

徳と倫理A

2017年度以降入学者

内山　真莉子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**5/Fri.5
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倫理学とは、人が〈善く生きる〉とはどのようなことかを探求する学問である。本授業は、西洋における倫理思想の流れを概観することで、倫理学の議論への手引きとなることを目的とする。着目するキーワードとして、「徳」と「善」を設定する。
西洋における倫理思想と一口に言っても、そのトピックは様々にある。春学期はその中でも古代・中世に焦点を当て、どのようなことが論点として扱われてきたのかを見ていく。そこで得た知見をもとに、自分自身の問題意識を深めていくことも目標とする。

【到達目標】
・古代・中世における倫理思想の主要な論点について理解を深める。
・倫理学の論点について考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
・様々な倫理思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と導入	倫理学とは
第2回	ソクラテスとプラトン①	徳と知
第3回	ソクラテスとプラトン②	善とイデア
第4回	アリストテレス①	徳と善と幸福
第5回	アリストテレス②	善と社会
第6回	エピクロス	快と幸福
第7回	ストア派	自然本性と懐疑
第8回	アウグスティヌス①	善く生きること
第9回	アウグスティヌス②	罪と自由
第10回	トマス・アクィナス①	徳と神と愛
第11回	トマス・アクィナス②	善と幸福
第12回	救済論	徳と死生観
第13回	スコトゥス／オッカム	理性と信仰
第14回	倫理学的考察の実践	授業内試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。
本授業の準備学習・復習は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布する。

【参考書】
『倫理学入門』品川哲彦著、中公新書、2020年。
『西洋哲学史〔古代・中世編〕』内山勝利・中川純男編、ミネルヴァ書房、1996年。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標に即して、以下の２項目にて評価する。
①授業最終回の論述試験：60％
②リアクションペーパーの内容：40％

【学生の意見等からの気づき】
板書での補足が多々あるので、見やすくなるよう心がけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Ethics is the study of how to live a good life. The goal of this course is to offer a roadmap for conversations about ethics by presenting an overview of the development of ethical ideas in the Western world. The key concepts to focus on are "virtue" and "goodness."
【Learning Objectives】
This course aims to deepen your understanding of ethical thought in ancient and medieval times, practice consideration of ethical issues, and enhance self-awareness by exploring various ethical ideas.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.
You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%,　Reaction papers: 40%

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

徳と倫理Ｂ

2017年度以降入学者

内山　真莉子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**5/Fri.5
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倫理学とは、人が〈善く生きる〉とはどのようなことかを探求する学問である。本授業は、西洋における倫理思想の流れを概観することで、倫理学の議論への手引きとなることを目的とする。着目するキーワードとして、「徳」と「善」を設定する。
西洋における倫理思想と一口に言っても、そのトピックは様々にある。秋学期はその中でも近世～現代に焦点を当て、どのようなことが論点として扱われてきたのかを見ていくのだが、とりわけ「徳倫理学」について重点的に扱う。そこで得た知見をもとに、自分自身の問題意識を深めていくことも目標とする。

【到達目標】
・近世～現代における倫理思想の主要な論点について理解を深める。
・倫理学の論点について考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
・様々な倫理思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と導入	徳倫理学とは
第2回	ルターと信仰	自由意志と奴隷的意志
第3回	ヒュームと徳	人間本性と道徳原理
第4回	義務倫理	カントの自律
第5回	功利主義	幸福と利益
第6回	ムーアとメタ倫理学	自然主義的誤謬
第7回	エイヤーと倫理的判断	情緒主義
第8回	アンスコムと徳①	道徳哲学の有益性について
第9回	アンスコムと徳②	行為と意図
第10回	マッキンタイアと徳	倫理思想の歴史
第11回	ロールズと正義	善と正
第12回	共同体主義と徳	個人は共同体に先立つか
第13回	現代の徳倫理学	アリストテレスへの回帰
第14回	倫理学的考察の実践	授業内試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。
本授業の準備学習・復習は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布する。

【参考書】
『倫理学入門』品川哲彦著、中公新書、2020年。
ダニエル・C・ラッセル編『ケンブリッジ・コンパニオン 徳倫理学』立花幸司監訳、春秋社、2015年。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標に即して、以下の２項目にて評価する。
①授業最終回の論述試験：60％
②リアクションペーパーの内容：40％

【学生の意見等からの気づき】
板書での補足が多々あるので、見やすくなるよう心がけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Ethics is the study of how to live a good life. The goal of this course is to offer a roadmap for conversations about ethics by presenting an overview of the development of ethical ideas in the Western world. The key concept to focus on is virtue ethics.
【Learning Objectives】
This course aims to deepen your understanding of ethical thought from early modern to modern times, practice consideration of ethical issues, and enhance self-awareness by exploring various ethical ideas.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.
You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%, Reaction papers: 40%

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

人間存在論 A

2017年度以降入学者

森村　修

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業の概要】
本科目「人間存在論A」〔哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）A」では、いわゆる「現代思想」や「ポストモダン思想」（欧米では一般的に「ポスト構造主義」と呼ばれる）哲学思想の流れを歴史的に辿りながら、主要な哲学について検討する。
第二次世界大戦後から、1960年代の「政治の季節」と呼ばれる時期を挟んで、21世紀の現在に至るまでの欧米中心の西洋の哲学思想を歴史的に辿りながら、重要な哲学的なテーマを中心にして考察する。
おもに、フーコー・ドゥルーズ・デリダという「フランス現代思想」を代表する3人の哲学思想とその意義を、現代を生きる我々の視点から再考することを目的とする。その際に、彼らの哲学思想がどのように今日の哲学思想に影響をもたらしているかを、「同一性（アイデンティティ）と差異」、「マジョリティとマイノリティ」などをキー・ワードとして検討する。また、彼らの哲学を批判的に乗り越えていこうとする哲学者・思想家（ジュディス・バトラー、スラヴォイ・ジジェク、カトリーヌ・マラブーら）を視野に入れつつ、21世紀に生きる私たちの生存／実存（existence）を哲学的・倫理学的に考察する。

【到達目標】
①現代思想（モダニズムからポストモダニズム、構造主義からポスト構造主義）の歴史的概略について考察できるようになる。
②現代思想が抱えている哲学的・倫理学的問題を哲学的に考えることができる。
③哲学テキストの読解力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・基本的には、講義形式で行う。ただし、哲学的なテーマについて、受講生との討議・議論を積極的に行なっていく。
・人数がそれほど多くない（30名定員）ことから、受講生それぞれに主要な哲学者の哲学テキストを抜粋して配布し、それを読んでもらい、テキストについての簡単な小レポート（あるいはレジュメ）を書いてもらう。授業では、各自のレポートを利用して議論することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・選抜試験 ・受講上の注意点 ・授業の概要説明
2	構造主義とポスト構造主義①	第一章　構造主義を振り返る① 1.サルトルと実存主義
3	構造主義とポスト構造主義②	第一章　構造主義を振り返る② 2.レヴィ=ストロースと構造主義の登場
4	構造主義とポスト構造主義③	第一章　構造主義を振り返る③ 3.ジャック・ラカンと精神分析
5	構造主義とポスト構造主義④	第一章　構造主義を振り返る④ 4.ルイ・アルチュセールとマルクス主義哲学
6	構造主義とポスト構造主義⑤	第二章　構造主義からポスト構造主義へ① 1.「ポスト構造主義」の誕生
7	構造主義とポスト構造主義⑥	第二章　構造主義からポスト構造主義へ② 2.ロラン・バルト――現代の神話とテクスト理論
8	構造主義とポスト構造主義⑦	第二章　構造主義からポスト構造主義へ③ 3.フーコーと「知の考古学」
9	構造主義とポスト構造主義⑧	第二章　構造主義からポスト構造主義へ④ 4.フーコーの権力論
10	構造主義とポスト構造主義⑨	第二章　構造主義からポスト構造主義へ⑤ 5.デリダの脱構築論
11	構造主義とポスト構造主義⑩	第二章　構造主義からポスト構造主義へ⑥ 6.デリダの「倫理的転回」
12	構造主義とポスト構造主義⑪	第二章　構造主義からポスト構造主義へ⑦ 7.ドゥルーズの「差異の哲学」
13	構造主義とポスト構造主義⑫	第二章　構造主義からポスト構造主義へ⑧ 8.ドゥルーズの生成の哲学
14	ポスト構造主義とは何だったのか？	まとめと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）としては使わないが、授業に際して主に参照する書籍
① 渡名喜庸哲『現代フランス哲学』ちくま新書1749、2023年
② 岡本裕一朗『フランス現代思想史――構造主義からデリダ以後へ』中公新書2300、2015年
③ 伊東直『戦後フランス思想――サルトル、カミュからバタイユまで』中公新書2799、2024年

【参考書】
①船木亨『現代思想史入門』ちくま新書1183、2016年
②船木亨『現代思想講義――人間の終焉と近未来社会のゆくえ』ちくま新書1334、2018年
③川口茂雄・越門勝彦・三宅岳史編『現代フランス哲学入門』ミネルヴァ書房、2020年
④鹿島徹・川口茂雄・佐藤慶太・渡辺和典編『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房、2024年（これは、あくまで参考書）

【成績評価の方法と基準】
（1）平常点（リアクションペーパー／小テスト）（30％）（質問を3点以上用意する）
（2）期末レポート（70％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・秋学期科目「人間存在論B」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）B）」と内容的に連続しているので、両方を受講することが望ましい。
・また**「受講上の注意」**として、**秋学期科目「人間存在論B」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）B」については、選抜試験で「人間存在論A」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）A」の受講許可のある学生のみが登録・履修できる**ことに注意してもらいたい

【受講上の注意】
・本授業は、**定員（30名）**が決められている。**初回の授業で、受講予定者が多い場合、選抜試験を実施し、合格者のみが受講登録できる。**
・初回の試験を未受験の人は、受講できないので注意してほしい。

【Outline (in English)】
【Course Outline】

In this course "Human Ontology A" [Specialized Course in the Department of Philosophy, "Anthropology 5 (Human Ontology) A"] we will discuss major philosophers, tracing historically what is called "modern thought" or "postmodern thought" (commonly called "poststructuralism" in the West).

Specifically, Western philosophical thought will be traced historically from the post-World War II period through the "political season" of the 1960s to the present in the 21st century.

【Course Objectives】

Primarily, we aim to rethink the philosophical thought of Foucault, Deleuze, and Derrida, the three leading figures of "contemporary French thought," and their significance from our contemporary perspective. We will examine how their philosophical thought has influenced contemporary philosophical thought, using "identity and difference" and "majority and minority" as keywords.

We will also look at philosophers and thinkers (Judith Butler, Slavoj Ž i ž ek, Catherine Marabou, etc.) who are trying to critically transcend their philosophies and examine our existence in the 21st century from a philosophical and ethical perspective.

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

人間存在論Ｂ

2017年度以降入学者

森村　修

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水4**/Wed.4
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業の概要】
本科目「人間存在論Ｂ」〔哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）Ｂ」は、春学期科目「人間存在論Ａ」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）Ａ」との連続性がある科目である。「人間存在論Ａ」と同様に、いわゆる**「現代思想」や「ポストモダン思想」（欧米では一般的に「ポスト構造主義」と呼ばれる）哲学思想の流れを歴史的に辿りながら、主要な哲学について検討する。**

第二次世界大戦後から、1960年代の「政治の季節」と呼ばれる時期を挟んで、21世紀の現在に至るまでの欧米中心の西洋の哲学思想を歴史的に辿りながら、重要な哲学的なテーマを中心にして考察する。

おもに、フーコー・ドゥルーズ・デリダという「フランス現代思想」を代表する3人の哲学思想とその意義を、現代を生きる我々の視点から再考することを目的とする。その際に、彼らの哲学思想がどのように今日の哲学思想に影響をもたらしているかを、「同一性（アイデンティティ）と差異」、「マジョリティとマイノリティ」などをキー・ワードとして検討する。また、彼らの哲学を批判的に乗り越えていこうとする哲学者・思想家（ジュディス・バトラー、スラヴォイ・ジジェク、カトリーヌ・マラブーら）を視野に入れつつ、21世紀に生きる私たちの生存／実存（existence）を哲学的・倫理学的に考察する。

【到達目標】
①現代思想（モダニズムからポストモダニズム、構造主義からポスト構造主義）の歴史的概略について考察できるようになる。
②現代思想が抱えている哲学的・倫理学的問題を哲学的に考えることができる。
③哲学テキストの読解力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・基本的には、講義形式と演習形式の双方で行うことを考えている。ただし、哲学的なテーマについて、受講生との討議・議論を積極的に行なっていく。
・人数がそれほど多くない（30名定員）ことから、受講生それぞれに主要な哲学者の哲学テキストを抜粋して配布し、それを読んでもらい、テキストについての簡単な小レポート（あるいはレジュメ）を書いてもらう。授業では、各自のレポートを利用して議論することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・選抜試験 ・受講上の注意点 ・授業の概要説明
2	転換点としての80年代①	第三章　ポストモダン社会か新自由主義社会か① 1.リオタールとポストモダン
3	転換点としての80年代②	第三章　ポストモダン社会か新自由主義社会か② 2.リオタールの哲学
4	転換点としての80年代③	第三章　ポストモダン社会か新自由主義社会か③ 3.ボードリヤールとシミュレーション
5	転換点としての80年代④	第三章　ポストモダン社会か新自由主義社会か④ 4.ボードリヤールの「象徴交換と死」
6	転換点としての80年代⑤	第三章　ポストモダン社会か新自由主義社会か⑤ 5.ドゥルーズ&ガタリの「アンチ・オイディプス」
7	転換点としての80年代⑥	第三章　ポストモダン社会か新自由主義社会か⑥ 6.ドゥルーズ&ガタリの「ミル・プラトー」①
8	転換点としての80年代⑦	第三章　ポストモダン社会か新自由主義社会か⑦ 3.フーコーの生権力論
9	変容する社会①	第四章　ジェンダー／フェミニズム思想① 1.ボーヴォワールとフェミニズム 2.イリガライの性的差異の倫理
10	変容する社会②	第四章　ジェンダー／フェミニズム思想② 3.シクスーとエクリチュール・フェミニン 4.クリステヴァと母性の思想
11	変容する社会③	第四章　ジェンダー／フェミニズム思想③ 5.マラブーと社会的トラウマ 6.プレシアドの自然的な性の批判
12	哲学の最前線？ ①	哲学研究の継承と刷新① 1.メイヤスーと思弁的実在論 2.グレアム・ハーマンのオブジェクト指向存在論
13	哲学の最前線？ ②	哲学研究の継承と刷新② 3.バディウと数学的存在論――60年代の回帰
14	哲学に最先端はあるのか？	まとめと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）としては使わないが、授業に際して主に参照する書籍
① 渡名喜庸哲『現代フランス哲学』ちくま新書1749、2023年
② 岡本裕一朗『フランス現代思想史――構造主義からデリダ以後へ』中公新書2300、2015年
③ 伊東直『戦後フランス思想――サルトル、カミュからバタイユまで』中公新書2799、2024年

【参考書】
①船木亨『現代思想史入門』ちくま新書1183、2016年
②船木亨『現代思想講義――人間の終焉と近未来社会のゆくえ』ちくま新書1334、2018年
③川口茂雄・越門勝彦・三宅岳史編『現代フランス哲学入門』ミネルヴァ書房、2020年
④鹿島徹・川口茂雄・佐藤慶太・渡辺和典編『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房、2024年（これは、あくまで参考書）

【成績評価の方法と基準】
（1）平常点（リアクションペーパー／小テスト）（30％）（質問を3点以上用意する）
（2）期末レポート（70％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・秋学期科目「人間存在論Ａ」（哲学科専門科目「人間学**5**（人間存在論）Ａ）」と内容的に連続しているので、両方を受講することが望ましい。
・また「**受講上の注意**」として、**春学期科目「人間存在論Ａ」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）Ａ」を受講・登録していない学生で、春学期最初の授業で選抜試験を受けておらず、授業担当者から受講許可がない場合は、当該科目「人間存在論Ｂ」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）Ｂ」の受講登録・履修できない**ので、注意してもらいたい。

【受講上の注意】
・本授業は、**定員（30名）**が決められている。**「人間存在論Ａ」の初回の授業で、選抜試験を合格し、授業担当者から受講許可がある学生のみが受講登録できる。**
・春学期「人間存在論Ａ」の試験を未受験の人は、受講登録できないので注意してほしい。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
In this course "Human Ontology B" [Specialized Course in the Department of Philosophy, "Anthropology 5 (Human Ontology) B"] we will discuss major philosophers, tracing historically what is called "modern thought" or "postmodern thought" (commonly called "poststructuralism" in the West).

Specifically, Western philosophical thought will be traced historically from the post-World War II period through the "political season" of the 1960s to the present in the 21st century.
【Course Objectives】
Primarily, we aim to rethink the philosophical thought of Foucault, Deleuze, and Derrida, the three leading figures of "contemporary French thought," and their significance from our contemporary perspective. We will examine how their philosophical thought has influenced contemporary philosophical thought, using "identity and difference" and "majority and minority" as keywords.
We will also look at philosophers and thinkers (Judith Butler, Slavoj Ž i ž ek, Catherine Marabou, etc.) who are trying to critically transcend their philosophies and examine our existence in the 21st century from a philosophical and ethical perspective.

LAW300LA（法学 / law 300）

法哲学A

2017年度以降入学者

内藤　淳

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水2**/Wed.2
単位数：**2単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「正しい法とはどういうものか」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。
主要理論の解説や具体的な事例・問題の分析を通じて法哲学の基礎知識を学ぶと共に、法哲学的な観点に即した問題分析力・思考力を身に付けることが授業の目的である。
秋学期開講の「法哲学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学B」も続けて履修すること。履修人数は20人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】
①法哲学の基礎理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
②現代社会の具体的課題・問題に対して、法哲学的な視点に立って根源的な分析検討ができるようになる。
③上記①②を踏まえて、社会的な問題に関して自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
テキストと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。
授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第2回	法哲学を学ぶにあたって	法哲学とはどういう学問か、その特徴は何か
第3回	格差問題のポイント	現代日本の格差の概況とその論点について
第4回	法哲学の基本的視点（1）	自由主義と平等主義の関係について
第5回	法哲学の基本的視点（2）	格差問題に関する法哲学的考察について
第6回	ドーピングは禁止すべきか？（1）	ドーピングをめぐる現状について
第7回	ドーピングは禁止すべきか？（2）	ドーピングを禁止する根拠の検討について
第8回	ドーピングは禁止すべきか？（3）	ドーピングと個人の自由について
第9回	ドーピングは禁止すべきか？（4）	卓越主義と中立性原理について
第10回	臓器売買は許されるべきか？（1）	臓器売買規制の現状について
第11回	臓器売買は許されるべきか？（2）	臓器売買反対論の検討について
第12回	臓器売買は許されるべきか？（3）	臓器売買容認論について
第13回	臓器売買は許されるべきか？（4）	自分の身体に対する所有権について
第14回	臓器売買は許されるべきか？（5）	自己所有権の限界について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションを行ったりコメント提出を求めたりするので、受講者は、あらかじめテキストの該当箇所や関連する文献を読んで授業に臨むこと。また、各回の授業後には、配布資料を踏まえて講義内容を見直し、紹介された参考文献などを適宜読んで、そこで扱った問題や課題についての自分の意見をまとめておく。

【テキスト（教科書）】
瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年、2500円＋税）

【参考書】
深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）
竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）
瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）
宇佐美誠・児玉聡：井上彰・松本雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』（法律文化社、2019年）
森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）
森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016年）
マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業の中で課す小論文（レポート）の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文：80％、コメント等：20％の予定。

【学生の意見等からの気づき】
受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】
履修人数は20人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。
秋学期開講の「法哲学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学B」も続けて履修すること。（春学期の「法哲学A」受講者には、秋学期の「法哲学B」の履修を優先的に認める。）あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course deals with an explanation of the basic theories and issues in the philosophy of law.
（Learning Objectives）
The goals of this course are is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, studenats are expected to understand some basic theories of philosophy of law and to form their own opinions on social issues by the perspective of philosophy of law.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%)
and submitted comments in class (20%).

LAW300LA（法学 / law 300）

法哲学B

2017年度以降入学者

内藤　淳

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水2**/Wed.2
単位数：**2単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「正しい法とはどういうものか」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。
主要理論の解説や具体的な事例・問題の分析を通じて法哲学の基礎知識を学ぶと共に、法哲学的な観点に即した問題分析力・思考力を身に付けることが授業の目的である。
春学期開講の「法哲学A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学A」とあわせて履修すること。履修人数は20人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】
①法哲学の基礎理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
②現代社会の具体的課題・問題に対して、法哲学的な視点に立って根源的な分析検討ができるようになる。
③上記①②を踏まえて、社会的な問題に関して自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
テキストと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。
授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第2回	裁判員制度は廃止すべきか？（1）	裁判員制度の現状について
第3回	裁判員制度は廃止すべきか？（2）	裁判員制度への批判について
第4回	裁判員制度は廃止すべきか？（3）	裁判員の負担について
第5回	裁判員制度は廃止すべきか？（4）	刑事裁判の量刑の公平性について
第6回	裁判員制度は廃止すべきか？（5）	裁判員制度と死刑の関係について
第7回	裁判員制度は廃止すべきか？（6）	裁判員制度の正当化根拠について
第8回	児童手当は独身者差別か？（1）	子育て支援の現状について
第9回	児童手当は独身者差別か？（2）	児童手当の法哲学的問題点について
第10回	児童手当は独身者差別か？（3）	子育て支援制度の根拠について
第11回	児童手当は独身者差別か？（4）	ロールズの正義論について
第12回	児童手当は独身者差別か？（5）	ロールズの正義論の問題点について
第13回	児童手当は独身者差別か？（6）	リベラリズムとリバタリアニズムと功利主義の対比について
第14回	論点の総括	課題・提出物についての全体的フォローアップ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションを行ったりコメント提出を求めたりするので、受講者は、あらかじめテキストの該当箇所や関連する文献を読んで授業に臨むこと。また、各回の授業後には、配布資料を踏まえて講義内容を見直し、紹介された参考文献などを適宜読んで、そこで扱った問題や課題についての自分の意見をまとめておく。

【テキスト（教科書）】
瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年、2500円＋税）

【参考書】
深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）
竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）
瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）
宇佐美誠・児玉聡：井上彰・松本雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』（法律文化社、2019年）
森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）
森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016年）
マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業の中で課す小論文（レポート）の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文：80％、コメント等：20％の予定。

【学生の意見等からの気づき】
受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】
履修人数は20人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。
春学期開講の「法哲学A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学A」をあわせて履修すること。（履修者の選抜・決定にあたっては、春学期の「法哲学A」を受講済みの学生を優先する。）
あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course deals with an explanation of the basic theories and issues in the philosophy of law.
（Learning Objectives）
The goals of this course are is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, studenats are expected to understand some basic theories of philosophy of law and to form their own opinions on social issues by the perspective of philosophy of law.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%)
and submitted comments in class (20%).

POL300LA（政治学 / Politics 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

坂根　徹

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火5**/Tue.5
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本教養ゼミⅠ（囲碁で培う戦略的思考）では、囲碁のルールや基本的戦略及び歴史等を学び、対局の流れを理解する。そして、このように囲碁を学ぶことを通して、考える力、特に戦略的な思考力を身に着けることを目的とする。また、プレゼンテーション能力の養成も期待される。

【到達目標】
囲碁のルールや基本的戦略及び歴史等を理解し、初学者用の碁盤での対局ができるようになることや、それらを通して、戦略的な思考力を身に着けること、及び、囲碁の歴史や現在の囲碁事情を理解することや、それらの学習成果を確認し学期末に行う各自の関心に基づく関係の発表が実施できることなどが到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
ガイダンスで本ゼミの説明（及び教養ゼミⅠの履修がない秋学期からの新規履修希望者多数の場合は選考又はその準備など）を実施した後、受講者を確定させる。その後囲碁の基本ルールを学び、初学者用の碁盤での対局の流れと基本的戦略（初歩的技術）等を学ぶ。最後に、それらの学習成果を基に学期末に行う各自の関心に基づく発表を実施する。なお、発表に対しては授業内で検討・議論・講評等を行う。
以下の計画は、実際のゼミの進度や履修者数をはじめとした諸状況により修正・変更されることがありえる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本ゼミの説明（及び新規履修希望者多数の場合は選考又はその準備）
第2回	囲碁の歴史	囲碁の歴史についての概説
第3回	テキストの概説と効果的な時間外学習方法の紹介	テキストの概要の説明と効果的な時間外学習方法の紹介
第4回	囲碁の基本ルールと6路盤による学習の基本1	囲碁の基本ルールの解説と6路盤による学習の基本についての解説の開始
第5回	6路盤による学習の基本2	6路盤による学習の基本についての解説の継続
第6回	6路盤による学習・実践等	6路盤による学習・実践等
第7回	9路盤による学習の基本	9路盤による学習の基本についての解説
第8回	9路盤による学習・実践等1	9路盤による学習・実践の開始
第9回	9路盤による学習・実践等2	9路盤による学習・実践の継続
第10回	9路盤による学習・実践等3	9路盤による学習・実践の継続とまとめ
第11回	期末プレゼンテーションに向けた検討	9路盤による学習・実践等を踏まえた期末プレゼンテーションに向けた進捗状況や課題の検討
第12回	期末プレゼンテーション1	期末プレゼンテーションの開始
第13回	期末プレゼンテーション2	期末プレゼンテーションの継続
第14回	期末プレゼンテーション3	期末プレゼンテーションの継続とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
出された課題の準備・実施や教科書などによる学習をはじめとした時間外の学習が求められる。本演習の準備・復習に要する時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
石倉昇,梅沢由香里,黒瀧正憲,兵頭俊夫『東大教養囲碁講座―ゼロからわかりやすく』光文社, 2007年.

【参考書】
日本棋院『実践囲碁総合演習―入門その後に完全対応』日本棋院, 2014年.
藁科満治『囲碁文化の魅力と効用』日本評論社, 2008年.

【成績評価の方法と基準】
授業での学習状況や参加度などの平常点（60%）と期末プレゼンテーション（40%）.

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
囲碁を学んだことがない又は学び始めて間もないなどの初学者が対象になる。履修を検討する者は、初回のガイダンスに必ず出席して説明を受け、履修希望の是非を決める。
本科目の定員は20名である。履修希望者多数の場合は、初回のガイダンスを含めて選考が実施され、第2回目までに履修者が確定される。本科目の履修登録は、履修者として確定してから実施されたい。

【Outline (in English)】
Main theme of this course is to learn the rules and basic strategies of Igo. By taking this course, students are expected to acquire strategic thinking. In addition, students are also expected to nourish presentation skills.
In average, your study time outside of each class will be about 4 hours.
Grading will be decided based on in-class performance and contribution (60%) and final presentations (40%).

POL300LA（政治学 / Politics 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

坂根　徹

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火5**/Tue.5
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本教養ゼミⅡ（囲碁で培う戦略的思考）では、春学期の教養ゼミⅠに続き、19路盤で学習・実践していくこと等を通して、布石を含めて春学期よりも発展的な囲碁の基本的戦略等への理解を深めていく。そして、このように囲碁を学ぶことを通して、考える力、特に戦略的な思考力を更に身に着けることを目的とする。また、プレゼンテーション能力の養成も期待される。

【到達目標】
理解した囲碁のルールを用いて先学期よりも発展した学習・実践を通して、戦略的な思考力を身に着けることや、それらの学習成果を確認し学期末に行う各自の関心に基づく関係の発表が実施できることなどが到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
ガイダンスで本ゼミの説明（及び希望者多数の場合は選考又はその準備など）を実施した後、受講者を確定させる。その後19路盤による対局の流れと基本的及び発展的戦略等を学ぶ。最後に、それらの学習成果を基に学期末に行う各自の関心に基づく発表を実施する。なお、発表に対しては授業内で検討・議論・講評等を行う。
以下の計画は、実際のゼミの進度や履修者数をはじめとした諸状況により修正・変更されることがありえる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本ゼミの説明（及び希望者多数の場合は選考又はその準備）
第2回	19路盤による学習の基礎的解説	19路盤による学習の基礎的学習の解説
第3回	19路盤による基礎的学習・実践等	19路盤による基礎的学習・実践
第4回	19路盤による学習の解説	基礎的学習・実践等を踏まえた19路盤による学習の解説
第5回	19路盤による学習・実践等１	19路盤による学習の解説を踏まえた19路盤による学習・実践の開始
第6回	19路盤による学習・実践等２	19路盤による学習の解説を踏まえた19路盤による学習・実践の継続
第7回	19路盤による学習の発展的解説	19路盤による学習の発展的解説
第8回	19路盤による発展的学習・実践等１	19路盤による発展的学習・実践の開始
第9回	19路盤による発展的学習・実践等２	19路盤による発展的学習・実践の継続
第10回	期末プレゼンテーションに向けた検討	19路盤による学習・実践等を踏まえた期末プレゼンテーションに向けた進捗状況や課題の検討
第11回	19路盤による発展的学習・実践等３	19路盤による発展的学習・実践の継続とまとめ
第12回	期末プレゼンテーション１	期末プレゼンテーションの開始
第13回	期末プレゼンテーション２	期末プレゼンテーションの継続
第14回	期末プレゼンテーション３	期末プレゼンテーションの継続とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
出された課題の準備・実施や教科書などによる学習をはじめとした時間外の学習が求められる。本演習の準備・復習に要する時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
石倉昇,梅沢由香里,黒瀧正憲,兵頭俊夫『東大教養囲碁講座―ゼロからわかりやすく』光文社, 2007年.

【参考書】
日本棋院『実践囲碁総合演習―入門その後に完全対応』日本棋院, 2014年.
藁科満治『囲碁文化の魅力と効用』日本評論社, 2008年.

【成績評価の方法と基準】
授業での学習状況や参加度などの平常点（60%）と期末プレゼンテーション（40%）.

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
原則として、春学期に実施された本科目のⅠを履修した学生による継続履修が想定されている。Ⅰを履修していない学生の場合、囲碁の基本的なルールを理解し、19路盤での学習ができる、囲碁の初学者に限り、定員の20名に余裕があれば、これを受け入れることはありうる。

【Outline (in English)】
Main theme of this course is to learn advanced basic strategies of Igo based on study during spring semester. By taking this course, students are expected to acquire strategic thinking. In addition, students are also expected to nourish presentation skills.
In average, your study time outside of each class will be about 4 hours.
Grading will be decided based on in-class performance and contribution (60%) and final presentations (40%).

HUG300LA（人文地理学 / Human geography 300）

人文地理学セミナーA

2017年度以降入学者

増淵　敏之

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月3**/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来的にいえば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンが文化コンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るというものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方もできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

【到達目標】
到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特に文化コンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、日本化現象、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。
The goal is for students to gain the ability to analyze and evaluate each case. In particular, we would like students to strive to understand cultural content works, the potential for local content creation, the Japanification phenomenon, and the policy framework of Cool Japan, as well as to acquire a wide range of knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
観光文脈での文化コンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々存在することから、適宜の議論を交えていく。また文化コンテンツ作品そのものの紹介も行っていきたい。状況によっては授業内容の変更もあり得る。
We will consider the utility of cultural content in the context of tourism. The class will proceed by defining content tourism, examining its history, and introducing recent examples. As it can be said to be a new approach to regional development, it naturally comes with a variety of challenges, which will be discussed appropriately. We also plan to introduce the cultural content works themselves. The content of the class may change depending on the situation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/Guidance.	ガイダンス/Guidance.
第2回	コンテンツツーリズムの歴史/The history of content tourism.	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯/The history of content tourism.
第3回	大河ドラマによる聖地巡礼/Pilgrimage to sacred sites through historical dramas	大河ドラマの観光的側面/Tourism aspects of taiga dramas.
第4回	司馬遼太郎と藤沢周平/RyotaroShiba and ShoheiFujisawa.	時代小説を巡る/Exploring historical novels
第5回	韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力/the charm of the Korean drama "Winter Sonata.	韓国観光の契機/Opportunity for tourism in Korea.
第6回	「水木しげるロード」ができた理由/Why Mizuki Shigeru Road" was created.	マンガ、アニメによる観光創出/Creating tourism through manga and anime.
第7回	『らき☆すた』現象/The Lucky Star phenomenon.	アニメツーリズムの活発化/The rise of anime tourism.
第8回	テレビドラマの聖地巡礼/「silent」「First love 初恋」/Pilgrimage to the sacred sites of TV dramas: "Silent" and "First Love"	ロケツーリズムの紹介/Introduction to location tourism.
第9回	ご当地ソング考1/Thoughts on local songs①.	JPOPを巡る旅1/A Journey Through JPOP1
第10回	ご当地ソング2考/Thoughts on local songs2	JPOPを巡る旅2/A Journey Through JPOP2
第11回	「ガールズ&パンツアー」と地域振興/"Girls &Pan Tour" and regional development.	大洗町/Oarai Town
第12回	「ラブライブ！ サンシャイン!!」と地域振興/"Love Live! Sunshine!!" and regional development.	沼津市/Numazu City
第13回	スタジオジブリ作品を巡る/Explore Studio Ghibli.	「耳をすませば」「千と千尋の神隠し」など/"Whisper of the Heart" and "Spirited Away"
第14回	新海誠作品を巡る/Exploring Makoto Shinkai's works.	「秒速5センチメートル」「すずめの戸締り」/"Sparrow's Door Lock" from "5 Centimeters per Second"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。ただし状況によっては授業の内容の変更もある。
Please review the class. The standard time for preparation and review is 2 hours each. However, the content of the class may change depending on the situation.

【テキスト（教科書）】
レジュメを中心に授業を進める。
The class will focus on the resume.

【参考書】
「物語を旅するひとびと」増淵敏之,彩流社
「物語を旅するひとびと2」増淵敏之,彩流社
"People Traveling Through Stories" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha
"People Traveling Through Stories 2" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha.

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、レポート70％
30%for regular classes, 70%for reports

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。
There will also be presentations by students focusing on specific case studies.

【学生が準備すべき機器他】
映像を使用することもある。
Sometimes video is used.

【その他の重要事項】
基本的には対面で実施、オフィスアワー：月16－18時。
Classes are generally conducted face-to-face, office hours are 4-6pm Mondays.

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞＜研究テーマ＞＜主要研究業績＞

【文化地理学】
・『路地裏が文化を生む!: 細街路とその界隈の変容』青弓社

【観光地理学】
・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと―コンテンツツーリズムとは何か？』彩流社

【地域振興】
・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生　観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】
・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】
Content tourism has been attracting attention recently. Traditionally, this would be called a "pilgrimage to sacred places," where fans become interested in cultural content works and travel to the locations where they are set. Explained in this way, it may not seem like anything new, but what is important is that content tourism today is not just a tourist context, but is linked to the regeneration and revitalization of local areas. This lecture will discuss the development of content tourism, focusing on domestic examples, and will also look at how the country will be perceived in the future and the creation of new schemes.

HUG300LA（人文地理学 / Human geography 300）

人文地理学セミナーB

2017年度以降入学者

増淵　敏之

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月3**/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要としては、文化観光の一形態であるコンテンツツーリズムを軸に、その発展の過程、現状を視野に入れて論じていきます。またコンテンツツーリズムの資源である文化コンテンツそのものを生産する産業のありかたや拡張するコンテンツ（スポーツ、食文化など）にも言及していきます。授業の目的は観光行動、観光を取り巻く周辺環境の変化を読み込みつつ、コンテンツツーリズムの一般化の要因についてを明らかにしすることです。意義は日本の産業振興、地域振興のために文化コンテンツの波及に寄与するコンテンツツーリズムの活用の方法を学ぶことで、グローバル社会のなかでの競争優位を考える一助になる点にあります。

【到達目標】
・セミナーAの発展的授業です。
・学生がコンテンツツーリズムの資源となる文化コンテンツ産業振興政策及び企業のイノベーションを理解することができます。
・学生がグローバル社会の中でのコンテンツツーリズムの果たす役割、コンテンツ産業の比較優位確保の重要性を理解できます。
・日本のみならず国際的な視点から他国（韓国）のコンテンツツーリズムの現状にも言及していきます。
· This is an advanced seminarA class.
· Students will be able to understand cultural content industry promotion policies and corporate innovation that are resources for content tourism.
· Students will understand the role that content tourism plays in global society and the importance of securing a comparative advantage in the content industry.
· We will also touch on the current state of content tourism in other countries (Korea) from an international perspective, not just in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義を中心に進めます。適宜、授業内での議論も行い、また授業の性格上、映像資料を効果的に使っていきます。
Focus on the lecture.　Discussions will be held in class as appropriate, and due to the nature of the class, video materials will be used effectively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/guidance	授業の概要/Class outline
第2回	取り巻く環境の変化/Changes in the surrounding environment	コンテンツを取り巻く経済，社会状況の変化についての説明/Explanation of changes in economic and social conditions surrounding content
第3回	拡張する文化コンテンツ/Expanding cultural content	スポーツ、食文化などへと拡張する現状/The current situation is expanding to sports, food culture, etc.
第4回	文化コンテンツ産業の現状/Current state of the cultural content industry	日本の文化コンテンツ産業の概要/Overview of Japan's Cultural Content Industry
第5回	文化コンテンツ産業の東京集中と地域分散/Concentration of the cultural content industry in Tokyo and regional dispersion	文化コンテンツ産業のこれまでと今後について/The past and future of the cultural content industry
第6回	クールジャパン/Cool Japan	政府のクールジャパン政策の評価/Evaluation of the government's cool Japan policy
第7回	日本化現象/Japanification phenomenon	日本の文化コンテンツの海外波及/The spread of Japanese cultural content overseas
第8回	デジタル化と文化コンテンツ/Digitalization and Cultural Content	流通システムの変化、バーチャル観光/Changes in the distribution system, virtual tourism
第9回	プロダクトプレイスメントとクロスメディア/Product Placement and Cross Media.	文化コンテンツ作品を活用したプロモーション/Promotion using cultural content
第10回	韓国のコンテンツ産業振興政策/Korea's content industry promotion policy	韓国のコンテンツ産業政策の評価/Evaluation of Korean content industry policy
第11回	ローカルコンテンツ/Local content	ローカルでのコンテンツ産業創出/Creating a local content industry
第12回	メディアの変化/Media changes	メディアの多様化/Media diversification
第13回	体験的具体例の紹介/Introduction of experiential concrete examples	札幌、岩見沢、南魚沼、宇都宮などの事例/Cases of Sapporo, Iwamizawa, Minami Uonuma, Utsunomiya, etc.
第14回	議論（日本のコンテンツの未来）/Discussion (Future of Japanese content)	日本のコンテンツは比較優位をどう取ればいいのか？ /How should Japanese content take a comparative advantage?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習、復習をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は各1時間（合計28時間）を標準とします。
Please prepare and review. The standard time for preparation and review for this class is 1 hour each (total of 28 hours).

【テキスト（教科書）】
特にありません。PP（授業資料）を配布します。
Nothing in particular. PP (class materials) will be distributed.

【参考書】
増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと―コンテンツツーリズムとは何か？』彩流社
増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生　観光創出から産業振興へ』水曜社
Toshiyuki Masubuchi (2010) "People Traveling Through Stories: What is Content Tourism?" Sairyusha Toshiyuki Masubuchi (2018) "Local Content and Regional Revitalization: From Tourism Creation to Industrial Promotion" Suiyosha

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、レポート70％、平常点は授業での発言を評価、レポートは完成度、先行研究のサーベイ、独自性を重視して評価します。授業終了後に提出してもらいます。
Normal score 30%, report 70%, normal score evaluates remarks in class, report evaluates with emphasis on completeness, survey of previous research, and originality. Please submit after class.

【学生の意見等からの気づき】
前年度アンケートを授業に反映させていく。
The previous year's questionnaire will be reflected in the class.

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。
Nothing in particular.

【その他の重要事項】
・セミナーAを履修してから受講されることをお勧めします。
・オフィスアワー月曜日16－18時
・実務経験者として、さまざまな地域振興に関わっていますので、携わった事例も授業内で紹介します。
・We recommend taking Seminar A before taking this class.
・Office hours: Mondays from 4pm to 6pm
・As a person with practical experience, I am involved in various regional development projects, so I will introduce some of the cases I have been involved in during the class.

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞＜研究テーマ＞＜主要研究業績＞

【文化地理学】
・『路地裏が文化を生む!: 細街路とその界隈の変容』青弓社

【観光地理学】
・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと―コンテンツツーリズムとは何か？』彩流社

【地域振興】
・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生　観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】
・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】
The outline of the class will be to discuss content tourism, a form of cultural tourism, with a view to its development process and current situation. We will also touch upon the state of the industry that produces the cultural content itself, which is the resource of content tourism, and the expanding content (sports, food culture, etc.). The purpose of the class is to clarify the factors behind the generalization of content tourism while examining changes in tourist behavior and the surrounding environment surrounding tourism. The significance is that by learning how to utilize content tourism to contribute to the spread of cultural content for the promotion of Japanese industry and regional development, it will help us consider competitive advantage in the global society.

CUA300LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300）

文化人類学方法論 A

2017年度以降入学者

菊池　真理

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火2**/Tue.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、私たちの日常生活の場における、他者や自然や世界についての別様の「しり方」とその表現を学ぶ。自らに対する感受性を麻痺させること（自分に対する抑圧者になること）と、様々な形の暴力の問題（植民主義／開発や自然環境破壊など）との結びつきについて学ぶ。日々の暮らしの中で自分自身への感性を取り戻すことで、他者への感受性や想像力を育むことはますます重要になっている。国内外の様々な文芸作品や映像などに触れながら、自分や世界に対する感性の回復を試み、それを足場にして自他を理解する人類学の可能性を探る。思考や分析によってのみならず、感じることや「他者」に圧倒されること、自己変容することを通じて、他者や世界、そして自分を「しる」方法を学ぶ。

【到達目標】
・自然と人間との関わり方について、異なる文化や社会の人々の視点や、環境破壊の現場を生きる人々の思想から理解できる。
・自分に対する感性の摩耗と、植民主義／開発や自然環境破壊とが地続きであることが理解できる。
・自然とのつながりの回復を通じて、自分自身とのつながりを取り戻すという経験について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・基本的に、履修者による発表、朗読、ディスカッションの形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる。
・発表者は指定する文献についてレジュメを作成し、それに基づいて発表を行う。それを受けて履修者全員でディスカッションを行う。コメンテーターは事前にコメントを準備する。
・指定するテキストを朗読し、テーマについてディスカッションを行う。
・全ての履修者は文献やテキストを熟読の上で授業に参加すること。
・リアクション・ペーパーなどで履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方、受講上の注意点 ・学生の自己紹介（本講義を受講した理由・動機など）
第2回	アラスカ先住民の世界①	・アラスカ先住民の歴史、社会、文化についての概説 ・文献発表、ディスカッション
第3回	アラスカ先住民の世界②	・写真家・星野道夫の作品を朗読 ・テーマ（土地、開発、自然、死者など）についてディスカッション
第4回	アラスカ先住民の世界③	・写真家・星野道夫の作品を朗読 ・テーマ（土地、開発、自然、死者など）についてディスカッション
第5回	北米先住民と植物の世界①	・北米先住民の歴史、社会、文化についての概説 ・文献発表、ディスカッション
第6回	北米先住民と植物の世界②わたしたちが享受するもの	・キマラー2018『植物と叡智の守り人』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第7回	北米先住民と植物の世界③わたしたちがお返しするもの	・キマラー2018『植物と叡智の守り人』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第8回	水俣病の思想 ①	・水俣病についての概説 ・文献発表、ディスカッション
第9回	水俣病の思想②近代とシステム社会、「加害者」／「被害者」	・緒方2020『チッソは私であった』の朗読 ・テーマについてデスカッション
第10回	水俣病の思想 ③ 魂のゆくえと救済、命のふるさと／おのれに還る	・緒方2020『チッソは私であった』の朗読 ・テーマについてデスカッション
第11回	自然と自分に対する感性を取り戻す①	・文献発表、ディスカッション ・R. カーソン『沈黙の春』
第12回	自然と自分に対する感性を取り戻す②	・R. カーソン『センス・オブ・ワンダー』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第13回	自然と自分に対する感性を取り戻す③	・映像鑑賞とディスカッション
第14回	総括	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・発表、朗読に使用する文献やテキストの予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず熟読）。
・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
・本授業の準備学修・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・緒方正人. 2020『チッソは私であった 水俣病の思想』河出書房新社.
・キマラー, R. W. 2018『植物と叡智の守り人:ネイティブアメリカンの植物学者が語る科学・癒やし・伝承』三木直子訳 築地書館.
・星野道夫.
1998『イニュニック』新潮社.
2000『ノーザンライツ』新潮社.
・Carson, R.
1962 Silent Spring, Houghton Mifflin.（『沈黙の春』渡辺政隆訳 光文社）
1965 The Sense of Wonder: A Celebration of Nature for Parents and Children, Harper &Row.（『センス・オブ・ワンダー』新潮社 上遠恵子訳）
（その他、必要に応じて関連資料を配布する。）

【参考書】
・落合一泰. 1997「東方の驚異、ワイルド・マン、インディアン、グリーザー:
近代西欧＜民族人類学＞によるアメリカ大陸の＜占有＞―」青木保ほか編『岩波講座　文化人類学　第1巻　新たな人間の発見』岩波書店 pp. 141-80.
・松村圭一郎. 2020『はみだしの人類学：ともに生きる方法』NHK出版.
・松村圭一郎、中川理、石井美保（編）2019『文化人類学の思考法』世界思想社.
（その他、必要に応じて紹介する。）

【成績評価の方法と基準】
・発表と討論の内容、毎回のリアクション・ペーパー、授業への参加態度など平常点（40％）
・学期末レポート（60％）

【学生の意見等からの気づき】
受講にあたって、文化人類学の基本的な考え方や方法論についての理解が必要となります。文化人類学の科目を受講したことがない学生さんを含め、事前に指定する課題文献に目を通しておいて下さい。初日の授業内でも短い概説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しない。
・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもある。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知する。

【Outline (in English)】
・The aim of this course deals with other ways of “knowing” others, nature, and the world in our daily lives. The goal of this course is to learn the relationship between numbing one’s sensitivity to oneself (becoming one’s own oppressor) and various forms of violence (colonialism/development, destruction of the natural environment, etc.). It is becoming increasingly important to nurture sensitivity and imagination toward others by regaining sensitivity to oneself in daily life. Through various literary works and videos from Japan and abroad, students will attempt to regain sensitivity to themselves and the world, and explore the possibilities of anthropology in understanding the self and others. Students will learn ways to "know" others, the world, and themselves, not only through thinking and analysis, but also through feeling, being overwhelmed by the "other," and self-transformation.
・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on final report (60%) and in class contribution including presentation and reaction paper (40%).

CUA300LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300）

文化人類学方法論 B

2017年度以降入学者

菊池　真理

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火2**/Tue.2
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、これまでの文化人類学的研究における議論や実践を踏まえて、他者と自分を別様に理解し、表現する方法について学ぶ。1）理性や客観的分析による理解を見直し、身体的な経験の次元から他者や社会を捉えなおそうとする人類学の情動論、2）儀礼とパフォーマンスの人類学とにおける議論や実践、3）文化人類学の新しい民族誌の可能性を拓いている作品に触れることを通じて学ぶ。「わからないまま」他者に圧倒され、他者との新たな関係性に自分を見いだすという、他者と自分を理解することの可能性を学ぶ。また、戯曲を演じることを通じて、他者に「なる」ということ、自分を「しる」ことや新たに創造（表現）するということについて学ぶ。

【到達目標】
・人類学の情動論、儀礼とパフォーマンスの人類学的研究における議論を理解できる。
・民族誌や映像の読解だけでなく、それに揺さぶられる経験や、それを通じて他者と自分を「しる」という実践から、自他を別様に理解する方法を身につける。
・戯曲を演じることを通じて、他者に「なる」ということ、自分を「しる」ことや新たに創造（表現）する方法を体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・基本的に、履修者による発表、朗読、ディスカッション、ドラマリーディングの形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる。
・発表者は指定する文献についてレジュメを作成し、それに基づいて発表を行う。それを受けて履修者全員でディスカッションを行う。コメンテーターは事前にコメントを準備する。
・指定するテキストを朗読し、テーマについてディスカッションを行う。
・全ての履修者は文献やテキストを熟読の上で授業に参加すること。
・リアクション・ペーパーなどで履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方、受講上の注意点 ・学生の自己紹介（本講義を受講した理由・動機など）
第2回	情動の人類学①	情動の人類学的研究の紹介
第3回	情動の人類学②	文献発表とディスカッション
第4回	別様の「しり方」と表現①	スリランカ、内戦についての概説
第5回	別様の「しり方」と表現②	映像鑑賞
第6回	別様の「しり方」と表現③	初見2021『ハレルヤ村の漁師たち』の朗読、ディスカッション
第7回	別様の「しり方」と表現④	初見2021『ハレルヤ村の漁師たち』の朗読、ディスカッション
第8回	他者の傷みの「しり方」	・スリランカ内戦にまつわる憑依儀礼に関する民族誌的研究の紹介 ・ディスカッション
第9回	儀礼とパフォーマンスの人類学①	儀礼・パフォーマンス研究についての講義
第10回	儀礼とパフォーマンスの人類学②	文献発表とディスカッション
第11回	儀礼とパフォーマンスの人類学③	文献発表とディスカッション
第12回	ドラマリーディング①他者に「なる」／自分を「しる」	戯曲を演じる実践
第13回	ドラマリーディング②他者に「なる」／自分を「しる」	戯曲を演じる実践
第14回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・発表、ディスカッション、朗読、ドラマリーディングに使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
・発表のための資料作成やプレゼンテーション、朗読、ドラマリーディングの練習を行う。
・本授業の準備学修・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・シェークナー，R. 1998『パフォーマンス研究：演劇と文化人類学の出会うところ』高橋雄一郎訳 人文書院
・ターナー，V. 1996『儀礼の過程』新思索社.
・初見かおり 2001『ハレルヤ村の漁師たち：スリランカ・タミルの村 内戦と信仰のエスノグラフィー』左右社.
（その他、必要に応じて関連資料を配布する。）

【参考書】
・小栗宏太 2022「情動の人類学：感情史との対話」『文化人類学』87(1): 94-105.
・西井涼子 2013『情動のエスノグラフィー：南タイの村で感じる・つながる・生きる』京都大学学術出版会.
・西井涼子・箭内匡編 2020『アフェクトクス（情動）：生の外側に触れる』京都大学学術出版会.
・Das, V. 2015. What does Ordinary Ethics Look Like. In M. Lambek, V. Das, D. Fassin, and W. Keane (eds) Four Lectures on Ethics: Anthropological Perspectives, pp. 53-117. The University of Chicago Press.
・Lawrence, P. 1997. Work of Oracles, Silence of Terror: Notes on the Injury of War in Eastern Sri Lanka. unpublished Ph.D. thesis submitted to the Faculty of the Graduate School of the University of Colorado.
———. 2000. Violence, Suffering, Amman: The Work of Oracles in Sri Lanka's Eastern War Zone. In Veena Das et al. (eds) Violence and Subjectivity, pp.171-204. Oxford University Press.
（以上の他、授業時に適宜紹介する。）

【成績評価の方法と基準】
・発表内容、リアクション・ペーパー、演劇、授業への参加態度など平常点（40％）
・映像鑑賞文（10％）
・学期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】
受講にあたって、文化人類学の基本的な考え方や方法論についての理解が必要となります。文化人類学の科目を受講したことがない学生さんを含め、事前に指定する課題文献に目を通しておいて下さい。初日の授業内でも短い概説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用。

【その他の重要事項】
・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。

・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもあります。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students learn theoretical discussion on anthropology of affect and anthropology of performance, and feeling and performing ethnography to explore possibilities of anthropology. The goals of this course are to understand different ways of understanding and expressing others and oneself. In addition, through performing a play, students will learn about what it means to "become" others, to "know" oneself. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on final report(50%), briefing paper on short film(10%) and in class contribution including presentation and reaction paper(40%).

PSY300LA（心理学 / Psychology 300）

人間行動学 A

2017年度以降入学者

久木田　敦志

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ポジティブ心理学は「よい生き方」に係る多彩な心理的働きを科学的に探究する学術分野です。人間行動学A・Bでは同分野の研究から「何が人生を生きるに値するものに至らしめるか」という包括的な問いに対する心理学的知見を得、人間に内在する心理的本質とその行動的帰着について学びます。多角的視点と深い洞察を通じて日常生活をより充実したものにし得る気づきの一助となることを目指します。

【到達目標】
人間行動学A（春学期）ではミハイ・チクセントミハイ著『フロー体験 喜びの現象学』を読み解きます。「最適経験」とも形容されるフロー現象。スポーツ等の文脈では「ゾーンに入る」と表現されることもあります。我を忘れるほどの没入感を伴って眼前の課題にのめり込む心理現象であるフロー状態を様々な角度から考察し、心理学的理論に照らしながらその心の働きと行動への影響について具体的な理解を深めつつ、実践的視点から日常の経験を振り返ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で実施します。主にゼミ形式で受講者による報告・討論を中心に進めるため、受講者の関心や授業の展開などによって授業計画の変更もあり得ます。基本構成として、課題図書を毎週一章読み進め、授業前にその考察及びディスカッションで取り上げたい質問等を提出していただきます。それを元に授業はディスカッション主体の進行となりますが、必要に応じて章の補足・解説等も行います。その他の詳細は第1回時に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの概要説明 イントロダクション
第2回	発表・討論	第1章「幸福の再来」
第3回	発表・討論	第2章「意識の分析」
第4回	発表・討論	第3章「楽しさと生活の質」
第5回	発表・討論	第4章「フローの条件」
第6回	発表・討論	フローの計測
第7回	発表・討論	経験抽出法（ESM）
第8回	発表・討論	第5章「身体のフロー」
第9回	発表・討論	第6章「思考のフロー」
第10回	発表・討論	第7章「フローとしての仕事」
第11回	発表・討論	第8章「孤独と人間関係の楽しさ」
第12回	発表・討論	第9章「カオスへの対応」
第13回	発表・討論	第10章「意味の構成」
第14回	総括	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ミハイ・チクセントミハイ著『フロー体験 喜びの現象学』（世界思想社、1996年）

【参考書】
教科書以外の参考文献は授業中に別途指示します。

【成績評価の方法と基準】
報告・発表およびディスカッション（討論）での参加姿勢・貢献度などを総合的に評価。内訳（配分）は、考察・ディスカッション準備課題（40％）、ディスカッション参加（40％）、学期末レポート（20％）です。成績評価項目の詳細は第1回時に説明します。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の受講生のみなさんから、クラス全体でのディスカッションを中心にした授業形態が新鮮だった、積極的に発言する学生が多く普段できない踏み込んだ議論が楽しかった、自分で考えることを大切にできて学びが深まった、等々、温かいフィードバックを多数いただくことができました。引き続き、安心して議論を交わすことのできるディスカッション環境を丁寧に作り、学生のみなさんと共に充実した授業を迎えられるよう尽力していきます。

【Outline (in English)】
Course Outline: Positive psychology is an academic field that is built upon scientific investigations of psychological mechanisms behind a "good life." Drawing on the findings from the field that concern the question of "what makes life worth living," Human Behavioral Science A and B will help students expand their knowledgebase of the human mind and its inherent psychological underpinnings as well as their behavioral outcomes. The multifaceted insight acquired in the course would help students navigate a path toward an enriched everyday life.
Learning Objectives: In Human Behavioral Science A, "Flow — The Psychology of Optimal Experience" by Mihaly Csikszentmihalyi will be thoroughly covered. The phenomenon called flow, also expressed as optimal experience, or "being in the zone" in sports contexts, entails a state of complete absorption into a task at hand, so deep that even the sense of self is pushed out of consciousness. By acquiring a tangible understanding of the psychological workings behind flow and its behavioral consequences from multiple perspectives, students will also reflect on their daily lives for its applicability.
Learning Activities Outside of Classroom: The expected time commitment in preparation for and reviewing after a class meeting is two hours each per week.
Grading Criteria/Policy: Students will be evaluated based on the quality of their reports and presentations as well as their commitment and contribution to class discussions. Final grades are based on the following: reading and discussion prep assignments (40%), participation and engagement in class discussions (40%), and the final paper (20%). Details are provided during the first meeting. No exams are given.

PSY300LA（心理学 / Psychology 300）

人間行動学Ｂ

2017年度以降入学者

久木田　敦志

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ポジティブ心理学は「よい生き方」に係る多彩な心理的働きを科学的に探究する学術分野です。人間行動学A・Bでは同分野の研究から「何が人生を生きるに値するものに至らしめるか」という包括的な問いに対する心理学的知見を得、人間に内在する心理的本質とその行動的帰着について学びます。多角的視点と深い洞察を通じて日常生活をより充実したものにし得る気づきの一助となることを目指します。

【到達目標】
人間行動学B（秋学期）ではクリストファー・ピーターソン著『ポジティブ心理学入門:「よい生き方」を科学的に考える方法』を精読し、ウェルビーイングについての科学的研究を多角的に学びます。「幸せ」の多元的側面に触れ、その心理学研究の展開を追うことで、よりよく生きるための方途を模索し、その過程にある人間の心理と行動への理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で実施します。主にゼミ形式で受講者による報告・討論を中心に進めるため、受講者の関心や授業の展開などによって授業計画の変更もあり得ます。基本構成として、課題図書を毎週一章読み進め、授業前にその考察及びディスカッションで取り上げたい質問等を提出していただきます。それを元に授業はディスカッション主体の進行となりますが、必要に応じて章の補足・解説等も行います。その他の詳細は第1回時に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの概要説明 イントロダクション
第2回	発表・討論	第1章「ポジティブ心理学とは何か？」
第3回	発表・討論	第2章「ポジティブ心理学について学ぶとは」
第4回	発表・討論	第3章「気持ちよさとポジティブな経験」
第5回	発表・討論	第4章「幸せ」
第6回	発表・討論	第5章「ポジティブ思考」
第7回	発表・討論	第6章「強みとしての徳性」
第8回	発表・討論	第7章「価値観」
第9回	発表・討論	第8章「興味、能力、達成」
第10回	発表・討論	第9章「ウェルネス」
第11回	発表・討論	第10章「ポジティブな対人関係」
第12回	発表・討論	第11章「よい制度」
第13回	発表・討論	第12章「ポジティブ心理学の未来」
第14回	総括	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
クリストファー・ピーターソン著『ポジティブ心理学入門:「よい生き方」を科学的に考える方法』（春秋社、2012年）

【参考書】
教科書以外の参考文献は授業中に別途指示します。

【成績評価の方法と基準】
報告・発表およびディスカッション（討論）での参加姿勢・貢献度などを総合的に評価。内訳（配分）は、考察・ディスカッション準備課題（40％）、ディスカッション参加（40％）、学期末レポート（20％）です。成績評価項目の詳細は第1回時に説明します。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の受講生のみなさんから、クラス全体でのディスカッションを中心にした授業形態が新鮮だった、積極的に発言する学生が多く普段できない踏み込んだ議論が楽しかった、自分で考えることを大切にできて学びが深まった、等々、温かいフィードバックを多数いただくことができました。引き続き、安心して議論を交わすことのできるディスカッション環境を丁寧に作り、学生のみなさんと共に充実した授業を迎えられるよう尽力していきます。

【Outline (in English)】
Course Outline: Positive psychology is an academic field that is built upon scientific investigations of psychological mechanisms behind a "good life." Drawing on the findings from the field that concern the question of "what makes life worth living," Human Behavioral Science A and B will help students expand their knowledgebase of the human mind and its inherent psychological underpinnings as well as their behavioral outcomes. The multifaceted insight acquired in the course would help students navigate a path toward an enriched everyday life.
Learning Objectives: In Human Behavioral Science B, "A Primer in Positive Psychology" by Christopher Peterson will be used as the main text to examine a wide range of scientific studies on well-being. Through exposure to multidimensional definitions of "happiness" and following the course of psychological investigations on the topic, students will reflect on their personal endeavors for a good life while deepening their understanding of human psychology and the behavior involved in the process.
Learning Activities Outside of Classroom: The expected time commitment in preparation for and reviewing after a class meeting is two hours each per week.
Grading Criteria/Policy: Students will be evaluated based on the quality of their reports and presentations as well as their commitment and contribution to class discussions. Final grades are based on the following: reading and discussion prep assignments (40%), participation and engagement in class discussions (40%), and the final paper (20%). Details are provided during the first meeting. No exams are given.

PSY300LA（心理学 / Psychology 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

浅川　希洋志

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水2**/Wed.2
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理的ウェルビーイングとは、人が心理・社会的に最適な状態で機能していること、言い換えれば、精神的に健康で、社会の一員として、やるべきことをし、健全に生きていることを意味する。本授業では、臨床心理学（カウンセリング）に関する文献の輪読を通して、こころの健康、こころの健全な発達、心理的ウェルビーイングについて、考える。

【到達目標】

臨床心理学（カウンセリング）の文献を輪読し討論を行うなかで、人間の心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につける。また、本授業がめざす目標をさらに深化させるために、教養ゼミII「心理的ウェルビーイングを考えるB」を連続履修することを期待する。

最終的には、この授業が日常のさまざまな経験に対する受講者自身の考察を深め、自分自身をよりよく理解するための「場」になればと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はゼミ形式（学生発表と討論）で行う。指定された箇所について担当学生が発表を行い、それについてクラス全体で討論する。

受講希望者が多い場合は、第1回目の授業で実施する簡単な試験により選抜を行う（定員30名）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション。	授業の概要を説明し、受講者が多い場合に選抜の参考とする簡単な試験を実施する。
第2回	試験の解説および今後の予定について。	第１回の授業で実施した試験の解説をする。また、学生発表の順番を決定する。
第3回	『カウンセリングを考える・上』第１章「現代社会とカウンセリング」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・過渡期の日本社会：欧米文化の流入と日本人のこころ。
第4回	『カウンセリングを考える・上』第２章「カウンセリングにおける家族の問題」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・以心伝心からコミュニケーションの時代へ。
第5回	『カウンセリングを考える・上』第３章「不登校カウンセリング」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・自分を生きることの難しい日本。
第6回	『カウンセリングを考える・上』第４章「いじめとカウンセリング」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・母性社会日本の持つ圧力。
第7回	『カウンセリングを考える・上』第５章「事例研究の大切さ」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・事例研究が人間に対する知識を深化させる。
第8回	『カウンセリングを考える・上』第６章「カウンセラーの資格と責任」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・カウンセラーに資格はいるのか、カウンセラーにどこまで責任があるのか。
第9回	『カウンセリングを考える・下』第１章「新しい家族関係」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・欧米化の中で日本の家族はどのように変わってきたか、変わっていくべきか。
第10回	『カウンセリングを考える・下』第２章「ユング心理学から見た禅体験」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・禅体験はユング心理学によってどう説明できるか。
第11回	『カウンセリングを考える・下』第３章「カウンセリングにおける男性と女性」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・男性の女性性、女性の男性性（アニマ、アニムスの問題）。
第12回	『カウンセリングを考える・下』第４章「カウンセラーのための児童文学」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・児童文学を通して生き生きとした人間の姿、あり方を考える。
第13回	『カウンセリングを考える・下』第５章「『生きる』ということ」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・人間が生きるとはどういうことなのか。
第14回	授業の総括。	学期を通してのまとめを行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告者は担当箇所のレジュメを作り、議論をリードできるよう準備をしておく。その他の受講生も授業日の文献を熟読し、討論に参加できるよう準備しておく。また、授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら、日常を生きること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

河合隼雄著『カウンセリングを考える・上・下』（創元社、1996年／創元こころの文庫、2015年）。また、発表担当者の作成するレジュメを使用する。テキストはできる限りPDF化し、授業支援システムにアップする。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

下記の配分で評価する。
授業への取り組み（50%）＋　期末レポート（50%）
レポートの字数はクラスで発表した学生は2,000字以上、発表しなかった学生は3,500字以上とする。出席は当然の義務であり、受講者は指定された文献を必ず読んで授業に出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生が積極的に討論に参加できるような、できるだけ身近で、具体的なテーマで授業を展開していく。

【Outline (in English)】

Psychological well-being is a concept which is defined as lives going well.　It is the combination of feeling good and functioning effectively as a member of society.　In this seminar, students will read books and articles about counselling and discuss issues about children's refusal to go to schools, domestic abuse and violence, bulling (called "Ijime"), etc., which have been witnessed in recent Japanese society. Through such readings and discussions, students will learn what psychological well-being means and how we can attain it.

PSY300LA（心理学 / Psychology 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

浅川　希洋志

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水2**/Wed.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理的ウェルビーイングとは、人が心理・社会的に最適な状態で機能していること、言い換えれば、精神的に健康で、社会の一員として、やるべきことをし、健全に生きていることを意味する。本授業では、文化心理学、ポジティブ心理学の文献の輪読を通して、こころの健康、こころの健全な発達、心理的ウェルビーイングについて、考える。

【到達目標】
文化心理学、ポジティブ心理学の文献を輪読し討論を行うなかで、人間の心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につける。特に、文化心理学の観点からは心の働きと文化の関係について学ぶ。また、ポジティブ心理学の分野で注目されるフロー理論、ポジティブ感情の拡張―形成理論を紹介しながら、人間の最適な発達、精神的健康、充実した人生といったことについても考える。
本授業がめざす目標を深化させるために、教養ゼミⅠ「心理的ウェルビーイングを考えるA」からの連続履修を期待する。
最終的には、この授業が日常のさまざまな経験に対する受講者自身の考察を深め、自分自身をよりよく理解するための「場」になればと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業はゼミ形式（学生発表と討論）で行う。指定された箇所について担当学生が発表を行い、それについてクラス全体で討論する。
受講希望者が多い場合は、第1回目の授業で実施する簡単な試験により選抜を行う（定員30名）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション。	授業の概要を説明し、受講者が多い場合に選抜の参考とする簡単な試験を実施する。
第2回	試験の解説および今後の予定について。	第１回の授業で実施した試験の解説をする。また、学生発表の順番を決定する。
第3回	『日本人のしつけと教育』第１章「意欲の構造」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・日本人とアメリカ人の意欲構造の違いについて。
第4回	『日本人のしつけと教育』第２章「役割社会と受容的勤勉性」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・日本人に見られる受容的勤勉性はどのようにして培われたのか。
第5回	『日本人のしつけと教育』第３章「内在モデルとしてのいい子」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・日本人とアメリカ人のいい子像とは。
第6回	『日本人のしつけと教育』第４章「『気持ち』への関心」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・なぜ日本人は人の気持ちに敏感なのか。
第7回	『日本人のしつけと教育』第５章「滲み込み型のしつけと教育」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・日本型の滲み込み教育とアメリカ型の教え込み教育。
第8回	『日本人のしつけと教育』第６章「道徳意識と道徳判断」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・日本人の道徳意識と道徳判断に影響を与えるものは：他者の目と神の目。
第9回	『日本文化のゆくえ』第１章「『私』さがし」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・「私」さがし：自分の外に向かうのか自分の内に向かうのか。
第10回	『日本文化のゆくえ』第７章「異文化体験の軌跡」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・内なる異文化に気づくこと。
第11回	『ひきこもり文化論』第４章「『甘え文化』と『ひきこもり』―比較文化的考察」を読む。	・担当者の発表と議論。 ・「ひきこもり」をつくりだす日本の社会、文化。
第12回	ポジティブ感情の機能に関する文献を読む。	・担当者の発表と議論。 ・ポジティブな感情には人を成長させる機能がある。
第13回	フロー理論に関する文献を読む。	・担当者の発表と議論。 ・充実感、没入感覚を伴う楽しい経験としてのフローとそれを通しての人間の成長。
第14回	授業の総括。	学期を通してのまとめを行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報告者は担当箇所のレジュメを作り、議論をリードできるよう準備をしておく。その他の受講生も授業日の文献を熟読し、討論に参加できるよう準備しておく。また、授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら、日常を生きること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
①東洋著『日本人のしつけと教育：発達の日米比較にもとづいて』（東京大学出版会、1994年）、②河合隼雄著『日本文化のゆくえ』（岩波現代文庫、2013年）、③斎藤環著『ひきこもり文化論』（ちくま学芸文庫、2016年）。また、ポジティブ心理学に関する文献および授業で使用するテキストはできる限りPDF化し、授業支援システムにアップする。
授業では、発表担当者の作成するレジュメを使用する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
下記の配分で評価する。
授業への取り組み（50%）＋　期末レポート（50%）
レポートの字数はクラスで発表した学生は2,000字以上、発表しなかった学生は3,500字以上とする。出席は当然の義務であり、受講者は指定された文献を必ず読んで授業に出席すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生が積極的に討論に参加できるような、できるだけ身近で、具体的なテーマで授業を展開していく。

【Outline (in English)】
This is a continuation of the seminar from the spring semester. Psychological well-being is a concept which is defined as lives going well.　It is the combination of feeling good and functioning effectively as a member of society.　In this autumn seminar, students will read books and articles about cultural and positive psychologies and discuss how we can attain psychological well-being from different psychological perspectives from those we discuss in the spring term. Through these learning experiences, this course hopes students to obtain abilities to capture human beings from different perspectives and angles.

ARSe300LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 300）

沖縄を考えるA

2017年度以降入学者

中野　勝郎、大里　知子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】
毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形にして残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、オムニバス形式でおこないます。シラバス作成時点では各回の担当講師が決まっていないため、シラバスの内容は暫定的です。
初回の授業までには、Hopiiで確定版のシラバスをアップします。沖縄文化研究所HPでも公開しますので確認してください。
授業はすべて対面でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講にあたっての諸注意、オムニバス授業についての説明など
2	沖縄を知るための基礎知識①	沖縄についての調べ方、学習の仕方
3	沖縄を知るための基礎知識②	沖縄の歴史と地理に関する概説
4	琉球沖縄の歴史①	考古学からみた琉球沖縄（先史時代）
5	琉球沖縄の歴史②	「古琉球」時代
6	琉球沖縄の歴史③	「近世琉球」時代
7	琉球沖縄の歴史④	「近代沖縄」
8	琉球沖縄の歴史⑤	「沖縄戦」
9	琉球沖縄の歴史⑥	「戦後沖縄」
10	琉球沖縄の文化①	琉球沖縄の言語
11	琉球沖縄の文化②	琉球沖縄の文学
12	琉球沖縄の文化③	琉球沖縄の芸能①
13	琉球沖縄の文化④	琉球沖縄の芸能②
14	春学期のまとめ	琉球沖縄を再考する視点をめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1.図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
2.毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3.本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】
なし。各回の講義に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】
学期末レポート（100点満点）と出席票（リアクションペーパー付き）（13回×7.7点≒ 100点満点）をかけ合わせた値の平方根によって成績評価をします。　学期末レポートの作成の仕方については、追って指示します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
この春学期の授業の前半は基礎的な内容に重点を置いており、秋学期の「沖縄を考えるB」とともに通年で履修することが望ましい。

【Outline (in English)】
This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ARSe300LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 300）

沖縄を考えるB

2017年度以降入学者

中野　勝郎、大里　知子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】
毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形にして残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、オムニバス形式でおこないます。シラバス作成時点では各回の担当講師が決まっていないため、シラバスの内容は暫定的です。
初回の授業までには、Hopiiで確定版のシラバスをアップします。沖縄文化研究所HPでも公開しますので確認してください。
授業はすべて対面でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講にあたっての諸注意、オムニバス授業についての説明など
2	沖縄の政治①	沖縄の政治問題
3	沖縄の政治②	日本の中の沖縄
4	沖縄の社会①	沖縄の経済
5	沖縄の社会②	沖縄のジェンダー問題
6	琉球沖縄の芸術①	琉球沖縄の美術工芸
7	琉球沖縄の芸術②	琉球沖縄の音楽
8	平和を考える①	沖縄の視点から平和を考える①
9	平和を考える②	沖縄の視点から平和を考える②
10	沖縄の自然環境①	沖縄の自然
11	沖縄の自然環境②	沖縄の環境問題
12	琉球沖縄の文化①	琉球沖縄の食文化
13	琉球沖縄の文化②	琉球沖縄の祭祀
14	秋学期のまとめ	「万国津梁」と沖縄

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1.図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
2.毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3.本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】
なし。各回の講義に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】
学期末レポート（100点満点）と出席票（リアクションペーパー付き）（13回×7.7点≒100点満点）をかけ合わせた値の平方根によって成績評価をします。　学期末レポートの作成の仕方については、追って指示します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
この春学期の授業の前半は基礎的な内容に重点を置いており、秋学期の「沖縄を考えるB」とともに通年で履修することが望ましい。

【Outline (in English)】
This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture.　It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ECN300LA（経済学 / Economics 300）

ヨーロッパ政治経済論A

2017年度以降入学者

千葉　千尋

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火3**/Tue.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヨーロッパ政治経済論Aでは、国際政治経済学の基礎理論を学んだ上で、国際体制の基本構造とその体制の中で主軸となってきたヨーロッパの歴史的展開を、EUの経済政治統合（EU統合）の歩みとともに学んでいきます。そしてグローバル市場化の進行による国際体制の構造的変容の中でのEUの新たな立ち位置を踏まえて、世界が直面する様々な課題（ウクライナ戦争など）に対し考察出来るベースを身に着けていくことを目指します。

【到達目標】
・政治経済学的アプローチを身に着けられる。
・世界動向への基盤となる基礎知識を体系的に身に着けられる。
・米中だけでなく、もう1つの主軸であるヨーロッパを知ることで、国際社会の変容と直面する問題を体系的に把握し、それらを解釈、論議していける力を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とします。
必要に応じて英語での解説も加えます。
後半にグループディスカッションが入ります。
最終回（第14回）に試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 国際体制の変容の理論	政治と経済 政治経済学とは？ 学際的アプローチとしての国際政治経済学
2	国際政治経済学基礎理論１	国際秩序と国際ガバナンス構造を巡る体制論 （理念、思想としてのリアリズム、リベラリズム、マルクス主義）
3	国際政治経済学基礎理論２	新たな学際アプローチへの基礎理論 （重商主義、バランスオブパワーの基礎理論としての古典派経済学（アダム・スミス、リカード、J.Bセイ）
4	国際政治経済学基礎理論３	「埋め込まれた自由主義」と国際協調への理論基礎 （ケインズ経済学の思想と理論）
5	19世紀ガバナンス体制	19世紀ガバナンス体制の成立と行き詰まり
6	ブレトンウッズ体制	戦後ブレトンウッズ体制の成立と展開
7	欧州統合の展開１	ブレトンウッズ体制の姉妹軸としての欧州統合の展開
8	欧州統合の展開２	ECからEUへ 統合深化と拡大の歩み 欧州連合の成立とユーロの誕生
9	グローバル市場化の進行と国際ガバナンスの分断	グローバル化の進行 グローバル化の暴走と世界金融危機 （リーマンショックの展開と衝撃）
10	グローバル市場化と国際ガバナンスの分断	欧州国家債務危機 ＥＵソブリン危機の波及と帰結
11	反グローバリズムの台頭とＥＵの分断危機	世界格差の進行と反グローバリズムの台頭 閉じる帝国化とレジリエンス 歴史的危機の位相
12	反グローバリズムの波及と反統合、EU民主主義の危機	反グローバリズムの世界的台頭と極右反欧州主義勢力の台頭 政治分断化とEU民主主義の危機
13	EUの東欧拡大とウクライナ戦争	EU統合拡大の文脈から見たウクライナ戦争
14	期末試験およびまとめ	期末試験を実施 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は、各回の準備学習1時間、復習時間3時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
期末試験＝80％
課題およびディスカッション評価：20%

【学生の意見等からの気づき】
世界で起こっている様々な問題をより深く理解できるようになった、ヨーロッパの現状について理解が深まったなど、感想をいただきました。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
「ヨーロッパ政治経済論B」では、直面する問題とEUの新たな役割、日本への示唆へと発展的に学びを進めるので、合わせて受講することをお勧めします。

【Prerequisite】
None.

【Outline (in English)】
This course provides a comprehensive overview to Political Economy mainly focused on Europe. The subject contains mainstream theoretical approaches as well as case studies to provide further understanding on world issues.
At the end of the course, students
・ Should have gained a good grasp of the fundamental themes, concepts, theories and approaches of political economy.
・ Should have comprehensive knowledge about EU and its relation in the world.
・Should have acquired a firm base for pursuing further studies in political economy as well as ongoing crisis in the world.
Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.
Your overall grade will be decided 80%on Term-end examination and 20 %on reports as well as contribution in discussions.

ECN300LA（経済学 / Economics 300）

ヨーロッパ政治経済論Ｂ

2017年度以降入学者

千葉　千尋

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火3**/Tue.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヨーロッパ政治経済論Ｂでは、ヨーロッパ政治経済論Ａで学んだ内容を掘り下げ、世界経済のグローバル統合の進行に伴う国際社会の構造変化、国際ガバナンス構造の変容が生起した問題、課題への学習を進めます。具体的には、グローバル市場化と国際経済構造の変容、グローバル市場化の暴走と社会の分断、EUの分断化と政治危機、市場と国家の力学構造の変質等を取り上げ、EUが地域統合の発展過程で培ってきた多様性の中での統合の知見とソフトパワーの活用を含め、変容する国際社会の中で、現在直面する様々な課題（ウクライナ戦争など）に対するＥＵの新たな立ち位置と役割を考察していきます。欧州の歴史上の展開と国際ガバナンス体制の変容の実態を深く理解することで、グローバルな視点から日本への示唆を考察していく知識と力も同時に身に着けていくことを目指します。

【到達目標】
・政治経済学的アプローチを通じて世界を理解出来るようになる。
・国際社会の実態と問題、課題の把握に不可欠なヨーロッパについて、専門基礎のレベルで体系的に知識を身に着け、国際的な視座から直面する問題、課題を把握し、論じていける知識基盤と力を身につけていける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義を中心とします。
必要に応じて英語での解説を加えます。
授業後半にグループディスカッションを行います。
最終回（第14回）に試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス ヨーロッパ政治経済論Aのレビュー	政治経済学とは ヨーロッパとは
2	国際政治経済学専門基礎理論	国際ガバナンスへの学際アプローチの思想と理論 （体制思想としてのリベラリズム、リアリズム、マルキシズム、学際アプローチに向けたバランスオブパワーの理論ベースとしての古典派経済学、埋め込まれた自由主義と国際協調体制への理論、ケインズ経済学）
3	国際システムとガバナンス体制	国際システムとガバナンス体制 （市場経済と統治、史的推移5つのフェーズ）
4	戦後の米ドル、ブレトンウッズ体制の成立と欧州共同体（EC）の形成	戦間期からECSC、EC形成への目的と意義 ブレトンウッズ体制の姉妹軸としての位置づけと限界 通貨統合計画の挫折と統合の行き詰まり
5	市場統合計画の推進と統合拡大を経て欧州連合への基盤形成	経済統合の深化、拡大とEC機構の整備拡充 欧州の戦後体制の終焉、その実態と意義
6	市場統合の深化と通貨統合の実現、EU連合の成立からリスボン条約へ	通貨統合の意義 条約としながら欧州憲法の中身をもつリスボン条約 政治体制としての欧州連合の位置づけ
7	グローバル市場化の進行と国際経済構造の変容	情報ネットワーク化と規制緩和が決定づけたグローバル市場化の光と影
8	グローバリゼーションの暴走と国際ガバナンスの分断１	リーマンショック ギリシャ危機とユーロクライシス、EU国家債務危機
9	グローバリゼーションの暴走と国際ガバナンスの分断２	ポピュリズムと自国ファースト、極右の台頭とＥＵ内部分断の政治危機
10	統合への疑念と分断、英国のＥＵ脱退（BREXIT）	英国と大陸欧州 参加の損益と機能的統合（英国）vs 理念と制度的統合の根源的相違 防衛・安全保障では存在大きい英国とのねじれの関係
11	市場と国家の力学構造の変質	情報プラットフォーム革命 グローバル経済統合の進行が国家と市場の力学構造を変える 同時に国家間の分断と相互の力学関係を変え、中国の台頭に伴う覇権国家構図と国際関係の変容を含め、国際ガバナンス構造の変容を生起
12	グローバル化の進行と地域統合、EU の果たす役割と日本への示唆	ハードパワーとソフトパワー 多様性の中の統合で積み上げたノウハウと企画政治力としてのソフトパワー グリーンディール、SDG s における主導的役割 ＥＵの立ち位置と日本への示唆
13	ウクライナ戦争 新たな欧州新秩序への模索	EUの対ロシア 東欧政策とウクライナ戦争 欧州新秩序への鍵握る国際エネルギー構造の変化の中での対ソ依存からのシフト
14	期末試験とまとめ	期末試験を実施 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は、各回の準備学習1時間、復習時間3時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
期末試験＝80%
課題およびディスカッションへの参加＝20%

【学生の意見等からの気づき】
国際社会が直面する様々な問題、特にロシア・ウクライナ問題に対するEUの立ち位置が理解できた、また変容するグローバル社会におけるEUの役割を理解できた、などの感想をいただきました。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
本講義は、基礎となる「ヨーロッパ政治経済論A」をあらかじめ受講しておくことをお勧めします。

【Prerequisite】
None.

【Outline (in English)】
This course provides a further understanding to Political Economy mainly focused on Europe. The subject contains mainstream theoretical approaches as well as analysis and case studies to provide further understanding on Europe and related world issues.
At the end of the course, students
· Should have the ability to use fundamental themes, concepts, theories and approaches of political economy.
· Should have improved her/his skills in analyzing important political events around Europe and across the globe.
· Should have acquired a firm base for pursuing further research in the European Union and elsewhere in the world.
Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.
Your overall grade will be decided 80%on Term-end examination and 20 %on reports as well as contribution in discussions.

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

数理論理学 A

2017年度以降入学者

安東　祐希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理とは何か　〜〜〜　まずは最小限の論理

数理論理学を学び、論理とは何かについて考える。特に、論理が複数あること（理論が複数あるという事実とは別のこと）を知るための第一歩として、どの論理にも共通する最小論理について学ぶ。それは後に論理を広げて次のような例を考えるときの準備となる。
〜〜〜
ある国のある時点において、次の条件をみたしている人をクシャミ大王とよぶことにする。すなわち、もしクシャミ大王がくしゃみをしているならば、同時にその国の人々全員がくしゃみをしている、という条件である。すると、今年の元旦午前零時において日本にはクシャミ大王がいたことが証明できる。しかもそれは今年の元旦に日本が特別な国であったわけではなく、実はどんな国のどの時点においても、クシャミ大王がいた（あるいは、いる）ことが、**論理的に証明**できる。（クシャミ大王は国と日時に依存することに注意。）
〜〜〜
クシャミ大王の存在証明が可能な論理をつくるためには、この授業で扱う最小論理に何らかのものを付け加える必要がある。最小論理を直観主義論（人の論理）、さらには古典論理（神の論理）まで広げるのである。その付加するものの役割を理解するため、まずは論理の共通部分とは何かについて学んでゆく。

【到達目標】
最小論理の範囲で、推論規則を用いて演繹を表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	クシャミ大王	授業概要の説明
第2回	「かつ」を壊す	連言の除去
第3回	「かつ」を作る	連言の導入
第4回	「または」を壊す	選言の除去
第5回	「または」を作る	選言の導入
第6回	「ならば」を壊す	含意の除去
第7回	「ならば」を作る	含意の導入
第8回	「でない」を壊す	否定の除去
第9回	「でない」を作る	否定の導入
第10回	「すべて」を壊す	全称量化の除去
第11回	「すべて」を作る	全称量化の導入
第12回	「ある」を壊す	存在量化の除去
第13回	「ある」を作る	存在量化の導入
第14回	まとめ	まとめの問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト（教科書）】
指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】
前原昭二『記号論理入門［新装版］』（日本評論社）2005年（初版1967）

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】
（1）秋期科目「数理論理学B」の予備知識となる内容を含む。
（2）文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理2（数理論理学）A」。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course deals with basic concepts of mathematical logic, especially inference rules in minimal logic.
[Learning Objectives]
By the end of the course, students should be able to construct proof-figures in minimal logic.
[Learning activities outside of classroom]
Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria/Policies]
Final grade will be calculated according to the following process:
Term-end examination (60%) and quizes in class (40%).

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

数理論理学Ｂ

2017年度以降入学者

安東　祐希

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火1**/Tue.1
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理とは何か　～～～　人の論理、さらには神の論理

数理論理学を学び、論理とは何かについて考える。特に、論理が複数あること（理論が複数あるという事実とは別のこと）を知り、その中でも古典論理（神の論理）と直観主義論理（人の論理）について学ぶ。次のような例を考えると、二つの論理に違いが現れてくる。～～～

ある国のある時点において、次の条件をみたしている人をクシャミ大王とよぶことにする。すなわち、もしクシャミ大王がくしゃみをしているならば、同時にその国の人々全員がくしゃみをしている、という条件である。すると、今年の元旦午前零時において日本にはクシャミ大王がいたことが証明できる。しかもそれは今年の元旦に日本が特別な国であったわけではなく、実はどんな国のどの時点においても、クシャミ大王がいた（あるいは、いる）ことが、**論理的に証明**できる。（クシャミ大王は国と日時に依存することに注意。）～～～

ここでいう論理的な証明は、「神の論理」における証明である。われわれは実は何の疑問もなく「神の論理」を用いることがある。一方、「神の論理」の無制限な使用を自省することにより得られた「人の論理」においては、クシャミ大王の存在を一般には示すことができない。春期授業の最小論理に何を加えるとこれらの論理ができるのかについて学んでゆく。

【到達目標】
直観主義論理および古典論理の範囲で、推論規則を用いて演繹を表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	今できること	最小論理
第2回	万能薬	量化子の順序
第3回	矛盾がどうした	否定と含意
第4回	矛盾が生み出す	矛盾の推論
第5回	人の論理	直観主義論理
第6回	どちらかだ	排中律
第7回	神の論理	古典論理
第8回	クシャミ大王再考	古典論理の応用
第9回	別の顔	背理法
第10回	得意分野	古典論理の表現
第11回	真か偽か	古典論理の意味論
第12回	まだわからない	可能世界
第13回	人の論理とは	直観主義の意味論
第14回	まとめ	まとめの問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト（教科書）】
指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】
前原昭二『記号論理入門［新装版］』（日本評論社）2005年（初版1967）

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】
（1）春期科目「数理論理学Ａ」で扱う内容を既知として授業を進める。
（2）文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理２（数理論理学）Ｂ」。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course deals with basic concepts of mathematical logic, especially inference rules in intuitionistic and classical logic.
[Learning Objectives]
By the end of the course, students should be able to construct proof-figures in intuitionistic and classical logic.
[Learning activities outside of classroom]
Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria/Policies]
Final grade will be calculated according to the following process:
Term-end examination (60%) and quizes in class (40%).

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

計算と言語のしくみ

2017年度以降入学者

倉田　俊彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで，コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され，我々の生活に深く関わっている．その一方で，多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり，その動作原理に触れる機会が十分あるとは思われない．こうした背景の下で，魔法のような処理を可能にする汎用コンピュータの仕組に焦点を当て，「コンピュータの箱の中がどのようになっているか？」「そうした機械仕掛けの上で，言語に関する様々な処理ができるのは何故なのか？」などの疑問に対して解説・実験する．

【到達目標】
本講義では「コンピュータの仕組を理解すること」を目標としている．（例えば，電卓とPCの違いを尋ねられた時，皆さんは説明できるでしょうか？）また，「コンピュータでの言語処理に関する幾つかの活用法を体験して，その有用性を理解すること」をもう一つの目標としている．（例えば，コンピュータに大量の文章データを機械学習させると，各単語を数値データとして捉えるようになり「東京−日本＋フランス」の計算結果として「パリ」と答えるようになります．同様に「法政大学− 東京＋大阪」の計算結果としてコンピュータは何を答えるでしょうか？ 実験してみれば簡単に確認できます．）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
進度や難易度等は受講生の様子なども考慮して対応する．学習支援システムとZoomを活用しながら対面での説明を進める予定であり，詳細は学習支援システムに提示する．課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は，直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入	PCが動作する様子とその特徴を紹介する．
第02回	計算機の歴史	コンピュータ開発の歴史を解説する．
第03回	計算できる言語(1)	電卓的な機械の仕組みについて解説する．
第04回	計算できる言語(2)	電卓的な仕組みで計算できる言語について紹介する．
第05回	計算できる言語(3)	そのような言語の計算を日常文書の編集に活用する例を学ぶ．
第06回	計算できる言語(4)	そのような言語の計算を表計算に活用する例を学ぶ．
第07回	計算機のしくみ(1)	汎用コンピュータの理論的な仕組みについて紹介する．
第08回	計算機のしくみ(2)	現代的なコンピュータの仕組みについて説明する．
第09回	計算機のしくみ(3)	コンピュータにおける文字・数値の表現を確認する．
第10回	自然言語とAI(1)	Web上でプログラムを動かす方法を確認する．
第11回	自然言語とAI(2)	日本語の文章を品詞に分解する方法を学ぶ．
第12回	自然言語とAI(3)	「吾輩は猫である」の全文を機械学習させてみる．
第13回	自然言語とAI(4)	学習済みAIを用いて法政大学のシラバス文章を分析する．
第14回	まとめと解説	講義内容のまとめ，課題に関する総括を行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある．本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない．

【参考書】
テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である．

【成績評価の方法と基準】
授業の内容を確認する機会として練習問題(40%)，計算機を使う小課題(50%)を行い，平常点(10%)と共に取り組みを評価する．

【学生の意見等からの気づき】
普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて，少しずつ内容・難易度の調整（例えば，機械学習による自然言語処理の内容を多めにするなど）に反映している．

【その他の重要事項】
受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない．（予備知識のない学生にとって負担にならない内容の体験ができれば十分と思っています．実験についても，特別な電算環境は必要なく，Webが普通に使えれば十分（このWebシラバスが読める方でしたら大丈夫）です．課題などは，自由に相談しながら気軽に進められるようにしたいと思います．）

【Outline (in English)】
We can find a number of mathematical paradigms which provide the foundation of computer architecture. Among them, the framework of finite automata is explained in this course as a model of the special-purpose computers, and the framework of universal Turing machines as a model of the general-purpose computers. Based on the strength of these computational frameworks, we also understand a hierarchy structure of the class of formal languages.
To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting.
Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

コンピュータと数理の活用

2017年度以降入学者

倉田　俊彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数学で勉強する様々な計算方法は理にかなったものであるが，それらを実際に活用する段階になると手間がかかることが多い．（平均値を計算する方法自体は分かっていても，実際に1000人分のデータの平均値を手で計算する人はいない．）一方で，身の回りにある問題はむしろ大規模になりがちであり，大きな問題こそ答を知りたいという現状がある．こうしたジレンマに対して，コンピュータによって人間の計算力不足を補い，実生活で直面するような大規模な問題の答を求める経験は重要となる．そこで，講義では，様々な分野の中で「数学の計算方法」と「コンピュータの計算力」を組合せて活用する事例を体験することを主な目的としている．

【到達目標】
講義では「プログラムを自分で設計・作成すること」までは想定せず，あくまでも用意したプログラムを活用して「コンピュータと数理を組み合わせることの良さを体験し（場合によっては自分好みに調整して）活用の勘を養うこと」を目標としている．（各々の事例で扱う数学の内容は独立していて，1つの課題が理解できなくても，次の課題に影響を与えることが少ないことになります．）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
進度や難易度等は受講生の様子なども考慮して対応する．学習支援システムとZoomを活用しながら対面での説明を進める予定であり，詳細は学習支援システムに提示する．課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は，直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入と準備	プログラムを用いた問題解決の流れを確認する．
第02回	コンピュータで数学(1)	Web上でプログラムを実行する方法について説明する．
第03回	コンピュータで数学(2)	大政奉還があった日は何曜日か計算してみる．
第04回	コンピュータで数学(3)	SymPyと呼ばれる関数電卓機能を統計に活用してみる．
第05回	平方根の計算(1)	開平法と呼ばれる筆算で平方根を計算してみる．
第06回	平方根の計算(2)	より効率的な方法で平方根を限りなく正確に計算してみる．
第07回	行列の応用(1)	数学の知識として，行列の掛算について学ぶ．
第08回	行列の応用(1)	行列の掛算を行うプログラムを紹介する．
第09回	行列の応用(3)	今後100年間の日本の世代人口の推移を予測する．
第10回	経営計画への応用(1)	上手な経営計画を立てるための数学分野を紹介する．
第11回	経営計画への応用(2)	上手な経営計画を立てるプログラムを紹介する．
第12回	経営計画への応用(3)	プログラムを利用して経営計画の最適化を行ってみる．
第13回	機械学習への応用	機械学習を行うプログラムを紹介する．
第14回	まとめと解説	講義内容のまとめ，課題に関する総括を行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある．本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない．

【参考書】
テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である．

【成績評価の方法と基準】
授業の内容を確認する機会として練習問題(40%)，計算機を使う小課題(50%)を行い，平常点(10%)と共に取り組みを評価する．

【学生の意見等からの気づき】
普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて，少しずつ内容・難易度の調整に反映している．

【その他の重要事項】
受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない．（予備知識のない学生にとって負担にならない内容の体験ができれば十分と思っています．実験についても，特別な電算環境は必要なく，Webが普通に使えれば十分（このWebシラバスが読める方でしたら大丈夫）です．課題などは，自由に相談しながら気軽に進められるようにしたいと思います．）

【Outline (in English)】
We have been studying many mathematical procedures to answer various problems in our lives. However, it is generally harder to execute such procedures as the size of the problems becomes larger. To overcome this difficulty, a method to use computer programs is explained in this course. More specifically, the effectiveness of computer programs is observed with respect to (1) basic operations on matrix for Markov processes, (2) simplex method for linear optimization and (3) algorithmic number theory for RSA cryptography.
To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting.
Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

確率の世界A

2017年度以降入学者

池田　宏一郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木4**/Thu.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】
春学期の授業では、我々が普段からなんとなく使っている「確率論」っぽい考え方を数学的に定式化し，代表的な確率分布である二項分布を理解することを目的とする。興味のもてるような題材を数多く用意するつもりである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要
第2回	確率の基礎1	確率とは
第3回	確率の基礎2	確率の性質
第4回	確率の基礎3	確率空間とは
第5回	確率の基礎4	事象の独立性
第6回	確率の基礎5	確率変数の使い方
第7回	確率の基礎6	期待値とは
第8回	確率の基礎7	期待値の性質
第9回	確率の基礎8	分散とは
第10回	確率分布1	分散の性質
第11回	確率分布2	二項分布とは
第12回	確率分布3	二項分布の性質
第13回	確率分布4	二項分布の期待値と分散
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】
This course deals with basic concepts and methods in probability. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%、Short reports 20%.

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

確率の世界Ｂ

2017年度以降入学者

池田　宏一郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木4**/Thu.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】
秋学期の授業では確率論の重要な応用分野のひとつである「統計学」を学習する。授業内で興味のもてるような題材に数多く接することで、より具体的な統計学の理解を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要
第2回	様々な分布１	離散分布とは
第3回	様々な分布２	ポアソン分布とは
第4回	様々な分布３	ポアソン分布の性質
第5回	様々な分布４	ポアソン分布と二項分布
第6回	様々な分布５	正規分布とは
第7回	様々な分布６	正規分布の性質
第8回	様々な分布７	正規分布と二項分布
第9回	推定と検定１	標本の定義
第10回	推定と検定２	標本平均と標本分散
第11回	推定と検定３	点推定
第12回	推定と検定４	区間推定
第13回	推定と検定５	仮説と棄却
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】
この科目を履修するためには、「確率の世界A」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが望ましい。

【Outline (in English)】
This course deals with basic concepts and methods in statistics. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%、Short reports 20%.

PHY300LA（物理学 / Physics 300）

相対性理論と宇宙A

2017年度以降入学者

石川　壮一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水4**/Wed.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とかSFの世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中は相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、特殊相対性理論の基本的な考え方を学び、現実の世界で何が起こっているのか科学的な理解を深める。

【到達目標】
・特殊相対性理論の論理的な理解の習得。
・特殊相対性理論の効果が顕著になるような光のスピードに近い速さで運動したりすることを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	運動に関する考察	天動説から地動説、ニュートンの運動法則、ガリレオの意味での相対性原理について
[3]	光に関する考察	光の速さや光で情報が伝わることについて
[4]	エーテル	エーテルとは何か理解し、エーテルの検出をしようとした実験とその結果の持つ意義について
[5]	同時とは	思考実験を通じて、同時であるということの意味を考える。
[6]	時間の遅れ	光時計を用いた思考実験をを通じて、時間の遅れについて考える。
[7]	長さの収縮	物の長さ、あるいは2地点の距離を測る思考実験を通じて、長さ（距離）の収縮について考える。
[8]	時空図	時空の中で起こっている現象（事象とも呼ぶ）を抽象的に表現する方法である時空図について学ぶ。
[9]	速度の合成則と質量	動いている観測者から見た物体の速さがどうなるのか考え、速度の合成則と質量の変化について
[10]	質量とエネルギー	公式 $E=mc^2$ の意味について考える。
[11]	核融合反応	太陽の中で起こっている核融合反応について学ぶ。
[12]	ミューオン	ミューオンという素粒子について、その性質と相対論との関係について学ぶ。
[13]	反物質	相対論により存在が予言された反粒子について学ぶ、
[14]	まとめ	特殊相対性理論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし（毎回学習支援システムにより資料を配布する）

【参考書】
一般向けの相対性理論の解説書として：
・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか /福江純著
(ブルーバックス ; B-2087)、（講談社、2019.2）
・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論
(ニュートン別冊)、（ニュートンプレス、2019.2）
（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】
期末レポート(60%)と小テスト等の平常点(40%)から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】
This course introduces basics of the special theory of relativity, which becomes evident when one moves as fast as the speed of light.
The goals of this course are to understand fundamental idea of the special theory of relativity and to to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA（物理学 / Physics 300）

相対性理論と宇宙Ｂ

2017年度以降入学者

石川　壮一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水4**/Wed.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とかSFの世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中は相対性理論が応用されているものもある。
　相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、一般相対性理論の基本的な考え方を学び、我々の住んでいる宇宙に関する理解を深める。

【到達目標】
・一般相対性理論の論理的な理解の習得。
・一般相対性理論の効果が顕著になるような非常に重力の強い場所に行くことなどを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	ニュートンのリンゴと月	万有引力の法則はどのように導かれたのか理解する。
[3]	加速度運動と慣性力	加速度運動をしている観測系における物体の運動について
[4]	重力と時間	時間の進み方に対する重力の影響について
[5]	重力と空間	空間が歪んでいるとはどういうことか、空間の幾何学について考える。
[6]	時空間の歪み	重力が作用しているときの光の進み方について
[7]	宇宙の広がりの理解	我々は宇宙をどのように理解してきたか
[8]	宇宙の大きさと膨張宇宙	膨張宇宙の発見とビッグバン宇宙論について
[9]	星の誕生と死・元素合成	太陽のような星の一生と、我々を形作っている元素の歴史について
[10]	アインシュタイン方程式	一般相対論の基礎であるアインシュタイン方程式が、何を意味しているのかについて学ぶ。
[11]	膨張宇宙論	我々の住んでいる宇宙はどうなっているのか、そしてどうなっていくのか考える。
[12]	ブラックホール（１）	ブラックホールとは何なのか、そして、その観測方法について学ぶ。
[13]	ブラックホール（２）	銀河系の中心に存在する巨大ブラックホールについて
[14]	重力波	重力波とは何か、重力波の観測について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
・本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし（毎回授業支援システムにより資料を配布する）

【参考書】
一般向けの相対性理論の解説書として：
・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか /福江純著
　(ブルーバックス ; B-2087)、（講談社、2019.2）
・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論
　(ニュートン別冊)、（ニュートンプレス、2019.2）
（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】
期末レポート(60%)と小テスト等の平常点(40%)から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】
This course introduces basics of the general theory of relativity, which becomes evident when one is close to a place of very strong gravity field.
The goals of this course are to understand fundamental idea of the general theory of relativity and to to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA（物理学 / Physics 300）

現代の錬金術Ａ

2017年度以降入学者

井坂　政裕

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金4**/Fri.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展(失敗)によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。
本講義を通して、学生は、物理学の知識に基づき、「物質の究極の構成要素とは何なのか」という問いに対する現代的な答えや考え方を学ぶ。

【到達目標】
・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。
・元素について、個々の元素の化学的性質や物理的性質だけでなく、社会における利用例などを含めて多角的な観点から理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
スライドを使用した講義形式で行う。
春学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第１３回授業においてその講評や解説を行う。
講義では、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	特に物質の階層性に着目し、本講義の内容について概観する
第2回	原子は存在するのか？（１）―化学反応の基本法則	化学反応の基本法則と、それが示唆する原子の存在について
第3回	原子は存在するのか？（２）―気体の法則	気体の法則と分子運動論について
第4回	原子は存在するのか？（３）―気体の分子運動論	分子運動論から統計力学への発展について概観する
第5回	原子は構造を持つのか？（１）―元素の周期律	原子が構造を持つことを示すヒントとして、元素の周期律を中心に解説する
第6回	原子は構造を持つのか？（２）―電気分解や原子が出す光	第５回に引き続き、電気分解の法則や原子スペクトルを解説する
第7回	電子の発見と原子模型	電子の発見に関する実験や、それに基づく原子模型について
第8回	原子核の発見と原子核構造	ラザフォード実験の解説と、それに基づく原子構造の理解について
第9回	原子構造（１）―電子配置からわかること	電子配置と元素の周期性、化学結合のしくみについて解説する
第10回	原子構造（２）―量子力学の世界	磁性など、量子力学により説明可能な物質の性質について解説する
第11回	放射能の発見	放射能の発見とそれが意味することについて
第12回	原子核と放射線	放射性同位体や半減期に特に注目しながら、原子核がどのようなものかを解説する
第13回	春学期のまとめ（１）と関連する話題	春学期中に実施した小テストの解説を通して授業内容を振り返るとともに、春学期の授業内容に関連する話題を紹介する
第14回	春学期のまとめ（２）と試験	春学期の授業内容のまとめを行うとともに、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績(70％)と平常点(30％)で評価する。期末試験では、授業中に配付した資料やノート、メモなどの参照を可とする。平常点については、春学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:
·Explain attempts and difficulties of the alchemy in the ancient and middle ages
· Describe the hierarchy of matter from smallest to largest
· Discuss the evidences that indicates the existence of atoms
·Explain the structure of atom from the point of view of modern physics
· Explain the periodic table of elements in terms of the electron orbit
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end examination (70%) and usual performance score (30%).

PHY300LA（物理学 / Physics 300）

現代の錬金術Ｂ

2017年度以降入学者

井坂　政裕

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金4**/Fri.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展(失敗)によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。さらに、古代・近世の錬金術の代わりに、どのような方法であれば金(元素)を人工的に作り出すことができるのか、現代物理学に基づく答えを探る。
本講義を通して、学生は、物質の究極的な構成要素が何かを学ぶと同時に、それに基づき、宇宙において物質がどのように誕生し、進化してきたのかを学ぶ。

【到達目標】
・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。特に、物質の最小単位が何で、それによって身の回りの物質がどのように構成されているのか、それらは宇宙の中でどのように形成されたのかを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
スライドを使用した講義形式で行う。
秋学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第１３回授業においてその講評や解説を行う。
講義では、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	20世紀初頭に進展した原子論や量子論を説明し、本講義の内容について概観する
第2回	核力	原子核を結び付けている力（核力）とそのしくみについて
第3回	原子核の構造	原子核の構造について、原子や分子の構造と比較しながら解説する
第4回	原子核の反応	原子核の崩壊を含め核反応や質量エネルギーについて解説する
第5回	ニュートリノの発見	ニュートリノの予言と発見、最近の成果について
第6回	宇宙線がつくる粒子	宇宙線と宇宙線により生成された奇妙な粒子について
第7回	クォーク模型	クォーク模型とその歴史、現在の理解について説明する
第8回	標準模型	第７回までの内容を踏まえ、素粒子物理学の標準模型について解説する
第9回	加速器	加速器について紹介し、素粒子・原子核物理学における加速器実験を解説するとともに、加速器のそれ以外の分野での利用例を紹介する
第10回	宇宙における元素合成（１）―ビッグバン	元素の起源についての現代の理解について。また、宇宙の始まり（ビッグバン）と元素合成についても解説する。
第11回	宇宙における元素合成（２）―恒星内での元素合成	恒星の一生と恒星内部での元素合成について
第12回	宇宙における元素合成（３）―恒星の最期と超新星爆発	恒星の最期と超新星爆発に伴う元素合成過程について
第13回	現代の錬金術	これまでの授業内容を踏まえ、人工的に元素を生成・変換する方法について解説する。また、秋学期中に実施した小テストの講評や解説を行う。
第14回	まとめと試験	秋学期授業のまとめを行い、期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績(70％)と平常点(30％)で評価する。期末試験では、授業中に配付した資料やノート、メモなどの参照を可とする。平常点については、秋学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:
・Explain the roles of the nuclear force in an atomic nucleus
・Explain the similarities and differences of the structures between atoms and atomic nuclei
・Explain the basic concepts of the standard model in the particle physics
・Describe the importance of accelerators in the modern physics
・Explain the origin of matters in the universe
・Discuss the possible alternative to alchemy based on the knowledge of the modern physics
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end examination (70%) and usual performance score (30%).

PHY300LA（物理学 / Physics 300）

原子核と素粒子A

2017年度以降入学者

吉田　智

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火4**/Tue.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
紀元前4世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）”というものが考えられていた。その探求は1911年に原子核が発見されてから約100年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この宇宙において元素はどのようにして誕生したのか、ということを理解するために、この授業では、この宇宙には（最近命名された原子番号113番ニホニウムなどを含めて）どのような元素がどれくらいの割合で存在するのかということからスタートし、元素の物理学的な実体である原子についての理解を深める。

【到達目標】
この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。また元素の存在比や原子の構造を理解することによって、原子核・素粒子、宇宙についての理解の手助けとなる知識の習得を目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義の全体的な紹介する。
第2回	元素の周期表	元素周期表を眺めて、そこから見えてくる物理学的な謎に迫る。
第3回	元素の存在比（地球）	地球上の生物や地球を構成する元素について紹介する。
第4回	元素の存在比（宇宙）	地球以外の天体を構成する元素について、最新研究も含めて紹介する。
第5回	結晶構造	物体は3次元的に規則正しい立体構造をもっている。そのいくつかの例を紹介する。
第6回	光の性質	ミクロの世界への扉を開くことになる、光の性質の研究について紹介する。
第7回	原子のスペクトル	原子からはどのような光（電磁波）が放出される仕組みについて解説する。
第8回	原子の構造（電子の発見）	電子はどのようにして発見されたのか、その過程について紹介する。
第9回	原子の構造（原子核の発見）	原子核発見に関する研究について紹介する。
第10回	原子の構造（前期量子論）	ボーアによる原子構造研究について紹介する。
第11回	原子の構造（電子配置）	第5回の内容に関して、物体が立体構造をもつ仕組みについて紹介する。
第12回	ミクロの世界の不思議	ミクロの世界における不思議な現象について紹介する。
第13回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第14回	まとめ	まとめを行う。更に「原子核と素粒子B」についての紹介を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】
授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システムを利用した、各回の課題(70%)と期末レポート(30%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】
This course introduces the atom and nucleus. In particular, it is introduced that the abundance ratio of elements not only on the earth but also in the universe, and the structure of atom and nucleus. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY300LA（物理学 / Physics 300）

原子核と素粒子Ｂ

2017年度以降入学者

吉田　智

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火4**/Tue.4
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
紀元前4世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）”というものが考えられていた。その探求は1911年に原子核が発見されてから約100年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この授業では、原子の核に相当する原子核の構造からスタートし、原子核反応、星の進化、そして素粒子・宇宙についての理解を深める。

【到達目標】
この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。またミクロの世界を通してマクロである宇宙の進化を学ぶことによって、この広大な宇宙の中で、私たちの体や地球を作る材料はいったいどのようにして合成されたのかということも理解できるようになることを目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義全体の説明と共に、20世紀以前・以後の物理学について紹介する。
第2回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第3回	原子核の崩壊とエネルギー	原子核崩壊等に伴うエネルギーについて紹介する。
第4回	核分裂・核融合反応	原子核の核分裂・核融合反応について紹介する。
第5回	核分裂反応の応用	核分裂反応の応用である原子炉の構造などについて紹介する。
第6回	核融合反応の応用	熱核融合炉などの核融合反応の応用について紹介する。
第7回	天体における核融合反応	天体における核融合反応について紹介する。
第8回	星の進化、超新星爆発と元素合成	宇宙における元素合成のプロセスについて紹介する。
第9回	太陽ニュートリノ問題、ニュートリノ振動	スーパーカミオカンデなどで行われている、ニュートリノ研究について紹介する。
第10回	素粒子（クオークとレプトン）	現時点でのこの宇宙における万物の基となる素粒子などについて紹介する。
第11回	未発見の素粒子	現在行われている素粒子研究について紹介する。
第12回	宇宙の進化	ビッグバン以後、現在までの宇宙の進化について紹介する。
第13回	宇宙の大規模構造と宇宙論	宇宙論などの最新の研究について紹介する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】
授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システムを利用した、各回の課題(70%)と期末レポート(30%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】
This course introduces the nucleus and elementary particle. In particular, it is introduced that the structure of nucleus, the reaction mechanism of nuclei, the nucleosynthesis, and the evolution of stars and the universe. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

島野　智之

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月4**/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最終的には，自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である．生物としての人間を知るために，地球史における自然の形成プロセス（生命史）と生物の進化を学ぶ（自然史）．

用いる教科書は内容的に難しく感じるが，これまで生物学に触れたことがなくても理解できるように平易に説明する．

生物学の観点から生命とは何か，進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える．

また，現在，生物進化の結果，維持されている生態系と人間との関係は，水産業，農業，林業などの産業によって結びついていることについても考える．

オータムセッション（秋学期として：9月13日～9月19日）では．春学期に学んだ自然史の知識をもとに，自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない，展示などの調査に基づいて，博物館の展示の意義と内容，その展示手法を学ぶ．

【到達目標】

生命（生きていること）を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え，社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること．年度の最後に，種々の資料や調査を付き合わせて，各自の成果を発表にまとめる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業およびゼミ形式で行う。生物学の観点から，生命とは何か，進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを講義し，レポートをまとめ，討議してもらう．オータムセッション（秋学期として：9月13日～9月19日）では．春学期に学んだ自然史の知識をもとに，自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない，展示などの調査に基づいて，博物館の展示の意義と内容，その展示手法を学ぶ．事後には討議，ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス．進化の概念の歴史	博物館フィールドワークについて；調査の進め方；自然発生説；ダーウインの自然選択説；DNAの変異
第2回	無機物から有機物・原始生命体への化学進化	生物とは何か；43億年前に海が形成された証拠；熱水噴出孔での化学進化，など．
第3回	生命の誕生	原始独立栄養生物の誕生；高熱性アーキアと高熱性細菌；超高熱性菌のDNA2本鎖が解離しない仕組み
第4回	光合成生物と好気性生物の出現	光合成細菌の光合成；好気性生物の出現；シアノバクテリアの光合成，など．
第5回	真核生物の出現	酸素呼吸する真核生物の出現；真核生物がアーキアに由来する証拠；真核生物の起源となった原核生物，など．
第6回	多細胞かと有性生殖の獲得	単細胞時代に分岐していた植物・菌類・動物；多細胞生物の出現；有性生殖のはじまり，など．
第7回	遺伝的多様性と新規遺伝子の獲得をもたらす有性生殖	遺伝子の多様性をもたらす有性生殖；有性生殖は新規遺伝子の獲得を促進した；遺伝子ファミリーの形成，など．
第8回	動物の多様化	全球凍結が多細胞生物を多様化させた；脊椎動物の出現；エディアカラ生物群の絶滅とカンブリア爆発，など．
第9回	陸上植物の出現と多様化	陸上植物の起源；コケ植物が先か；前維管束植物が先か，など．
第10回	動物の陸上進出	節足動物の陸上進出；哺乳類の出現；鳥類の出現，など
第11回	進化を促進する仕組み	塩基配列の変異はランダムにおこる；ウニとヒトはほとんど同じ遺伝子を持つ；タンパク質は自律的に細胞を形成する，など．
第12回	エボデボー体制の進化ー	ダーウインフィンチの嘴の進化；節足動物の付属肢の進化；鳥エンハンサーが鳥類を進化させた，など
第13回	エボデボー特異体制の進化ー	ヘビの特異な形態をもたらした進化機構；フグの特異な形態をつくるしくみ，など．
第14回	まとめ．重要用語の振り返り．博物学について，生物の名前の付け方．	まとめと振り返り．ホモサピエンスの7万年前の大発明；博物学について；生物の名前の付け方．など．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

疑問などはそのままにせず，まず自分で解決するよう努力して下さい．事前につたえるので，討議に必要な事前の調査，あるいは，授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）．

また，レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからのcopy &pasteは、容易に判明することが可能ですので行わないように．

本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】

更科 功 (著)2025
「世界一シンプルな進化論講義 生命・ヒト・生物――進化をめぐる6つの問い」 (ブルーバックス B 2282)
講談社 ISBN 978-4065382929

【参考書】

必要に応じて，その都度指示する．

【成績評価の方法と基準】

毎回行う授業内の小レポート（60%）および，授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）(40%)も加え，総合的に評価する．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては，自分で調べることが大切である．

【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもらう．適宜パソコンを使用できるようにしておくこと．

【その他の重要事項】

1) 現地調査（フィールドワーク）のための，交通費（宿泊はしません）が必要です（5,000～9,000円程度：入館料，ガイド料，交通費など，金額は前後することがあります．）．ガイダンスに必ず出席して下さい．

2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また，受講希望者が定員（最大20名程度）を超えた場合にも、再度，選抜を行います．

3) 2017年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミII」として履修する学生]半期のみの履修登録が可能となる方．教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミII「自然史」を両方とも履修すること．
※どちらか一方だけの授業は履修できません．
4) 2016年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学４（自然史)」として履修する方．年間科目として履修する方は、9月のオータムセッション（9月13日～9月19日）での，フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと．
5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意下さい。正当な理由のある遅刻を除き、１０分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード２枚で１回欠席となります。
6) 9月の初旬（オータムセッション：9月13日～9月19日）に，東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

【Outline (in English)】
Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.
The textbook to be used may seem difficult in terms of content, but it will be explained in a simple manner so that students who have never been exposed to biology before can understand it.
From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.
We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.
In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits and other materials.
Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class.Your study time will be more than four hours for a class.
The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.
Students who have achieved at least 60%of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

島野　智之

開講時期：**オータムセッション/Autumn Session** ｜ 曜日・時限：**集中・その他/intensive・other courses**
単位数：**2単位**
定員制（20）
※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教養ゼミIIでは，オータムセッション（秋学期として：9月11日～9月17日）では．春学期に学んだ自然史の知識をもとに，自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない，現地調査に基づいて，博物館の展示の意義と内容，その展示手法を学ぶ．

最終的には，自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である．生物としての人間を知るために，地球史における自然の形成プロセス（生命史）と生物の進化を学ぶ（自然史）．

生物学の観点から生命とは何か，進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える．

また，現在，生物進化の結果，維持されている生態系と人間との関係は，水産業，農業，林業などの産業によって結びついていることについても考える．

【到達目標】

生命（生きていること）を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え，社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること．年度の最後に，種々の資料や調査を付き合わせて，各自の成果を発表にまとめる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オータムセッション（秋学期として：9月11日～9月17日）では．生物学の観点から，生命とは何か，進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを討議し，社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明発表してもらう．

つぎに，春学期に学んだ自然史の知識をもとに，自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない，展示などの調査に基づいて，博物館の展示の意義と内容，その展示手法を学ぶ．事後には討議，ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる．命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フィールドワークI（1）.	博物館学と博物学．博物館フィールドワークについて【講義】
第2回	フィールドワークI（2）	フィールドワークについてテーマの設定と討議
第3回	フィールドワークII（1）【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する（1）
第4回	フィールドワークII（2）【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する（2）
第5回	フィールドワークII（3）【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する（3）
第6回	フィールドワークII（4）【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する（4）
第7回	フィールドワークIII（1）【現地フィールドワーク：神奈川県立・生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（1）
第8回	フィールドワークIII（2）【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（2）
第9回	フィールドワークIII（3）【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（3）
第10回	フィールドワークIV（1）【現地フィールドワーク：目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（1）
第11回	フィールドワークIV（1）【現地フィールドワーク：目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（2）
第12回	フィールドワークV（1）【現地フィールドワーク：国立科学博物館，付属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し，園の展示の工夫を調査する（1）
第13回	フィールドワークV（2）【現地フィールドワーク：国立科学博物館，付属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し，園の展示の工夫を調査する（2）
第14回	フィールドワークVI 討議・まとめ	各自で作成したレポートについて発表と討議をおこなう．フィールドワークのまとめ．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

疑問などはそのままにせず，まず自分で解決するよう努力して下さい．事前につたえるので，討議に必要な事前の調査，あるいは，授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）．

また，レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからのcopy &pasteは、容易に判明することが可能ですので行わないように．

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

進化生物学 －ゲノミクスが解き明かす進化－，赤坂甲治（著），裳華房，2021年出版，定価3520円（本体3200円＋税10％）

【参考書】

必要に応じて，その都度指示する．

【成績評価の方法と基準】

毎回行うフィールドワーク後のレポート（60%）および，授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）(40%)も加え，総合的に評価する．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては，自分で調べることが大切である．

【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもらう．適宜パソコンを使用できるようにしておくこと．

【その他の重要事項】
1) 現地調査（フィールドワーク）のための，交通費（宿泊はしません）が必要です（5,000～9,000円程度：入館料，ガイド料，交通費など，金額は前後することがあります.）．ガイダンスに必ず出席して下さい.
2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また，受講希望者が定員（最大20名程度）を超えた場合にも、再度，選抜を行います.
3) 2017年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミII」として履修する学生]半期のみの履修登録が可能となる方．教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミII「自然史」を両方とも履修すること.
※どちらか一方だけの授業は履修できません.
4) 2016年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学４（自然史)」として履修する方．年間科目として履修する方は、9月のオータムセッション（9月11日～9月17日）での，フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと.
5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意下さい。正当な理由のある遅刻を除き、１０分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード２枚で１回欠席となります。
6) 9月の初旬（オータムセッション：9月11日～9月17日）に，東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

【Outline (in English)】
In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits.
Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.
From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.
We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.
Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class.Your study time will be more than four hours for a class.
The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.
Students who have achieved at least 60%of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

CHM300LA（その他の化学 / Chemistry 300）

イオンの科学A

2017年度以降入学者

向井　知大

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月2**/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】
イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。実験は10分程度で終わるものもあれば、授業時間のほとんどを使うものもあります。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察(小レポート)を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫なように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明。
第2回	原子の構造	原子の構造と性質について。
第3回	砂糖と塩	有機化合物と無機イオンの違いについて。
第4回	金属の酸化とイオンの還元	金属を溶かしたり、鏡を作る実験。
第5回	炎色反応	花火の原理についての学習と炎色反応の実験。
第6回	化学発光	ルミノール発光やサイリウムの原理とその実験。
第7回	ホウ砂球反応	イオンの状態変化による色変化を利用したガラス玉を作る実験。
第8回	酸と塩基	酸塩基の定義の種類について。
第9回	色素の色変化	物質の色変化に及ぼすイオンの働きについて。
第10回	金属イオンの沈殿反応	イオンの組み合わせによる溶解度の違いについて。
第11回	金属イオンの分離1	様々なイオンが溶けた水溶液から特定のイオンを分離する実験。
第12回	金属イオンの分離2	様々なイオンが溶けた水溶液から分離したイオンを同定する実験。
第13回	金属イオンの定性分析	未知試料にどのイオンが含まれているかを検査する実験。
第14回	まとめ	これまでの内容のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やweb検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】
使用しません。

【成績評価の方法と基準】
毎回実験を行い、その結果のまとめを平常点(配分80%)として評価し、学期末の試験(配分20%)とあわせて評価します。実験結果のまとめは、その授業時間内に提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
実験だけでなく結果をまとめる時間を十分に取ることができるような配分にしています。

【その他の重要事項】
この授業はボアソナードタワー10階のサイエンスルームで行われます。
受講希望者数が過剰な場合、抽選を行う場合があります。
過去3年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】
This course introduces the fundamental principles of ions.
The goal of the course is to improve your science literacy.
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

CHM300LA（その他の化学 / Chemistry 300）

イオンの科学B

2017年度以降入学者

向井　知大

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】
イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。実験は10分程度で終わるものもあれば、授業時間のほとんどを使うものもあります。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察(小レポート)を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫なように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第2回	溶液の濃度	溶液中に含まれる分子、イオンの数の数え方について。
第3回	中和反応とpHの変化	中性のpHが7の理由と、中和反応におけるpH変化の測定。
第4回	弱酸と解離定数	重曹が洗剤、料理、消火剤に使われる原理について。
第5回	静電気と動電気	静電気と電池の違いについて。
第6回	ボルタの電池	電池における電解質の役割について。
第7回	銅板エッチング	鉄イオン溶液を使って金属銅を溶かす実験。
第8回	亜鉛めっきと合金	金属でできた銅製品を銀色にしたり、金色に変える実験。
第9回	自己触媒型無電解めっき	電気を使わないめっきの原理とその実験。
第10回	フォトレジスト	光化学反応を利用して金属表面に保護膜で模様を作る実験。
第11回	エッチング	ガラスにめっきされたニッケル薄膜を溶かして目的の模様を作る実験。
第12回	さびの生成と防食	さびが生成するメカニズムとこれを防止する方法について。
第13回	イオン液体	イオンのみからなる液体とその応用について。
第14回	まとめ	これまでの内容のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やweb検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】
使用しません。

【成績評価の方法と基準】
毎回の小レポートを平常点(配分80%)とし、学期末試験(配分20%)とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験だけでなく結果をまとめる時間を十分に取ることができるよう時間配分に気をつけています。

【その他の重要事項】
この授業はボアソナードタワー10階のサイエンスルームで行われます。
受講希望者数が過剰な場合、第1回目のガイダンスで抽選を行う場合があります。
過去3年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】
This course introduces the fundamental principles of ions.
The goal of the course is to improve your science literacy.
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

CHM300LA（その他の化学 / Chemistry 300）

物質の科学 A

2017年度以降入学者

中田　和秀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水3**/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】
本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回の授業では、まず、学習支援システム（HOPPII）からプリント教材をダウンロードして各自で印刷します。そのプリント教材をよく読んでから授業に臨んでください。各テーマごとに講義、演習、および、実験を取り入れた授業を行います。本授業は基本的には対面授業によって行われますが、講義や演習を行う場合にはオンライン形式で授業を行うこともあります。実験日には、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。各テーマ毎に課題として演習問題や実験レポートの作成・提出を行います。完成した課題は学習支援システム（HOPPII）を通して提出します。提出していただいた課題については次回の授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第2回	化学実験入門(1)	安全に化学実験を行うための注意事項やノートの取り方について講義します。
第3回	化学実験入門(2)	実験器具や試薬類の取り扱い方法を学習します。
第4回	レジンアートの解説	レジンアートに関連する化学について学習し、実際の作成に備えます。
第5回	ドライフラワーの作成	シリカゲルを使用してドライフラワーを作成し、シリカゲルの構造や性質について理解します。
第6回	シリコン樹脂の合成	二液混合型の透明シリコン樹脂を合成します。その際、第５回で作成したドライフラワーの入った型に樹脂を流し込み、レジンアートを作成します。
第7回	化学基本事項の説明(1)	物質の基本単位である分子について概要を講義します。
第8回	化学基本事項の説明(2)	分子の立体的な構造がどのように決まるのかを学習します。
第9回	化学基本事項の説明(3)	簡単な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第10回	化学基本事項の説明(4)	石けんなどの複雑な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第11回	香料の精製と分析	水蒸気蒸留およびクロマトグラフィーについて原理を学習します。
第12回	香料(ラベンダー)の精製	水蒸気蒸留によってラベンダーのつぼみから精油を取り出します。
第13回	香料(ラベンダー)の分析(1)	薄層クロマトグラフィーの原理を学習し、薄層プレートやキャピラリの準備を行います。
第14回	香料(ラベンダー)の分析(2)	ラベンダー精油について薄層クロマトグラフィーを行い、成分の分析を行います。なお、残ったラベンダー精油は、物質の科学Ｂ（秋学期開講）で合成する石鹸の香料として使用します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行って課題やレポート作成をおこなってください。

【テキスト（教科書）】
授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験は実施しません。成績は、出席（25 %）、各テーマ毎に提出するレポート（25 %）、および、平常点（50 %）によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】
実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【学生が準備すべき機器他】
PCやタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】
秋学期に開講される「物質の科学Ｂ」を引き続き受講してください。受講希望者が定員（24名）を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生はオンラインで開講される第１回目の授業に必ず出席してください。また、本授業の直後、すなわち、水曜日４時限に「教養ゼミⅠ・Ⅱ」も担当しております。合わせての履修をご検討いただければ幸いです。

【Outline (in English)】
Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and chemical technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances seem to have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, students perform various kinds of chemical experiments such as analyses, syntheses, and so on. Understanding chemistry in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture. Studying time will be more than two hours for a class. Students will be expected to have completed the required assignments and lab reports that should be submitted through HOPPII (https://hoppii.hosei.ac.jp). Overall grade in the class will be decided based on the following; attendance: 25%、assignments and lab reports: 25%、in class contribution: 50%.

CHM300LA（その他の化学 / Chemistry 300）

物質の科学Ｂ

2017年度以降入学者

中田　和秀

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】
本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮いたします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回の授業では、まず、学習支援システム（HOPPII）からプリント教材をダウンロードして各自で印刷します。そのプリント教材をよく読んでから授業に臨んでください。各テーマごとに講義、演習、および、実験を取り入れた授業を行います。本授業は基本的には対面授業によって行われますが、講義や演習を行う場合にはオンライン形式で授業を行うこともあります。実験日には、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。各テーマ毎に課題として演習問題や実験レポートの作成・提出を行います。完成した課題は学習支援システム（HOPPII）を通して提出します。提出していただいた課題については次回の授業内でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第2回	水の硬度	石けんの泡立ちに関係する水の硬度について概要と測定方法を解説します。
第3回	定量分析(1)	水道水や天然水のカルシウムイオン濃度を測定します。
第4回	定量分析(2)	水道水や天然水の硬度を測定します。
第5回	油脂の構造と種類	石けんの原料である油脂について分子構造と種類を学習します。
第6回	けん化価(1)	油脂の性質を表し石けんを合成する際にも重要な指標となるけん化価について学習します。
第7回	けん化価の測定(1)	中和滴定によりけん化価を測定します。２回にわたって測定し精度を確保します。（第１回）
第8回	けん化価の測定(2)	中和滴定によりけん化価を測定します。２回にわたって測定し精度を確保します。（第２回）
第9回	けん化価(2)	測定したけん化価から、石けんを合成する際に必要な水酸化ナトリウムの量がどのように計算されるか学習します。
第10回	オリーブ油石けんの合成	測定したけん化価を利用して、オリーブ油石けんを合成します。
第11回	やし油石けんの合成	測定したけん化価を利用して、やし油石けんを合成します。
第12回	透明石けんの合成	測定したけん化価を利用して、透明石けんを合成します。
第13回	蒸留・比重	蒸留・比重など物質に関する基本概念を学習し実験方法を解説します。
第14回	アルコール濃度の測定	蒸留前・蒸留後の酒類のアルコール濃度を比重測定を通して決定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行って課題やレポート作成をおこなってください。

【テキスト（教科書）】
授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験は実施しません。成績は、出席（25 %）、各テーマ毎に提出するレポート（25 %）、および、平常点（50 %）によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】
実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【学生が準備すべき機器他】
PCやタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】
春学期に開講される「物質の科学Ａ」から連続して受講してください。受講希望者が定員（24名）を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生は春学期の「物質の科学Ａ」の第１回目の授業に必ず出席してください。
また、本授業の直後、すなわち、水曜日４時限に「教養ゼミⅠ・Ⅱ」も担当しております。合わせての履修をご検討いただければ幸いです。

【Outline (in English)】
Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and chemical technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances seem to have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, students perform various kinds of chemical experiments such as analyses, syntheses, and so on. Understanding chemistry in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture. Studying time will be more than two hours for a class. Students will be expected to have completed the required assignments and lab reports that should be submitted through HOPPII (https://hoppii.hosei.ac.jp). Overall grade in the class will be decided based on the following; attendance: 25%、assignments and lab reports: 25%、in class contribution: 50%.

PRI300LA（情報学基礎 / Principles of informatics 300）

ＩＴリテラシー

2017年度以降入学者

児玉　靖司

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**1/Fri.1
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報通信技術（Information Communication Technology）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】
講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
春学期は、コンピュータの基礎（ソフトウェア・ハードウェア）からネットワーク、プログラミング言語等、ITリテラシーに関する話題について学ぶ。
毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	コンピュータの歴史	コンピュータの創生期から、現在のコンピュータまでについて学ぶ。
第3回	2進数、8進数、16進数（1）	2進数について基礎的な概念を学び、応用である8進数、16進数について学ぶ。
第4回	2進数、8進数、16進数（2）	2進数の計算から、8進数、16進数の計算について学ぶ。
第5回	2進数、8進数、16進数（3）	2進数の応用事例など補数、小数点数の表現等について学ぶ。
第6回	システムについて	コンピュータシステムを中心としたシステムについて学ぶ。
第7回	情報システム（1）	CMS（Contents Management System）を中心とした、情報システムについて学ぶ。
第8回	情報システム（2）	LMS、SNSを中心とした情報システムについて学ぶ。
第9回	情報セキュリティ（1）	ウィルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第10回	情報セキュリティ（2）	ウィルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第11回	ハードウェアの基礎	ハードウェアの基礎について学ぶ。
第12回	ハードウェアの応用	ハードウェアの応用について学ぶ。
第13回	インダストリー4.0	最近話題となっている新しい技術革新について解説する。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
基本的にパワーポイントの資料（PDF）をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】
開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】
春学期期末ウェブ試験が40%、平常点が60%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
基本的にPCの画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroomを活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers.
[Learning Objectives]
The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
The spring semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 40%and attendance score of 60%.

PRI300LA（情報学基礎 / Principles of informatics 300）

コンピュータ科学

2017年度以降入学者

児玉　靖司

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**1/Fri.1
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータ科学（Computer Science）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータに関する理論的、工学的側面について基礎および科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】
講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題とコンピュータ科学との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
秋学期は情報学を中心に応用事例について学ぶ。 具体的には、システム開発における要求分析（ソフトウェア工学）、情報セキュリティ、論理学の基礎、モデル検査等である。その他、オペレーティングシステム、言語処理系についても学ぶ。
毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	ネットワーク（1）	ネットワークの基礎について学ぶ。
第3回	ネットワーク（2）	ネットワークの仕組みについて学ぶ。
第4回	ネットワーク（3）	ネットワークの応用について学ぶ。
第5回	オペレーティング・システム（1）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第6回	オペレーティング・システム（2）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第7回	データベース	データベースについて学ぶ。
第8回	ソフトウェア工学（1）	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第9回	ソフトウェア工学（2）	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第10回	人工知能（1）	人工知能の基礎について学ぶ。
第11回	人工知能（2）	人工知能の応用について学ぶ。
第12回	コンパイラ（1）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にフロントエンドについて学ぶ。
第13回	コンパイラ（2）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にバックエンドについて学ぶ。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
基本的にパワーポイントの資料をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】
開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】
秋学期期末ウェブ試験が40%、平常点が60%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
基本的にPCの画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroomを活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers.
[Learning Objectives]
The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
The fall semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 40%and attendance score of 60%.

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

人間と地球環境

2017年度以降入学者

宇野　真介

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、国連の持続可能な開発目標（SDGs）が注目され日本も含め、世界各地で様々な取り組みがされています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困の問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、「持続可能性」をキーワードに人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、環境問題に関連する科学的な基礎に加え社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。これにより、現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持つための視点を得る機会を提供します。

【到達目標】
本授業では以下の３点を最終的到達目標とします。１）種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。２）環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。３）各種問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習（グループワーク）も行う予定です。また、各講義へのリアクションや質問を集約し、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境科学と持続可能性	導入として、持続可能性の概念および生態系の基本的特徴について学びます。
第2回	大気の変化と生態系	地球環境における大気の組成、その変化にともなう影響を考えます。
第3回	水の循環と水資源利用	生態系や生命の維持に重要な物質である水の観点から物質の循環や資源の問題を考えます。
第4回	エネルギーの供給	生態系におけるエネルギーの供給と人間社会におけるエネルギーの供給について考えます。
第5回	「土」というもの	日頃目を向けない「足元の世界」に注目し、土の成り立ちや関連する環境問題について考えます。
第6回	生物多様性はなぜ重要か？	生物多様性の基本的特徴、その現状と保全の重要性を学びます。
第7回	演習１：持続可能な資源利用のための応用生態学	これまでの授業内容の振り返りと資源管理における問題解決への応用を目的としたグループワークを行います。
第8回	近代農業の功罪	近代農業の成果と環境負荷について解説します。
第9回	食糧生産と環境保全	食糧供給と環境保全の両立へ向けての取り組みについて、事例に基づいて学びます。
第10回	開発は持続可能か？	鉱物資源に注目しつつ、自然資源に対する需要・供給に関わる問題を解説します。
第11回	「望まれぬ開発」という問題	発展途上国における「開発」がもたらす環境・社会問題を、現在起きている現場の状況を見ながら考えます。
第12回	演習２：多角的問題解決への挑戦	異なる立場の「当事者」の視点を考察しつつ、グローバル経済・開発をテーマとしたグループワークを行います。
第13回	持続可能な社会へ向けて	グローバル社会におけるオルタナティブな発展モデルについて、事例に基づいて考えます。
第14回	地球環境の現状とこれから	学習内容のまとめ。持続可能性の観点から見た現状と将来的展望を含めた全体像の把握を試みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標１、２）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標３）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。

【学生の意見等からの気づき】
映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。これに加え、各種Hoppiiの機能をより効果的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業内外での学習支援システム（WebClass）の使用を想定していますので、利用可能な準備をして参加してください。

【その他の重要事項】
30名の定員制です。必要に応じて選抜を行います。

【Outline (in English)】
[Course outline] The UN 2030 Agenda for Sustainable Development (Sustainable Development Goals: SDGs) has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.
[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental problems; to understand related social problems; and to develop a personal opinion about various problems the human species faces with a holistic understanding of the human impact on the global environment.
[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/ in-class contribution (20%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

Human Impact on the Global Environment

2017年度以降入学者

宇野　真介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The UN 2030 Agenda for Sustainable Development (Sustainable Development Goals: SDGs has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

【到達目標】
This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems; 2) to understand social problems related to the environmental problems addressed in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
The course will be taught mainly in a face-to-face lecture format, however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group activities and discussions. In addition to in-class interactions, students will submit their opinions about/reactions to the materials presented in each class, and the instructor will give feedback/answer questions, as needed.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.
Week 2	Atmospheric changes and their consequences	In light of the ongoing "climate crisis", the composition of the Earth's atmosphere and consequences of atmospheric changes will be discussed.
Week 3	Water cycle and the use of water resource	As an essential matter for sustaining life and ecosystem, the water cycle and use of water resource will be discussed.
Week 4	Energy supply	Energy supply in ecosystem and energy issue in the human society will be discussed.
Week 5	What is "soil"?	The importance of soil in an ecosystem will be discussed in relation to ongoing environmental problems.
Week 6	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 7	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 8	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 9	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.
Week 10	Is development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】
None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】
To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】
Student performance will be graded based on quizzes (40 %), a final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course material by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

【学生の意見等からの気づき】
Providing opportunities for students to interact with other students and exchange their opinions proved to be effective in enhancing their learning.

【学生が準備すべき機器他】
Students will need to have access to Hosei's e-learning system (WebClass). Online format may be used, as needed, and students are expected to prepare necessary devices in such a case.

【その他の重要事項】
There is an enrollment limit of 30 students. There will be selection, if the limit is exceeded, and, to be included in the selection, you will be required to pre-register for the course a few days before the semester begins. Additional information will be provided through the e-learning system, as needed.

【Outline (in English)】
[Course outline] The UN 2030 Agenda for Sustainable Development (Sustainable Development Goals: SDGs) has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.
[Learning objectives] The course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems; 2) to understand social problems related to the environmental problems addressed in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.
[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.
[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

ボルボックス生物論 A

2017年度以降入学者

植木　紀子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火3**/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植物プランクトンであるボルボックスは、生物が単細胞生物から多細胞生物への進化したプロセスを研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】
各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた実験・観察とその結果の考察を行います。それを通じて、対象物を正確に観察し記述する能力、問題解決能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・授業のはじめにその回のテーマについての講義と実験・観察方法の説明を行います。その後、グループごとに実験・観察課題に取り組み、結果をノートに記録していただきます。
・毎回、授業内容に関する簡単な練習問題を用意します。期限内に提出してください。
・授業ノートを学期終了時に提出していただきます。
・課題・練習問題・質問に対しては授業内もしくは学習支援システムを通じて適宜フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	進化のモデル生物ボルボックス	授業の概略を説明し、ボルボックスとそのなかまの生物学における位置付けについて紹介します。
第2回	ボルボックスの観察①	レーウェンフックの顕微鏡と同じ原理でボルボックスを見てみましょう。
第3回	ボルボックスの観察②	光学顕微鏡の原理を学び、明視野法や暗視野法によって生物を観察します。
第4回	ボルボックスの観察③	ボルボックスが回転しながら泳ぐようすや、その周りの水の流れを観察します。
第5回	淡水産プランクトン①	池や川の水の採集方法や観察方法を学び、どのような生き物がいるかを調べます。
第6回	淡水産プランクトン②	一週間培養した後の野外採集サンプルを観察し、その変化について考察します。
第7回	淡水産プランクトン③	観察結果のまとめを行い、形態や運動性の多様性を理解します。
第8回	プラナリア①	高い再生能力を持つ扁形動物プラナリアを切断する実験を行います。
第9回	プラナリア②	切断したプラナリアが一週間後にどのように再生しているかを観察します。
第10回	プラナリア③	プラナリアの採餌行動を観察し、からだの作りと機能を学びます。
第11回	走光性①	ボルボックスが環境の光を感知して遊泳方向を変える「走光性」を観察します。
第12回	走光性②	細胞から生える「鞭毛/繊毛」が生み出す水流が、光によってどのように変化するかを調べます。
第13回	走光性③	光を感知する構造「眼点」を観察し、ボルボックスの走光性のしくみを考察します。
第14回	まとめ	第13回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。必要に応じて、実験方法・課題などを記したプリントを配布します。

【参考書】
参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点　30%
・授業後の練習問題および授業ノート　70%（提出状況・理解度等を評価します）
・期末試験は行いません。
・正当な理由なく3回以上欠席した場合、原則として単位を認めません。また、20分以上の遅刻は欠席とみなします。（やむを得ない事情があれば個別に相談に応じます）

【学生の意見等からの気づき】
授業や実験が新鮮だった・難しすぎず楽しく学べた・最新の研究を知れてよかったなどの声をいただいています。これらを踏まえ、皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきます。

【その他の重要事項】
・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
The green alga Volvox is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using Volvox and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (30%), short test and class note (70%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

ボルボックス生物論Ｂ

2017年度以降入学者

植木　紀子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火3**/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植物プランクトンであるボルボックスは、生物が単細胞生物から多細胞生物への進化したプロセスを研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】
各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた実験・観察とその結果の考察を行います。それを通じて、対象物を正確に観察し記述する能力、問題解決能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・授業のはじめにその回のテーマについての講義と実験・観察方法の説明を行います。その後、グループごとに実験・観察課題に取り組み、結果をノートに記録していただきます。
・毎回、授業内容に関する簡単な練習問題を用意します。期限内に提出してください。
・授業ノートを学期終了時に提出していただきます。
・課題・練習問題・質問に対しては授業内もしくは学習支援システムを通じて適宜フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	進化のモデル生物ボルボックス	授業の概略を説明し、ボルボックスとそのなかまの生物学における位置付けについて紹介します。
第2回	有性生殖とその進化①	ボルボックスの無性生殖個体を観察しながら顕微鏡の扱いに慣れましょう。
第3回	有性生殖とその進化②	ボルボックスの有性生殖個体と無性生殖個体を観察して比較します。
第4回	有性生殖とその進化③	異なる種の有性生殖様式を比較し、性の進化について考察します。
第5回	粘菌の行動①	アメーバ状単細胞生物である真性粘菌（変形菌）の採餌行動を調べる実験を行います。
第6回	粘菌の行動②	粘菌内部の原形質が往復流動するようすを顕微鏡で観察・撮影します。
第7回	粘菌の行動③	粘菌が基質の上を移動するようすをタイムラプス撮影し、解析します。
第8回	生活環と形態形成①	ボルボックスの美しい球形を生み出す過程である「インバージョン」について学びます。
第9回	生活環と形態形成②	40分程度かかるインバージョンの過程をタイムラプス撮影します。
第10回	生活環と形態形成③	インバージョンの観察結果から、生物の形づくりのしくみとその進化について考えます。
第11回	鞭毛・繊毛の生理学①	ボルボックスの遊泳や光行動の観察を通して、真核生物が普遍的に持つ鞭毛・繊毛について学びます。
第12回	鞭毛・繊毛の生理学②	細胞膜を取り除いて死んでしまった細胞の運動を復活させる「ゾンビ・クラミドモナス実験」を行います。
第13回	鞭毛・繊毛の生理学③	鞭毛・繊毛がATPのエネルギーで動きカルシウムイオンで調節されることを実験を通して学びます。
第14回	まとめ	第13回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。必要に応じて、実験方法・課題などを記したプリントを配布します。

【参考書】
参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点　30%
・授業後の練習問題および授業ノート　70%（提出状況・理解度等を評価します）
・期末試験は行いません。
・正当な理由なく3回以上欠席した場合、原則として単位を認めません。また、20分以上の遅刻は欠席とみなします。（やむを得ない事情があれば個別に相談に応じます）

【学生の意見等からの気づき】
授業や実験が新鮮だった・難しすぎず楽しく学べた・最新の研究を知れてよかったなどの声をいただいています。これらを踏まえ、皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきます。

【その他の重要事項】
・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
The green alga Volvox is broadly used for studies of evolution of multicellularity. In this class, students address observation and experiment using Volvox and other organisms. The exciting microscopic world will provide students with opportunity to develop the ability to observe object accurately, to solve scientific problems and to describe experimental result and discussion.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (30%), short test and class note (70%).

CHM300LA（その他の化学 / Chemistry 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

中田　和秀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水4**/Wed.4
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代文明は、主に化石燃料の燃焼が介在する膨大なエネルギー消費の上に成立しています。また、化石燃料は肥料や合成樹脂をはじめとする人類にとって必要不可欠な種々の化学物質の原料でもあります。一方で、化石燃料の使用は、地球温暖化や酸性雨からプラスチックによる汚染に至るまで、種々の環境問題の原因となっています。そのような化石燃料は、現在、枯渇の危機に瀕しており、高度に発達した現代文明を維持・成長させていくことができるかは、代替のエネルギーや物質資源の確保にかかっています。本授業では、このような現状をふまえ、持続可能な社会を実現するために必要な構想について、化学の視点から学習します。

【到達目標】
持続可能な社会を実現するために提唱されている構想は、科学技術の進歩によって実現可能に思われるものからいかがわしいものまで乱立しています。これらの構想の中から真に有効なものを見極めるためには、化学的視点に立った「ものの見方」が必要不可欠です。そのような持続可能な社会を実現するための概念を習得することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回の授業までに、あらかじめ教科書の割り当て部分を各自で読み、学習します。さらに、内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、それらをレジュメにまとめます。完成したレジュメは、授業の前日までに学習支援システムに課題欄から提出します。授業では、各回の担当者が内容の発表を行い、その後、質疑応答を行います。また、提出していただいた課題や発表内容についてのフィードバックを行い、理解を深めます。化学を履修していない学生にも理解できるように配慮いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要の説明をおこないます。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第2回	第１章_序論	教科書の目的や内容について概要を把握する。
第3回	第２章_産業革命およびそれ以降における石炭の歴史	産業革命およびそれ以降における石炭の歴史について学習する。
第4回	第３章_石油と天然ガスの歴史	石油と天然ガスの歴史について学習する。
第5回	第４章_化石燃料資源とその利用(1)	石炭の性質とその利用方法について学習する。
第6回	第４章_化石燃料資源とその利用(2)	石油の性質とその利用方法について学習する。
第7回	第４章_化石燃料資源とその利用(3)	天然ガスの性質とその利用方法について学習する。
第8回	第５章_減少する石油と天然ガス資源	石油と天然ガス資源の枯渇について学習する。
第9回	第６章_炭素燃料、炭化水素およびその製品の継続的必要性	化石燃料の燃料、及び原料としての有用性を学習する。
第10回	第７章_化石燃料と気候変動	化石燃料と気候変動について学習する。
第11回	第８章_再生可能なエネルギー源と原子力エネルギー(1)	太陽を起源とする再生可能エネルギーについて学習する。
第12回	第８章_再生可能なエネルギー源と原子力エネルギー(2)	地熱を起源とする再生可能エネルギーについて学習する。
第13回	第８章_再生可能なエネルギー源と原子力エネルギー(3)	潮汐を起源とする再生可能エネルギーについて学習する。
第14回	まとめ	本授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成や発表資料作成等を行ってください。

【テキスト（教科書）】
下記書籍を教科書として使用する予定です。（購入は不要です。）
書籍名：メタノールエコノミー ―― CO_2をエネルギーに変える逆転の発想
著者名：G. A. オラー、A. ゲッペールト、G. K. S. プラカーシュ
訳者名：小林四郎、齋藤彰久、西村晃尚
出版社：化学同人

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーションの内容やレジュメの完成度（50%）、ディスカッションへの参加（50%）を総合的に考慮した平常点によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
エネルギーに関する授業内容は好評であったため、引き続き、同様の内容で開講します。

【学生が準備すべき機器他】
PCやタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】
教養ゼミは、順次性のある科目であり、春学期に開講される「教養ゼミⅠ」（持続可能社会のための化学）と秋学期に開講される「教養ゼミII」（持続可能社会のための化学）を、この順番で両方とも履修する必要があります。また、受講希望者が定員（24名）を超える場合は抽選をおこないますので、第1回授業に必ず参加してください。
本授業は、基本的に対面形式により行われます。
教科書は図書館で利用できますので購入する必要はありません。
本授業に関する質問等は、学習支援システムを通して受付ます。また、各回の学習範囲やレポート課題についても、学習支援システムによって指示いたします。

【Outline (in English)】
Modern civilization is constructed on the consumption of huge amount of energy obtained mainly by combustion of fossil fuels. Fossil fuels are also playing important roles as row materials of various chemical materials including fertilizers, plastics, and so on, that are indispensable for human lives. On the other hand, utilizing such the fossil fuels causes various kinds of environmental problems such as global warming, acid rain, and pollution by microplastics. In addition, they are in danger of exhaustion at the moment. Therefore, it is crucial to develop methods for earning alternative energies and various chemical compounds for maintaining our high level of civilization. In this class, students will learn concepts to realize sustainable society from the viewpoint of chemistry. Students will be expected to have completed short reports before each class meeting. The study time will be more than four hours for a class. The overall grade in the class will be decided based on short reports (50%) and in-class contribution (50%).

CHM300LA（その他の化学 / Chemistry 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

中田　和秀

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水4**/Wed.4
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代文明は、主に化石燃料の燃焼が介在する膨大なエネルギー消費の上に成立しています。また、化石燃料は肥料や合成樹脂をはじめとする人類にとって必要不可欠な種々の化学物質の原料でもあります。一方で、化石燃料の使用は、地球温暖化や酸性雨からプラスチックによる汚染に至るまで、種々の環境問題の原因となっています。そのような化石燃料は、現在、枯渇の危機に瀕しており、高度に発達した現代文明を維持・成長させていくことができるかは、代替のエネルギーや物質資源の確保にかかっています。本授業では、このような現状をふまえ、持続可能な社会を実現するために必要な構想について、化学の視点から学習します。

【到達目標】
持続可能な社会を実現するために提唱されている構想は、科学技術の進歩によって実現可能に思われるものからいかがわしいものまで乱立しています。これらの構想の中から真に有効なものを見極めるためには、化学的視点に立った「ものの見方」が必要不可欠です。そのような持続可能な社会を実現するための概念を習得することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回の授業までに、あらかじめ教科書の割り当て部分を各自で読み、学習します。さらに、内容に関して興味を持った箇所を、発展的な読書やインターネット上の資料調査を通してより深く学習し、それらをレジュメにまとめます。完成したレジュメは、授業の前日までに学習支援システムに課題欄から提出します。授業では、各回の担当者が内容の発表を行い、その後、質疑応答を行います。また、提出していただいた課題や発表内容についてのフィードバックを行い、理解を深めます。化学を履修していない学生にも理解できるように配慮いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業概要の説明をおこないます。
第2回	第８章_再生可能なエネルギー源と原子力エネルギー(4)	原子力エネルギーについて学習する。
第3回	第９章_「水素経済社会」とその限界(1)	水素の物性について学習する。
第4回	第９章_「水素経済社会」とその限界(2)	水素の製造方法について学習する。
第5回	第９章_「水素経済社会」とその限界(3)	水素の安全性について学習する。
第6回	第９章_「水素経済社会」とその限界(4)	燃料電池について学習する。
第7回	第１０章_「メタノールエコノミー」：総論	「メタノールエコノミー」についての概要を把握する。
第8回	第１１章_燃料とエネルギー媒体としてのMeOHとDME(1)	燃料とエネルギー媒体としてのメタノールについて学習する。
第9回	第１１章_燃料とエネルギー媒体としてのMeOHとDME(2)	燃料とエネルギー媒体としてのジメチルエーテルについて学習する。
第10回	第１２章_メタノールの製造(1)	化石燃料からメタノールを合成する方法を学習する。
第11回	第１２章_メタノールの製造(2)	バイオマスからメタノールを合成する方法について学習する。
第12回	第１２章_メタノールの製造(3)	二酸化炭素のメタノールへのケミカルリサイクリングについて学習する。
第13回	第１３章_メタノールに由来する化学品、合成炭化水素および化学原料	メタノールから合成できる化学物質について種類や合成法を学習する。
第14回	まとめ	本授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがってレジュメ作成や発表資料作成等を行ってください。

【テキスト（教科書）】
下記書籍を教科書として使用する予定です。（購入は不要です。）
書籍名：メタノールエコノミー －－ CO2をエネルギーに変える逆転の発想
著者名：G. A. オラー、A. ゲッペールト、G. K. S. プラカーシュ
訳者名：小林四郎、齋藤彰久、西村晃尚
出版社：化学同人

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーションの内容やレジュメの完成度（50%）、ディスカッションへの参加（50%）を総合的に考慮した平常点によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
エネルギーに関する授業内容は好評であったため、引き続き、同様の内容で開講します。

【学生が準備すべき機器他】
PCやタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】
教養ゼミは、順次性のある科目であり、春学期に開講される「教養ゼミⅠ」（持続可能社会のための化学）と秋学期に開講される「教養ゼミII」（持続可能社会のための化学）を、この順番で両方とも履修する必要があります。また、受講希望者が定員（24名）を超える場合は抽選をおこないますので、春学期に開講される「教養ゼミⅠ」（持続可能社会のための化学）の第1回授業に必ず参加してください。本授業は、基本的に対面形式により行われます。教科書は図書館で利用できますので購入する必要はありません。本授業に関する質問等は、学習支援システムを通して受付ます。また、各回の学習範囲やレポート課題についても、学習支援システムによって指示いたします。

【Outline (in English)】
Modern civilization is constructed on the consumption of huge amount of energy obtained mainly by combustion of fossil fuels. Fossil fuels are also playing important roles as row materials of various chemical materials including fertilizers, plastics, and so on, that are indispensable for human lives. On the other hand, utilizing such the fossil fuels causes various kinds of environmental problems such as global warming, acid rain, and pollution by microplastics. In addition, they are in danger of exhaustion at the moment. Therefore, it is crucial to develop methods for earning alternative energies and various chemical compounds for maintaining our high level of civilization. In this class, students will learn concepts to realize sustainable society from the viewpoint of chemistry. Students will be expected to have completed short reports before each class meeting. The study time will be more than four hours for a class. The overall grade in the class will be decided based on short reports (50%) and in-class contribution (50%).

BAB300LA（基礎生物学 / Basic biology 300）

バイオイメージングの世界A　2017年度以降入学者

木原　章

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水2**/Wed.2
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生き物は、一生を通じて刻一刻と形を変化させ、成長・老化します。その形態を、画像として記録する事で、その生き様をかいま見る事が可能です。本授業では、粘菌・アサガオ・ソバ・プラナリア・ダンゴムシ・アリ等の生き物を対象として、その生きる様子を学びます。

【到達目標】
そのために、本授業ではデジカメを使って生物が生きる様子を記録し、その記録画像を動画として編集したり、画像解析ソフトで数値解析する事で生きる謎の解明に挑戦します。その過程で、生き物について学び、新しい発見をする喜びを体験して頂く事を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
教員の怪我に伴い、4月の授業はオンラインで行います。
5月以降は、実験室で以下のような方式で行う予定です。
先ず入門編として、ソバの発芽について学びます。種を植えれば芽が出てくると言う、一見当たり前の事も、その過程を映像として再現するためには様々な工夫が必要です。インターバル撮影を使うと、アサガオが花芽をつけて花を咲かせるまでの過程も映像化できるようなります。
　プラナリアは、半分に切っても、また再生して2つの個体になります。この再生過程についても映像として記録します。
　カイコでは、まゆ作りの過程を記録します。
　アリについては、巣作りの様子や、6本脚歩行の様子の記録・解析を行います。
　粘菌では、迷路のような成長過程を、画像解析で調べます。
　これらの活動を通じて、生き物の映像を記録し解析するための基本的な手法を学ぶ事になります。なを、扱う生物材料は、その時の生き物の成育状況によって変わることが有ります。
受講生は、授業で行ったことを発表するポスターを製作します。
　なお、HOPPII等を通じて出された質問・疑問・問題解決法については，次の回の授業でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメージングの基礎	授業の概略を説明します。
②	映像の研究	生き物の様々な映像を見ながら、その撮影法やそれによって分かることを解説します。
③	映像の歴史	デジカメがない時代にどんな苦労があったのか、科学史的な視点でバイオイメージングを振り返ります。
④	種々の長時間記録法	インターバル撮影の応用法について学びます。
⑤	拡大撮影法・プラナリア走性の観察	小さい生き物の撮影法を学びます。
⑥	画像解析法・粘菌の移動速度の測定	動き回る生き物をどの様に記録に残すか学びます。
⑦	画像の整理法・根の成長の観察	様々な条件で撮影した画像の整理方法を学びます。
⑧	スタジオ撮影手法・芽生えの回転運動	撮影環境の設定法について学びます。
⑨	ストロボ撮影手法・種子の回転運動	ストロボによって動きを止めて撮影する方法を学びます。
⑩	ハイスピード撮影技法・カイコの飛翔	高速撮影によって、速い動きを観察する方法を学びます。
⑪	ハイスピード撮影技・アリの歩行	アリの６本足歩行の様子をハイスピード記録して解析します。
⑫	データ整理法・芽生えの記録１	様々な種子の芽生えを記録した後、そのデータを整理して比較する方法を学びます。
⑬	動画編集手法・芽生えの記録２	様々な種子の芽生えを記録した後、動画として編集する手法を学びます。
⑭	春学期データ整理	春学期のデータについて、ノート上で整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先ず、自分が担当する事に成った生き物について、図書館などで資料を調べて下さい。また、生き物の飼育が必要に成った場合は、授業時間外でも大学に来て餌を与えたり、様子を撮影したりする作業が発生します。班ごとに、うまく当番制にして、生き物を殺さないようにしましょう。これらの活動を合計して週４時間以上の学習を行って頂きます。

【テキスト（教科書）】
テキストは有りません。

【参考書】
必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
最終プレゼンを30％、授業中の活動を70％として成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
「カイコをもっとやりたかった」とか「ダンゴムシをもっと見たかった」というご意見が良く寄せられます。授業日の生き物の状態や天候によっては、予定を変更する場合が有ります。その結果、シラバスに記載した生き物扱いが十分できない場合も有りますので、ご承知おき下さい。

【学生が準備すべき機器他】
教室内のパソコンを多用します。

【その他の重要事項】
上記のリストに嫌いな生き物がいる場合は、活動の観察者として直接生き物とかかわらないように配慮しますので、事前に申告して下さい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomenas. Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion. Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.
【Learning Objectives】
The goal of this class is not to learn the scientific text book matters, but to learn the scientific methods to understand the mechanism of life. For this purpose, students will be required more experimental works.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the experimental notebook after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on the required presentations(30%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (70%).

BAB300LA（基礎生物学 / Basic biology 300）

バイオイメージングの世界Ｂ　2017年度以降入学者

木原　章

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水2**/Wed.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生き物は、一生を通じて刻一刻と形を変化させ、成長・老化します。その形態を、画像として記録する事で、その生き様をかいま見る事が可能です。本授業では、粘菌・アサガオ・ソバ・プラナリア・ダンゴムシ・アリ等の生き物を対象として、その生きる様子を学びます。

【到達目標】
春学期の「バイオイメージングの世界A」で学んだ技術を利用して、各班ごとに、独自のテーマ設定をして生命活動のしくみを画像記録して、その解明を行います。これらの活動を通じて、班ごとのプロジェクト遂行能力を身につけて頂くことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本授業では、春学期の「バイオイメージングの世界A」で学んだ技術を利用して、特定の生き物に的を絞って、より高度な記録に挑戦します。そのために、それぞれの生き物の特徴を理解し、何を調べたら良いかを考えます。例えば、春学期に学んだソバの発芽過程で、光の方向を変えるとどうなるでしょう？ プラナリアを10等分したらどうなるでしょう？ そんな問題点を設定し、その解決法を探って行きます。
班別に決めたテーマについての活動は、班ごとのプロジェクトとして進行し、最終的にプレゼンテーションとしてまとめて頂きます。これまでのテーマには「アリの６足歩行」「様々な種子のと栄養貯蔵と発芽速度の関係」「女王アリの産卵行動」「プラナリアの再生」等でした。（ＢＴ０９００教室の前に掲示中です）
授業では、実際に自分で機材の使い方を学ぶ実習的な要素が強くなりますので、出席が単位取得の前提となります。
なお、HOPPII等を通じて出された質問・疑問・問題解決法については，次の回の授業でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメージングの基礎	授業の概略を説明します。
②	秋学期プロジェクト計画	プロジェクト計画作成法
③	秋学期プロジェクト計画	班別にプロジェクト計画を作成します
④	秋学期プロジェクト計画発表会	班ごとにプロジェクト計画を発表します。
⑤	秋学期プロジェクト開始	班別作業
⑥	秋学期プロジェクト第2回	班別作業
⑦	秋学期プロジェクト第３回	班別作業。
⑧	秋学期プロジェクト・中間発表	各班のプロジェクト進行状況を報告します。
⑨	秋学期プロジェクト第４回	班別作業
⑩	秋学期プロジェクト第５回	班別作業
⑪	秋学期プロジェクト第６回	班別作業
⑫	秋学期プロジェクト・ポスター作成作業１	データ整理、表・グラフ作成などポスターのコンテンツを作ります
⑬	秋学期プロジェクト・ポスター作成作業２	プロジェクトの活動報告ポスターを作成します。
⑭	ポスターコンテスト	班毎に10分程度(質疑応答を含む) のポスターの発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先ず、自分が担当する事に成った生き物について、図書館などで資料を調べて下さい。また、生き物の飼育が必要に成った場合は、授業時間外でも大学に来て餌を与えたり、様子を撮影したりする作業が発生します。班ごとに、うまく当番制にして、生き物を殺さないようにしましょう。これらの活動を合計して、週4時間以上の学習を行って下さい。

【テキスト（教科書）】
テキストは有りません。

【参考書】
必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
最終プレゼンを30％、授業中の活動を70％として成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
「カイコをもっとやりたかった」とか「ダンゴムシをもっと見たかった」というご意見が良く寄せられます。授業日の生き物の状態や天候によっては、予定を変更する場合が有ります。その結果、シラバスに記載した生き物扱いが十分できない場合も有りますので、ご承知おき下さい。

【学生が準備すべき機器他】
教室内のパソコンを多用します。

【その他の重要事項】
必ず専用のノートを一冊用意して下さい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomenas.Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion. Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.
【Learning Objectives】
The goal of this class is not to learn the scientific text book matters, but to learn the scientific methods to understand the mechanism of life. For this purpose, students will be required more experimental works.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the experimental notebook after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on the required presentations (30%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (70%).

CHM300LA（その他の化学 / Chemistry 300）

環境の科学 A

2017年度以降入学者

田中　雅人

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月4**/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人類の日常生活の利便性向上に伴い、天然資源の浪費や環境汚染など環境問題やエネルギー問題が社会問題となり、世界的に持続可能な社会を実現する取り組みに関心が高まっています。環境問題を理解するためには、科学的な視点で環境影響をとらえることが重要です。本授業では、環境に関する知識だけではなく分析化学的な手法による環境分析などの実験も行い、環境を科学的にとらえる視点を養うことを目的とします。

【到達目標】
環境中の物質循環のしくみや大気汚染、水質汚染、土壌汚染など、身近な環境の問題が引き起こされるメカニズムについて理解を深めます。また、実際に環境中の水や土壌などを分析します。これらを通じて環境問題を身近な問題として捉え、環境に対する意識向上をさせるとともに、環境問題を科学的な視点で捉えることができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業では、環境科学に関する講義とともに基本的な環境分析などの実験を行います。理解度の確認のための課題や実験のレポート課題を出します。課題の内容については、次回の授業で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要について説明します。
第2回	分析化学の基礎 (1)	有効数字など分析データの取り扱いについて解説します。
第3回	分析化学の基礎 (2)	酸化剤(還元剤)の濃度を分析する酸化還元滴定を行います。
第4回	分析化学の基礎 (3)	金属濃度を分析するキレート滴定を行います。
第5回	環境中の物質循環	地球上の水などの物質の循環について解説します。
第6回	大気環境の科学 (1)	地球大気の構造とオゾン層について解説します。
第7回	大気環境の科学 (2)	温室効果ガスについて解説します。
第8回	大気環境の科学 (3)	大気汚染物質について解説します。
第9回	水環境の科学	水環境や水質基準について解説します。
第10回	水試料の分析[春学期](1)	環境水試料を分析するための前処理を行います。
第11回	水試料の分析[春学期](2)	環境水試料[春学期]の溶存酸素(DO)や化学的酸素要求量(COD)を調べます。
第12回	水試料の分析[春学期](3)	環境水試料[春学期]のリン酸濃度などの富栄養化項目を調べます。
第13回	水試料の分析[春学期](4)	環境水試料[春学期]の分析結果について考察します。
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
身近な環境に関するテーマを扱うので興味を持った事柄についてWebや書籍等で調べてみてください。各回終了後は、課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
・坂田昌弘 編「環境化学」講談社
・鈴木孝弘 著「新版 新しい環境科学」駿河台出版社
・酒井忠雄 編「環境・分析化学実験 第3版」三共出版
その他に授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】
成績は、授業で出題する課題や実験レポート課題(70%)、期末試験（30%）により取組みや理解度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【その他の重要事項】
この授業はサイエンスルーム(化学)で行います。受講希望者数が定員(30名)を超える場合は、第1回目のガイダンスで抽選を行います。
環境試料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
There is growing interest worldwide in efforts to achieve a sustainable society. To understand environmental issues, it is important to understand environmental impacts from a scientific perspective. The goal of this course is to cultivate a scientific perspective on the environment. For the purpose, students will not only learn about environmental issues, but also conduct experiments such as environmental analysis.
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
required assignments: 70%, Term-end examination: 30%

CHM300LA（その他の化学 / Chemistry 300）

環境の科学Ｂ

2017年度以降入学者

田中　雅人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**4/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人類の日常生活の利便性向上に伴い、天然資源の浪費や環境汚染など環境問題やエネルギー問題が社会問題となり、世界的に持続可能な社会を実現する取り組みに関心が高まっています。環境問題を理解するためには、科学的な視点で環境影響をとらえることが重要です。本授業では、環境に関する知識だけではなく分析化学的な手法による環境分析などの実験も行い、環境を科学的にとらえる視点を養うことを目的とします。

【到達目標】
環境中の物質循環のしくみや大気汚染、水質汚染、土壌汚染など、身近な環境の問題が引き起こされるメカニズムについて理解を深めます。また、実際に環境中の水や土壌などを分析します。これらを通じて環境問題を身近な問題として捉え、環境に対する意識向上をさせるとともに、環境問題を科学的な視点で捉えることができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業では、環境科学に関する講義とともに基本的な環境分析などの実験を行います。理解度の確認のための課題や実験のレポート課題を出します。課題の内容については、次回の授業で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要について説明します。
第2回	土壌環境の科学	土壌の構成物質、土壌の機能、土壌汚染などについて解説します。
第3回	土壌試料の分析(1)	土壌試料の土壌pH、土壌溶液などを調べます。
第4回	土壌試料の分析(2)	土壌試料の陰イオン吸着能を調べます。
第5回	土壌試料の分析(3)	土壌試料の陽イオン吸着能を調べます。
第6回	土壌試料の分析(4)	土壌試料の分析結果について考察します。
第7回	化学物質と環境	化学物質による環境影響について解説します。
第8回	水中の金属分析(1)	水道水やミネラルウォーターの硬度を調べます。
第9回	水中の金属分析(2)	水試料の電気伝導度や重金属濃度を調べます。
第10回	水試料の分析[秋学期](1)	環境水試料[秋学期]を分析するための前処理を行います。
第11回	水試料の分析[秋学期](2)	環境水試料[秋学期]の溶存酸素(DO)や化学的酸素要求量(COD)を調べます。
第12回	水試料の分析[秋学期](3)	環境水試料[秋学期]のリン酸濃度などの富栄養化項目を調べます。
第13回	水試料の分析[秋学期](4)	環境水試料[秋学期]の分析結果について考察します。
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
身近な環境に関するテーマを扱うので興味を持った事柄についてWebや書籍等で調べてみてください。各回終了後は、課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
・坂田昌弘 編「環境化学」講談社
・鈴木孝弘 著「新版 新しい環境科学」駿河台出版社
・酒井忠雄 編「環境・分析化学実験 第3版」三共出版
その他に授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】
成績は、授業で出題する課題や実験レポート課題(70%)、期末試験（30%）により取組みや理解度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【その他の重要事項】
この授業はサイエンスルーム(化学)で行います。受講希望者数が定員(30名)を超える場合は、第1回目のガイダンスで抽選を行います。
環境試料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
There is growing interest worldwide in efforts to achieve a sustainable society. To understand environmental issues, it is important to understand environmental impacts from a scientific perspective. The goal of this course is to cultivate a scientific perspective on the environment. For the purpose, students will not only learn about environmental issues, but also conduct experiments such as environmental analysis.
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
required assignments: 70%, Term-end examination: 30%

LANe300LA（英語 / English language education 300）

Issues in Modern Japanese Society A

2017年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火3**/Tue.3
単位数：**2単位**
レベル3〜4（各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/）
定員制（15）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy,immigration, minorities, etc.) using mostly materials (news items) written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to examine and think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

【到達目標】
This intermediate to advanced English course examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan,engage in discussion, and express their own opinion in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper and magazine articles) on Japan written by mostly foreign writers, as well as other media, will be assigned prior to every class. Class sessions may include lecture, comprehension check, small and large group discussions, group debates, and a final presentation by students. Feedback to students is provided on written work as well as during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: Defining Quality of Life and Happiness	Self-introductions, course explanation, placement test
2	Japanese university education and student ability	Reading and discussion
3	The economy, careers and the job hunting of University Students	Reading and discussion
4	Gender issues: exploring the low birthrate in Jaapn	Reading and discussion
5	Gender Part II: the role of women in Japanese society	Reading,discussion and debate
6	Multicultural Japan: accepting foreign immigrants	Reading and discussion
7	Immigration in Japan (II)	Reading and discussion, and debate
8	Mid-semester Review	Midterm Essay due.
9	School education related Issues	Review of writing assignments
10	Educational Issues:Conformity and Ijime	Readings and discussion
11	School education: the struggle for foreign language aquisition	Reading, discussion &debate
12	Various topics	Students presentations and feedback
13	Nationalism in Japan	Final papers submitted
14	Course wrap up: Pursuit of happiness and life satisfaction	Hand back final papers

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Readings must be done prior to class sessions. Students are responsible for looking up unfamiliar vocabulary and preparing answers for discussion questions.
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours week for a two-credit course.

【テキスト（教科書）】
No required textbook. Reading materials will be provided by the instructor.

【参考書】
Students should have a good English-Japanese dictionary either in paper or electronic format to use both in and outside of class.

【成績評価の方法と基準】
Students will be evaluated partly their willingness to express themselves in both spoken and written English.
Class Participation: 30%
Midterm essay and Final report: 60%
Presentation: 10%
Attendance Policy: Students can miss no more than three classes per semester without a good reason (illness, emergency, etc). Coming to late class more than twice=one absence.

【学生の意見等からの気づき】
Students should have some prior experience writing essays and /or reports in English, Students will be do short debates in groups.

【学生が準備すべき機器他】
Students should have a good dictionary (paper or electronic) and a file folder for keeping handout materials and notes.

【その他の重要事項】
Students may choose to audit the course after receiving approval from the instructor.
International Students are very welcome to enroll in this course if they have sufficient English proficiency.

【Outline (in English)】
Issues in Modern Japanese Society: This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will be able to choose which topics in society interest them the most.

LANe300LA（英語 / English language education 300）

Issues in Modern Japanese Society B

2017年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火3**/Tue.3
単位数：**2単位**
レベル3〜4（各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://hosei-keiji.jp/ilac/gaikokugo/）
定員制（15）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This intermediate to advanced level course examines various aspects of Japanese society (education, economy, gender, etc.) using authentic materials. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will be able to choose which topics related to society that they would like to investigate and discuss during the semester.

【到達目標】
Students will be able to improve their academic speaking (discussion, debate) and writing skills as a result of participation in this course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
This course is conducted in English. English readings (newspaper articles, etc) will be assigned prior to every class. Class sessions will include lecture, small and big group discussions, occasional debates and final presentations by students. Readings and topics may change somewhat based on the preference and convenience of class members. Course feedback will be provided in class and on written assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: How to affect societal change with implementation and revision of policy	Reading and discussion
2	How Japan is viewed overseas	Reading and discussion
3	Japan as viewed overseas (II)	Reading, video, discussion
4	Nationalism in Japan: defining xenophobia	Reading,discussion, debate
5	Nationalism in Japan(II): the so-called "insular" student	Reading, discussion &debate
6	The declining bithrate: youth trends in Japan	Midterm reflection paper due
7	Youth trends (II): the decline of marriage	Return midterm essay; lecture on improving writing
8	Japanese belief systems: Where do values come from?	Reading and discussion
9	Belief systems (II): Spiritulity and organized religion	Readings, discussion and debate
10	Death by Overwork: Made in Japan?	Lecture, readings, video & discussion
11	Overwork Suicide: A National Crisis	Reading, discussion &debate
12	Various topics	Students'individual presentations and class feedback
13	Is Japan's Economy getting worse? The Declinist Debate	Final papers (reports) due
14	Healthy life-work balance: A review	Return final reports & Semester Wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students should come prepared to class by doing the assigned readings, looking up unfamiliar vocabulary words, etc. Students are expected to have some experience writing a simple essay, including paragraph writing, introduction, body and conclusion.
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours week for a two-credit course.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook for this course. The instructor will provide reading materials each week.

【参考書】
Students should have a good English-Japanese dictionary, either paper or electronic and bring it to class every week.

【成績評価の方法と基準】
Students will be evaluated on their understanding of the material as well as their ability to express themselves in both spoken and written English.
Class Participation: 30%
Midterm and Final Papers: 60%
Presentation: 10%
Attendance Policy: Students cannot be absent more than three times to earn credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】
More opportunities for student debate will be incorporated into classroom activities, depending on the number of students enrolled.

【学生が準備すべき機器他】
Student should have a good dictionary (paper or electronic) and a file folder for keeping and organizing class handouts and readings.

【その他の重要事項】
Attendance is very important. Students who have more than three unexcused absences may not receive credit for this course. Students should have some experience in writing essays or reports in English. Students may enroll in this course only for one semester if they wish. International students are very welcome to enroll in this course. Students wishing to audit the course may do so only with the permission of the instructor.

【Outline (in English)】
This intermediate to advanced English course examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and and will be able to exercise critical thinking to give and clarify their opinions in English.

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

第三外国語としてのドイツ語Ａ　2017年度以降入学者

林　志津江

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火3**/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。発音の規則を習得するとともに、平易なドイツ語で書かれた文章の読解や会話練習を通じて、ドイツ語文法の基礎を学びます。ドイツ語学習を通じて「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけます。

【到達目標】
1）ドイツ語の発音の規則、初級文法、簡単な文章表現などの練習を通じて、ドイツ語の考え方の基本を理解すること。具体的には、ドイツ語技能検定試験（独検）の4級～5級合格レベル到達を目指します。
2）ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力や、他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっていることを実感できること。
3）ドイツ語・ドイツ語圏という異文化と接することで、自分の属する文化と言語圏について反省的に考えられるようになることが最大の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテクストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テクストの内容や文法を確認していきます。
・LMSとして、Google Classroomを使用します。
・連絡手段として、学期を通じ法政Gメールをチェックしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／Lektion1：発音の規則（1）、あいさつの表現	授業の進め方と辞書についての説明、アルファベートと発音の規則1、あいさつの表現1
2	Lektion1：発音の規則（2）、ドイツ語圏ってどこにあるの？	つづり字と発音の規則、ドイツ語ってどこで話されている言葉？ ふたつの二人称
3	Lektion1＆Lektion2：発音の規則（3）、動詞の不定詞と現在人称変化（1）、並列の接続詞	自己紹介１：人称代名詞（1格）と動詞の現在人称変化（1）、平叙文と定動詞第2位の原則
4	Lektion2：動詞の現在人称変化（2）	人称代名詞（1格）と動詞の現在人称変化（2）、自己紹介2、さまざまな疑問文のパターン
5	Lektion3：名詞の性と格（1）	名詞の格（1）、定冠詞と不定冠詞（1）
6	Lektion3：名詞の性と格（2）	名詞の格、定冠詞と不定冠詞、否定冠詞keinと否定文
7	Lektion4：名詞の複数形・人称	「品詞」について今一度理解度を確認する（1）、人称代名詞と所有冠詞をしっかり区別する
8	Lektion5：不定冠詞類・定冠詞類	「品詞」について今一度理解度を確認する（2）、人称代名詞と所有冠詞をしっかり区別する
9	Lektion6：語幹の母音が変音する動詞（不規則動詞）（1）	動詞の現在人称変化（3）
10	Lektion6：語幹の母音が変音する動詞（不規則動詞）（2）	動詞の現在人称変化（4）
11	Lektion7：、命令法と態（Modus）	２人称と依頼の表現、ドイツ語の日常的なモノと人の感覚について
12	Lektion7：話法の助動詞（1）	「話法の助動詞」の構文、枠構造の意味
13	Lektion7：話法の助動詞（2）	話法の助動詞を使うそのココロを理解する
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：次週扱うテクストの箇所を読んでくること。
復習：文法問題を中心とした提出課題（宿題）を随時用意します。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・新倉真矢子ほか著『ゲナウ！ Grammatik neu』（郁文堂、2018/2023年）（￥2,200）
・学習用独和辞典（別途授業内で案内します）

【参考書】
中島悠爾、朝倉巧、平尾浩三著『(改訂版）必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003年（￥1,728）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（ペアワーク・グループワーク含む）と提出物の成果を合わせて評価する平常点（５０％）および学期末試験（５０％）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典（学習用）は必携です。必ず用意して毎回の授業に持参して下さい（辞書類については第一回授業時に説明をします）
・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCまたはタブレット、スマートフォン）

【その他の重要事項】
・上記に記した内容や順序は、皆さんの理解度に応じて変更されることがあります。
・「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」等の受検とその結果は、上記「成績評価の方法と基準」のうち、「授業への積極的な参加」に加算されます（2025年7月下旬までに担当者に通知されたものに限ります）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
German course for absolute Beginners - This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.
The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed preparation and review tasks.
【Grading Criteria /Policy】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 50%of end-of-term assignments (tests).

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

第三外国語としてのドイツ語Ｂ　2017年度以降入学者

林　志津江

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火3**/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。（春学期開講の「第三外国語としてのドイツ語A」に引き続き）初級文法の基礎を学びます。簡単なドイツ語を読み、書き、話すためのトレーニングとともに、ドイツ語学習の体験を単なる知識のインプットに留まらない「大人の外国語の学び方」の習得につなげていきます。

【到達目標】
1）ドイツ語の発音の規則、初級文法、簡単な文章表現などの練習を通じて、ドイツ語の考え方の基本を理解すること。具体的には、ドイツ語技能検定試験（独検）の4級～5級合格レベル到達を目指します。
2）ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力や、他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっていることを実感できること。
3）ドイツ語・ドイツ語圏という異文化と接することで、自分の属する文化と言語圏について反省的に考えられるようになることが最大の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテクストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テクストの内容や自分の文法理解を確認します。
・LMSとして、Google Classroomを使用します。
・連絡手段として、学期を通じ法政Gメールをチェックしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	動詞の現在人称変化、名詞の格変化（冠詞）と人称の格変化、話法の助動詞
2	Lektion8：再帰代名詞・再帰動詞	他動詞の再帰表現、再帰代名詞を用いた表現
3	Lektion9：分離動詞・非分離動詞	動詞の前綴りの話、複合動詞のいろいろ、前つづりと定動詞・枠構造の関連を理解する
4	Lektion9：zu不定詞	不定詞とzu不定詞およびその用法、zu不定詞句を使った表現
5	Lektion9：従属の接続詞	従属接続詞と副文の作り方、主文と副文の違いを理解する
6	Lektion10：動詞の３基本形（I）（１）・現在完了形	現在完了形を使うそのココロとは？
7	Lektion10：動詞の３基本形（I）（２）・過去時制	過去時制と過去人称変化、現在完了形と過去時制の違いとは？
8	Lektion11：動詞の３基本形（II）・受動態	なんで受動態にしなきゃいけないワケ？　受動の助動詞２種類（行為受動、状態受動）
9	Lektion12：形容詞（１）・形容詞の格変化	形容詞の用法と形容詞の格変化
10	Lektion12：形容詞（２）・比較表現	並列の接続詞、従属の接続詞、形容詞の用法、付加語的用法と格変化
11	Lektion12：関係代名詞（１）	定関係代名詞・指示代名詞の格変化、関係代名詞（副文）
12	Lektion12：関係代名詞（２）	関係副詞・不定関係代名詞
13	補足：接続法	接続法第I式および第II式について
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：次週扱うテクストの箇所を読んでくること。
復習：文法問題を中心とした提出課題（宿題）を随時用意します。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・新倉真矢子ほか著『ゲナウ！ Grammatik neu』（郁文堂、2018/2023年）（￥2,200）
・学習用独和辞典（別途授業内で案内します）

【参考書】
中島悠爾、朝倉巧、平尾浩三著『(改訂版）必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003年（￥1,728）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（ペアワーク・グループワーク含む）と提出物の成果を合わせて評価する平常点（５０％）および学期末試験（５０％）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典（学習用）は必携です。必ず用意して毎回の授業に持参して下さい。
・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCまたはタブレット、スマートフォン）

【その他の重要事項】
・上記に記した内容や順序は、皆さんの理解度に応じて変更されることがあります。
・「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」等の受検とその結果は、上記「成績評価の方法と基準」のうち、「授業への積極的な参加」に加算されます（2025年7月下旬までに担当者に通知されたものに限ります）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
German course for absolute Beginners - This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.
The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed preparation and review tasks.
【Grading Criteria /Policy】
The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 50%of end-of-term assignments (tests).

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語コミュニケーション中級A

2017年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（20）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course aims to develop basic communication skills in German. The focus is on building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, writing and listening skills. At the end of the couse, students will be able to master simple every day situations in a German context.

【到達目標】
当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。
コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。
課題の提出およびフィードバックはHOPPIIで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Eine andere Person vorstellen	kleine Präsentationen
3	Freizeit	(trennbare) Verben
4	Verabredung	Uhrzeit, Redemittel
5	Eine E-Mail, Postkarte aus dem Urlaub	Phrasen, Redemittel
6	Tagesablauf	Konnektoren, trennbare Verben
7	Leben auf dem Land/in der Stadt	Vorteile, Nachteie
8	Beschreiben, wo/ wie ich wohne	Wortschatz wohnen
9	Einladung zur Einweihungsfeier	Phrasen, Redemittel
10	Jahreszeiten	Wortschatz Zeit
11	Durch-, Ansagen	Hörverstehen
12	Anzeigen lesen	Leseverstehen
13	Wie sagt man am besten?	Alltagssituationen
14	Zusammenfassung	Wiederholug des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to prepare for every lesson as well as review it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】
プリント配付。

【参考書】
自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】
After every unit, there will be a test/composition which accounts for 60%.
Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.
Make sure to always arrive on time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】
学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【Outline (in English)】
In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing. Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.
Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語コミュニケーション中級B

2017年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（20）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The focus of this class is building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, listening and writing skills. At the end of the course, students will be able to master simple everyday situations in a German context.

【到達目標】
当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。学生自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自らが勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。
コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。
課題の提出およびフィードバックはHOPPIIで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Fragen und Bitten	W-,Ja-/Nein-Fragen
3	Wie junge Leute wohnen	Nebensätze mit weil und obwohl
4	Bumerang-Kinder	Modalverben im Präteritum
5	Aber du wolltest doch	Redemittel
6	Reisen	Perfekt
7	Postkarten	trennbare Verben im Perfekt
8	Eine Reise durch Deutschland	Einen Reisebericht schreiben
9	Gesundheit	Wortschatz Körper
10	Krankheit	Wortschatz Krankheit
11	Ernährung	Komparation der Adjektive
12	Im Restaurant	Sprechen über deutsches Essen
13	Kleidung	Wortschatz Kleidung, Adjektivendungen
14	Zusammenfassung	Wiederholung des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to prepare for every lesson as well as to revise it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】
プリント配付。

【参考書】
自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】
There will be a test/composition at the end of each unit, which accounts for 60%.
Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.
Make sure that you arrive in time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】
学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、要望があれば応える。

【Outline (in English)】
In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.
Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.
Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

上田　知夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金4**/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
皆さんが大学で出会う教員は皆，仕事として学問をしています．学問を単なる勉強でなく，仕事とすることとはどういうことなのか不思議に思ったことはありませんか．そしてそもそも仕事とは何だろうと思ったことはありませんか．この授業ではこの問題について，ヴェーバーの「仕事としての学問」を翻訳でゆっくりと読みながら議論することを目的とします．
さらに社会学や哲学の基本文献であるヴェーバーの議論に触れることになります．とっつきにくいように思われる本でも読み方さえマスターできれば読めるということを理解します．
この授業ではドイツ語の知識は一切前提しません。ドイツ語の文献も扱いません。

【到達目標】
講義で言及されたりして，聞いたことはあるけれど，どこから取り掛かっていいかわからない気がする文献へのとっかかりを手に入れることができます．
レジュメの書き方，他の人の意見への適切な質問の仕方などを学ぶことができます．
大学の「ゼミ」ってどういう雰囲気なのだろうかということを味わうことができます．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
ごく短いテクスト範囲（長くて2ページ程度）について，毎回レポーターを決めて，その人の作成した資料（レジュメでもパワーポイントスライドでも形式は自由）をもとにみんなで意見を話し合います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	扱う文献やヴェーバーについてのイントロダクションと担当決め
第2回	「仕事としての学問」精読	レポーターのまとめを聞いて議論する
第3回	「仕事としての学問」精読（第2回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第4回	「仕事としての学問」精読（第3回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第5回	「仕事としての学問」精読（第4回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第6回	「仕事としての学問」精読（第5回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第7回	「仕事としての学問」精読（第6回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第8回	「仕事としての学問」精読（第7回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第9回	「仕事としての学問」精読（第8回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第10回	「仕事としての学問」精読（第9回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第11回	「仕事としての学問」精読（第10回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第12回	「仕事としての学問」精読（第11回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第13回	「仕事としての学問」精読（第12回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第14回	まとめ	学期の議論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の後に質問を2つ考えてリアクションペーパーとして提出してください．
次回の範囲を読んできてください．担当者は，レジュメを切ります．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
マックス・ウェーバー．野口雅弘（訳）．『仕事としての学問　仕事としての政治』（講談社学術文庫，2018年）

【参考書】
野口雅弘．『マックス・ウェーバー：近代と格闘した思想家』（中公新書，2020年）．

【成績評価の方法と基準】
平常点（レポーターとしての貢献度および授業への参加度）：100%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】
【Course outline and Learning Objectives】
In this course, we read a seminal work of Weber "Wissenschaft als Beruf" (on request, English translation or German original will be provided).
This course aims that students learn how to (intensively) work on a classic work for social sciences and/or philosophy.
【Learning activities outside of classroom】
You are expected to prepare the text in advance and to submit two questions from the discussions from the last session.
【Grading Criteria /Policy】
Participation: 100%

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

上田　知夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金4**/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代では政治家の多くが，職業政治家です．しかし政治を仕事とすることとはどういうことなのか不思議に思ったことはありませんか．そしてそもそも仕事とは何だろうと思ったことはありませんか．この授業ではこの問題について，ヴェーバーの「仕事としての政治」を翻訳でゆっくりと読みながら議論することを目的とします．
さらに社会学や哲学の基本文献であるヴェーバーの議論に触れることになります．とっつきにくいように思われる本でも読み方さえマスターできれば読めるということを理解します．
この授業ではドイツ語の知識は一切前提しません。ドイツ語の文献も扱いません。

【到達目標】
講義で言及されたりして，聞いたことはあるけれど，どこから取り掛かっていいかわからない気がする文献へのとっかかりを手に入れることができます．
レジュメの書き方，他の人の意見への適切な質問の仕方などを学ぶことができます．
大学の「ゼミ」ってどういう雰囲気なのだろうかということを味わうことができます．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
ごく短いテクスト範囲（長くて2ページ程度）について，毎回レポーターを決めて，その人の作成した資料（レジュメでもパワーポイントスライドでも形式は自由）をもとにみんなで意見を話し合います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	文献の紹介と担当決め
第2回	「仕事としての政治」精読	レポーターのまとめを聞いて議論する
第3回	「仕事としての政治」精読（第2回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第4回	「仕事としての政治」精読（第3回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第5回	「仕事としての政治」精読（第4回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第6回	「仕事としての政治」精読（第5回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第7回	「仕事としての政治」精読（第6回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第8回	「仕事としての政治」精読（第7回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第9回	「仕事としての政治」精読（第8回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第10回	「仕事としての政治」精読（第9回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第11回	「仕事としての政治」精読（第10回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第12回	「仕事としての政治」精読（第11回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第13回	「仕事としての政治」精読（第12回の続き）	前回のリアクションペーパーのまとめとレポーターのまとめを聞いて議論する
第14回	まとめ	今学期の議論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の後に質問を2つ考えてリアクションペーパーとして提出してください．
次回の範囲を読んできてください．担当者は，レジュメを切ります．
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
マックス・ウェーバー．野口雅弘（訳）．『仕事としての学問　仕事としての政治』（講談社学術文庫，2018年）
* 春学期と同じ書籍です。

【参考書】
野口雅弘．『マックス・ウェーバー：近代と格闘した思想家』（中公新書，2020年）．

【成績評価の方法と基準】
毎回質問を2つリアクションペーパーにまとめてもらいます．それを匿名化して，次の授業の最初に議論したいと思います．
平常点（レポーターとしての貢献度，授業への参加度およびリアクションペーパーでの質問の提出）：100%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません．

【Outline (in English)】
【Course outline and Learning Objectives】
In this course, we read a seminal work of Weber "Politik als Beruf" (on request, English translation or German original will be provided).
This course aims that students learn how to (intensively) work on a classic work for social sciences and/or philosophy.
【Learning activities outside of classroom】
You are expected to prepare the text in advance and to submit two questions from the discussions from the last session.
【Grading Criteria /Policy】
Participation: 100%

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

ドイツの思想A

2017年度以降入学者

吉田　敬介

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火2**/Tue.2
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、20世紀前半という「危機」の時代のドイツ語圏の哲学を、とりわけ実存哲学と批判理論に着目しながら、概観します。
20世紀前半のドイツ語圏では、観念論（理想主義）への幻滅とともに、文明や学問が「危機」に陥っているという意識が強まりました。その危機意識に対応するように、一方ではヤスパースやハイデッガーらの「実存哲学」、また他方ではホルクハイマーやアドルノらの「批判理論」（あるいは「フランクフルト学派」）といった思想潮流が展開されました。授業においては、こうした歴史的・社会的な文脈を踏まえつつ、様々な哲学者たちの言説を検討し、その思想内容を理解することが目指されます。

【到達目標】
（A）20世紀前半のドイツ語圏の哲学・思想の要点を理解できる。
（B）扱われた哲学・思想を、歴史的・社会的視座から考察できる。
（C）扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。
毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容は授業で提示します。
なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムを確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	そもそも「ドイツ哲学」とは？	「ドイツ哲学」の定義づけの困難と可能性
第3回	19世紀のドイツ哲学（1）	ドイツ観念論とその挫折
第4回	19世紀のドイツ哲学（2）	キルケゴール、マルクス、ニーチェの思想とその影響
第5回	20世紀前半の思想的状況（1）	ヨーロッパのニヒリズムと『西洋の没落』
第6回	20世紀前半の思想的状況（2）	時代の「危機」意識と現象学
第7回	実存哲学の生成と展開（1）	ヤスパース『時代の精神的状況』と実存哲学
第8回	実存哲学の生成と展開（2）	ハイデッガー『存在と時間』の存在論
第9回	実存哲学の生成と展開（3）	ナチス政権下の哲学者たち 政治的決断主義
第10回	批判理論の生成と展開（1）	社会研究所の設立と亡命 ホルクハイマー「伝統的理論と批判的理論」
第11回	批判理論の生成と展開（2）	ベンヤミン『歴史哲学テーゼ』と「進歩」への問い
第12回	批判理論の生成と展開（3）	ホルクハイマー／アドルノ『啓蒙の弁証法』と近代的理性の自己省察
第13回	「危機」の時代のドイツの思想	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】
・『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房
・『哲学の歴史 第9巻 反哲学と世紀末【19-20世紀】』中央公論新社
・『哲学の歴史 第10巻 危機の時代の哲学【20世紀I】』中央公論新社
・フッサール／ハイデッガー／ホルクハイマー『30年代の危機と哲学』清水多吉／手川誠士郎（訳）、平凡社〔平凡社ライブラリー〕
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績配分は、平常点（リアクションペーパーの提出、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40％、学期末課題もしくは試験の評価60％です。成績評価に際しては、【到達目標】（A）～（C）を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】
・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の場合に必要となるため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with German philosophy in the first half of the 20th century (especially existential philosophy and Critical Theory).
Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand German philosophy in the first half of the 20th century, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

ドイツの思想B

2017年度以降入学者

吉田　敬介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火2**/Tue.2
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、20世紀後半のドイツ語圏の哲学を、歴史的・社会的諸問題との関連から概観します。
20世紀中盤から後半にかけてのドイツ語圏の哲学は、幾つかの重要な実際的問題と対峙しなければなりませんでした。ホロコーストを含む第三帝国の過去の「克服」、東西ドイツの分裂とその再統一、ヨーロッパへの統合と国際社会との関わり、そしてそれらに通底する「ドイツ」のアイデンティティをめぐる問い、といった諸問題です。授業においては、これらの歴史的・社会的諸問題に関するコンテクストを踏まえながら、哲学者たちの言説を検討し、その思想内容を理解することが目指されます。

【到達目標】
（A）20 世紀後半のドイツ語圏の哲学・思想の要点を理解できる。
（B）扱われた哲学・思想を、歴史的・社会的視座から考察できる。
（C）扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。
毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容は授業で提示します。
なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムを確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	「危機」の時代から戦後へ	20世紀前半のドイツの哲学と戦後の課題
第3回	哲学者たちと「過去の克服」（1）	ニュルンベルク裁判と「過去の忘却」
第4回	哲学者たちと「過去の克服」（2）	ヤスパースの戦争責任論
第5回	哲学者たちと「過去の克服」（3）	亡命知識人たちの帰還とファシズムへの問い
第6回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学（1）	アウシュヴィッツ裁判と1968年運動
第7回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学（2）	アドルノと「アウシュヴィッツ以後」の文化への問い
第8回	「ドイツ」のアイデンティティへの問い（1）	ハーバーマスと「公共性」の思想
第9回	「ドイツ」のアイデンティティへの問い（2）	1980年代の歴史修正主義と「歴史家論争」
第10回	「ドイツ」のアイデンティティへの問い（3）	ナショナリズムと憲法パトリオティズム
第11回	ヨーロッパの中のドイツ（1）	東西ドイツの再統一とヨーロッパ統合
第12回	ヨーロッパの中のドイツ（2）	デリダとハーバーマスのヨーロッパ論
第13回	過去の克服と「ドイツ」のアイデンティティ再考	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】
・『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房
・三島憲一『戦後ドイツ その知的歴史』『現代ドイツ 統一後の知的軌跡』、岩波書店〔岩波新書〕
・ヤスパース『われわれの戦争責任について』橋本文夫（訳）、筑摩書房〔ちくま学芸文庫〕2015年
・ハーバーマス『近代 未完のプロジェクト』三島憲一（訳）、岩波書店〔岩波現代文庫〕
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績配分は、平常点（リアクションペーパーの提出、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40％、学期末課題もしくは試験の評価60％です。

【学生の意見等からの気づき】
・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の場合に必要となるため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with German philosophy in the second half of the 20th century.
Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand German philosophy in the second half of the 20th century, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

LIT300LA（文学 / Literature 300）

カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏A

2017年度以降入学者

林　志津江

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金4**/Fri.4
単位数：**2単位**
2021年度までに「ドイツ語圏の文学A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【大人と子ども・学校とわたし】
20世紀初頭のドイツやフランスの人文学に理論的源流を持ち、20世紀後半の英国で広がりを見せた「カルチュラル・スタディーズ」（文化学）は、日常生活に偏在する支配関係に注目することで、新たな表象分析の道を切り拓きました。この授業で注目するのは「ふつうの人々」の日常にひそむ権力関係、特に「子どもの目から見た大人の世界」です。20世紀前半～現代のドイツに生きた／生きる子どもたちの眼差しを通して、現代を生きる私たちの「文化」と「日常」の諸問題に迫ります。

【到達目標】
1）読解能力と反省的思考能力の獲得
言語テクストを読み、語と文の意味を理解しながら、「自分が何かを考えている」という意識を持てているでしょうか。
2）自分の思考を、他人に伝わるレベルで言語化する能力の獲得
意図を損なわず、言語で情報伝達できる能力は、グローバル化した社会のニーズであるばかりでなく、あなたが社会の不正や自己疎外と向かい合う手立てにもなってくれます。
3）社会に対する批判的な眼差し、遠く離れた場所の出来事を理解しようとする知性の獲得
近現代のドイツ語圏の物語が、現代の日本に生きる自分の日常とどうつながっているのかを考えようとする態度は、あなたに異文化との衝突（＝「苦手」と感じる状況）を生き抜く豊かな知恵を授けてくれるはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
近現代ドイツ語圏文学のうち、児童文学・ジュヴナイル小説として知られる作品３点を、時系列に沿って扱います。
・毎回、担当者が講義形式で作品や作家の概要の説明を行ったあと、テクストの抜粋を読みます。その後は参加者同士でお互いの理解を確認する作業です。文学作品のアダプテーション（映画）を扱う際は、映像の抜粋も確認します。
・授業後、次回授業までに、所定の研究課題（study question）として日本語の小レポートを執筆し提出します。
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入・オリエンテーション（1）	ドイツ語圏？ カルチュラル・スタディーズ（文化学）？？
2	導入・オリエンテーション（2）	「記号論」「受容理論」「メディア論」の基礎
3	「自然」と「文明／教育」の交差	ヨハンナ・シュピリ『ハイジ』（1880-1881）その１
4	「自然の中でのびのび生き生きと育つ子ども」？	ヨハンナ・シュピリ『ハイジ』（1880-1881）その２
5	子どもの成長・共同体との和解	ヨハンナ・シュピリ『ハイジ』（1880-1881）その３
6	信仰の力、あるいは善良に生きる価値？	ヨハンナ・シュピリ『ハイジ』（1880-1881、スイス）その４／TVアニメーションシリーズ『アルプスの少女ハイジ』（1974、ズイヨーエンタープライズ／日本）より
7	地下鉄の走る街・映画の時代	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その１／映画『エーミールと探偵たち』（1931年/2000年、ドイツ）
8	お母さんに心配をかけたくない	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その２／映画『エーミールと探偵たち』（1931年/2000年、ドイツ）
9	子どもこそ聡明な存在	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その３
10	「大人顔負けの子どもたち」という国家批判の言説	エーリヒ・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その４
11	自分も親も初恋も全部イケてない	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その１
12	ちっぽけな自分と世界の大きさを知る	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その２
13	自分と世界を直視する勇気	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その３
14	忘れられない日々の物語	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その４／映画『50年後のボクたちは』（2016年、ドイツ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
・授業資料に再度目を通すこと。
・あらゆる活字に触れる作業は全て、この授業にとって意味のある予習・復習です。
・新聞（日刊紙）を読む習慣があればなお良いです。

【テキスト（教科書）】
・授業ごと担当者から資料を配布します。
・『ハイジ』と『エーミールと探偵たち』（日本語訳）の２点を各自ご用意ください。図書館で借りるのでも構いません。
『ハイジ（全2冊）』（岩波書店、2003年）／『ハイジ（全2冊）』（福音館書店、1974年）／『アルプスの少女ハイジ』（角川書店、2021年）など
『エーミールと探偵たち』（岩波書店、2000年）

【参考書】
・手塚富雄・神品芳夫（著）『（増補）ドイツ文学案内』（岩波書店、1993年）
・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』（ミネルヴァ書房、2003年）
・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007年
・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015年）
・D. ランゲヴィーシェ（飯田芳弘訳）『統一国家なき国民 ー もう一つのドイツ史』（みすず書房）2023年
・小倉孝誠（編）『批評理論を学ぶ人のために』（世界思想社）2023年
その他は講義内資料を通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献）（50%）
・授業後の提出課題（50%）
以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
・学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・筆記用具（紙媒体で使用可のもの）を必ず用意してください。

【その他の重要事項】
・ドイツ語の知識は必須ではありません。
・扱う作品・内容や順序は変更される場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Cultural Studies, which had its theoretical origins in the German and French humanities of the early 20th century and spread in the UK in the latter half of the 20th century, has paved the way for alternatives of representation analysis by focusing on the ruler and ruled relationships that are ubiquitous in everyday life. In this class, we will focus on the power relations hidden in the daily lives of “ordinary people,” especially “the adult world as seen through the eyes of children,” and through the eyes of children who lived in Germany from the early 20th century to the present, we will explore various issues of “culture” and “everyday life” in our modern age.
【Learning Objectives】
To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
To be able to express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed review tasks.
【Grading criteria】
The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50%of submitted assignments as prescribed review tasks.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏Ｂ

2017年度以降入学者

林　志津江

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金4/Fri.4**
単位数：**2単位**
2021年度までに「ドイツ語圏の文学Ｂ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【「モダンガール」の系譜・多様化するフェミニズム】
この授業で着目するのは、大都市に生きる女性とジェンダー規範に関わる文学・文化現象です。20世紀以降のフェミニズム／ジェンダー批評は、あらゆる美的言説の中に、社会が約束事として作り上げた「男らしさ」「女らしさ」がひそむ現実を暴露することで、アイデンティティや主体性の問題を前傾化させてきました。この授業では、ドイツの首都ベルリンを舞台にした19～20世紀ドイツ語圏文学を例に、都市の匿名性や経済格差がいかに固定的性差と結びつけられ理解されてきたか、言語化されたジェンダー規範がどのように現実生活と通底しているか、考察を深めていきます。

【到達目標】
１）読解能力と反省的思考能力の獲得
言語テクストを読み、語と文の意味を理解しながら、「自分が何かを考えている」という意識を持てているでしょうか。
２）自分の思考を、他人に伝わるレベルで言語化する能力の獲得
意図を損なわず、言語で情報伝達できる能力は、グローバル化した社会のニーズであるばかりでなく、社会の不正や自己疎外と向かい合う手立てにもなってくれます。
３）社会に対する批判的な眼差し、遠く離れた場所の出来事を理解しようとする知性の獲得
19～21世紀のドイツ語圏の話が、現代の日本に生きる自分の日常とどうつながっているのかを考えようとする態度は、あなたに異文化との衝突（＝「苦手」と感じる状況）を生き抜く豊かな知恵を授けてくれるはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
19世紀～20世紀のドイツ語圏で書かれたドイツ語による文学作品（日本語訳）を、時系列に沿って扱います。
・毎回、担当者が講義形式で作品や作家の概要の説明を行ったあと、テクストの抜粋を読みます。その後は参加者同士でお互いの理解を確認する作業です。映画を扱う際はその抜粋も確認します。
・授業後、次回授業までに、所定の研究課題（study question）として日本語の小レポートを執筆し提出します。
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入・オリエンテーション	ドイツ語圏？ カルチュラル・スタディーズ？？ ジェンダー批評？？？
2	身分違いの恋ってわかってるけど…	テオドーア・フォンターネ『迷誤あれば』（1888年）その１
3	オワコン下級貴族の本音？	テオドーア・フォンターネ『迷誤あれば』（1888年）その２
4	「秩序」と人間、私的な人間関係	テオドーア・フォンターネ『迷誤あれば』（1888年）その３
5	「オリエンタリズム」への逆襲？	森鴎外『舞姫』（1890年）その１
6	都市の相貌・心の迷い	森鴎外『舞姫』（1890年）その２
7	都会の「キラメキ」に憧れて	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年、ドイツ）その１
8	大都会の真実、男と女の真実	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年、ドイツ）その２／映画『狂乱のモンテカルロ』（1931年、ドイツ）
9	「とてつもなく、幸せになりたいの」	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年、ドイツ）その３／映画『会議は踊る』（1931年、ドイツ）
10	現実の、未完成の私を好きになってほしい	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』（1932年、ドイツ）その４
11	「それぞれの人生模様」？	ヴィッキィ・バウム『ホテルの人々』（1929年）／映画『グランド・ホテル』（1932年、米国）
12	忌まわしいはずの記憶が美化される条件	トーマス・ブルスィヒ『太陽通り（ゾンネンアレーの短い方の端で）』（1999 年）その１
13	「世界で一番可愛い女の子」と「肝っ玉母さん」	トーマス・ブルスィヒ『太陽通り（ゾンネンアレーの短い方の端で）』（1999 年）その２
14	「ちょっと抜けてる男たち」？	トーマス・ブルスィヒ『太陽通り（ゾンネンアレーの短い方の端で）』（1999 年）その３／映画『ゾンネンアレー』（1999年、ドイツ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
・授業資料に再度目を通すこと。
・あらゆる活字に触れる作業は全て、この授業にとって意味のある予習・復習です。
・新聞（日刊紙）を読む習慣があればなお良いです。

【テキスト（教科書）】
・授業ごと担当者から資料を配布します。
・授業第５、６回目は、各自で『舞姫』（森鴎外著）をご用意ください。どの版でも、図書館で借りるので問題ありません。

【参考書】
・手塚富雄・神品芳夫（著）『（増補）ドイツ文学案内』（岩波書店、1993年）
・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』（ミネルヴァ書房、2003年）
・E. ショウォールター編（青山誠子訳）『新フェミニズム批評 女性・文学・理論』（岩波書店）1999年
・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007年
・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015年）
・弓削尚子『はじめての西洋ジェンダー史 家庭史からグローバルヒストリーまで』（山川出版社）2021年
・田中東子『ガールズ・メディア・スタディーズ』（北樹出版）2021年
・林香里・田中東子『ジェンダーで学ぶメディア論』（世界思想社）2023年
・D. ランゲヴィーシェ（飯田芳弘訳）『統一国家なき国民 ー もう一つのドイツ史』（みすず書房）2023年
・小倉孝誠（編）『批評理論を学ぶ人のために』（世界思想社）2023年
その他は講義内資料を通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献）（50%）
・授業後の提出課題（50%）
以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
・学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・筆記用具（紙媒体で使用可のもの）を必ず用意してください。

【その他の重要事項】
・ドイツ語の知識は必須ではありません。
・扱う作品・内容や順序は変更される場合があります。

【Outline (in English)】
This class focus on women in the metropolis and the literary and cultural phenomena related to gender norms. Feminism and gender critique since the 20th century have brought forward issues of identity and subjectivity by exposing the reality of “masculinity” and “femininity” that society has created as promises in all aesthetic discourses. In this class, we will deal with literary works from 19th and 20th century Germany as examples to examine how urban anonymity and economic disparity have been linked to and understood as fixed gender inequality, and how verbalized gender norms are connected to real life. The lecture will use examples from 19th- and 20th-century German literary works to deepen the discussion.
【Learning Objectives】
To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
To be able to express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed review tasks.
【Grading criteria】
The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50%of submitted assignments as prescribed review tasks.

ARSk300LA（地域研究（地域間比較）/ Area studies(Interregional comparison) 300）

比較文化A

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火4**/Tue.4
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
食、メディアと現代文化
「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスではさまざまなプリントメディアや映像資料を通して、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高めます。

【到達目標】
◦自分の目で見て、自分の頭で考え、自分の言葉で表現する能力を培うこと。
◦固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
◦海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題の提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業の説明・選抜	シラバスを読み、授業内容を確認する。 ※ 定員を超える場合は選抜
②	TVの料理ドックメンタリー（1）	テレビの料理ドックメンタリーの比較から偏見を見直す。
③	TVの料理ドックメンタリー（2）	課題、ディスカッション
④	TVのCooking Show（1）	TVのCooking Showの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。
⑤	TVのCooking Show（2）	課題、ディスカッション
⑥	TVの食品調査番組（1）	日本には存在していない食品調査番組の紹介で文化の違いを学ぶ。
⑦	TVの食品調査番組（2）	課題、ディスカッション
⑧	Youtubeの料理チャネル（1）	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑨	Youtubeの料理チャネル（2）	課題、ディスカッション
⑩	Webの料理検索・レシピサイト（1）	Webの料理検索・レシピサイトを比較する。
⑪	Webの料理検索・レシピサイト（2）	課題、ディスカッション
⑫	Foodfilm（1）	フードフィルムの分析を学ぶ。
⑬	Foodfilm（2）	課題、ディスカッション
⑭	まとめ	春学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に映画作品などの抜粋を視聴してもらいます。課題作成のためにHoppii学習支援システムにUPされた作品全体を観て比較する必要があります。
「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。」

【テキスト（教科書）】
テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】
教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】
出席及び授業内の課題達成度：７０％
授業への参加態度など平常点：３０％
欠席が全体の３分の１を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
HOPPII学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学のPCやプリンター、WIFIを利用して下さい。

【その他の重要事項】
定員は30人名程度です。受講希望者多数の場合には、第1回目の授業参加者の中から選抜を行います。受講希望者は必ず第1回目の授業に出席してください。

【Outline (in English)】
Food, Media and Contemporary Culture
Food is a powerful medium through which to enter another culture.　Through food we can communicate cultural and personal identity,　values and emotions. In this class we will compare mainly japanese and european representations of food in various visual and printed media.

—

◦ To deepen understanding of different cultures and own culture.
◦ Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
◦ Acquire the ability to effectively utilize overseas media (media literacy).

—

Preparation and review.
The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

—

Attendance and achievement of in-class assignments: 70%
Normal points such as participation attitude in class: 30%
If more than one-third of the class is absent, it will not be considered for grade evaluation.

ARSk300LA（地域研究（地域間比較）/ Area studies(Interregional comparison) 300）

比較文化Ｂ

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火4**/Tue.4
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「神話とメルヘンにおけるシンボル動物」をテーマに、
この授業では諸文化間の動物観とそれらのシンボル的意味を比べ、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高める。

【到達目標】
◦人間と動物の関係についての異文化理解を深めること。
◦固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
◦海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題とリアクションペーパーの提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	シンボル動物とは？	授業の内容と進め方の説明
②	狐（1）	童話におけるキツネの性格を比較する。
③	狐（2）	課題、ディスカッション
④	ロバと馬（1）	映画の中のロバと馬を比較する。
⑤	ロバと馬（2）	課題、ディスカッション
⑥	白鳥（1）	オペラとバレーを比較する。
⑦	白鳥（2）	課題、ディスカッション
⑧	禿鷹（1）	カフカの寓話『禿鷹』を読む。
⑨	禿鷹（2）	課題、ディスカッション
⑩	蛙（1）	現代ドイツ文学における蛙について
⑪	蛙（2）	課題、ディスカッション
⑫	人魚（1）	日本人と西洋人の「人魚」像の比較
⑬	人魚（2）	課題、ディスカッション
⑭	まとめ	秋学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に映画作品などの抜粋を視聴してもらいます。課題作成のためにHoppii学習支援システムにUPされた作品全体を観て比較する必要があります。
「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。」

【テキスト（教科書）】
テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】
教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】
出席及び授業内の課題達成度：７０％
授業への参加態度など平常点：３０％
欠席が全体の３分の１を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
HOPPII学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学のPCやプリンター、WIFIを利用して下さい。

【Outline (in English)】
What similarities and differences exist in the concept of animals and their symbols among cultures? This course is designed to allow students to explore the relationship between humans and animals with an emphasis on mythology, religious tradition and literature.

——

◦ Deepening cross-cultural understanding of human-animal relationships.
◦ Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
◦ Acquire the ability to effectively utilize overseas media

——

Preparation and review.
The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

——

Attendance and achievement of in-class assignments: 70%
Normal points such as participation attitude in class: 30%

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

ドイツ語圏の公共哲学A

2017年度以降入学者

上田　知夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木2**/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（60）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民主主義ってどういう仕組みで成り立っているのだろうか。そもそも私たちの考えることは本当に反映しているのだろうか。皆さんは投票に出かけたり、選挙特番をご覧になるときに、そう思ったことはありませんか。このことを考えるヒントを、ドイツ語圏の哲学者たち（例えば、カントやアーレントやハーバマス）により展開された公共哲学の議論の展開を検討しながら、探すことがこの授業の目的です。
その際に、現代のドイツ語圏の政治・社会事情を例に取ります。ドイツ語圏の諸国では、議会制民主主義が根付いていると考えられています。一方で、新聞の国際面などを見れば、ドイツ語圏の各国の政治状況は大きく動いていることも感じられます。ドイツ語圏は、一体どうなっているんだろうか。この授業はそんな問いに答えるヒントも探したいと思います。
つまり、哲学的な思考法を身につけるだけではなく、それらの考え方を用いて実際の政治的な事例について考えることができるようになることが目的なのです。

【到達目標】
公共哲学についての基本的な概念とそれぞれの概念が持つ問題意識を理解する。
ドイツ語圏の政治に関わる話題にについて基礎的な理解を得る。
哲学的な思考に基づいて、レポートを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行います。毎回リアクションペーパーとして質問を2つ提起してもらいます。この質問を匿名化の上、次の回の導入で一緒に検討します。
学期末にレポートを書いていただきます。
この授業ではドイツ語の知識は一切前提しません。ドイツ語の文献も扱いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	なぜ公共哲学は重要なのかについてのイントロダクション
第2回	なぜ公共的意見は重要なのか	・公共性とは何ではないのか ・公共性と公開性の関係 ・歴史的出来事を題材に哲学することについて ・民主主義国家の正統性について
第3回	なぜ公共的意見は重要なのか（続き）	前回の続き
第4回	なぜ公共的意見は重要なのか（続き）	前回の続き
第5回	公共性と「公的なもの」	・行為調整の面から見た公共性と共同体の違い ・相互行為の合理的な調整方法としての討議 ・国家の役割の変容と公共性の変化
第6回	公共性と「公的なもの」（続き）	前回の続き
第7回	公共性と「公的なもの」（続き）	前回の続き
第8回	公共性と私（秘）性	・公私の区別を自由の観点から検討する ・親密さについて小家族を例に考える ・家父長制における親密さの持つ問題を捉える ・その問題の背景にある構造的な問題について考える
第9回	公共性と私（秘）性（続き）	前回の続き
第10回	公共性と私（秘）性（続き）	前回の続き
第11回	公共の意見形成	・後期資本主義に変容するメディアの役割についてのハーバマスの悲観 的見方 ・第2次世界大戦後のドイツのメディアをめぐる状況 ・熟議民主主義論の2回路 ・対抗し合う公共圏の中でメディアの果たす役割
第12回	公共の意見形成（続き）	前回の続き
第13回	公共の意見形成（続き）	前回の続き
第14回	春学期のまとめ	春学期に扱ったテーマの確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布される授業をよく復習して次回の授業に臨んでください。
学期末にレポートを書いていただきます。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。毎回、資料をHoppiiで配布しますので、そちらをダウンロードしてお持ちください。

【参考書】
毎回の授業ごとに資料内に掲示しますので、そちらをご参照ください。

【成績評価の方法と基準】
毎回リアクションペーパーとして質問を2つ提起してもらいます(50%)。こちらを平常点として評価します。また授業中の積極的な発言はこちらで加味します。
学期末にレポートを執筆していただきます(50%)。こちらは、資料内で提示した参考文献の一部を読んで、要約することを含みます。

【学生の意見等からの気づき】
入り口の興味が、ドイツ語圏の事情・政治学・哲学のどれであっても理解しやすくできるように努力します。

【学生が準備すべき機器他】
毎回、資料をHoppiiを通じて配布しますので、教室でそれらが閲覧できるようにタブレットないしパソコンを準備してきてください。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期を分割して履修することもできますが、連続履修をお勧めします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to provide philosophical discussions on the public sphere and to apply philosophical concepts to social/political issues in the German-speaking region.
【Learning Objectives】
In this course, students will learn how to deal with philosophical concepts and apply them to actual political issues.
【Learning activities outside of classroom】
Students have to learn at least 2 hour outside of class each week.
【Grading Criteria /Policy】
Participation and homework (50%) + term paper (50%)

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

ドイツ語圏の公共哲学Ｂ

2017年度以降入学者

上田　知夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木2**/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（60）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民主主義ってどういう仕組みで成り立っているのだろうか。そもそも私たちの考えることは本当に反映しているのだろうか。皆さんは投票に出かけたり、選挙特番をご覧になるときに、そう思ったことはありませんか。このことを考えるヒントを、ドイツ語圏の哲学者たち（例えば、カントやアーレントやハーバマス）により展開された公共哲学の議論の展開を検討しながら、探すことがこの授業の目的です。
その際に、現代のドイツ語圏の政治・社会事情を例に取ります。ドイツ語圏の諸国では、議会制民主主義が根付いていると考えられています。一方で、新聞の国際面などを見れば、ドイツ語圏の各国の政治状況は大きく動いていることも感じられます。ドイツ語圏は、一体どうなっているんだろうか。この授業はそんな問いに答えるヒントも探したいと思います。
つまり、哲学的な思考法を身につけるだけではなく、それらの考え方を用いて実際の政治的な事例について考えることができるようになることが目的なのです。

【到達目標】
公共哲学についての基本的な概念とそれぞれの概念が持つ問題意識を理解する。
ドイツ語圏の政治に関わる話題にについて基礎的な理解を得る。
哲学的な思考に基づいて、レポートを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行います。毎回リアクションペーパーとして質問を2つ提起してもらいます。この質問を匿名化の上、次の回の導入で一緒に検討します。
学期末にレポートを書いていただきます。
この授業ではドイツ語の知識は一切前提しません。ドイツ語の文献も扱いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	春学期の簡単な振り返りと、秋学期のテーマのイントロダクション。
第2回	熟議民主主義と公共性	・熟議民主主義論における政治システムの理論的な役割 ・東ドイツの崩壊と公共性 ・アソシエーションの公共性
第3回	熟議民主主義と公共性（続き）	前回の続き
第4回	熟議民主主義と公共性（続き）	前回の続き
第5回	熟議民主主義と公共性（続き）	前回の続き
第6回	ドイツ語圏の政治システム（続き）	・政治システムとしてのドイツ語圏の政党制度 ・熟議民主主義の対抗説としての闘技民主主義
第7回	ドイツ語圏の政治システム（続き）	前回の続き
第8回	ドイツ語圏の政治システム（続き）	前回の続き
第9回	ドイツ語圏の政治システム（続き）	前回の続き
第10回	多元主義と公共性	・社会が多元的であることをどのように理解するか ・形而上学的思考とその世俗化 ・ドイツ語圏における宗教に関わる状況 ・ポスト世俗化論とは何か
第11回	多元主義と公共性（続き）	前回の続き
第12回	多元主義と公共性（続き）	前回の続き
第13回	多元主義と公共性（続き）	前回の続き
第14回	まとめ	1年間の講義を振り返ってまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布される授業をよく復習して次回の授業に臨んでください。
学期末にレポートを書いていただきます。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。毎回、資料をHoppiiで配布しますので、そちらをダウンロードしてお持ちください。

【参考書】
毎回の授業ごとに資料内に掲示しますので、そちらをご参照ください。

【成績評価の方法と基準】
毎回リアクションペーパーとして質問を2つ提起してもらいます (50%)。こちらを平常点として評価します。また授業中の積極的な発言はこちらで加味します。
学期末にレポートを執筆していただきます (50%)。こちらは、資料内で提示した参考文献の一部を読んで、要約することを含みます。

【学生の意見等からの気づき】
入り口の興味が、ドイツ語圏の事情・政治学・哲学のどれであっても理解しやすくできるように努力します。

【学生が準備すべき機器他】
毎回、資料をHoppiiを通じて配布しますので、教室でそれらが閲覧できるようにタブレットないしパソコンを準備してきてください。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期を分割して履修することもできます。春学期を履修していなくてもついて来れるようには工夫いたします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to provide philosophical discussions on the public sphere and to apply philosophical concepts to social/political issues in the German-speaking region.
【Learning Objectives】
In this course, students will learn how to deal with philosophical concepts and apply them to actual political issues.
【Learning activities outside of classroom】
Students have to learn at least 2 hour outside of class each week.
【Grading Criteria /Policy】
Participation and homework (50%) + term paper (50%)

HIS300LA（史学 / History 300）

ドイツ語圏の歴史A

2017年度以降入学者

辻　英史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月4**/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語圏の社会文化史
　中・近世から20世紀にいたる時期のドイツ語圏を中心にしたヨーロッパの歴史を、とくに社会の変化と芸術・文化の発展に焦点を当てて学ぶ。

【到達目標】
　中・近世のドイツ語圏は、政治的には多数の地方権力に分裂していた。19世紀に入り、それらの勢力は次第に整理・統合され、最終的にはドイツ帝国やオーストリア帝国、スイス連邦といった近代国家として統一されていく。このような歴史的経緯から、現代に至るまでドイツ語圏は全体としてある程度の共通性を保ちつつ、地域ごとに非常に変化に富む社会である。そこから文化・芸術の領域において貴重な遺産の数々が作り出されてきた。
　この授業では、こうした地域差と多様性を有するドイツ語圏の社会が、ヨーロッパの他の地域と交流しながら、いかに独自の文化を生み出し、それと同時に優れた芸術作品を作り出していったかを学ぶ。
　なお、20世紀以降の時代については秋学期開講の「ドイツ語圏の歴史B」で扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
　ドイツ語圏の歴史のなかでもとくに重要ないくつかの時期や事件をとりあげて、当時の社会がどのようなものであったかを解説し、またそうした時代背景のもとでどのような文化現象や芸術作品が生み出されたのかを説明する。さまざまな映像・画像・テキストなどの資料により作品の解説を行う。
　授業は時代順に以下の5つのパートに分かれる：
①中世編　フランク王国から宗教改革（16世紀前半）まで
②近世編　16世紀後半から18世紀後半まで
③初期近代編　18世紀末から19世紀前半まで
④近代編　19世紀半ばから19世紀末まで
⑤世紀転換期編　19世紀末から20世紀初頭まで
　参加者はドイツ語の知識がある方が望ましいが、ドイツ語のテキストを用いる場合でも日本語または英語の翻訳を用意する。
　参加者は毎回リアクションペーパーを提出する。毎回の授業冒頭に前回のリアクションペーパーのフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツ語圏の社会と文化の特徴とは？
第2回	中世編①　中世社会とキリスト教	教会建築を手がかりに、中世のキリスト教が社会に与えた影響を考える。
第3回	中世編②　中世の都市文化	中世都市の発展と社会構造の関係を、ルネサンス期の絵画芸術を例として考える。
第4回	中世編③　宗教改革と文化	中世社会の経済的発展がローマ・カトリック宗教改革期の社会と芸術の関係について。
第5回	近世編①　宮廷社会とバロック芸術	近世の宮廷では、強力な君主権力のもと各種のバロック芸術が花開いた。その例として建築、絵画、音楽などの作品を取り上げる。
第6回	近世編②　民衆のバロック	近世では、主としてプロテスタント圏において都市の経済力を原動力として新たな芸術活動が展開された。バッハの音楽芸術はその典型である。
第7回	近世編③　啓蒙主義の出現	近世における経済発展は、哲学や思想上の革新をもたらした。その頂点に位置するのが啓蒙主義思想である。その思想内容は同時代の芸術作品にも影響を与えている。
第8回	初期近代編①　近代国家と古典主義	ドイツ語圏では啓蒙主義派君主権力と結びつき、国家や社会の近代化の動きをもたらした。古典主義の芸術は新しい国家と社会の象徴でもあった。
第9回	初期近代編②　市民社会の出現とロマン主義	18世紀の末になると、国家の保護をうけて商工業は活発化し、市民層と呼ばれる商工業に従事する中間層が台頭する。彼らはロマン主義の芸術に深く傾倒していく。
第10回	近代編①　ナポレオン戦争とナショナリズム	フランス革命とそれに続くナポレオンによる侵略は、それまで分裂していたドイツを統一しようとするナショナリズムを高揚させることになった。
第11回	近代編②　工業化と市民層の文化	19世紀の半ばから後半にかけての工業化の進展は、市民層の地位をさらに高め、芸術の担い手としての活動を可能にした。
第12回	近代編③　社会主義労働運動の展開	19世紀後半、低賃金と過酷な労働・生活環境に苦しめられた工業労働者たちは社会主義思想のもと団結し、ひとつの階級を形成し始めた。
第13回	世紀転換期編①　19世紀末の社会と芸術	ウィーンを例に、いわゆる世紀末文化の特徴と、ユーゲントシュティルの芸術の隆盛を説明する。
第14回	世紀転換期②　20世紀初頭の生活改革運動と表現主義	19世紀末から20世紀初めに出現した改革運動の数々と、同時代の新しい芸術潮流との関係について扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業中は積極的な参加が要求される。また、毎回リアクションペーパーを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加(10%)、リアクションペーパー(30%)、期末レポート(60%)

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】
In this class, students will study the history of Europe, especially the German-speaking countries, from the Middle Ages and early modern period to the 20th century, focusing especially on social changes and the development of art and culture.
Students are required to submit a reaction paper each time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

HIS300LA（史学 / History 300）

ドイツ語圏の歴史Ｂ

2017年度以降入学者

辻　英史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**4/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ナチズムを中心に20世紀のドイツ語圏の歴史を扱う。ナチスとその支配をドイツ＝ヨーロッパ史の文脈のなかに位置づけ、その特質を理解することを目的とする。

【到達目標】
20世紀の前半のドイツを中心とするヨーロッパの状況について学ぶ。とくに、歴史上例のない破壊と犯罪行為をおこなったナチ政権の成立に至る過程とその支配のイデオロギーや構造、およびナチ政権の下での「普通の人びと」の日常生活について理解する。ナチスの引き起こした第二次世界大戦とユダヤ人迫害（ホロコースト）を、そのヨーロッパワイドな広がりという文脈において理解する。さらに、大戦後から現代に至るまでのナチスをめぐる歴史認識についても考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回の授業は以下の3つのパートからなる。
①概説：政治・経済を中心に、時代の流れを説明する。
②論点：経済・社会・文化を中心に、その時代の重要な特徴をいくつか抜き出し、解説する。
③演習：それまでに得た知見を踏まえ、同時代史料（文書、画像、映像、芸術作品など）を読解し、解釈する。史料は日本語のものを用意する。
参加者は毎回課題（リアクションペーパー）を提出する。提出課題はフィードバックのうえ返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツの近現代史における特殊性と他地域との共通性について知る。
第2回	近現代ドイツ史の歩みとナショナリズム	ナポレオン戦争からドイツ帝国創建にいたるドイツのナショナリズムの発展を概観する。
第3回	第一次世界大戦とその帰結	ヴェルサイユ体制と敗戦国ドイツの処遇について学ぶ。
第4回	ヴァイマール共和国の誕生	ドイツ革命、ヴァイマール共和国の成立から1920年代半ばの相対的安定期までを扱う。
第5回	ヴァイマール共和国の崩壊	世界大恐慌から、ナチ党の台頭過程を経てその権力掌握に至るまでを明らかにする。
第6回	ナチ独裁支配の確立	全権委任法や「グライヒシャルトゥンク」と呼ばれる国内支配体制の足固め、「経済の奇跡」を達成するまでを概観する。
第7回	ナチ体制への国民統合	ドイツ国民の「民族共同体」への統合と、「共同体異分子」と呼ばれた人びとの排除について扱う。
第8回	ナチ・ドイツと国際社会	ヨーロッパ・グローバルな視点から1930年代の国際情勢を明らかにする。
第9回	「電撃戦」から「総力戦」へ	第二次世界大戦の開戦の経緯とドイツの戦争遂行体制の内実について知る。
第10回	ヨーロッパ・ユダヤ人の「絶滅計画」	大量虐殺に至るユダヤ人迫害の累進的急進化のプロセスについて学ぶ。
第11回	支配と協力のあいだで	ナチ支配体制に対するヨーロッパ各国の協働と抵抗について知る。
第12回	第二次世界大戦後のドイツ（1）	「崩壊社会」と呼ばれた敗戦後の混乱から、東西ドイツの建国にいたる時期を扱う。
第13回	第二次世界大戦後のドイツ（2）	戦後の東西ドイツにおける「過去の克服」の状況、とくに戦争犯罪人の訴追の問題を扱う。
第14回	再統一後のドイツと「記憶の文化」	統一ドイツにおけるナチズムの過去に関する「記憶の文化」の形成について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回課題（リアクションペーパー）を提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007年。
芝健介『ホロコースト―ナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌』中公新書、2008年。
石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』講談社現代新書、2015年。
芝健介『ヒトラー―虚像の独裁者』岩波新書、2021年。
ウルリヒ・ヘルベルト(小野寺拓也訳)『第三帝国―ある独裁の歴史』角川新書、2021年。
小野寺拓也／田野大輔『検証ナチスは「良いこと」もしたのか？』岩波ブックレット、2023年。
原田昌博『ナチズム前夜』集英社新書、2024年。
ほか、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加(10%)、リアクションペーパー(30%)、レポート(60%)

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】
This course covers the history of the German-speaking world in the 20th century, with a focus on National Socialism. The aim is to place the Nazis and their rule in the context of German-European history and to understand its particularities.
Students will pay close attention to the process led to the establishment of the Nazi regime, which committed destruction and criminality unprecedented in history, the ideology and structure of its rule, and the daily lives of "ordinary people" under the Nazi regime. The course will also provide students with an understanding of the role of the Nazi regime in the Second World War and the persecution of the Jews (the Holocaust) in the context of its Europe-wide spread. The course will also examine historical perceptions of the Nazis from the end of the war to the present day.
Students are required to submit a reaction paper each time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語講読 A

2017年度以降入学者

吉田　敬介

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月2**/Mon.2
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、F・ニーチェの『ツァラトゥストラはこう語った』のドイツ語原文を講読します。

『ツァラトゥストラはこう語った』(*Also sprach Zarathustra*, 1883-1885)は、「神は死んだ」という洞察や「超人」の概念、「永劫回帰」の思想など、ニーチェ思想の重要モチーフが展開されている著作です。複数の日本語訳も存在し、ニーチェの主著の一つと見なされているこの著作は、実際に本文に目を通すとわかるように、一義的には理解できない文章によって構成されています。その理解のためには、原文を丁寧に読み、テクストに織り込まれた思想の内実を紐解いていくことが、非常に有益であるはずです。

授業においては、ドイツ語原文の精読を通して、ニーチェの思想を精確に理解するとともに、学術的なテクストをドイツ語で読む力をつけることを目指します。春学期には、『ツァラトゥストラはこう語った』の序説を講読する予定です。

【到達目標】

（A）辞書や参考書を用い、専門的なドイツ語のテクストを読解できる。
（B）ニーチェの思想を、テクストに即して精確に理解できる。
（C）理解した内容について考察し、他者と議論を展開できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

はじめにニーチェの生涯や思想、著作について導入をした後、『ツァラトゥストラはこう語った』（*Also sprach Zarathustra*）のドイツ語原文を輪読形式で講読します。

講読に際しては、受講者全員が事前にテクストを十分に予習していることを前提とします。予習した内容に基づき、テクストを精確に訳読し、意味内容を厳密に確認した上で、疑問点や議論したい点を発言してもらいます。また各回に記録担当者を設定します。該当者には、担当する回の講読内容やなされた議論を記録し、レジュメにまとめて次回の冒頭に発表してもらいます。発言や発表に対するフィードバックは、授業の中で適宜行うようにします。受講者には積極的な参加が望まれます。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムを確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テクストについて導入	授業の進め方の確認 ニーチェの生涯や思想、著作の背景について導入
第2回	*Also sprach Zarathustra* 講読（1）	7頁の精読、検討
第3回	*Also sprach Zarathustra* 講読（2）	7-8頁の精読、検討
第4回	*Also sprach Zarathustra* 講読（3）	8-9頁の精読、検討
第5回	*Also sprach Zarathustra* 講読（4）	10-11頁の精読、検討
第6回	*Also sprach Zarathustra* 講読（5）	11-12頁の精読、検討
第7回	*Also sprach Zarathustra* 講読（6）	12-14頁の精読、検討
第8回	*Also sprach Zarathustra* 講読（7）	14-15頁の精読、検討
第9回	*Also sprach Zarathustra* 講読（8）	15-16頁の精読、検討
第10回	*Also sprach Zarathustra* 講読（9）	17-19頁の精読、検討
第11回	*Also sprach Zarathustra* 講読（10）	19-21頁の精読、検討
第12回	*Also sprach Zarathustra* 講読（11）	21-22頁の精読、検討
第13回	*Also sprach Zarathustra* 講読（12）	23頁の精読、検討
第14回	春学期のまとめ	春学期の講読内容の整理・検討 議論と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
準備としては、訳読ができるよう、わからない単語・熟語に関して辞書を丁寧に引き、ドイツ語テクストを予習しておく必要があります。また復習としては、辞書や専門の事典を参照しつつ、訳読内容や授業で議論された内容を整理しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

・F. Nietzsche, *Also sprach Zarathustra*, Reclam
※テクストの詳細や入手方法に関しては、第1回の授業で説明をするので、準備はそれからで構いません。

【参考書】

・独和辞典（必須）
・『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』白水社
・『ニーチェ全集9・10　ツァラトゥストラ　上・下』吉沢伝三郎（訳）、筑摩書房〔ちくま学芸文庫〕
・須藤訓任「ニーチェ」（『哲学の歴史　第9巻　反哲学と世紀末【19-20世紀】』中央公論新社、263-376頁）
・細見和之（編著）『ニーチェをドイツ語で読む』白水社
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（講読時のテクスト理解、議論への参加、その他の授業への取り組みなどの総合評価）60％、発表への取り組み40％です。成績評価に際しては、【到達目標】（A）～（C）を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新設科目のため昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典（必須）とあわせて、ドイツ語学習時に用いた教科書や参考書をできるだけ持ってきてください。
・オンライン授業の場合に必要となるため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

・履修に際してはドイツ語の初級文法を学習済みであることが望ましいですが、特に希望がある場合、初級文法の学習と並行して履修することも可能です。

・ドイツ語で文献講読をすることに不安を抱く方もいるかもしれません。予習をするのは前提ですが、その上でわからなかったり間違えたりすることは問題ではありません。調べた上で、何がどうわからなかったかを発言してもらうことの方が大切です。
・春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with Nietzsche's thought by reading his *Thus Spoke Zarathustra* (1883-1885) in German.
Learning Objectives: The goals of this course are to (A) read academic texts in German, (B) understand Nietzsche's text, and (C) discuss relevant topics.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (60%), and in-class presentations (40%).

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語講読 B

2017年度以降入学者

吉田　敬介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月2**/Mon.2
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、F・ニーチェの『ツァラトゥストラはこう語った』のドイツ語原文を講読します。

『ツァラトゥストラはこう語った』(*Also sprach Zarathustra*, 1883-1885)は、「神は死んだ」という洞察や「超人」の概念、「永劫回帰」の思想など、ニーチェ思想の重要モチーフが展開されている著作です。複数の日本語訳も存在し、ニーチェの主著の一つと見なされているこの著作は、実際に本文に目を通すとわかるように、一義的には理解できない文章によって構成されています。その理解のためには、原文を丁寧に読み、テクストに織り込まれた思想の内実を紐解いていくことが、非常に有益であるはずです。

授業においては、ドイツ語原文の精読を通して、ニーチェの思想を精確に理解するとともに、学術的なテクストをドイツ語で読む力をつけることを目指します。秋学期には、『ツァラトゥストラはこう語った』の幾つかの説話を講読する予定です。

【到達目標】

（A）辞書や参考書を用い、専門的なドイツ語のテクストを読解できる。
（B）ニーチェの思想を、テクストに即して精確に理解できる。
（C）理解した内容について考察し、他者と議論を展開できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

はじめに序説の内容や論点を確認した後、春学期に引き続き、『ツァラトゥストラはこう語った』（*Also sprach Zarathustra*）のドイツ語原文を輪読形式で講読します。

講読に際しては、受講者全員が事前にテクストを十分に予習していることを前提とします。予習した内容に基づき、テクストを精確に訳読し、意味内容を厳密に確認した上で、疑問点や議論したい点を発言してもらいます。また各回に記録担当者を設定します。該当者には、担当する回の講読内容やなされた議論を記録し、レジュメにまとめて次回の冒頭に発表してもらいます。発言や発表に対するフィードバックは、授業の中で適宜行うようにします。受講者には積極的な参加が望まれます。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システムを確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 序説の振り返り	授業の進め方の確認 *Also sprach Zarathustra*, 7-23頁の内容・論点の確認
第2回	*Also sprach Zarathustra* 講読（1）	24-26頁の精読、検討
第3回	*Also sprach Zarathustra* 講読（2）	26-27頁の精読、検討
第4回	*Also sprach Zarathustra* 講読（3）	27-29頁の精読、検討
第5回	*Also sprach Zarathustra* 講読（4）	29-31頁の精読、検討
第6回	*Also sprach Zarathustra* 講読（5）	31-32頁の精読、検討
第7回	*Also sprach Zarathustra* 講読（6）	32-33頁の精読、検討
第8回	*Also sprach Zarathustra* 講読（7）	33-34頁の精読、検討
第9回	*Also sprach Zarathustra* 講読（8）	34-36頁の精読、検討
第10回	*Also sprach Zarathustra* 講読（9）	36-37頁の精読、検討
第11回	*Also sprach Zarathustra* 講読（10）	38-39頁の精読、検討
第12回	*Also sprach Zarathustra* 講読（11）	39-41頁の精読、検討
第13回	*Also sprach Zarathustra* 講読（12）	41-44頁の精読、検討
第14回	秋学期のまとめ	秋学期の講読内容の整理・検討 議論と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
準備としては、訳読ができるよう、わからない単語・熟語に関して辞書を丁寧に引き、ドイツ語テクストを予習しておく必要があります。また復習としては、辞書や専門の事典を参照しつつ、訳読内容や授業で議論された内容を整理しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

・F. Nietzsche, *Also sprach Zarathustra*, Reclam
※テクストの詳細や入手方法に関しては、第1回の授業で説明をするので、準備はそれからで構いません。

【参考書】

・独和辞典（必須）
・『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』白水社
・『ニーチェ全集9・10　ツァラトゥストラ　上・下』吉沢伝三郎（訳）、筑摩書房〔ちくま学芸文庫〕
・須藤訓任「ニーチェ」(『哲学の歴史　第9巻　反哲学と世紀末【19-20世紀】』中央公論新社、263-376頁)
・細見和之（編著）『ニーチェをドイツ語で読む』白水社
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（講読時のテクスト理解、議論への参加、その他の授業への取り組みなどの総合評価）60％、発表への取り組み40％です。成績評価に際しては、【到達目標】（A）～（C）を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新設科目のため昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典（必須）とあわせて、ドイツ語学習時に用いた教科書や参考書をできるだけ持ってきてください。
・オンライン授業の場合に必要となるため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

・履修に際してはドイツ語の初級文法を学習済みであることが望ましいですが、特に希望がある場合、初級文法の学習と並行して履修することも可能です。

・ドイツ語で文献講読をすることに不安を抱く方もいるかもしれません。予習をするのは前提ですが、その上でわからなかったり間違えたりすることは問題ではありません。調べた上で、何がどうわからなかったかを発言してもらうことの方が大切です。
・春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with Nietzsche's thought by reading his *Thus Spoke Zarathustra* (1883-1885) in German.
Learning Objectives: The goals of this course are to (A) read academic texts in German, (B) understand Nietzsche's text, and (C) discuss relevant topics.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (60%), and in-class presentations (40%).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学 A

2017年度以降入学者

西村　一帆

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月 2**/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。
全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。
体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック 健康とは	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動 フィットネス	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ネットスポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、パラスポーツのボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。
8	卓球	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	フットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60％、期末レポート20％、授業への参画状況20％の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。
使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】
問い合わせ教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.
【到達目標（Learning Objectives）】
(1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
(2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
(3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
(4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
(5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.
It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学 B

2017年度以降入学者

西村　一帆

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。
全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システム(Hoppii)を通して告知する。 体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。 毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック 健康とは	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る (講義)。
4	筋力アップ運動 フィットネス	トレーニング機器や自重による運動を行う (講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ネットスポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、またパラスポーツとしてボッチャを行う (講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う (講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える (講義)。
8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う (講義と実習)。
9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う (講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う (講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策 (講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う (講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う (講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る (講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。 また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど)60 %、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が 授業実施回数の2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。
使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】
問い合わせ教員連絡先: kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【授業の概要(Course outline)】In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.
【到達目標(Learning Objectives)】
(1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
(2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
(3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
(4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
(5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).
【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.
【授業の概要と目的(何を学ぶか)】
It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class. 【成績評価の方法と基準(Grading Criteria /Policy)】 Assignments
(reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学 A

2017年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木2**/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の科学技術の発展により、スポーツ科学および健康科学も多くの進化を遂げでいる。それにより、運動を効果的、効率的、そして安全に実施する方法や自身の健康を管理するための方法が数多く提唱されている。この授業は運動・スポーツ、特にラケットスポーツ、ニュースポーツを通してスポーツ科学に触れると共に、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持・増進に資する健康科学について理解を深め、実践する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業はグループワークおよび講義、実習から構成され，様々な実技種目を通じて、スポーツ科学および健康科学について学ぶ。
評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともに実習への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク ドッジビー	グループワーク「他己紹介」を通じたアイスブレイク。（グループワークおよび実習）
3	スポーツ科学・健康科学とは バドミントン	競技スポーツの場面から日常生活まで、スポーツ科学と健康科学の活用事例について学ぶ（講義および実習）
4	運動の心理的効果 バドミントン	運動の心理的効果について、気分調査尺度を用いて検証する。（講義及び実習）
5	運動の身体的効果 バドミントン	運動の身体的効果について学ぶ（講義及び実習）
6	技術を高める効果的な練習法：注意の焦点 バスケットボール(+派生バスケ)	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として注意の焦点を学ぶ。（講義および実習）
7	技術を高める効果的な練習法：フィードバック法 ネオテニス	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法としてフィードバック法を学ぶ（講義および実習）
8	技術を高める効果的な練習法：運動イメージ ネオテニス	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として運動イメージを学ぶ（講義および実習）
9	技術を高める効果的な練習法：ブロック・ランダム法 卓球	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法としてブロック・ランダム法を学ぶ（講義および実習）
10	技術を高める効果的な練習法：観察学習法 卓球	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として観察学習法を学ぶ（講義および実習）
11	効果的な練習方法の探索 卓球	グループワークを通じて、効果的に運動を学習するための方法について探索する（講義及びグループワーク）
12	効果的な練習方法の実践 ユニホック	「効果的な運動学習法の探索」での結果を踏まえて、効果的に運動を学習するための方法を実践する（講義および実習）
13	Tea(お茶)とスポーツボッチャ	Tea(お茶)は時に、人の歴史を大きく動かしてきた。お茶を巡る歴史とその健康効果を学ぶ（講義および実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ科学および生涯スポーツについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツや健康関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート・試験40％の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1.レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2.リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3.リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5.原則として欠席4回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6.やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

7.前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1.食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2.多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3.各スポーツ種目の未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。
ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】
1.学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2.授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3.授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。初回のガイダンスに出席してください。
5.授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】
With the development of science and technology in recent years, sports science and health science have also undergone many advances. Effective, efficient, and safe methods of exercising and managing one's health have been proposed.
The purpose of this course is to expose students to the latest sports science through exercise and sports and to deepen their understanding and practice of the latest health science that contributes to maintaining and improving physical, mental, and social health throughout life.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
(2) Report on the lecture: 40%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学 B

2017年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木2**/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の科学技術の発展により、スポーツ科学および健康科学も多くの進化を遂げている。それにより、運動を効果的、効率的、そして安全に実施する方法や自身の健康を管理するための方法が数多く提唱されている。この授業は運動・スポーツ、特にラケットスポーツ、ニュースポーツを通してスポーツ科学に触れると共に、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持・増進に資する健康科学について理解を深め、実践する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業はグループワークおよび講義、実習から構成され，様々な実技種目を通じて、スポーツ科学および健康科学について学ぶ。
評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともに実習への取り組みに対する動機づけを図る。（講義）
2	アイスブレイク ドッジビー	グループワークを通じたアイスブレイク。実技種目はドッジビーを用いる（グループワークおよび実習）
3	スポーツ科学・健康科学とは バドミントン	競技スポーツの場面から日常生活まで、スポーツ科学と健康科学の活用事例について学ぶ（講義および実習）
4	プレッシャーとスポーツ：実践 バスケットボール(+派生バスケ)	スポーツの場面ではしばしば緊張が高まる場面でのプレーが求められる。バスケットボールのフリースローを通じて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について検証する（講義及び実習）
5	プレッシャーとスポーツ：基礎理論 バドミントン	「プレッシャーとスポーツ：実践」での結果を踏まえてプレッシャーが心身に及ぼす影響について学ぶ（講義及び実習）
6	プレッシャーとスポーツ：あがりへの対処 バドミントン	「プレッシャーとスポーツ」での結果と基礎理論を踏まえて、プレッシャーがかかる場面でも実力発揮をするための方法とあがりへの対処法を学ぶ（講義および実習）
7	スポーツの価値 卓球	これまでに五輪スポーツから地域レベルでのレクリエーションスポーツまで数多のスポーツ種目が生み出されてきた。既存のスポーツ種目を概観すると共にスポーツの本質的価値を学ぶ（講義および実習）
8	Tea(お茶)とスポーツ 卓球	Tea(お茶)は時に、人の歴史を大きく動かしてきた。お茶を巡る歴史とその健康効果を学ぶ（講義および実習）
9	運動の功と罪 卓球	運動による健康効果についてはよく知られている。一方で、運動が心身に及ぼす負の影響についてはあまり知られていない。運動の功と罪について学ぶ（講義および実習）
10	ニュースポーツと地域活性 ネオテニス	ニュースポーツがどのように地域活性に役立っているか、また地域の取り組みについて具体的事例を挙げながら紹介し、生涯スポーツに対する理解を深める（講義および実習）
11	スポーツ栄養 ネオテニス	食の欧米化と多様化により、様々な健康リスクが増加した。近年、危惧されている超加工食品の摂取と健康リスクの関連について学ぶ（講義および実習）
12	睡眠の効果 ボッチャ	睡眠は健康に大きな影響を及ぼす。睡眠の効果について学ぶ（講義および実習）
13	スポーツとコーピング ユニホック	社会生活を営む中で、様々な心理的ストレスを受ける。ストレスに対処する方法を学ぶ（講義および実習）
14	総括・試験	総括およびレポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ科学および生涯スポーツについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツや健康関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート・試験40％の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。

3.リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5.原則として欠席4回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6.やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7.前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1.食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2.多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3.各スポーツ種目の未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。
ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】
1.学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2.授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3.授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。初回のガイダンスに出席してください。
5.授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】
With the development of science and technology in recent years, sports science and health science have also undergone many advances. Effective, efficient, and safe methods of exercising and managing one's health have been proposed.
The purpose of this course is to expose students to the latest sports science through exercise and sports and to deepen their understanding and practice of the latest health science that contributes to maintaining and improving physical, mental, and social health throughout life.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
(2) Report on the lecture: 40%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学 A

2017年度以降入学者

白井　隆長

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水3**/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年におけるテクノロジーの著しい発展に伴い、スポーツサイエンスの分野においても顕著な進化が見られ、スポーツをより効果的かつ効率的に、そして安全に実践するための多様な方法が提案されている。本講義では、ゴール型競技、ネット型競技、対人型競技など、異なる競技特性を有するスポーツを対象とし、最新のスポーツ科学に関する理解を深めることを目的とする。また、各競技における技術の習得および向上を目指し、理論的知識と実践的スキルの双方を習得することに重点を置く。さらに、身体活動の意義や役割について包括的に理解を深めるとともに、生涯を通じた身体的・精神的・社会的健康の維持・向上に寄与する基礎的な知識の修得を促進し、自己管理能力の涵養を図る。本講義では、これらの知識や態度を、講義と実習を通じて総合的に育成することを目標とする。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について スポーツ科学の視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 人体のしくみを理解することで自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 健康に関する情報の取捨選択ができるようになるために、科学的根拠を踏まえた健康リテラシーを醸成する。
⑤ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して 、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑥ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る 。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいてレポート選抜で履修可能者をする。
授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	実技＆講義：バスケットボール①	ストレッチ・体操(フィットネス) バスケットボールの基本的技術とルール
3	実技＆講義：バスケットボール②	ストレッチ・体操(フィットネス)・レクリエーション、バスケットボールの応用的技術と戦術理解
4	実技＆講義：バレーボール①	ストレッチ・体操(フィットネス)・レクリエーション、バレーボールの基本的技術とルール
5	スポーツ科学とは？（講義）	スポーツ科学とは トップアスリートの特徴 サイエンスの活用
6	運動と代謝（講義）	代謝とそのメカニズム 運動が健康に与える影響
7	実技＆講義：卓球①	ストレッチ・体操（フィットネス） 卓球の基本的技術とルール
8	実技＆講義：卓球②	ストレッチ・体操(フィットネス) ダブルスの応用的技術とルール
9	実技＆講義：バドミントン①	ストレッチ・体操(フィットネス) バドミントンの基本的技術とルール、試合形式のゲーム
10	実技＆講義：バドミントン②	ストレッチ・体操(フィットネス) バドミントンのダブルスの応用的技術とルール、試合形式のゲーム
11	実技＆講義:バレーボール②	ストレッチ・体操（フィットネス） バレーボールの応用的技術とルール
12	実技 ＆講義:その他の種目	ストレッチ・体操(フィットネス) ドッヂボール、フリスビー、ユニホック、ホッケーの基本技術とルール
13	サクセスフルエイジングの達成（講義）	エイジング 老化と加齢 エクササイズの効能
14	授業の総括、簡易テスト	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
本授業は、講義および実習を通じて、スポーツ活動が身体的および精神的健康の維持・増進に寄与し、さらに良好な対人関係の構築を促進することについて理解を深めることを目的としている。その一環として、日常生活における身体活動に費やした時間、食事内容、睡眠時間などの生活習慣を記録し、それらを振り返ることで、身体活動がもたらす効果を評価するとともに、今後の課題を明確にすることが求められる。また、テレビ、新聞、Webメディアなどを通じて発信される多様なスポーツ関連情報に注意を向け、それらを積極的に収集・分析する習慣を身につけることも推奨される。これらの取り組みにより、本授業で扱う内容への理解が一層深まり、スポーツ活動の意義についての認識を高めることが期待される。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート40％の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で論理的かつ適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
本授業では、スポーツ競技の優れた技術をマスターすることを目的としていないため、初心者でもスポーツに親しめるよう授業の難易度を低く設定しています。そのため、競技に不安のある方でも楽しく参加できるよう配慮しております。

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1.原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoomなどによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2.授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする
4.本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること。
5.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある

【Outline (in English)】

【Course outline】With the development of technology in recent years, sports science has evolved in various ways, and many methods have been proposed to make sports more effective, efficient, and safe. In this lecture, we will deepen our understanding of the latest sports science using sports with various characteristics such as goal-based, net-based, and opponent-based, and aim to acquire and improve skills in each sport. This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from sports science perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. To develop basic knowledge and attitudes that contribute to self-management through an understanding of how the human body works..
4. To foster health literacy based on scientific evidence in order to be able to discern information about health.
5. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
6. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学 B

2017年度以降入学者

白井　隆長

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水3**/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、「運動・栄養・休養」という三つの観点から、自身および集団の健康に関する科学的理解を深めることを目的とする。特に、現代日本が直面する少子高齢化、ライフスタイルの変容、生活習慣病の増加などの社会的課題に焦点を当て、それらの背景や疾病の原因を多角的に考察する。さらに、スポーツ科学に関する理論的知識の習得にとどまらず、実践的アプローチとしてエクササイズやメンタルトレーニングを取り入れ、自己の健康を維持・向上させるためのセルフコントロール技法を身につけることを重視する。受講生は、科学的根拠に基づいた運動の効果や心理的アプローチを理解し、それを日常生活に応用することで、生涯にわたる健康管理能力を養うことができる。本講義ではより個人の健康管理に重点を置き、実践的なセルフマネジメント手法を修得することを特徴とする。健康維持・増進のための理論と実践を統合し、科学的な視点に基づいた健康習慣の確立を目指す。単なる知識の習得にとどまらず、個々のライフスタイルに適した運動やメンタルトレーニングの活用方法を探究し、自らの健康を主体的に管理する能力を培うことで、より質の高い生活を実現するための知識と実践力を養う。本講義を通じて、スポーツ科学の知見を活かし、健康的な生活を実現するための具体的な方法を学び、スポーツを通じた生涯健康管理の実践者となることを目指す。

【到達目標】
① スポーツの三要素「運動、栄養、休養」について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を送るために、スポーツ実習を通して自身に合ったコンディショニング法を身につける。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る 。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
　この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については 、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者をする。
　授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験 や レポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
　授業は対面による実技と講義で実施する。
　授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	実技&講義 ：バドミントン①	ストレッチ・体操（フィットネス） バドミントンの基本的技術とルール
3	実技&講義 ：バドミントン②	ストレッチ・体操(フィットネス) ダブルスの基本的技術とルール
4	実技&講義 ：フットサル①	実践的 W-up ストレッチ・体操（フィットネス） フットサルの基本的技術とルール
5	健康とは?（講義）	WHOの健康の概念（Health Tips） JAMA 身体の健康を維持するしくみ
6	生活習慣病とスポーツ医学（講義）	生活習慣病とは（発症とそのメカニズム） スポーツ医学とその応用 運動が疾病を抑制するメカニズム
7	実技&講義 ：卓球①	ストレッチ・体操（フィットネス） 卓球の基本的技術とルール
8	実技&講義 ：卓球②	ストレッチ・体操（フィットネス） ダブルスの基本的技術とルール
9	実技&講義 ：バスケットボール①	ストレッチ・体操（フィットネス） バスケットボールの基本的技術と戦術
10	実技&講義 ：バスケットボール②	ストレッチ・体操（フィットネス） バスケットボールの応用的技術と戦術 3vs3
11	実技&講義 ：フットサル②	実践的 W-up ストレッチ・体操（フィットネス） フットサルの応用的技術とルール
12	実技&講義 ：ニュースポーツ	ストレッチ・体操（フィットネス） ユニホック・インディアカの基本的技術とルール
13	骨格筋の構造と特性を活かしたコンディショニング（講義）	骨格筋の量・質的変化 トレーニング適応 コンディショニング 遺伝とスポーツパフォーマンス
14	授業の総括・簡易テスト	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は、講義および実習を通じて、スポーツ活動が身体的・精神的健康の維持・向上に寄与し、さらに良好な対人関係の構築を促進する役割を担うことについて理解を深めることを目的とする。そのため、日々の身体活動に費やした時間や睡眠時間などの生活習慣を記録し、その内容を振り返ることで、スポーツ活動が自身の健康に与える影響を評価し、今後の課題を明確化することが求められる。また、テレビ・新聞・Webメディアなどを通じて発信される多様なスポーツ関連情報に積極的に触れ、最新の知見や社会的動向を把握する習慣を養うことも重要である。これらの実践的取り組みを通じて、本授業で学ぶ内容への理解が一層深まり、スポーツ活動の意義に関する科学的かつ実践的な洞察を得ることが期待される。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート40％の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席3回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。

7.前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ科学に関するエビデンスをもとにした講義や実習を通してスポーツの楽しさを学びます。運動によって身体が変化していくメカニズムを理解し、自身のライフスタイルに適切な運動・栄養・休養のコンディショニング法を紹介します。スポーツ科学A同様に、競技スポーツの習熟を狙いとしていない授業のため、スポーツ科学に親しんでみたい生徒の受講を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】
　実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
　オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】
1.原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoomなどによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2.授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする。
4.本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること
5.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understood health from the three perspectives of exercise, nutrition, and rest, as well as a multifaceted understanding of the various problems facing Japan (declining birthrate and aging population, changing lifestyles, lifestyle-related diseases, etc.) and the causes of disease. The goal of this course is to learn how to maintain and improve health by practicing exercises and mental training for self-control methods to maintain one's own health.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Deepen understanding of the three elements of sports: exercise, nutrition, and rest, from various perspectives.
2. Acquire conditioning methods suited to themselves through sports and physical activity, to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学 A

2017年度以降入学者

武井　敦彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月2**/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツや日常活動において、身体のパフォーマンスを向上させるための基礎的〜発展的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体機能について様々な視点から理解を深める。
2. トレーニング要素(筋力トレーニング、有酸素運動、無酸素運動、柔軟など)を各種スポーツやトレーニングジムでの活動を通じて身に付ける。
3. 各種競技のパフォーマンス向上を図る。
4. スポーツ傷害と予防方法について知識を深める。
5. 自己管理に資する基礎〜発展的な知識の習得や態度の育成を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。履修希望者が多数の場合は、事前のガイダンスにおいて抽選をおこない、履修可能者が決定される。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、プレゼンテーション（1回目）の実施（講義及び実習）
2	体力測定1	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
3	体力測定2	体力測定のフィードバック及びレポート作成(講義)
4	個人スポーツ1	卓球を通じた身体機能を学ぶ(講義及び実習)
5	個人スポーツ2	卓球を通じた身体の使い方を学ぶ (講義及び実習)
6	トレーニング理論と実践1	効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ(講義及び実習)
7	健康とトレーニング	正しい身体機能を知る事により「QOL向上」を行う（講義及び実習）
8	スポーツ傷害	スポーツ傷害の理解と予防 (講義及び実習)
9	個人スポーツ3	バドミントンを通じたパフォーマンスエンハンスメント（講義及び実習）
10	個人スポーツ4	バドミントンを通じた傷害予防を学ぶ (講義及び実習)
11	ウォームアップ	球技系種目を通じた効果的なウォームアップの理論と方法を学ぶ (講義及び実習)
12	チームスポーツ	フットサルを通じたパフォーマンスエンハンスメント(講義及び実習)
13	トレーニング理論と実践2	効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ、プレゼンテーション（2回目）の実施(講義及び実習)
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じて身体機能、各種トレーニング、そしてスポーツ傷害の知識を学び、スポーツや日常活動において身体のパフォーマンスを向上させることを目的としています。そのため、日々のトレーニングやリカバリーなどを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ医科学関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】
広瀬統一・泉重樹・福田崇・稲見崇孝. ケガをしないカラダづくり. 東洋館出版社、2023

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況・プレゼンテーション・リアクションペーパー60％、2）課題レポート40％の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
※原則として欠席3回までを評価対象とします。
※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
身体機能、各種トレーニング要素、スポーツ傷害の予防をより理解するために、多様な体験型学習を取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】
1. 授業内容に関する説明およびプレゼンテーションを実施するため、受講希望者は必ず初回授業に参加して下さい。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire basic to advanced knowledge and develop the attitudes required to improve physical performance in sports and daily activities through lectures and practical training.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. Deepen understanding of physical functions from various perspectives.

2. Acquire training elements (strength training, aerobic exercise, anaerobic exercise, flexibility, etc.) through various sports and activities at training gyms.
3. Improve performance in various sports.
4. Deepen knowledge of sports injuries and prevention methods.
5. Acquire basic to advanced knowledge and develop attitudes contributing to self-management.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each. This class aims to learn about physical functions, various training methods, and sports injuries through lectures and practical training, as well as to improve physical performance in sports and daily activities. Therefore, please record your daily training and recovery, reflect on the content, and record the effects and future challenges. Also, please get into the habit of paying attention to various sports medicine-related information from TV, newspapers, the Internet, etc. This will deepen your understanding of the content of this class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1. Participation status for activities during class /Presentation /Reaction paper 60%,
2. Assignments /Reports 40%.
In principle, this grade evaluation method is used, and students with difficulty in regular activities will be treated and evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

武井　敦彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツや日常活動において、身体のパフォーマンスを向上させるための基礎的〜発展的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体機能について様々な視点から理解を深める。
2. トレーニング要素(筋力トレーニング、有酸素運動、無酸素運動、柔軟など)を各種スポーツやトレーニングジムでの活動を通じて身に付ける。
3. 各種競技のパフォーマンス向上を図る。
4. スポーツ傷害と予防方法について知識を深める。
5. 自己管理に資する基礎〜発展的な知識の習得や態度の育成を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。履修希望者が多数の場合は、事前のガイダンスにおいて抽選をおこない、履修可能者が決定される。なお、最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、プレゼンテーション（1回目）の実施（講義及び実習）
2	体力測定1	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
3	体力測定2	体力測定のフィードバック及びレポート作成(講義)
4	個人スポーツ1	卓球を通じた身体機能を学ぶ（講義及び実習）
5	個人スポーツ2	卓球を通じた身体の使い方を学ぶ（講義及び実習）
6	トレーニングの理論と実践1	効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ(講義及び実習)
7	健康とトレーニング	正しい身体機能を知る事により「QOL向上」を行う（講義及び実習）
8	スポーツ傷害	スポーツ傷害の理解と予防 (講義及び実習)
9	個人スポーツ3	バドミントンを通じたパフォーマンスエンハンスメント（講義及び実習）
10	個人スポーツ4	バドミントンを通じた傷害予防を学ぶ（講義及び実習）
11	ウォームアップ	球技系種目を通じた効果的なウォームアップの理論と方法を学ぶ (講義及び実習)
12	チームスポーツ	フットサルを通じたパフォーマンスエンハンスメント(講義及び実習)
13	トレーニングの理論と実践2	効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ、プレゼンテーション（2回目）の実施(講義及び実習)
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じて身体機能、各種トレーニング、そしてスポーツ傷害の知識を学び、スポーツや日常活動において身体のパフォーマンスを向上させることを目的としています。そのため、日々のトレーニングやリカバリーなどを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ医科学関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】
広瀬統一・泉重樹・福田崇・稲見崇考. ケガをしないカラダづくり. 東洋館出版社、2023

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況・プレゼンテーション・リアクションペーパー60％、2）課題レポート40％の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
※原則として欠席3回までを評価対象とします。
※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
身体機能、各種トレーニング要素、スポーツ傷害の予防をより理解するために、多様な体験型学習を取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】
1. 授業内容に関する説明およびプレゼンテーションを実施するため、受講希望者は必ず初回授業に参加して下さい。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to acquire basic to advanced knowledge and develop the attitudes required to improve physical performance in sports and daily activities through lectures and practical training.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. Deepen understanding of physical functions from various perspectives.

2. Acquire training elements (strength training, aerobic exercise, anaerobic exercise, flexibility, etc.) through various sports and activities at training gyms.
3. Improve performance in various sports.
4. Deepen knowledge of sports injuries and prevention methods.
5. Acquire basic to advanced knowledge and develop attitudes contributing to self-management.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each. This class aims to learn about physical functions, various training methods, and sports injuries through lectures and practical training, as well as to improve physical performance in sports and daily activities. Therefore, please record your daily training and recovery, reflect on the content, and record the effects and future challenges. Also, please get into the habit of paying attention to various sports medicine-related information from TV, newspapers, the Internet, etc. This will deepen your understanding of the content of this class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1. Participation status for activities during class /Presentation /Reaction paper 60%,
2. Assignments /Reports 40%.
In principle, this grade evaluation method is used, and students with difficulty in regular activities will be treated and evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学 A

2017年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木1**/Thu.1
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され，バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容（スポーツ心理、栄養、トレーニング等）も含めて授業を進める。
評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ（グループワークおよび実習）
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ（講義及び実習）
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ（講義及び実習）
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア＆ヘアピン、ドロップ＆ロビング、プッシュ＆レシーブ、スマッシュ＆レシーブについて学ぶ（講義及び実習）
6	バドミントンの歴史を知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ（講義および実習）
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ（講義および実習）
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する（講義および実習）
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える(コンディショニング)ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ（講義）
10	シングルス	シングルスのルールと動き方を学ぶ（講義及び実習）
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義および実習）
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ（講義および実習）
13	トリプルス	トリプルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義及び実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート・試験40％の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席4回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. バドミントンの未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1.原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2.授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3.授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。初回のガイダンスに出席してください。
5.授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
(2) Report on the lecture: 40%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木1**/Thu.1
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され，バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容（スポーツ心理、栄養、トレーニング等）も含めて授業を進める。
評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ（グループワークおよび実習）
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ（講義及び実習）
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ（講義及び実習）
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア＆ヘアピン、ドロップ＆ロビング、プッシュ＆レシーブ、スマッシュ＆レシーブについて学ぶ（講義及び実習）
6	バドミントンの歴史を知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ（講義および実習）
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ（講義および実習）
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する（講義および実習）
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える(コンディショニング)ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ（講義）
10	シングルス	シングルスのルールと動き方を学ぶ（講義及び実習）
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義および実習）
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ（講義および実習）
13	トリプルス	トリプルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義及び実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート・試験40％の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1.レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2.リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3.リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5.原則として欠席4回までを評価対象とします。また、授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6.やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7.前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1.食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2.多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3.バドミントンの未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】

1.原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2.授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3.授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。初回のガイダンスに出席してください。
5.授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
(2) Report on the lecture: 40%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

吉田　康伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**2単位**
定員制（20～30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

２年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向（歴史）やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】

①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。

なお、本授業は2年生以上を対象としており、A・B連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。

授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第2回	受講者決定、バレーボールのルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第3回	基本技術・パスの技術習得（実習&講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第4回	基本技術・サーブの技術習得（実習&講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第5回	基本技術・スパイクの技術習得（実習&講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第6回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第7回	フォーメーションについて（実習&講義）	コートの位置取りや実際の動き方など、フォーメーションについて理解する。
第8回	集団的技術・各ポジションの役割（実習&講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第9回	集団的技術（三段攻撃使用）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（三段攻撃を用いる）を立ててゲームを行う。
第10回	集団的技術（レシーブのフォーメーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レシーブのフォーメーション）を立ててゲームを行う。
第11回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。
第12回	集団的技術（チームコミュニケーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（チームコミュニケーション）を立ててゲームを行う。
第13回	集団的技術（総合）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。
第14回	授業総括と筆記試験	授業の総括を行った後、筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、基本的なルールや技術に必要な要点等、各自で行った内容を理解しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（60％）を主な基準として、筆記試験（40%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえるよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は2年生から4年生で公開科目を受講可能な学生とする。
・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

[Course outline]
Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.

[Learning Objectives]
1.Learn basic knowledge about volleyball, such as rules and techniques.
2.Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3.You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
4.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

[Learning activities outside of classroom]
Understand what you have done, such as the basic rules and the main points required for the technique. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/policy]
The participation status in the class is evaluated as 60%, and the written test is evaluated as 40%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

吉田　康伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ（アウトドア）バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】
①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。
実習では、春学期Aで習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。
なお、本授業（スポーツ科学B）は2年生以上を対象としており、スポーツ科学Aを受講した学生の連続受講が望ましい。
また授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス及びビーチバレーのルールについて（講義）	授業のガイダンスを行い、ビーチバレーの歴史やルールについて資料を配布し説明する。
第2回	基本的な動きとボールに慣れる（実習＆講義）	スポーツ科学Bからの受講者のため各技術の基本を説明する。
第3回	基本技術の復習（実習＆講義）	スポーツ科学Aで行った基本技術を復習する。
第4回	基本技術、集団技術の復習（実習&講義）	スポーツ科学Aで行った基本的技術や集団的技術を復習する。
第5回	各技術の応用（実習&講義）	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第6回	集団的技術・基礎（実習&講義）	スポーツ科学Aとは違うチーム分けをし、チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。
第7回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第8回	集団的技術（レセプション戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レセプション）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第9回	集団的技術（トスアップ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（トスアップ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第10回	集団的技術（ディグ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ディグ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第11回	集団的技術（スパイク戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（スパイク）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第12回	集団的技術（ブロック戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ブロック）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第13回	集団的技術（総合的）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第14回	授業総括とレポート作成、提出	授業の総括を行った後、レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、インドアバレーとビーチバレーとの違い等を理解し、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参画状況（70%）を主な基準として、レポート（30%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえるよう努める。

【その他の重要事項】
・対象者は2年生から4年生で公開科目を受講可能な学生とする。
・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.
[Learning Objectives]
1.Understand the differences between the characteristics of indoor volleyball and beach volleyball.
2.Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3.You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
4.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.
[Learning activities outside of classroom]
Investigate the difference between indoor volleyball and beach volleyball and the physical fitness factors required for competition. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/policy]
The participation status in the class is evaluated as 70%, and the report is evaluated as 30%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

中澤　史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【到達目標】
1.トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2.目標達成に寄与する独自のトレーニングプログラムを考案し、実践する。
3.トレーニング効果を促進する栄養、サプリメントなどに関する知識を習得する。
4.トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する基礎的な理論と方法について学ぶ。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深める。本授業における主な取り組みは次の通りである。①授業から得た知識や気づきなどをリアクションペーパーにまとめる。②各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をレポートにまとめる。③トレーニング効果を促進する栄養、サプリメントなどに関する文献を講読する。④最終授業時に授業内で行ったリアクションペーパー等の課題に関する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定を行う（講義）
2	安全講習	安全講習及び各種機器の使用方法を学ぶ（講義及び実習）
3	目標設定	体組成の測定及びトレーニング目標の設定を行う（講義及び実習）
4	グループワーク1	描画法を用いたグループワークに取り組む（講義）
5	グループワーク2	グループワークを通して「他者からみた私」を知る（講義）
6	トレーニングの理論	トレーニングの理論と実践方法を学ぶ（講義）
7	トレーニングの理論と実習1	サプリメントとその摂取方法について学ぶ（講義及び実習）
8	トレーニングの理論と実習2	栄養不足が招く悪影響について学ぶ（講義及び実習）
9	トレーニングの理論と実習3	スポーツ現場での栄養指導について学ぶ（講義及び実習）
10	トレーニングの理論と実習4	栄養摂取のポイントについて学ぶ（講義及び実習）
11	トレーニングの理論と実習5	アミノ酸の役割について学ぶ（講義及び実習）
12	トレーニングの理論と実習6	脂質の役割について学ぶ（講義及び実習）
13	トレーニングの理論と実習7	糖質の役割について学ぶ（講義及び実習）
14	総括	体組成の測定及びレポートの作成、授業のまとめ（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次の学習活動への取り組みを推奨します。
1. 計画的なトレーニングを実践する。
2. 食事と睡眠時間を記録する。
3. トレーニング、栄養、睡眠に関する資料を読む。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況、リアクションペーパー、レポート等による総合評価。
・授業への参画状況およびリアクションペーパー等の提出物：80％
・レポート課題：20％
1.原則として出席回数が授業実施回数の 2/3（10回出席）以上に満たない場合はE評価となります。
2.授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。また、遅刻3回で欠席1回の扱いとします。
3.やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、怪我、冠婚葬祭等による欠席を指します。
4.急遽、病気、怪我、冠婚葬祭等により欠席することになった場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告するとともに、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。
5.レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
6.リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
7.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
8. 授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事など）は禁止します。指導を受けても改善が見られない場合はE評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1.トレーニングに適した服装と室内用シューズを準備してください。トレーニングウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2.学習支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができる機器を準備してください。

【その他の重要事項】
1.初回授業時に受講者（30名程度）を決定します。本授業の受講希望者は必ず初回授業に参加してください。
2.授業目標の達成にはトレーニングの継続が不可欠となるため、スポーツ科学A・Bの通年履修が理想的です。
3.初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館5階の予定です。
4.原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業等に変更される場合があるため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
5.授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】

In this class, students learn the basic theory and methods of physical training that contribute to the achievement of own goals, such as performance enhancement, body makeup, dieting, and health maintenance and improvement, and devise their own training program. Students will also understand that training activities that contribute to physical health can also be a means of contributing to psychological and social health.
【Learning Objectives】
1.to learn the basic theory and methods of training.
2.to devise and implement original training program that contributes to the achievement of own goals.
3.to acquire knowledge of nutrition and supplements to promote the effects of training.
4.to understand that training is a means of contributing not only to physical health but also to psychological and social health.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.
1.to practice systematic training.
2.to record your meals and sleeping hours.
3.to read material on training, nutrition and sleep.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1.Participation in class and submission of reaction papers and other materials : 80%.
2.Report assignments : 20%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

中澤　史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ科学Aでの学びの発展を目的とし、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【到達目標】
1.実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2.目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案し、実践する。
3.トレーニング効果を促進するリカバリー、栄養摂取、睡眠の方法などに関する知識を習得する。
4.トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する実践的且つ効果的な理論と方法について学ぶ。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深め、スポーツ科学Aにおいて考案したトレーニングプログラムを発展させる。本授業における主な取り組みは次の通りである。①授業から得た知識や気づきなどをリアクションペーパーにまとめる。②各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をレポートにまとめる。③トレーニング効果を促進するリカバリー、栄養摂取、睡眠の方法などに関する文献を講読する。④最終授業時に授業内で行ったリアクションペーパー等の課題に関する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明及び受講者の決定を行う（講義）
2	安全講習	安全講習及び各種機器の使用方法を学ぶ（講義及び実習）
3	目標設定	体組成の測定及びトレーニング目標の設定を行う（講義及び実習）
4	トレーニングに関する教養教育1	スポーツ傷害に関する予備知識を習得する（講義）
5	トレーニングに関する教養教育2	トレーニング効果を高める予備知識を習得する（講義）
6	トレーニングに関する教養教育3	栄養、発汗、睡眠に関する予備知識を習得する（講義）
7	トレーニングの理論と実習1	睡眠の質について学ぶ（講義及び実習）
8	トレーニングの理論と実習2	睡眠時間と就寝法について学ぶ（講義及び実習）
9	トレーニングの理論と実習3	リカバリーとトレーニングの関係について学ぶ（講義及び実習）
10	トレーニングの理論と実習4	生体リズムと体内時計について学ぶ（講義及び実習）
11	トレーニングの理論と実習5	最終目標から逆算した栄養戦略について学ぶ（講義及び実習））
12	トレーニングの理論と実習6	減量のポイントについて学ぶ（講義及び実習）
13	トレーニングの理論と実習7	増量のポイントについて学ぶ（講義及び実習）
14	総括	体組成の測定及びレポートの作成、授業のまとめ（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次の学習活動への取り組みを推奨します。
1. 計画的なトレーニングを実践する。
2. 食事と睡眠時間を記録する。
3. トレーニング、栄養、睡眠に関する資料を読む。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況、リアクションペーパー、レポート等による総合評価。
・授業への参画状況およびリアクションペーパー等の提出物：80％
・レポート課題：20％
1.原則として出席回数が授業実施回数の 2/3（10回出席）以上に満たない場合はE評価となります。
2.授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。また、遅刻3回で欠席1回の扱いとします。
3.やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、怪我、冠婚葬祭等による欠席を指します。
4.急遽、病気、怪我、冠婚葬祭等により欠席することになった場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告するとともに、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。
5.レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
6.リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
7.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
8. 授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事など）は禁止します。指導を受けても改善が見られない場合はE評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
・新規的人間関係の構築を目的とした体験型学習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1.トレーニングに適した服装と室内用シューズを準備してください。トレーニングウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2.学習支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができる機器を準備してください。

【その他の重要事項】
1.初回授業時に受講者（30名程度）を決定するため、本授業の受講希望者は必ず初回授業に参加してください。なお、授業目標の達成にはトレーニングの継続が不可欠となるため、スポーツ科学Bの履修者は春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用します。
2.初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館地下にあるトレーニングセンターの予定です。
3.原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業等に変更される場合があるため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
4.授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
With the aim of developing learning in sports science A, students will learn practical theories and methods of physical training that will help them achieve their goals, such as performance enhancement, body makeup, dieting, and health maintenance and improvement, and devise their own training program. Students will also understand that training activities that contribute to physical health can also be a means of contributing to psychological and social health.
【Learning Objectives】
1.to acquire practical training theory and methods
2.to devise and implement effective and practical training program that contribute to the achievement of own goals.
3.to acquire knowledge of recovery, nutrition and sleep methods that promote the effects of training.
4.to understand that training is a means of contributing not only to physical health, but also to psychological and social health.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.
1.to practice systematic training.
2.to record your meals and sleeping hours.
3.to read material on training, nutrition and sleep.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1.Participation in class and submission of reaction papers and other materials : 80%.
2.Report assignments : 20%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学 A

2017年度以降入学者

魚住　智広

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火3**/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。バドミントンと卓球を主な競技として、道具を用いた運動を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生の受講も十分に可能です。

【到達目標】
1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 現代社会におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を提出する必要があります。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	（講義）授業概要、目的、成績評価、安全上の注意事項
2	バドミントン①	ラケット操作
3	バドミントン②	フットワーク
4	バドミントン③	基礎動作
5	卓球①	ラケット操作（バドミントンとの違い）
6	卓球②	基礎動作（バドミントンとの違い）
7	バドミントン④	ダブルスルール・ゲーム
8	バドミントン⑤	サーブ
9	教育とスポーツ	（講義）体育とスポーツの違い、体罰、やりがい搾取
10	科学とは何か	（講義）スポーツを科学するとは
11	レクリエーションとは何か	（講義）労働と余暇、スポーツを消費することの是非
12	バドミントン⑥	シングルスゲーム
13	卓球③	ダブルスルール・ゲーム（バドミントンとの違い）
14	テクノロジーとスポーツ	（講義）テクノロジー介入の争点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】
特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】
授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】
1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
・課題の内容を理解したものであるか
・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
・レポートの体裁をなしたものであるか
・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】
スポーツに関する最新の人文社会科学の研究を取り入れながら、授業内容を随時更新しています。

【学生が準備すべき機器他】
課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】
この授業は定員制です。履修希望者は履修登録をした上で、初回ガイダンスに必ず出席してください。履修希望者が定員を超えていた場合、以下の優先順位をもとに抽選と受講許可をおこないます。
①履修登録者かつ初回ガイダンス出席者
②初回ガイダンス出席者
③履修登録者かつ初回ガイダンス欠席者
④履修登録者かつ第2回授業の出席者（欠員補充の場合）
なお教場の都合により授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
This course aims to acquire the knowledge and skills to exercise with others through habitual physical activity. Students will deepen their understanding of the significance of recreation in daily life while exercising with equipment, with badminton and table tennis as the main sports. The exercise load involved in this class is not heavy, so students who do not have an exercise habit can take this course.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. to acquire knowledge of safe exercise through physical activity.
2. to acquire the skills to exercise with others according to individual abilities.
3. to recognize changes in one's body and physical condition while engaging in sports.
4. to understand the significance and issues of recreation in modern society.
Students are expected to complete assigned tasks after some sessions, with a recommended study time of at least four hours per class. The final grade will be determined through the evaluation of goal achievement(68%)and these assigned tasks(32%).
This course has a limited enrollment. Students who wish to take the course must complete course registration and attend the first guidance session.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

魚住　智広

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火3**/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。バドミントン、ネオテニス、卓球を主な競技として、道具を用いた運動を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生の受講も十分に可能です。

【到達目標】
1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 現代社会におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を提出する必要があります。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	（講義）授業概要、目的、成績評価、安全上の注意事項
2	バドミントン①	ラケット操作
3	バドミントン②	フットワーク
4	バドミントン③	基礎動作
5	ネオテニス①	ラケット操作
6	ネオテニス②	フォアハンド
7	ネオテニス③	サーブ
8	ネオテニス④	ダブルスルール・ゲーム
9	多様な性とスポーツ	（講義）性別二元制、性別役割分業、スポーツ界の課題
10	メガスポーツイベント	（講義）メガイベントの定義、レガシー、ナショナリズム
11	地域の生活とスポーツ	（講義）開発、ショックドクトリン、ツーリズム
12	卓球①	ラケット操作（バドミントンとの違い）
13	卓球②	基礎動作（バドミントンとの違い）
14	暴力・差別とスポーツ	（講義）定義、構造的差別、「中立性」の政治性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】
特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】
授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】
1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
・課題の内容を理解したものであるか
・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
・レポートの体裁をなしたものであるか
・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】
スポーツに関する最新の人文社会科学の研究を取り入れながら、授業内容を随時更新しています。

【学生が準備すべき機器他】
課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】
この授業は定員制です。履修希望者は開講曜日の春学期初回授業日までに履修登録を完了してください。履修登録者が定員を超えていた場合、春学期1週目に抽選を実施します。抽選の結果は、春学期1週目に学習支援システムに掲示します。
受講許可者となった場合は、秋学期の初回ガイダンスに必ず出席してください。また秋学期が始まるまで、履修登録を外さないでください。初回ガイダンスを無断欠席した場合や、初回授業時点で履修登録が外れていた場合は、優先的な受講を取り消す場合があります。詳しい日程は学習支援システムから確認してください。
なお教場の都合により授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
This course aims to acquire the knowledge and skills to exercise with others through habitual physical activity. Students will deepen their understanding of the significance of recreation in daily life while exercising with equipment, with badminton, neo-tennis and table tennis as the main sports. The exercise load involved in this class is not heavy, so students who do not have an exercise habit can take this course.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. to acquire knowledge of safe exercise through physical activity.
2. to acquire the skills to exercise with others according to individual abilities.
3. to recognize changes in one's body and physical condition while engaging in sports.
4. to understand the significance and issues of recreation in modern society.
Students are expected to complete assigned tasks after some sessions, with a recommended study time of at least four hours per class. The final grade will be determined through the evaluation of goal achievement(68%)and these assigned tasks(32%).
This course has a limited enrollment. Students who wish to take this course must complete their registration by the first class of the spring semester. If the number of applicants exceeds the limit, a lottery will be conducted in the first week of the spring semester.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学 A

2017年度以降入学者

西村　一帆

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。
全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック 健康とは	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動 フィットネス	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ニュースポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、パラスポーツのボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。
8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60％、期末レポート20％、授業への参画状況20％の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。
使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】
問い合わせ　教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.
【到達目標（Learning Objectives）】
(1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
(2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
(3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
(4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
(5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.
It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学 B

2017年度以降入学者

西村　一帆

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。
全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システム (Hoppii) を通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック 健康とは	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る (講義)。
4	筋力アップ運動 フィットネス	トレーニング機器や自重による運動を行う (講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ニュースポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、またパラスポーツとしてボッチャを行う (講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う (講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える (講義)。
8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う (講義と実習)。
9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う (講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う (講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策 (講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う (講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う (講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る (講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど)60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が 授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。
教場の使用状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】
問い合わせ　教員連絡先: kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【授業の概要(Course outline)】In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.
【到達目標(Learning Objectives)】
(1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
(2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
(3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
(4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
(5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).
【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.
【授業の概要と目的(何を学ぶか)】
It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class. 【成績評価の方法と基準(Grading Criteria /Policy)】 Assignments
(reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

エビデンスから学ぶ健康と身体の変化A

2017年度以降入学者

林　容市

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火2**/Tue.2
単位数：**2単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では「生理学的変化（特に体脂肪・体組成を対象）に貢献する諸要因の理解」,「健康関連指標（特に体脂肪・体組成）の測定と評価」,「高い効果が期待できる身体活動や食事の理解と実践」をテーマに学習を進めて行きます。

【到達目標】
・身体活動による生理的および心理的効果についてエビデンスに基づく知識・情報を学ぶ。
・様々な健康関連情報から自らに必要なものを適切に取捨選択できる能力を育成する。
・現在の自らの身体状態や運動を含む生活習慣を適切に把握・評価できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本授業の目的の達成には，いかにその課題を解決するかを「考え，実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ，身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。
その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し，授業のディスカッションやリアクションペーパーの内容を次回以降の授業に反映させます。また，授業中の演習や測定にも積極的に取り組むことを求めます。なお，身体活動の実践に向けた計画や，個人の考え・意見をまとめたプレゼンテーションを求め，評価の一部とします。
また，前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては，授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認，身体活動によって得られる効果のエビデンスを学ぶ
第2回	身体活動によって変化する生理的要因1	身体活動によって生じる体脂肪の変化や生理的意義について学ぶ
第3回	身体活動によって変化する生理的要因2	身体組成（体脂肪量・骨格筋）について様々な測定方法とその原理を学ぶ
第4回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価1	身体組成のうち，特に体脂肪について実際に複数の方法で測定し結果を比較・検討する（演習）
第5回	身体活動によって変化する生理的要因3	身体活動時の運動強度・種目に依存したエネルギー消費について学ぶ
第6回	身体活動に影響するエネルギー摂取の影響	身体の変化に影響を及ぼす栄養学的要因（食事）について学ぶ
第7回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案1	学んだ知識や情報に基づき，グループで脂肪量減少に向けた身体活動や食事案を提案する（プレゼンテーション）
第8回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案2	前回の内容に基づいて実際に身体活動や食事内容の改善を行った結果を踏まえて，グループで改善・修正案を検討する（演習）
第9回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案3	身体活動や食事内容の実践結果を踏まえて，仮定対象者に向けた脂肪量減少のための身体活動および食事の改善案を提案する（演習）
第10回	身体活動によって変化する生理的要因4	骨格筋の役割とトレーニングによる変化について学ぶ
第11回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価2	骨格筋の増大に向けたトレーニング法の実際について学ぶ（演習）
第12回	身体活動によって変化する生理的要因5	有酸素性運動時の生理的状態と効果について学ぶ
第13回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価3	有酸素性運動時の循環器系機能の実際および自覚的運動強度について学ぶ（演習）
第14回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案	学んだ知識や情報に基づき，グループで脂肪量減少や身体組成（骨格筋の増減など）に向けた身体活動案を提案する（プレゼンテーション）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原則として，シラバスに記載されている授業内容に関し，事前に情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で，毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また，授業ごとに内容を復習し，個人の考え・意見をまとめてから次回の授業に出席することを求めます。これらの予習・復習のために要する時間は，それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて，または授業中に資料を配付します。

【参考書】
健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 /金芳堂 /2006）

【成績評価の方法と基準】
1）授業参画の状況と理解度（授業時のリアクションペーパーや活動状況等で評価）：80%，2）各回のプレゼンテーションの内容：20%，の配分で総合評価する。
※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため，「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】
新規開講科目のため，特になし。

【学生が準備すべき機器他】
種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので，必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には，事前に周知しますので忘れずに準備をしてください。

【その他の重要事項】
本授業は，授業目的を達成する活動に際して教場等の制限があるため，履修者の上限を原則20名とします。第1回目の授業時において履修希望者が20名を超えた場合には，履修人数の制限を行う予定です。そのため，第1回目の授業には必ず出席してください。体調不良等でどうしても出席できない場合には，事前に市ヶ谷保健体育センターに履修希望を届け出た学生のみ履修の可能性を有することとします。
また，本授業では，演習を行う回がありますが，単に履修者が運動やトレーニングの実践のみを行う授業ではないことに留意してください。
なお，履修者数によって，シラバスの内容を一部変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this class is to understand the factors that contribute to physiological changes (especially in body fat and body composition), Measurement and assessment of health-related indicators (especially body fat and composition), and Understanding and implement effective physical activity and diet.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Learn evidence-based knowledge and information about physical activity's physiological and psychological effects.
2. Develop the ability to select necessary for oneself from various health-related information appropriately.
3. Understand and evaluate one's current physical condition and lifestyle, including exercise.
【Learning activities outside of the classroom】Students are expected to gather information about the class content at the library before attending the class and practice each activity and write a reaction paper based on the class content. In addition, students are expected to review each class and summarize their thoughts and opinions before attending the next class. The standard time required for these preparations and reviews is two hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on Class participation and understanding assessed by reaction papers and activities in class (80%) and Content of each presentation(20%). If a student is absent or late for a class, the evaluation of "Class participation" will be significantly reduced because the student will lose study time to obtain credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

エビデンスから学ぶ健康と身体の変化B

2017年度以降入学者

林　容市

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火2**/Tue.2
単位数：**2単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は，目的や対象に合わせた身体活動が実践できるようになることを目的に内容を構成しています。単に体重の減量・体脂肪の減少，骨格筋の増大のための方法を学ぶだけでなく，健康やQoLの本質を理解した上で受講者自身が身体活動を実践でき，他者へも適切な助言ができるための知識や情報を学び，それらを取捨選択できる能力の獲得を目指します。また，文章の執筆，図表の作成，量的・質的分析について発展的な手法を学び，最終的に授業内で調べた内容について簡易論文としてまとめます。

【到達目標】
・目的に応じて身体活動の内容を適切に構築することができる。
・適切な分析方法や用いて，過去のエビデンスを取りまとめることができる。
・身体活動に関するエビデンスに基づき，適切な記述方法でレポート・論文として報告できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は，講義，受講者間のディスカッション，探求テーマに対しての情報の集約や量的な分析・取りまとめ，さらにそれらを考察して文章としてまとめる作業から構成されます。授業目的の達成には，いかにその課題を解決するかを「考え，実践すること」が重要となります。そのため，授業後半においては，受講者自身が定めた探求テーマに基づいて情報を取りまとめて検討し，最終的に簡易な論文の提出を求めます。
なお，前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては，授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認，情報選択の基礎的な考え方と健康づくりに向けたエビデンスを学ぶ
第2回	健康づくりに関する探求テーマの検討(1)	探求するテーマについて，個人またはグループ単位で検討する
第3回	健康づくりに関する探求テーマの検討(2)	前回に引き続き，探求するテーマについて，個人またはグループ単位でその詳細を検討する
第4回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法（1）	身体活動や食事などの健康づくりについて，関連した論文等を調べる手法を学ぶ
第5回	健康づくりに関する探求テーマの検討(3)	論文等を調べた結果に基づき，探求するテーマについて，個人またはグループ単位でその詳細を再度検討し，調べるテーマを確定する
第6回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法（2）	身体活動や食事などの健康づくりについて，その効果に関する種々の情報を集約して分析する手法（レビュー，メタアナリシス）を学ぶ
第7回	探求テーマに対する情報の集約と論議（1）	探求するテーマについて論文やデータを調べて集約し，個人またはグループでその解釈について論議する
第8回	探求テーマに対する情報の集約と論議（2）	前回の論議に基づいて，探求するテーマについて論文やデータを調べて集約し，個人またはグループでその解釈について論議する
第9回	探求テーマに対する情報の集約と論議（3）	探求テーマについて，関連する情報をまとめ，個人またはグループで論文の形式に添って「方法」部分を記述する
第10回	探求テーマに関する情報の分析	探求テーマについて調べた情報を，適切な方法を用いて分析し，得られた結果について個人またはグループで検討する
第11回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法（3）	関連分野におけるエビデンスとして必要となる情報の「表現・表記方法」を学ぶ
第12回	探求テーマに関する結果の記述	分析の結果に基づき，個人またはグループで論文の形式に添って「結果」部分を記述する
第13回	探求テーマに関する結果解釈	分析の結果に基づき，個人またはグループで論文の形式に添って「考察」部分を記述する
第14回	探求テーマに関する分析結果の発表	個人またはグループで，探求したテーマに関する研究結果を報告する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原則として，シラバスに記載されている授業内容に関し，事前に情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で，毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また，第11～13回においては，各自の探求テーマに沿って文献等の検索や取りまとめた結果を用いた論議を行いますので，これらの回の時間外学習では，求められた情報やデータをまとめる作業を行ってください。なお，これらの予習・復習のために要する時間は，それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて，または授業中に資料を配付します。

【参考書】
健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 /金芳堂 /2006）

【成績評価の方法と基準】
各授業で課した授業内学習としての課題それぞれを100点満点で評価した上で合計し，それをすべての課題によって獲得可能な最大得点を母数とした相対値に変換する以下の式で評価を行います。
評価得点＝【すべての課題の「得点」の総和】/【すべての課題で「獲得可能な最高点」（課題数×100）】×100
※欠席・遅刻をした場合は授業内学習の時間を減じることになるため，評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】
新規開講科目のため，特になし。

【学生が準備すべき機器他】
分析に際してPCのソフトを使用する場合があります。タブレットなどでは分析が困難だと思いますので，ノートPCを持参できるよう準備をお願いします。

【その他の重要事項】
本授業は，「エビデンスから学ぶ健康と身体の変化A」の単位を取得していることを前提としています。
ただし，第1回目の授業において，履修希望者が定員（20名）を下回っている場合には，担当者との面談を経て履修を認める場合があります。

また，履修者数によって，シラバスの内容を一部変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this class is to make it become able to practice physical activities tailored to targets for achievements and physical and mental individuality of the subjects. Besides, students aim at learning knowledge and information about the nature of health and QoL and acquire the ability to be able to provide appropriate advice to others about exercise, not simply learning the methods of how to weight and body-fat loss and skeletal muscle reinforcing.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Construct physical activity content using appropriate methods according to its purpose.
2. Summarize previous evidence on physical activity using appropriate analytical methods.
3. Write evidence-based reports and papers on physical activity using appropriate academic writing methods.
【Learning activities outside of the classroom】Students are expected to gather information about the class content at the library before attending the class and practice each activity and write a reaction paper based on the class content. In sessions 11 to 13, we will search for literature according to the theme of each student's inquiry and discuss the results of these searches. The standard time required for these preparations and reviews is two hours each.
【Grading Criteria/Policy】The evaluation uses the following formula to evaluate in each session learning subjects, with a maximum of 100 points.
Evaluation score = [Sum of all scores for all subjects] /[Highest score possible for all subjects (number of tasks x 100)] x 100

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学 A

2017年度以降入学者

朝比奈　茂

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の研究により、身体活動が健康の維持や疾病予防に及ぼす影響が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度に関する解釈は人によって異なり、運動の利点と欠点についても十分に認識されていないのが現状である。
本講義では、日常的に取り組みやすい運動である「ウォーキング」と「ヨーガ」に焦点を当て、それらが健康促進や疾病予防にどのような影響を及ぼすのかを考察する。また、実践を交えながら、効果的な運動方法について具体的に解説する。

【到達目標】
1.人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2.スポーツウォーキングについて説明できる。
3.スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4.スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5.ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6.ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7.呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8.Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。
9.スポーツ傷害について説明できる。
10.ウォーキングおよびヨーガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本講義は対面授業を基本として実施する。
・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。
・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。
・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。
・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス （対面）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。 体格・身体組成の測定を行う。
2	体力測定 （講義および実習）	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 （講義）	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	ヨーガの哲学とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
5	ヨーガの起源とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。 単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨーガと呼吸 （講義および実習）	ヨーガの呼吸法を身に付ける。 呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要 （講義および実習）	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを説明する。 スポーツウォーキングが健康に及ぼす影響やその役割を理解し実践する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 （講義および実習）	歩行姿勢や膝の伸ばし、適正なストライドを意識しながら、バランスを取る技術、惰性を損なわずに推進力を高める技術、さらに重心を上下左右にぶれさせないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢 （講義および実習）	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクス的特徴と正確な歩行を理解し実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 （講義および実習）	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。 走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康 （講義および実習））	スポーツウォーキングが生活習慣病の改善に果たす役割やその効果について説明する。 また姿勢と速度を意識しながら実践する。
12	ヨーガとMeditation（瞑想） （講義および実習）	Meditationについて概説し、ヨーガを実践することでMeditationの状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨーガと健康 （講義および実習）	ヨーガが生活習慣病の改善に及ぼす役割や効果について説明する。 また、基本ポーズを組み合わせて、連続した一連のヨーガとして実践する。
14	まとめ （講義：課題の提示）	スポーツウォーキング及びヨーガを実践した結果、心身にどのような変化が生じたかについて、ディスカッションを通じて総合的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に参加すること。
毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。
レジュメ及び資料は学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし授業に持参すること。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて授業中に伝達する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
佐保田鶴治 . ヨーガ根本経典 . 平河出版社 , １９８６
佐保田鶴治 . ヨーガ根本経典（続） . 平河出版社 , １９８６

【成績評価の方法と基準】
以下の内容で総合的に評価する。

1）毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60％
2）期末レポート 20％
3）授業への参画状況 20％

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためDもしくはE評価とする。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】
授業に関する質問や相談は、授業中または授業の前後に受け付ける。それ以外については、随時メールにて対応する。
オフィスアワーとして毎週月曜日の16時50分～18時30分までの100分を設ける。
オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールで連絡を取ること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.
【Learning Objectives】
1. To be able to understand the significance of " walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.
【Learning activities outside of classroom】
Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
The overall evaluation will be based on the following distribution.
1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
2) Final report: 20%.
3) Participation in class activities (not attendance): 20%.
If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.
If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be “D” or “E“.
This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

朝比奈　茂

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（20〜30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の研究により、身体活動が健康の維持や疾病予防に及ぼす影響が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度に関する解釈は人によって異なり、運動の利点と欠点についても十分に認識されていないのが現状である。
本講義では、日常的に取り組みやすい運動である「ウォーキング」と「ヨーガ」に焦点を当て、それらが健康促進や疾病予防にどのような影響を及ぼすのかを考察する。また、実践を交えながら、効果的な運動方法について具体的に解説する。

【到達目標】
1.人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2.スポーツウォーキングについて説明できる。
3.スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4.スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5.ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6.ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7.呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8.Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。
9.スポーツ傷害について説明できる。
10.ウォーキングおよびヨーガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本講義は対面授業を基本として実施する。
・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。
・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。
・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。
・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス （対面）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。 体格・身体組成の測定を行う。
2	体力測定 （講義および実習）	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 （講義）	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	ヨーガの哲学とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
5	ヨーガの起源とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。 単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨーガと呼吸 （講義および実習）	ヨーガの呼吸法を身に付ける。 呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要 （講義および実習）	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを説明する。 スポーツウォーキングが健康に及ぼす影響やその役割を理解し実践する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 （講義および実習）	歩行姿勢や膝の伸ばし、適正なストライドを意識しながら、バランスを取る技術、惰性を損なわずに推進力を高める技術、さらに重心を上下左右にぶれさせないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢 （講義および実習）	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクス的特徴と正確な歩行を理解し実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 （講義および実習）	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。 走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康 （講義および実習））	スポーツウォーキングが生活習慣病の改善に果たす役割やその効果について説明する。 また姿勢と速度を意識しながら実践する。
12	ヨーガとMeditation（瞑想） （講義および実習）	Meditationについて概説し、ヨーガを実践することでMeditationの状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨーガと健康 （講義および実習）	ヨーガが生活習慣病の改善に及ぼす役割や効果について説明する。 また、基本ポーズを組み合わせて、連続した一連のヨーガとして実践する。
14	まとめ （講義：課題の提示）	スポーツウォーキング及びヨーガを実践した結果、心身にどのような変化が生じたかについて、ディスカッションを通じて総合的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に参加すること。
毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。
レジュメ及び資料は学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし授業に持参すること。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて授業中に伝達する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
佐保田鶴治．ヨーガ根本経典．平河出版社，１９８６
佐保田鶴治．ヨーガ根本経典（続）．平河出版社，１９８６

【成績評価の方法と基準】
以下の内容で総合的に評価する。

1）毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60％
2）期末レポート 20％
3）授業への参画状況 20％

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためDもしくはE評価とする。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】
授業に関する質問や相談は、授業中または授業の前後に受け付ける。それ以外については、随時メールにて対応する。
オフィスアワーとして毎週月曜日の16時50分～18時30分までの100分を設ける。
オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールで連絡を取ること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.
【Learning Objectives】
1. To be able to understand the significance of " walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.
【Learning activities outside of classroom】
Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
The overall evaluation will be based on the following distribution.
1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
2) Final report: 20%.
3) Participation in class activities (not attendance): 20%.
If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.
If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be “D” or “E“.
This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

朝比奈　茂

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動は病気の予防に効果的であるが、安全かつ効果的に実践するためには「セルフメディケーション」と「コンディショニング」が不可欠である。セルフメディケーションとは、自ら健康管理を行い、病気を予防するとともに、軽度の不調を改善することである。一方、コンディショニングとは、運動の効果を最大限に引き出し、怪我を予防するために身体の状態を整えることを指す。
本授業では、セルフメディケーションによって自身の健康状態を適切に管理し、コンディショニングを通じて運動と休養のバランスを取ることで、運動の効果を最大限に高めることを目的とする。

【到達目標】
・運動が病気の予防に効果的である理由を説明できる。
・スポーツ外傷・障害とその対策について説明できる。
・スポーツ外傷・障害とその応急処置について実践できる。
・コンディションとコンディショニングについて説明できる。
・コンディショニングの種類やその特徴を述べることができる。
・コンディショニングを実践でき、その評価をすることができる。
・セルフメディケーションについて説明できホメオスタシスとの関係を説明できる。
・セルフメディケーションが病気の予防に効果的な理由を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本講義は実技を伴った演習形式を基本として実施する。
・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。
・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。
・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。
・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要を説明する。 コンディションとコンディショニングについて解説し、コンディショニングの必要性について詳しく説明する。 また、体格・体組成計の測定を実施し結果を考察する。
2	コンディショニングとセルフメディテーション	コンディショニングの要素である身体的因子、環境的因子、心理的因子について説明する。 また、セルフメディケーションの種類とその具体的な内容について解説する。
3	ホメオスタシス（恒常性）	人間に備わっているホメオスタシスの意義とその定義について説明する。 また、自己治癒力と自然治癒力の違いについて説明する。
4	外傷・傷害とその対策	スポーツにおける怪我（外傷と障害）について説明し、その原因と対策について解説する。
5	スポーツ傷害の治癒過程	炎症の役割について説明し、さらに損傷細胞の修復メカニズムや免疫系が治癒過程において果たす役割について解説する。
6	スポーツ外傷の応急処置	現場における応急処置としてのRICE処置について説明する。 特に、冷却療法（アイシング）の効果を理解し、実際にその効果を体験する。
7	ストレッチングとコンディショニング	スレッチングの種類や方法について説明し、実践する。
8	スポーツマッサージとセルフメディケーション（1）	マッサージの歴史や生理的効果について理解し、セルフマッサージの手法を実践する。
9	スポーツマッサージとセルフメディケーション（2）	セルフメディケーションの一環としてスポーツマッサージを習得し、学生同士でペアを組み、実践する。
10	鍼・灸療法とコンディショニング	スポーツ選手が比較的多く利用する鍼灸について、治効理論を説明し、実際の施術を実演する。 また、セルフメディケーションの一環として、お灸を実際に試す。
11	ヨガとコンディショニング	ヨガの歴史や哲学について説明し、アスリートのコンディショニングにおける役割や効果について解説する。
12	食事とセルフメディケーション	食品や食材に含まれる栄養素のうち、脂質の役割や体内での利用メカニズムについて説明する。 また、脂質異常による疾患を挙げ、それに対する運動の効果について解説する。
13	休養とリラクゼーション	心身の休養やリラクゼーションがコンディション調整に果たす役割について説明する。 また、セルフメディケーションの一環としての休養方法について解説する。
14	総括	これまでの内容を振り返るとともに、全授業に関する質問を受け付ける。 また、自身が理想とする健康観について、学生同士でディスカッションを行い、意見をまとめて総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に参加すること。
毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。
レジュメ及び資料は学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし授業に持参すること。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて授業中に伝達する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
1. 日本スポーツ協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6（予防とコンディショニング）

2. 人体の不思議, 日経サイエンス社
3. 佐保田鶴治, ヨーガ根本経典, 平河出版社
4. リチャード・ミラー, iRest Yoga Nidra

【成績評価の方法と基準】
以下の内容で総合的に評価する。
　1）毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60％
　2）期末レポート 20％
　3）授業への参画状況 20％

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 3/4 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためDもしくはE評価とする。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】
授業に関する質問や相談は、授業中または授業の前後に受け付ける。それ以外については、随時メールにて対応する。
オフィスアワーとして毎週月曜日の16時50分～18時30分までの100分を設ける。
オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールで連絡を取ること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Exercise is effective for preventing illness, but in order to practice it safely and effectively, ‘self-medication’ and ‘conditioning’ are essential. Self-medication means looking after your own health and preventing illness, as well as improving minor ailments. On the other hand, conditioning is about getting the most out of exercise and preparing your body to prevent injury.
The aim of this class is to maximise the benefits of exercise by managing your own health through self-medication and balancing exercise and rest through conditioning.
【Learning Objectives】
· Explain why exercise is effective in preventing illness.
· Understand the types of sports injuries and disorders, and explain how to deal with them.
· Be able to provide appropriate first aid in the event of a sports injury or disorder.
· Understand the concepts of condition and conditioning, and explain the differences and importance of each.
· Describe the types of conditioning and their characteristics.
· Be able to practice conditioning and evaluate its effectiveness appropriately.
· Explain the concept of self-medication and discuss its relationship to homeostasis (the body’s ability to maintain a constant internal environment).
· Explain logically why self-medication is effective in preventing illness.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Resume for the lecture will be uploaded through the learning support system. Students are expected to prepare according to the resume.
【Grading Criteria/Policy】
The overall evaluation will be based on the following distribution.
　1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
　2) Final report: 20%.
　3) Participation in class activities (not attendance): 20%.
If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.
If attendance is less than 3/4 of the class, the grade will be “D” or “E“.
This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

第三外国語としてのフランス語A　2017年度以降入学者

廣松　勲

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

【到達目標】
実用フランス語技能検定試験（仏検）4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記できるようになると同時に、簡単にでも（フランス共和国を含めた）現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。また、時間の許す限り、フランス共和国を含めたフランス語圏の文化や社会に関して紹介する。
コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベの読み方 ・挨拶表現 ・数字1～10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞 ・綴り字の読み方
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞avoir ・否定のde ・疑問文 ・数字11～20
7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方
8	中間まとめ	・これまでの学習事項の総復習 ・進度の調整
9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞（aller, venir, vouloir）
10	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞pouvoir
12	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞prendre, attendre
13	Leçon 6	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・疑問副詞 ・前置詞と定冠詞の縮約 ・動詞devoir
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題提出以外にも、教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」を確りとして欲しい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。
音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。
フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田辺保子，西部由里子著，『ヴァズィ！（改訂二版）』，駿河台出版社，2023年.
（＊自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。）

【参考書】
教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも「仏和辞書」を購入して欲しい。お薦めの辞書は、以下の通り。
宮原信他著，『ディコ仏和辞典』，白水社，2003年.
西村牧夫他編訳，『ロベール・クレ　仏和辞典』，駿河台出版社，2011年.
また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。
①平常点（ミニ課題など）：30％
②期末テスト：70％

【学生の意見等からの気づき】
学生がフランス語で表現する機会（特に発音と筆記）を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of french langage to students learning it as the third langage. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.
The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.
Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

第三外国語としてのフランス語Ｂ　2017年度以降入学者

廣松　勲

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期から継続して授業を進める。

【到達目標】
実用フランス語技能検定試験（仏検）4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記ができるようになると同時に、簡単にでも（フランス共和国を含めた）現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス共和国を含めたフランス語圏の文化や社会に関して紹介する。
コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習 Leçon 6つづき Leçon 7	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・命令形 ・時の表現 人・ものを描写する ・IR動詞（つづき） ・形容詞 ・動詞savoir, voir
2	Leçon 7	人・ものを描写する ・数量表現 ・名詞＋à＋不定詞 ・動詞mettre
3	Leçon 8	時刻・天気を言う ・目的補語人称代名詞 ・非人称構文 ・動詞connaître
4	Leçon 8	時刻・天気を言う ・数字21～69 ・動詞faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞 ・日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞の否定文、疑問文、命令文 ・日常の活動を表す表現（つづき）
7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・直説法単純未来 ・形容詞・副詞の比較級
8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・形容詞・副詞の最上級 ・特殊な優等比較級・優等最上級 ・指示代名詞
9	中間まとめ	・これまでの学習事項を総復習 ・進度の調整
10	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・数字70～100 ・直説法複合過去 ・目的補語人称代名詞を含む複合過去
11	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・代名動詞を含む複合過去 ・中性代名詞en
12	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・直説法半過去 ・直説法複合過去と直説法半過去の違い
13	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・直接法大過去 ・中性代名詞yとle ・様々な否定表現
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を含めて、教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」を確りとしてほしい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。
音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。
フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田辺保子，西部由里子著，『ヴァズィ！（改訂二版）』，駿河台出版社，2023年.
（＊自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。）

【参考書】
教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも仏和辞書を持っていて欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。
宮原信他著，『ディコ仏和辞典』，白水社，2003年
西村牧夫他編訳，『ロベール・クレ　仏和辞典』，駿河台出版社，2011年
また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。
①平常点（ミニ課題など）：30％
②期末テスト：70％

【学生の意見等からの気づき】
学生がフランス語で表現する機会（特に発音・筆記）を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of french langage to students learning it as the third langage. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.
The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.
Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

大中　一彌

開講時期：**サマーセッション/Summer Session**　｜　曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【履修登録にかかわる特記事項】
●あなたが所属している学部の履修登録期間の最終日までに、この科目「教養ゼミⅠ」（Q6605）の履修登録を済ませるとともに、学習支援システムにて仮登録をおこなってください。
●この科目「教養ゼミⅠ」（Q6605）は、他の教養ゼミと異なり、定員がないため、選抜や抽せん、およびそれらの結果通知はありません。履修登録の流れは、一般的な春学期科目と同じとお考え下さい。
●興味・関心のある方は、教養ゼミⅡ：「ポピュリズム」入門～トランプ氏が再登場した世界で～（９月中旬）【授業コード：Q6606】もぜひ履修しましょう。社会人として知っておいたほうが良い、現代の政治・経済・文化のあり方について、初学者が学ぶコースになっています。
==========
【科目のかんたんな説明】
●この教養ゼミⅠは、2025年8月4日（月）・8月5日（火）・8月6日（水）・8月7日（木）の４日間で開催される集中講座です（２単位）。
●短い日数で効率よく学べる利点があります。
●いわゆるグローバル・サウスから、より政治的に安定し、社会福祉の制度が整った、いわゆる先進国に旅する移民や難民の動きがテーマです。
●移民や難民といったテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」が軸となる内容ですので理解がしやすく、視野が広がります。
●映像作品に興味がある人にとっては、見たことがない作品について知るきっかけになるでしょう。

【到達目標】
コースの終わりまでに、学生の皆さんは次のことができるようになります：
1）人口1700万人強のオランダが、なぜ、非ヨーロッパ系の移民に対し、英語というよりは、オランダ語や市民的な自由について、基本的な知識をもつよう求めているのかという問いについて、過度な単純化を避けながら、ひとつの答えを思い描くことができる。
2）欧州各国における「移民社会」化が、人びとのアイデンティティにもたらした光と影について考えるさいに、宗教をめぐる公的な位置づけのあり方（政教分離）や、就労を促進するための雇用の流動化（福祉国家の変容）といった要素を、考慮に入れることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
（ア）この教養ゼミⅠの授業形態は、基本的に「対面」です。
（イ）2025年8月4日（月）・8月5日（火）・8月6日（水）・8月7日（木）の４日間に開催されます。
（ウ）希望者は一部の授業回についてZoomでも参加できます。下記の【授業計画 /Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。
（エ）４日間で行いますので、体調不良や他の理由による不参加が生じた場合、成績評価への影響が相対的に大きくなります。
（オ）そのため「まとめコメント」の早期提出を認める予定です。
（カ）とはいえ、４日間参加していれば、それだけできちんと点数はつきます。成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL https://x.gd/QA5Gp にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
（キ）問い合わせは、Wordファイル「2025年度：教養ゼミⅠ『移民社会』入門～見える国境と見えない国境～（８月上旬）」URL https://x.gd/3wVq9 にある問い合わせ先からお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【8月4日（月）2限、Zoom併用あり】	シラバス（授業の概要と成績評価）や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【8月4日（月）3限、Zoom併用なし】	「群衆」が感じる「問題」としての移民流入
3	避難民 migrants の暮らしを疑似体験する【8月4日（月）4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【8月4日（月）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月4日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
5	他の人の意見を知る【8月5日（火）2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票
6	グローバル・サウス出身の避難民が「先進国」で住民の１人として溶け込むのに何が必要か【8月5日（火）3限、Zoom併用なし】	映像作品②について考える
7	あなたがもし、移民出自の生徒を公立中学校で担任する教師だったら？【8月5日（火）4限、Zoom併用なし】	映像作品③について考える
8	考える・まとめる【8月5日（火）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月5日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
9	他の人の意見を知る【8月6日（水）2限、Zoom併用なし】	２日めのまとめコメントへの学生投票／映像作品④について考える
10	クエスチョンを探そう【8月6日（水）3限、Zoom併用なし】	集団間の対立と他者の生の否定
11	考える・まとめる【8月6日（水）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月6日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
12	他の人の意見を知る【8月7日（木）2限、Zoom併用なし】	３日めのまとめコメントへの学生投票／《ともに働き、生活すること》は、どのような場合なら、外国出身者への差別感情をなくすのに役立つか
13	受け入れ側社会の多数派が抱く恐怖感【8月7日（木）3限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える
14	考える・まとめる【8月7日（木）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月7日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
８月のサマー・セッションの時期を待つことなく、学習支援システム-Hoppii等をつうじ、４月から資料を事前に配布します。

【参考書】
購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がいっそう進むでしょう。
水島治郎『反転する福祉国家　オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019年。Cf. https://www.iwanami.co.jp/book/b431806.html

【成績評価の方法と基準】
１．平常点　= 15%
２．まとめコメント = 52%
３．まとめコメントの早期提出
４．４．教室内活動への参加 = 33%
５．その他
※成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL https://x.gd/w913l にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループ・ディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、グループ・ディスカッションに替わる課題に取り組んでいただきます。
※サマー・セッションと重なる時期に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。ただし、サマー・セッションは春セメスター（前期）科目であるため、８月上旬には法政大学に学生の成績を提出する必要があります。そのため出席停止になった学生側は、仮に感染症から健康状態が快復したとして、代替の課題を８月９日ぐらいまでに提出する手はずになります。感染症で出席停止となった学生のための配慮については、オータム・セッション科目である教養ゼミⅡ（Q6606）のほうが、配慮に使える時間的な余地が大きいことを、あらかじめご承知おきください。

【学生の意見等からの気づき】
・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
・この教養ゼミⅠは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、次のリンク先をご覧ください URL https://x.gd/WTP7m

【Outline (in English)】
What does it mean to accept "cultural and religious differences" in today's society where there is a lot of migration of people across borders?　Does it mean that the majority must accept all cultures and religions of the minorities without exception ? On the other hand, does it mean that a minority group must completely assimilate into the culture and religion of the host country ? In this Liberal Arts Seminar II, which is scheduled for the fall semester, we will discuss the ideals and realities concerning such "cultural and religious differences", using as a case study the policy shift in the Netherlands, which has traditionally been known as a liberal and tolerant society. This course is a seminar designed around the topics, questions, and exchanges of opinions suggested by the students.
［Learning Objectives］
The goal of this seminar is not to become proficient in English, Japanese, or any other language.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1) Conceptualizing, without oversimplification, an answer to the question of why the Netherlands, with a population of just over 17 million, requires non-European immigrants to have a basic knowledge of the Dutch language (rather than English) and civil liberties.
2) Having a basic insight into the different implications of "culture" and "religion" in different countries and historical periods.
3) Understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
4) Expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.
［Learning activities outside of classroom］
(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.
(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.
(c) The time required for preparation and revision for this seminor will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.
［Grading Criteria］
Your final grade in this seminar will be decided on the following:
1. Quantity and quality of "summary comments" = 70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class = 30%

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

大中　一彌

開講時期：**オータムセッション**/Autumn Session　｜　曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2単位**
※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【履修登録にかかわる特記事項】
●この科目「教養ゼミⅡ　『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界で～」（Q6606）は、ひとりひとりの学生ではなく、市ヶ谷リベラルアーツセンター（ＩＬＡＣ）が一括して履修登録を行います。
●学生で履修を希望する人は、2025 年 4 月 11 日（金）午前 11:59:59 までに、2025年度オータム・セッション「教養ゼミⅡ」（Q6606）科目履修仮登録用Googleフォーム URL https://forms.gle/gCxjCzgY6HzxYkvc9 に、必要事項を入力したうえで「送信」ボタンをクリックして（押して）ください。
●必要事項が全て入力され、Googleフォームの送信ボタンをあなたがクリックした時点で、仮登録が済んだことになります。
●送信ボタンの押し忘れがなく、Googleフォームが正常に作動していれば、入力した内容のコピーが、あなたがログイン時に用いたメール・アカウントに自動送信されます。
●仮登録された学生は全員、この「教養ゼミⅡ」に履修登録されますが、念のため、あなたが所属している学部の履修登録期間になったら、この科目「教養ゼミⅡ」の履修登録がきちんとなされているか、確認を行ってください。
==========
【科目のかんたんな説明】
●教養ゼミⅡ「『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界で～」は2025年9月12日（金）・9月13日（土）・9月15日（月）・9月16日（火）の４日間で開催される集中講座です（２単位）。
●トランプ氏を２度、アメリカ大統領の座に押し上げ、世界各国の政治・経済・文化を揺り動かしている、ポピュリズムがテーマです。
●こうしたテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」を軸に活動が組み立てられていますので理解がしやすく、視野が広がります。
●短い日数で効率よく学べる利点があります。
●映像作品に興味のある方にとっては、作品を知る機会になるでしょう。

【到達目標】
（1）さまざまな国と地域、歴史時代に存在した、ポピュリズムの構成要素とされる事象に幅広く触れることで、現代の政治・社会現象としてのポピュリズムにかんし、批判的な距離を保ちながら、意見を述べることができる。
（2）ポピュリストと反ポピュリスト、無関心層のような、ポピュリズムをめぐり異なる態度を産みだす感情的なバネについて、ひとつひとつの映像作品や人物の性格、ならびに制度的な背景（例　メリトクラシー）を掘り下げながら、研究上の問い（リサーチ・クエスチョン）を練ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
（ア）この教養ゼミⅡの授業形態は、基本的に「対面」です。
（イ）2025年9月12日（金）・9月13日（土）・9月15日（月）・9月16日（火）の４日間に開催されます。
（ウ）希望者は一部の授業回についてZoomでも参加できます。下記の【授業計画 /Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。
（エ）４日間で行いますので、体調不良や他の理由による不参加が生じた場合、成績評価への影響が相対的に大きくなります。
（オ）そのため、セッション授業終了後の話題提供を認める予定です。
（カ）とはいえ、４日間参加していれば、それだけできちんと点数はつきます。成績評価について、詳しくは「進行予定表」URL https://x.gd/ReYc0 にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
（キ）問い合わせは、Wordファイル「2025年度：教養ゼミⅡ『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界で～（９月中旬）」URL https://x.gd/5yw1I　にある問い合わせ先からお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【9月12日（月）2限、Zoom併用あり】	シラバス（授業の概要と成績評価）や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【9月12日（月）3限、Zoom併用なし】	皆で資料からクエスチョンを掘り出す
3	メディアとポピュリズム【9月12日（月）4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【9月12日（月）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月2日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
5	他の人の意見を知る【9月13日（火）2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票／人びとはどのようにして立ち上がるのか（政治的動員）
6	対立の構図を理解する【9月13日（火）3限、Zoom併用なし】	映像作品②と③について考える
7	考える・まとめる【9月13日（火）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月13日（火）分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
8	他の人の意見を知る【9月15日（月）2限、Zoom併用なし】	２日めのまとめコメントへの学生投票／女性とポピュリズムの関係について、立ててみる価値がある問いを探す。
9	ポピュリズムと女性【9月15日（月）3限、Zoom併用なし】	映像作品④について考える
10	ファンタジーとポピュリズム【9月15日（月）4限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える
11	考える・まとめる【9月15日（月）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月15日（月）分の「まとめコメント」を作成・提出する。遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
12	他の人の意見を知る【9月16日（火）2限、Zoom併用なし】	３日めのまとめコメントへの学生投票／ポピュリズムに私（たち）はどう対応すべきなのか
13	ポピュリズムの《需要側》と《供給側》【9月16日（火）3限、Zoom併用なし】	映像作品⑥について考える

14	考える・まとめる【9月16日（火）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月16日（火）分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。※ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
９月のオータム・セッションの時期を待つことなく、学習支援システム-Hoppii等をつうじ、資料を事前に配布します。

【参考書】
購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がいっそう進むでしょう。
カス・ミュデ&クリストバル・ロビラ・カルトワッセル『ポピュリズム　デモクラシーの友と敵』永井大輔&高山裕二訳、白水社、2018年。Cf. https://www.hakusuisha.co.jp/book/b352020.html

【成績評価の方法と基準】
１．平常点　= 15%
２．まとめコメント = 52%
３．教室内活動（授業時間内の個別の発言やグループディスカッション、各種の投票）への参加 = 33%
４．セッション授業終了後の話題提供
５．その他
※成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL https://x.gd/z2Z0I にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループ・ディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」を求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、グループ・ディスカッションに替わる課題に取り組んでいただきます。
※オータム・セッションと重なる時期に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。

【学生の意見等からの気づき】
・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
・この教養ゼミⅡは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、Wordファイル「2025年度：教養ゼミⅡ『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界で～（９月中旬）」URL https://x.gd/07gVQ　をご覧ください。

【Outline (in English)】
Populism, which includes opposition to globalization as one of its main components, is shaking the political foundations of countries around the world. In this spring semester course, Liberal Arts Seminar I, "Populism and the World: For Those Who Are Tired of Go Global," we will focus on xenophobia, the backlash against so-called identity politics, and the support for populism by the cultural "majority" voters. The class will be built around the students' opinions and questions concerning a central issue : "What kind of culture do we want in our society of the 21st century ?"
［Learning Objectives］
It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language.
By the end of the course, students should be able to do the followings :
1) taking the first step to acquire a notion of what kind of democratic culture is suitable for our society of the 21st century.
2) possessing a basic insight on the various ways in which the concept of populism has been used in different countries and at different periods.
3) understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
4) expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.
［Learning activities outside of classroom］
(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.
(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.
(c) The time required for preparation and revision for this seminor will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.
［Grading Criteria］
Your final grade in this seminar will be decided on the following:
1. Quantity and quality of "summary comments" = 70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class = 30%

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

ル ルー 清野　ブレンダン

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金4**/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の主な目的は，「日・欧米交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って，グローバル化の歴史の中で「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマについて学生とともに知識を共有し，考察することです。
もう一つの目的は，日本語（と英語や他の言語）で歴史文書を読み，分析する方法について学び，活用することです。

【到達目標】
この授業では，学生達はグローバリゼーションの歴史という背景における日本の歴史，とりわけ「日・欧米交流の歴史」の多様な側面を探求したり，論じたりします。授業終了時には，それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し，以下のことができるようになるでしょう。
1. 主要な概念や考え方を理解し，説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で，「日・欧米交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3.「日・欧米交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な歴史的資料を批判的に検討するために，適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業では，学生達は様々な歴史的文章を読解し，語彙を調べたり，それについて議論したり，質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し，できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史料を理解し，質問に答えることで，グローバル化の歴史の中で「日・欧米交流の歴史」そして「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。
履修者は史料を見つけ出し，それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって，日本語や英語の他に，様々な言語の史料の紹介も期待できます。
この授業では，　学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って，履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて，難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と，歴史や史料，特に「日・欧米交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えましょう。
この授業で成功する鍵は，毎週の予習と復習，そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが，LMSを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 アイスブレーカー
2	西洋への日本文化最初の紹介	西洋における，日本に関する最初の史料
3	第1次グローバル化における日本（1）	世界の分割と日本
4	第1次グローバル化における日本（2）	日本の「発見」
5	十字架、マスケット銃と「カステラ」(1)	マスケット伝来
6	十字架、マスケット銃と「カステラ」(2)	日本におけるキリスト教
7	十字架、マスケット銃と「カステラ」(3)	ラテン語，ポルトガル語，日本語
8	学生による発表①	史料の紹介と分析
9	学生による発表②	史料の紹介と分析
10	学生による発表③	史料の紹介と分析
11	学生による発表④	史料の紹介と分析
12	学生による発表⑤	史料の紹介と分析
13	学生による発表⑥	史料の紹介と分析
14	まとめ	前期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習，復習，課題や発表の準備が毎回求められます。
大学設置基準によれば，2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
ほぼ毎回授業中に配布しますので，教科書を購入する必要はありません。

【参考書】
必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】
・グループワーク，小テスト等(授業内):25%
・宿題，「予習シート」(自宅):20%
・発表（史料の紹介と説明）：40%
・出席点:15%
※ 欠席1回につき，「出席点」が10%下がる。3回以上欠席した場合は不合格となり，単位はもらえない。何らかの理由で欠席した場合は，直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。 正当な理由なく10分以上遅刻した場合は，欠席とみなす。遅刻2回につき，欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに，Google ClassroomやLMS を使いますので，必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】
履修者の人数，個人背景（言語レベル等），希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】
The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European /American relations", setting them back in the context of the history of globalisation.
One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese (or in other languages).
It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.
Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European /American relations" in the context of the history of globalisation.
The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

ル ルー 清野　ブレンダン

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金4**/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではヨーロッパの近現代史をただ単に通史的に勉強するのではなく，「○○人とは何（誰）か？」，「国民はどう創られたのか？」というような問いについて考えながら，近現代ヨーロッパにおけるアイデンティティの問題を探っていきます。特に，近現代ヨーロッパにおける国民国家と言語（「国語」）との関係性に重点を置きたいと考えます。

【到達目標】
この授業では，学生達は近現代ヨーロッパにおける国民の創造に関する多様な側面を探求したり，論じたりします。 授業終了時には，それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し，以下のことができるようになるでしょう。
①ヨーロッパについて基本的知識を獲得し，それらを説明できる。
②国民国家の概念を概ね理解できる。
③世の中の動きを歴史的に考えるための視点を獲得する。
（④ヨーロッパへの留学に備える。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業では，学生達は様々な資料（歴史的文章，論文，新聞記事，図…）を読解・分析し，それについて議論したり，質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し，できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて学生同士で協力して資料を理解し，質問に答えることで，近現代ヨーロッパにおける国民（アイデンティティ）の創造というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。この授業では，学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って，履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて，難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲や，歴史や資料，特に近現代ヨーロッパにおける国民（アイデンティティ）の創造に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えましょう。
この授業で成功する鍵は，毎週の予習と復習，そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが，LMSを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 ヨーロッパとは何か？ どこか？ （受講生に対するアンケート）
2	ヨーロッパとは何か？	ヨーロッパに対するイメージとステレオタイプ
3	ケーススタディ①	カタルーニャ「問題」について
4	ケーススタディ①	カタルーニャの形成過程
5	ケーススタディ①	カタルーニャとスペインにおける言語
6	ケーススタディ①	カタルーニャと「国民国家」／「国民国家」と「想像の共同体」
7	ケーススタディ②	18世紀「ドイツ」の状況／ヘルダーと「国民語」
8	「国民語」を求めて	ヨーロッパにおける言語状況
9	「国民一つに、言語一つ？」①	フランス語の成立過程①
10	「国民一つに、言語一つ？」②	フランス語の成立過程②
11	国語の普及①	フランス
12	国語の普及②	イギリス
13	国語の普及③	ドイツ
14	共通の祖先を求めて	「我々の祖先はガリア人なり」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習，復習，課題や発表の準備が毎回求められます。
大学設置基準によれば，2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
ほぼ毎回授業中に配布しますので，教科書を購入する必要はありません。

【参考書】
ティエス，アンヌ＝マリ著『国民アイデンティティの創造：十八〜十九世紀のヨーロッパ』（勁草書房，2013）／配架場所＝市:1F，請求記号＝230/TH，資料番号＝21032000079280
それ以外の参考書については必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】
・発表やリフレクションシート，小テスト等の授業内作業：約80％
・出席点：約20％
※ 欠席1回につき，「出席点」が10%下がる。3回以上欠席した場合は不合格となり，単位はもらえない。何らかの理由で欠席した場合は，直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。 正当な理由なく10分以上遅刻した場合は，欠席とみなす。遅刻2回につき，欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに，Google ClassroomやLMSを使いますので，必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】
履修者の人数，個人背景（言語レベル等），希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】
The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How national identities were forged in Europe".
One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse diverse categories of documents, written in different languages.
It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.
Students will deal with reading various documents, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.
The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "creation of the national identities in Europe".
The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.
The grading criteria shall be as follows:

· Presentations, reflection papers, short tests, etc (in class assignments): app.80 %
· Attendance:app. 20%

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）
フランス語コミュニケーション(中・上級) A
2017年度以降入学者

ル ルー 清野　ブレンダン

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**1/Wed.1
単位数：**2単位**
定員制（20）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はA1レベルに達している学生（つまり2，3セメスターの学習経験者）を対象としています。学生達は，日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に，自然な発音及び独特な表現を勉強し，フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も，勿論多く設けてあります。
尚，この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の段階から，特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は，最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法(“immersion”)」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】
この授業では，日常会話の基礎的な語彙と言い回しを身につけることを目標とします。つまり，正確なフランス語の発音を身に付けたり，日常会話で使える言葉を覚えたりして，積極的に会話ができるようになることを目指します。
この授業を通じて，A1レベルの学生達が完全なA2レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2（仏検準2級・2級）やStudy Abroad留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
様々な資料（新聞記事、画像、ビデオ、歌など）を教材とし，履修者は聴解やオーラル・コミュニケーション能力の補強・発展に取り組みます。それと同時にA1の文法項目の復習とA2の新しい文法項目の学習も行います。授業内容は多岐にわたり，世界を旅しながらフランス語圏の様々な文化的側面を発見することもできます。
この授業では，作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので，そのつもりでいて下さい。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、LMSを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organisation de la classe Une rencontre inattendue
2	Faire connaissance: le speed-dating	招待を受け入れる・拒否する
3	La fête nationale belge et le parc Astérix	現在進行形
4	Le festival Gnaoua et le raï	コンサートへの招待
5	Le 14 juillet Un festival d’été	フェスティバルに関する情報 フェスティバルへの招待
6	Se déplacer en ville	交通手段①と道案内
7	Les transports en Afrique de l’Ouest	交通手段②
8	D’autres quotidiens	頻度と時間割
9	Modes de vie au Niger et à Djibouti	お茶 カート (植物)
10	La Défense, Marrakech, Montréal	交通手段③
11	Présenter son quartier préféré	好きな地域の紹介
12	L’habitat（ミニ口頭発表）	フランス語圏の様々な伝統住居
13	Brèves francophones Amélie Poulain	半過去と複合過去の用法①
14	Hercule Poirot: "Que faisiez-vous à l’heure du crime?"	半過去と複合過去の用法②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
言語というものは，他の科目と違い，教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので，欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し，自分で口にし，はじめて身に付くものなので，毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。
また，予習・復習は当然ながら必須。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします（この授業は総合科目＝2単位科目なので，法政大学学則では「1回の授業につき4時間以上」と定められています)。「Furago, フランス語の練習帳」というサイトも利用しますので，定期的に目標を達成しないと成績が上がらない仕組みになります。

【テキスト（教科書）】
教材はその都度授業で配布するか，LMSにアップロードします。

【参考書】
仏和・和仏辞書（本でも，電子辞書でも，アプリでも）を持参することが望ましい。翻訳ソフト（Google translate 等）はNG ：クラスではその使用を認めません。

【成績評価の方法と基準】
・宿題，（小）テスト，ミニ発表等: 約20 %
・「Furago, フランス語の練習帳」：約20 %
・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約20 %
・作文: 約20 %
・平常点（授業への参加状況）:約 20%。 尚，平常点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。10分までの遅刻は 2 回につき欠席扱いとなり，遅延証明 は 2 回まで認めます。10分以上の無断遅刻は欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
※「Furago, フランス語の練習帳」というサイトへの登録が必須です。スマートフォン，タブレット，パソコンからアクセスできます。有料ですが，学生にとって異常な負担になる金額ではありませんし，定額制ですので，安心して利用できます。
登録費が6 ヶ月につき990 円になります。

【その他の重要事項】
授業中，頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので，そのつもりで積極的に授業に参加しましょう!

【Prerequisite】
履修の条件として，フランス語A1レベルが必須。

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students’ general knowledge about "Francophonie" will also be strengthened.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:

Homework, short tests, etc.: 20 %／Furago (exercises on line):20%／Reading marathon (Extensive reading):20%／Short essays:20 %／Class participation:20%

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）
フランス語コミュニケーション(中・上級) B
2017年度以降入学者

ル ルー 清野　ブレンダン

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**1/Wed.1
単位数：**2単位**
定員制（20）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はA1レベルに達している学生（つまり2，3セメスターの学習経験者）を対象としています。学生達は，日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に，自然な発音及び独特な表現を勉強し，フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も，勿論多く設けてあります。
尚，この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の段階から，特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は，最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法(“immersion”)」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】
この授業では，日常会話の基礎的な語彙と言い回しを身につけることを目標とします。つまり，正確なフランス語の発音を身に付けたり，日常会話で使える言葉を覚えたりして，積極的に会話ができるようになることを目指します。
この授業を通じて，A1レベルの学生達が完全なA2レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2（仏検準2級・2級）やStudy Abroad留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
様々な資料（新聞記事、画像、ビデオ、歌など）を教材とし，履修者は聴解やオーラル・コミュニケーション能力の補強・発展に取り組みます。それと同時にA1の文法項目の復習とA2の新しい文法項目の学習も行います。授業内容は多岐にわたり，世界を旅しながらフランス語圏の様々な文化的側面を発見することもできます。
この授業では，作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので，そのつもりでいて下さい。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、LMSを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Chez le médecin	Organisation de la classe Voitures du passé et du présent
2	Visite en Normandie	過去の出来事を描写するメールを書く
3	Les Acadiens/ Cajuns	歴史について考えよう
4	Histoires de personnalités	直接目的補語の代名詞
5	Quelques écrivains francophones	フランス語圏の文学に触れる
6	Catastrophe naturelle	健康と身体の部位
7	Fêtes traditionnelles	お祭りについて知ろう
8	Faisons un quiz historique	クイズを作ろう
9	Le caractère	人の性格を描写する
10	Les noms en Afrique	アフリカの名前について知ろう
11	Qui est-ce? (jeu)	La description physique
12	Entretien d’embauche	成功と失敗①
13	Le commerce en Afrique	成功と失敗②
14	Qu’est-ce qu’on a fait au bon Dieu?	人の描写（作文）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
言語というものは，他の科目と違い，教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので，欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し，自分で口にし，はじめて身に付くものなので，毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。
また，予習・復習は当然ながら必須。本授業の準備学習・復習時間は4 時間以上を標準とします（この授業は総合科目＝２単位科目なので，法政大学学則では「1回の授業につき4時間以上」と定められています）。
「Furago, フランス語の練習帳」というサイトも利用しますので，定期的に目標を達成しないと成績が上がらない仕組みになります。

【テキスト（教科書）】
教材はその都度授業で配布するか，LMSにアップロードします。

【参考書】
仏和・和仏辞書（本でも，電子辞書でも，アプリでも）を持参することが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
・宿題，（小）テスト，ミニ発表等: 約20 %
・「Furago, フランス語の練習帳」：約20 %
・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約20 %
・作文: 約20 %
・平常点（授業への参加状況）:約20%。尚，平常点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。10分までの遅刻は2 回につき欠席扱いとなり，遅延証明は2 回まで認めます。10 分以上の無断遅刻は欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
※「Furago, フランス語の練習帳」というサイトへの登録が必須です。スマートフォン，タブレット，パソコンからアクセスできます。有料ですが，学生にとって異常な負担になる金額ではありませんし，定額制ですので，安心して利用できます。
登録費が6ヶ月につき990円になります。

【その他の重要事項】
授業中，頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので，そのつもりで積極的に授業に参加しましょう!

【Prerequisite】
履修の条件として，フランス語A1レベルが必須。

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students’ general knowledge about "Francophonie" will also be strengthened.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:

Homework, short tests, etc.: 20 %／Furago (exercises on line):20%／Reading marathon (Extensive reading):20%／Short essays:20 %／Class participation:20%

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

第三外国語としてのロシア語Ａ　2017年度以降入学者

佐藤　裕子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第三外国語として初めてロシア語を学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語のアルファベットとその発音、そして最も基礎的な文法を3か月で学びます。
ロシア語の学習は、文法理解の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指します。基礎文法を理解した上で「読む、書く、話す」学習を重ね、日常的な会話ができるようにします。

【到達目標】
簡単なロシア語の文章を理解し、きれいな発音で朗読が出来る。シンプルな文章を書くことができる。コミュニケーションのための日常会話程度のロシア語力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業では、主に以下のポイントの習得に分けて学習を進めていきます。1）文字と発音、2）単語と熟語、3）基礎文法、3）文法習熟度確認のための練習問題、4）本文テキスト（朗読と和訳）、5）会話練習、6）シンプルな和文露訳。これらのポイントを簡潔な初級教科書を用いて学んでいきます。単語や文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。朗読やペアでの会話なども平常点として加算していきます。その他、学習支援システム上に教材を掲載し、授業時間内で課題を解いて頂きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音１	アルファベットとその発音
第2回	文字と発音２	単語の発音
第3回	名詞、形容詞	名詞の性、名詞の複数形、形容詞の性・数変化
第4回	動詞の現在形	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第5回	「これは（誰々）の（何々）です」	所有代名詞、基本的な文、イントネーション
第6回	「（何々）を」、動詞の過去形	名詞の対格、動詞の過去形（性・数変化）
第7回	動詞の未来形、「（どこどこ）で」	動詞の未来形（人称変化）、名詞の前置格
第8回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第9回	「（何々）の」、「（何々）を持っている／持っていない」	名詞の生格
第10回	「（何々）に・へ」、「今日は寒い」	名詞の与格、形容詞の短語尾形、無人称文
第11回	「（何々）で・によって」、「～（何々）に取り組む」	名詞の造格、ｃｑ動詞、人称代名詞・疑問詞の格変化
第12回	「している／しおえる」	動詞の体（不完了体／完了体）
第13回	形容詞、関係代名詞	形容詞の格変化、関係代名詞の性・数・格変化
第14回	期末試験、まとめと解説	文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習・復習・宿題は1回につき2時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】
中島由美・黒田龍之助・柳町裕子『ロシア語へのパスポート（改訂版）』白水社、2005年、2,300円＋税

【参考書】
佐藤純一『NHK 新ロシア語入門』NHK出版、2001年
土岐康子・三神エレーナ・佐藤裕子『ティータイムのロシア語《CD付》』白水社、2019年
小田桐奈美・北岡千夏『創って学ぶ！ シン・ロシア語入門』朝日出版社、2024年

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度、予習復習、課題などの学習への取り組み、単語などのミニテストなど）60％、評価テストが40％の予定ですが、受講者数が少ない場合は平常点のみで評価することもあります。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声を提出してもらい、その評価も加味する予定です。一歩一歩確実にロシア語をマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】
３か月で新しい語学をマスターすることは難しくもありますが、皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めて参ります。

【その他の重要事項】
受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】
Elementary Russian Course for students who are starting to learn Russian as a third foreign language for the first time.
The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.
At the end of this course, students should be able to do the followings:　1) to read and write simple Russian, 2) to hold simple Russian conversations.
Befor/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.
Final grade will be decided based on the following: short tests 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

第三外国語としてのロシア語Ｂ　2017年度以降入学者

佐藤　裕子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第三外国語として初めてロシア語を学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語のアルファベットとその発音、そして最も基礎的な文法を3か月で学びます。ロシア語の学習は、文法理解の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指します。基礎文法を理解した上で「読む、書く、話す」学習を重ね、日常的な会話ができるようにします。

【到達目標】
簡単なロシア語の文章を理解し、きれいな発音で朗読が出来る。シンプルな文章を書くことができる。コミュニケーションのための日常会話程度のロシア語力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業では、主に以下のポイントの習得に分けて学習を進めていきます。1）文字と発音、2）単語と熟語、3）基礎文法、3）文法習熟度確認のための練習問題、4）本文テキスト（朗読と和訳）、5）会話練習、6）シンプルな和文露訳。これらのポイントを簡潔な初級教科書を用いて学んでいきます。単語や文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。朗読やペアでの会話なども平常点として加算していきます。その他、学習支援システム上に教材を掲載し、授業時間内で課題を解いて頂きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音１	アルファベットとその発音
第2回	文字と発音２、名詞、形容詞	単語の発音、名詞の性、形容詞の性変化
第3回	所有代名詞	名詞の複数形、所有代名詞の性・数変化、形容詞の性・数変化
第4回	「～する」	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第5回	「（何々）を」	名詞の対格
第6回	「～しろ」	動詞の命令形
第7回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第8回	「（何々、誰々）の」、「（何々）を持っている」	名詞の生格、所有の表現
第9回	「～するだろう」	動詞の未来形（人称変化）
第10回	「（どこどこ）で」	名詞の前置格
第11回	「～した」、「（誰々）を」	動詞の過去形（性・数変化）、活動体を表す名詞の対格
第12回	「（何々、誰々）へ」、「（何々、誰々）と」	名詞の与格、名詞の造格
第13回	「～する／～しおえる」	動詞の体（不完了体／完了体）
第14回	期末試験、まとめと解説	文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習・復習・宿題は1回につき2時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】
中島由美・黒田龍之助・柳町裕子『ロシア語へのパスポート（改訂版）』白水社、2005年、2,300円＋税

【参考書】
朝妻恵理子・クセーニャ・ゴロウィナ『ミニマムロシア語』朝日出版社、2021年、2000円+税
佐藤純一『NHK 新ロシア語入門』NHK出版、2001年
土岐康子・三神エレーナ・佐藤裕子『ティータイムのロシア語《CD付》』白水社、2019年
小田桐奈美・北岡千夏『創って学ぶ！ シン・ロシア語入門』朝日出版社、2024年

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度、予習復習、課題などの学習への取り組み、単語などのミニテストなど）60％、評価テストが40％の予定ですが、受講者数が少ない場合は平常点のみで評価することもあります。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声を提出してもらい、その評価も加味する予定です。一歩一歩確実にロシア語をマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】
３か月で新しい語学をマスターすることは難しくもありますが、皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めて参ります。

【その他の重要事項】
受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。
※春学期A／秋学期Bは単独でも履修可能な科目のため初修者歓迎ですが、Aから継続して履修する学生が多い場合、授業内容は履修者の皆さまとご相談させて頂きます。

【Outline (in English)】
Elementary Russian. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.
At the end of this course, students should be able to do the followings: 1) to read and write simple Russian, 2) to hold simple Russian conversations.
Befor/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.
Final grade will be decided based on the following: short tests 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

第三外国語としてのロシア語中級A

2017年度以降入学者

エレーナ　三神

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語初級文法を終えた学生を対象とする読解・文法中心の授業です。 ロシアの社会・文化に関するテクストを読み、初級文法を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。会話練習を行なって聞き取り能力及び会話能力を楽しく伸ばしましょう。
ロシア語能力検定試験3級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験(ТРКИ)の 基本レベル (CERF A2) のロシア語運用能力を身につけるべき頑張りましょう。

【到達目標】
社会・文化に関する文書の朗読・理解ができること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
ロシアの日常生活や文化についてのテクストや現代文学のテクストの解読し、単語・文法練習、文章作成の練習、聴解と会話練習を行います。
課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や提出した課題につけたコメントの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ロシア語の学習	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
2	学校と大学	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
3	大学と大学生	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
4	留学生たち	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
5	寮の住まい	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
6	部屋	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
7	一日の流れ	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
8	週のスケジュール	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
9	休暇の過ごし方	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
10	好きなこと	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
11	移動の表現	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
12	図書館に行く	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
13	総合復習	聴解、文法練習
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新出単語の暗記をできる限り行って授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時及び学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】
『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト　50％、複数小テスト　30%、宿題　20％

【学生の意見等からの気づき】
期末テストの範囲及び成績評価の基準を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスできる端末(PCやタブレットなど)が必要になります。

【その他の重要事項】
履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることがあります。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills.This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.
(Learning activities outside of classroom)
Students are expected to memorize the new vocabulary before coming to class. There is a homework after each class. The standard preparation and revision time for this class is one hour.
(Grading Criteria /Policy)
Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

第三外国語としてのロシア語中級 B

2017年度以降入学者

エレーナ　三神

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続きロシア語の解読と文法中心の授業です。 ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力と共に会話能力も楽しく伸ばしましょう。
ロシア語能力検定試験3級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験(ТРКИ)の 基本レベル (CERF A2) のロシア語運用能力を身につけるべき頑張りましょう。

【到達目標】
授業で読んだ文書などをロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストを解読し、単語・文法練習、文章作成の練習、聴解と会話練習を行います。
課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や提出した課題につけたコメントの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	お食事	テキストの読解、会話練習
2	カフェやレストランにて	テキストの読解、会話練習
3	手紙を書く	テキストの読解、会話練習
4	郵便局にて	テキストの読解、会話練習
5	プレゼントの文化	テキストの読解、会話練習
6	お買い物	テキストの読解、会話練習
7	招待する	テキストの読解、会話練習
8	病気と健康	テキストの読解、会話練習
9	病院にて	テキストの読解、会話練習
10	街の見学に行く	テキストの読解、会話練習
11	旅行に行く	テキストの読解、会話練習
12	空港にて	テキストの読解、会話練習
13	復習	テキストの読解、会話練習
14	期末試験	筆記試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新出単語の学習はオンラインでできるサイトを紹介します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教場で配付もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】
『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）
（2018/2019年度版）と（2020/2021年度版）とは同一内容なので、どちらの版を入手しても問題ありません。

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト　50％、複数小テスト　30%、宿題　20％

【学生の意見等からの気づき】
学期末試験の範囲を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスできる端末(PCやタブレットなど)が必要になります。

【その他の重要事項】
履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることがあります。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills.This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.
(Learning activities outside of classroom)
Students are expected to memorize the new vocabulary before coming to class. There is a homework after each class. The standard preparation and revision time for this class is one hour.
(Grading Criteria /Policy)
Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

実用ロシア語 A

2017年度以降入学者

エレーナ　三神

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月 4**/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（20）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。
現地留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験　の 基本レベル (CERF A2) 、ＴＲＫＩ-1(CERF B1)を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】
授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験3級またはロシア語能力試験 ＴＲＫＩ A2-B1 の受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。 動画や音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援支システム経由や提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自己紹介、名前、挨拶	関係代名詞の用法。　会話練習、リスニング
2	初回場面のトーク	意見を述べる。会話練習・リスニング
3	友好について	性格、家族メンバー、比較表現。会話練習、リスニング
4	人の外見	比較表現、形容詞の与格、慣用句。会話練習、リスニング
5	何を着る	衣類、最上級、形容詞の格変化復習。会話練習、リスニング
6	人の体	年齢や外見の話、比較、чем-тем構文。会話練習、リスニング
7	結婚パーティ	単語復習、関節発話、慣用句。会話練習、リスニング
8	薬局にて	症状の話、診察の表現、薬の購入。会話練習、リスニング
9	健康の維持	再帰動詞、慣用句。会話練習、リスニング
10	スポーツ	会話練習、リスニング
11	身近な人々について	人のことについて言える表現の復習、会話練習、リスニング
12	友人へのメール	メールの書き方、構成。会話練習、作文
13	総合復習	1～12 の復習
14	期末試験	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
数回音声データを使った宿題があります。授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時及び学習支援システムにて授業プリントを配布します。

【参考書】
『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）
（2018/2019年度版）と（2020/2021年度版）とは同一内容なので、どちらの版を入手しても問題ありません。

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト　50％、複数小テスト　30%、宿題　20％

【学生の意見等からの気づき】
いつでも学生からのメールに対応できるようにしています。
期末テストの範囲を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムからダウンロードしたPDFプリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。学習支援システムにアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】
学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更することがあります。ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.
This course is recommended for students who want to study abroad or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or ＴＲＫＩ B1, as well as for those who have already passed the test to maintain their language skills.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the Russian Language Proficiency Test ＴＲＫＩ A2-B1.
（Learning activities outside of classroom）
As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for some lessons to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
（Grading Criteria /Policy）
Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

実用ロシア語Ｂ

2017年度以降入学者

エレーナ　三神

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**4/Mon.4
単位数：**2単位**
定員制（20）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、動画鑑賞やリスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。
現地留学またはロシア語能力検定試験３級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験　の基本レベル (CERF A2)、ＴＲＫＩ-1(CERF B1)を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】
授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験3級またはロシア語検定試験 ＴＲＫＩ A2-B1 の受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。 動画や音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援支システム経由や提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	旅行先のホテル	ホテルの種類や特徴について話す。リスニング練習、会話練習
2	ホテルの受付	予約する、ホテルスタフと話す。リスニング練習、会話練習
3	有名なホテル	接頭辞の移動動詞。リスニング練習、会話練習
4	住まいについて	住まいの種類や特徴。リスニング練習、会話練習
5	部屋について	場所の前置詞、与格の復習。リスニング練習、会話練習
6	引越しパーティ	慣用句。リスニング練習、会話練習
7	食べ物	料理、食べ物。リスニング練習、会話練習
8	食生活	生格、造格の復習。リスニング練習、会話練習
9	スーパーの買い物	数字と複数生格。リスニング練習、会話練習
10	ファストフード店	不定代名詞。リスニング練習、会話練習
11	料理を作る	レシピ、程度表現。リスニング練習、会話練習
12	レストラン	お食事エチケット、慣用句。リスニング練習、会話練習
13	総合復習	1～12 の復習
14	期末試験	筆記試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
数回音声データを使った宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、教場で配付もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】
『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）
（2018/2019年度版）と（2020/2021年度版）とは同一内容なので、どちらの版を入手しても問題ありません。

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト　50％、複数小テスト　30%、宿題　20％

【学生の意見等からの気づき】
いつでも学生からのメールに対応できるようにしています。
期末テストの範囲を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムからダウンロードしたPDFプリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。学習支援システムのアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】
学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更することがあります。ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.
This course is recommended for students who want to study abroad or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or ＴＲＫＩ B1, as well as for those who have already passed the test to maintain their language skills.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the Russian Language Proficiency Test ＴＲＫＩ A2-B1.
（Learning activities outside of classroom）
As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for each lesson to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
（Grading Criteria /Policy）
Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

ロシア語講読 A

2017年度以降入学者

木部　敬

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級文法を修了した学生が対象の授業です。
様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。
基本的にはロシア語から日本語への訳出を行いますが、複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】
辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基礎練習（その1）能動形容動詞	能動形容動詞現在と能動形容動詞過去の作り方と用法
2	基礎練習（その2）受動形容動詞	受動形容動詞現在と受動形容動詞過去の作り方と用法
3	基礎練習(その3)副動詞	不完了体副動詞と完了体副動詞の作り方と用法
4	テキスト講読（その1）回想、科学	短文「ある音楽家の体験」、「チンパンジーと会話能力」
5	テキスト講読（その2）ユーモア、ルポルタージュ	短文「少年の買物」、「ネヴァ川への旅客機の不時着」
6	テキスト講読（その3）ルポルタージュ、科学	短文「嵐の海の救出劇」、「自殺に関する19世紀科学」
7	テキスト講読（その4）おとぎばなし	短文「春夏秋冬」
8	テキスト講読（その5）文学、芸術	短文「美（『カラマーゾフの兄弟』より）」、「映画芸術」
9	テキスト講読（その6）文化、ユーモア	短文「祖国の外で外国語によって作品を執筆すること」、「親切心」
10	テキスト講読（その7）歴史	短文「アレクサンドル1世」、「ニコライ2世」
11	テキスト講読（その8）文学	短文「プーシキン」、「ドストエフスキー」
12	テキスト講読（その9）文学	短文「トルストイ」
13	テキスト講読（その10）文学	短文「パステルナーク『ドクトル・ジバゴ』」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。
授業中に小さなテキストが配られ、その場で訳する場合もある。
本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。
辞書は持参すること。

【参考書】
和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】
平常点（訳文提出など）40％、期末試験60％。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳（翻訳）を作成するよう促す。

【Outline (in English)】
Russian reading A.
This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.
At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

ロシア語講読 B

2017年度以降入学者

木部　敬

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**2/Mon.2
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級文法を修了した学生が対象の授業です。
様々な文章を読んでいくことを通じて、「ロシア語講読A」よりもさらに高度な読解力を培うことを目的とします。
基本的にはロシア語から日本語への訳出を行いますが、複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】
辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テキスト講読（その1）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第1節）」
2	テキスト講読（その2）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第2節」）
3	テキスト講読（その3）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第3節）」
4	テキスト講読（その4）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第1節）」
5	テキスト講読（その5）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第2節）」
6	テキスト講読（その6）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第3節）」
7	テキスト講読（その7）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第4節）」
8	テキスト講読（その8）歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第1節）」
9	テキスト講読（その9）歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第2節）」
10	テキスト講読（その10）歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第3節）」
11	テキスト講読（その11）文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第1節）」
12	テキスト講読（その12）文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第2節）」
13	テキスト講読（その13）文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第3節）」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。
辞書は持参すること。

【参考書】
和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】
平常点（訳文提出など）40％、期末試験60％。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳（翻訳）を作成するよう促す。

【Outline (in English)】
Russian reading B. Continuation of Russian reading A.
This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.
At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

時事ロシア語 A

2017年度以降入学者

油本　真理

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火3**/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事、テレビニュースなど、「生」のロシア語に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための練習をする。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済、外交、社会、文化等について新たな知識を獲得することも目指す。ロシア語の講読が初めての受講者も歓迎する。

【到達目標】
(1)ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
(2)現在のロシアにおける重要なニュースについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は基本的に対面形式で実施するが、受講者の希望により、7回分を上限にオンラインで実施する可能性もある。毎回の授業でロシア語の文章を配布し、その場で辞書を用いながら読む練習をする。また、文章の内容についてのディスカッションも実施する。少人数の授業となることが予想されるため、フィードバックはその場で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	内政①	ロシア語の文章講読
3	内政②	ロシア語の文章講読
4	外交①	ロシア語の文章講読
5	外交②	ロシア語の文章講読
6	宗教①	ロシア語の文章講読
7	宗教②	ロシア語の文章講読
8	文化①	ロシア語の文章講読
9	文化②	ロシア語の文章講読
10	ビジネス①	ロシア語の文章講読
11	ビジネス②	ロシア語の文章講読
12	テクノロジー①	ロシア語の文章講読
13	テクノロジー②	ロシア語の文章講読
14	まとめ	半期の総括・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間内での訳読が中心となるが、終わらなかった部分は宿題とすることがある。授業で訳読した部分についても、授業後に文法や単語を確認し、わからなかった場合には次回授業で質問すること。期末試験では授業で講読した文章の文法・語彙の理解度を確認する。準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。講読する文章は配布する。講読する文章のテーマは受講者の関心に合わせて選定する。

【参考書】
特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験：50％、授業への参加：50％

【学生の意見等からの気づき】
関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

【その他の重要事項】
各回のテーマは受講者の関心に合わせて変更する可能性がある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian.
【Learning Objectives】
The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.
【Learning activities outside of classroom】
The main focus will be on reading the translation in class, but homework may be assigned for parts that are not completed. Students are expected to review grammar and vocabulary after class and ask questions in the next class if they do not understand. A final exam will be given to test your understanding of the grammar and vocabulary of the passages read in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%.

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

時事ロシア語 B

2017年度以降入学者

油本　真理

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事、テレビニュースなど、「生」のロシア語に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済、外交、社会、文化等について新たな知識を獲得することも目指す。ロシア語の講読が初めての受講者も歓迎する。

【到達目標】
(1)ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
(2)現在のロシアにおける重要なニュースについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は基本的に対面形式で実施するが、受講者の希望により、7回分を上限にオンラインで実施する可能性もある。毎回の授業でロシア語の文章を配布し、その場で辞書を用いながら読む練習をする。また、文章の内容についてのディスカッションも実施する。少人数の授業となることが予想されるため、フィードバックはその場で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	社会①	ロシア語の文章講読
3	社会②	ロシア語の文章講読
4	司法①	ロシア語の文章講読
5	司法②	ロシア語の文章講読
6	経済①	ロシア語の文章講読
7	経済②	ロシア語の文章講読
8	環境①	ロシア語の文章講読
9	環境②	ロシア語の文章講読
10	スポーツ①	ロシア語の文章講読
11	スポーツ②	ロシア語の文章講読
12	ナショナリズム①	ロシア語の文章講読
13	ナショナリズム②	ロシア語の文章講読
14	まとめ	半期の総括・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間内での訳読が中心となるが、終わらなかった部分は宿題とすることがある。授業で訳読した部分についても、授業後に文法や単語を確認し、わからなかった場合には次回授業で質問すること。期末試験では授業で講読した文章の文法・語彙の理解度を確認する。準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。講読する文章は配布する。講読する文章のテーマは受講者の関心に合わせて選定する。

【参考書】
特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験：50％、授業への参加：50％

【学生の意見等からの気づき】
関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

【その他の重要事項】
各回のテーマは受講者の関心に合わせて変更する可能性がある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian.
【Learning Objectives】
The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.
【Learning activities outside of classroom】
The main focus will be on reading the translation in class, but homework may be assigned for parts that are not completed. Students are expected to review grammar and vocabulary after class and ask questions in the next class if they do not understand. A final exam will be given to test your understanding of the grammar and vocabulary of the passages read in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

第三外国語としての中国語Ａ　2017年度以降入学者

岩田　和子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**2/Fri.2
単位数：**2単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、１年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。秋学期「第三外国語としての中国語B」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠のイーラーニング教材（e宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を身につけ、初歩的な会話ができるようになることを目指します。質問等へのフィードバックは授業内に適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」「発音３」	「発音の基本」ピンインの「発音３」
3	「発音３」「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」「動詞述語文」
6	「第７課」「第８課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」
7	「第９課」「第１０課」	「主述述語文」「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」「第１２課」	「補語」「動詞述語文１」
9	「第１３課」「第１４課」	「動詞述語文２」「動詞述語文３」
10	「第１５課」「第１６課」	「動詞述語文４」「動詞述語文５」
11	「第１７課」「第１８課」	「動詞述語文６」「動詞述語文７」
12	「第１９課」「第２０課」	「完了態」「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	まとめ	「第１課から第２０課」までのまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。ｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】
①平常点（授業への参加度）：50％
②期末試験：50％

【学生の意見等からの気づき】
引きつづき丁寧な分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
最終回の授業内試験はオンライン試験で実施するので、各自PCができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your final grade will be calculated according to the following process:
Usual performance score 60%，Term-end examination: 40%.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

第三外国語としての中国語Ｂ　2017年度以降入学者

岩田　和子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**2/Fri.2
単位数：**2単位**
定員制（40）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、１年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。春学期「第三外国語としての中国語A」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠のｅラーニング教材（e宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を理解し、初歩的な会話ができるようになることを目指します。質問等へのフィードバックは授業内に適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」「第２２課」	「経験態」「進行態」「持続態」
3	「第２３課」「第２４課」	「形容詞述語文」
4	「第２５課」「第２６課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」１
5	「第２７課」「第２８課」	「名詞述語文」２
6	「第２９課」「第３０課」	「連体修飾語」「連用修飾語」
7	「第３１課」「第３２課」	「程度補語」「数量補語」
8	「第３３課」「第３４課」	「結果補語」「方向補語」
9	「第３５課」「第３６課」	「可能補語」「助動詞」
10	「第３７課」「第３８課」	「兼語文」「受け身表現」
11	「第３９課」「第４０課」	「把構文」「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	まとめ	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。ｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】
①平常点（授業への参加度）：50％
②期末試験：50％

【学生の意見等からの気づき】
引きつづき丁寧な分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
最終回の授業内試験はオンラインで実施するので、PCができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your final grade will be calculated according to the following process:
Usual performance score 60%，Term-end examination: 40%.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

第三外国語としての中国語中級A　2017年度以降入学者

木村　佳代子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金4**/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、初級クラスで学修した基礎文法の要点を復習しながら、より実践的な語学力を身に付けつけます。「読む、話す、書く、訳す」技術の向上と、ことばの背景にある中国文化、中国事情の知識を深めることで、発信力と受信力を蓄えてゆきます。

【到達目標】
1．中国語の中級レベルの語彙、文法を学修し、運用することができる。
2．ことばの背景にある中国文化、中国事情について学び、自国との比較を通じて、正しく日中対訳ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
中国社会を反映した全12課のテキストを使用し、一つの課を複数回に分け、本文の発音練習、訳文練習、会話練習、作文練習、テキスト内の練習問題の解答を行います。課題等へのフィードバックは授業中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第１課（助動詞、主述述語文の用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第2回	第１課　（トレーニング１）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第3回	第２課（”的”の用法、「原因・理由」の表現、文末助詞）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第4回	第２課（トレーニング２）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第5回	第３課（連動文、”是～的”の文、疑問詞）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第6回	第３課（トレーニング３）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第7回	第１課～第３課の復習	日文中訳・中文日訳の練習。
第8回	第４課（”了”の３つの用法、副詞”就”）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第9回	第４課（トレーニング４）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第10回	第５課（様態補語、推量の表現、「仮定」の表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第11回	第５課（トレーニング５）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第12回	総合練習（第１課～第３課）	期末試験に向けた復習と練習。
第13回	総合練習（第４課、第５課）	期末試験に向けた復習と練習。
第14回	試験・まとめと解説	朗読試験、ヒヤリング・筆記試験およびまとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
事前学修、事後学修は、付属のCDを活用し、発音練習や書き取り練習を繰り返しおこなってください。

【テキスト（教科書）】
『中国語つぎへの一歩』尹景春・竹島毅　白水社
2200円＋税

【参考書】
『中国語さらなる一歩』尹景春・竹島毅　白水社
2200円＋税

【成績評価の方法と基準】
期末試験40％、授業への参加度60％を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、学生の個別指導を強化し到達度チェックを図ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器

【その他の重要事項】
４群中国語履修者も履修可能ですが、中国語３Ⅰ・Ⅱ（法文営環）/中国語４Ⅰ・Ⅱ（法文営）と同じ教科書となる可能性があるので、履修の際は留意してください。
関連科目
300番台総合科目、配当年次2年 4年
中国語コミュニケーション中級A・B
中国語視聴覚中級A・B
中国語作文中級A・B
中国語講読中級A・B
中国語翻訳・通訳A・B
資格中国語上級A・B
200番台 LA科目　配当年次1年 4年
中国語の世界LA・LB
200番台 LA科目　配当年次2年 4年
中国の文化と社会LA・LB
中国の文化と社会LC・LD
300番台　総合科目　配当年次2年 4年
教養ゼミⅠ・Ⅱ

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【Outline (in English)】
・To review important point of Chinese grammar.
・Improve reading,speaking,writing,and translating skills.
・Learning Chinese clutures and social changes to enable to express thoughts and opinions in Chinese.
・Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
・Term-end examination: 40%、in class contribution: 60%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

第三外国語としての中国語中級Ｂ　2017年度以降入学者

木村　佳代子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**4/Fri.4
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、引き続き、初級クラスで学修した基礎文法の要点を復習しながら、より実践的な語学力を身に付けつけます。「読む、話す、書く、訳す」技術の向上と、ことばの背景にある中国文化、中国事情の知識を深めることで、発信力と受信力を蓄えてゆきます。

【到達目標】
１．中国語の中級レベルの語彙、その用法を学修し、運用することができる。
２．ことばの背景にある中国文化、中国事情について学び、自国との比較を通じて、正しく日中対訳ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
中国社会を反映した全12課のテキストを使用し、一つの課を複数回に分け、本文の発音練習、訳文練習、会話練習、作文練習、テキスト内の練習問題の解答を行います。
課題等へのフィードバックは授業中またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第６課（結果補語（１）、副詞”有点”の用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第2回	第６課（トレーニング６）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第3回	第７課（存現文、主述句の主語、二つの”了”）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第4回	第７課（トレーニング７）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第5回	第８課（状態の持続を表す“着”、副詞”再”、疑問詞の不定用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第6回	第８課（トレーニング８）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第7回	第６課～第８課の復習	日文中訳、中文日訳を中心とした練習
第8回	第９課（方向補語、使役表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第9回	第９課（トレーニング９）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第10回	第10課（可能補語、強調表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第11回	第10課（トレーニング１０）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第12回	総合練習（第６課～第８課）	期末試験に向けた復習と練習。
第13回	総合練習（第９課、第１０課）	期末試験に向けた復習と練習。
第14回	試験・まとめと解説	朗読試験、ヒヤリング・筆記試験およびまとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
事前学修、事後学修は、付属のCDを活用し、発音練習や書き取り練習を繰り返しおこなってください。

【テキスト（教科書）】
『中国語つぎへの一歩』尹景春・竹島毅　白水社
2200円＋税

【参考書】
『中国語さらなる一歩』尹景春・竹島毅　白水社
2200円＋税

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度60％、期末試験40％を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、学生の個別指導を強化して到達度チェックを図ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器

【その他の重要事項】
４群中国語履修者も履修可能ですが、中国語３Ⅰ・Ⅱ（法文営環）/中国語４Ⅰ・Ⅱ（法文営）と同じ教科書となる可能性があるので、履修の際は留意してください。
関連科目
300番台総合科目、配当年次2年 4年
中国語コミュニケーション中級A・B
中国語視聴覚中級A・B
中国語作文中級A・B
中国語講読中級A・B
中国語翻訳・通訳A・B
資格中国語上級A・B
200番台 LA科目　配当年次1年 4年
中国語の世界LA・LB
200番台 LA科目　配当年次2年 4年
中国の文化と社会LA・LB
中国の文化と社会LC・LD
300番台　総合科目　配当年次2年 4年
教養ゼミⅠ・Ⅱ

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【Outline (in English)】
This corse is continued from Spring semester.
・To review important point of Chinese grammar.
・Improve reading,speaking,writing,and translating skills.
・Learning Chinese clutures and social changes to enable to express thoughts and opinions in Chinese.
・Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
・Term-end examination: 40%、in class contribution: 60%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語視聴覚中級A

2017年度以降入学者

劉　渇氷

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（25）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。この授業は木曜日2限の中国語視聴覚初級1・Ⅱと同じ教科書を使います。中国語視聴覚初級は1課～6課を勉強します、中国語視聴覚中級は6課～12課を勉強します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【到達目標】
初級で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検３級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
単語を習得し、文法を理解する。
DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。
簡単な中国語作文・会話練習を行う。
課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。
本授業はハイブリッド（オンラインと対面を併用）で行います。授業についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容に関するガイダンス
2	第７課	文法理解と応用
3	第７課	会話と応用
4	第７課	読解文の理解と応用
5	第７課	課外練習と作文
6	第８課	文法理解と応用
7	第８課	会話と応用
8	第８課	読解文の理解と応用
9	第８課	課外練習と作文
10	第９課	文法理解と応用
11	第９課	会話と応用
12	第９課	読解文の理解と応用
13	第９課	課外練習と作文
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】
洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】
授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度、課題30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業を受講するための通信環境、PC等を準備して下さい。

【その他の重要事項】
授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】
In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
This class uses the same textbook as Chinese Audiovisual Beginner Ⅰ and Ⅱ on Thursday 2nd period. Beginner Chinese audiovisual students will study lessons 1 to 6, and intermediate Chinese audiovisual students will study lessons 6 to 12.
Final grade will be calculated according to the following
Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each (4 hours in total).

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語視聴覚中級Ｂ

2017年度以降入学者

劉　渇氷

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**
定員制（25）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。中国語視聴覚初級は1課～6課を勉強します、中国語視聴覚中級は6課～12課を勉強します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【到達目標】
初級で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検３級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
単語を習得し、文法を理解する。
DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。
簡単な中国語作文・会話練習を行う。
課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス復習	授業内容に関するガイダンスと復習
2	第10課	文法理解と応用
3	第10課	会話と応用
4	第10課	読解文の理解と応用
5	第10課	課外練習と作文
6	第11課	文法理解と応用
7	第11課	会話と応用
8	第11課	読解文の理解と応用
9	第11課	課外練習と作文
10	第12課	文法理解と応用
11	第12課	会話と応用
12	第12課	読解文の理解と応用
13	第12課	課外練習と作文
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】
洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】
授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度、課題30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【その他の重要事項】
授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】
In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Beginner Chinese audiovisual students will study lessons 1 to 6, and intermediate Chinese audiovisual students will study lessons 6 to 12.
Final grade will be calculated according to the following
Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each (4 hours in total).

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語作文中級A

2017年度以降入学者

楊　心苗

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、中国語作文に必要な知識とスキルを習得するための授業である。初級の文法知識を復習しつつ、短文を作る練習から始まり、作文を行うために必要なステップを学ぶ。また、モデルとなる中国語のテキストを分析し、模倣や書き換え練習を通して、わかりやすい短文の書き方、SNS文字メッセージやメールなどの書き方、フィードバックの与え方などを習得する。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。
This course is designed to help students acquire the knowledge and skills necessary for writing Chinese compositions. While reviewing basic grammar, students will start by practicing sentence construction and learning the steps required for effective composition. Additionally, students will analyze sample Chinese texts and engage in imitation and rewriting exercises to master clear and concise sentence writing. The course will also cover how to compose short messages for SNS, emails, and other forms of written communication, as well as how to provide constructive feedback. Please make sure to review the "Other Important Information" section at the end of this syllabus before enrolling in the course.

【到達目標】
1. 興味関心のある話題について、正確かつ自然な中国語の表現で自分の考えをまとめて文章にすることができる。
2. 受講生同士のフィードバックができる。
3. 教員が添削した作文をリライティングし、より良い文章を作成する能力を身につける。
4. 春学期の学習を完了した段階で、HSK 4級のライティングに合格できるレベルの能力を身につける。
1.Be able to express thoughts on topics of interest accurately and naturally in Chinese and compose written essays.
2.Be capable of providing feedback to fellow students.
3.Develop the ability to rewrite essays corrected by the instructor and create improved versions.
4.Achieve a level of writing ability that can pass the HSK Level 4 exam upon completing the spring semester.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・本授業は講義形式と演習形式を組み合わせて行う。
・指定テキストを用いて、練習問題や作文に取り組んでもらい、受講生同士でフィードバックし、発表する機会も設ける。
・教員は作文の添削や質問への解答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。
なお以下の授業計画は暫定的なものである。受講人数や受講者のニーズに応じて進捗のペースや実施の順番を調整する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	第一課	形容詞述語文／“是”を用いる文
	第二課	文章記号、記述の基礎を学ぶ。
3	第三課	疑問文／“是”を用いる文
	第四課	SNS文字メッセージを書く練習・フィートバック
4	第五課	助動詞
	第六課	メールを書く練習・フィートバック
5	第七課	完了態／変化態
	第八課	会話文を記述文に書き換える練習・フィートバック
6	第九課	進行態／持続態／経験態／数量の表現
	第十課	会話文を記述文に書き換える練習・フィートバック
7	第十一課	介詞
	第十二課	会話文を記述文に書き換える練習・フィートバック
8	第十三課	離合詞／動詞の重ね型／結果補語
	第十四課	会話文を記述文に書き換える練習・フィートバック
9	第十五課	方向補語／可能補語
	第十六課	モデル文章を模倣し、40文字以上の日記を書く・フィートバック
10	第十七課	程度補語／否定の表現
	第十八課	モデル文章を模倣し、50文字以上の日記を書く・フィートバック
11	第十九課	“□”と“再”と“又”／“就”“才”／比較文
	第二十課	モデル文章を模倣し、60文字以上の日記を書く・フィートバック
12	第二十一課	使役文／“把”構文／受け身文
	第二十二課	モデル文章を模倣し、70文字以上の日記を書く・フィートバック
13	第二十三課	語気助詞／複文
	第二十四課	モデル文章を模倣し、80文字以上の日記を書く・フィートバック
14	総括	この授業で学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・宿題の練習問題や作文を用いて授業を進めることがあるため、宿題は必ずあらかじめ取り組んでください（宿題をこなしていない場合は授業参加が難しくなる）。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
· Since classes may involve homework exercises and essay writing, please make sure to complete your homework in advance (it will be difficult to participate in class without doing the homework).
· The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
井田みずほ・小薗瑞恵『初中級中国語作文トレーニング』（白帝社）2023年

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・期末課題を50%、平常点（授業への積極的参加度、作文、フィートバックなど）を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
・本授業は期末試験は実施しない。
· The final assignment will account for 50%and class participation (active participation in discussions, essays, feedback, etc.) will account for 50%, making a total of 100 points. Students who achieve 60%or more of the course objectives based on this grading system will pass.
· There will be no final exam for this course.

【学生の意見等からの気づき】
本年度より新規開校のため、フィードバックできません。

【その他の重要事項】
・中国語の文法知識があること（最低1年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。
・事前学習は必須である。事前学習していることを前提に授業を進める。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】
This course is designed to help students acquire the knowledge and skills necessary for writing Chinese compositions. While reviewing basic grammar, students will start by practicing sentence construction and learning the steps required for effective composition. Additionally, students will analyze sample Chinese texts and engage in imitation and rewriting exercises to master clear and concise sentence writing. The course will also cover how to compose short messages for SNS, emails, and other forms of written communication, as well as how to provide constructive feedback. Please make sure to review the "Other Important Information" section at the end of this syllabus before enrolling in the course.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語作文中級Ｂ

2017年度以降入学者

楊　心苗

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**3/Thu.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、中国語作文のスキルを向上させるための授業である。リーディングとライティングは相互作用するスキルであるため、秋学期には、中国語のリーディングとライティングを関連させ、中国語で書かれた短いストーリやエッセイなどを読み、既習のライティングスキルを活用し、要約や感想文、自由作文のトレーニングを行う。また、日中対照研究的視点から中国語を見ることにより、普段何気なく使っている日本語の文法的特徴を考える視点も養う。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。
This course is designed to improve Chinese composition skills. Since reading and writing are interrelated skills, the autumn semester will focus on connecting Chinese reading and writing. Students will read short stories and essays written in Chinese and engage in training such as summaries, reflection essays, and free writing by applying previously learned writing skills. Additionally, by examining Chinese from a contrastive perspective between Japanese and Chinese, students will develop an awareness of the grammatical features of Japanese, which they often use unconsciously. Please ensure that you review the "Other Important Information" section at the end of this syllabus before enrolling in the course.

【到達目標】
1. 句読点や段落構成に留意し、正しい中国語の文法や読みやすい言葉で論理的に文章を書くスキルを身につける。
2. 秋学期の学習を完了した段階で、HSK５級のライティングに合格できるレベルの能力を身につける。
3. 中国語圏の言語や文化に関心を持ち、グローバルな視点で自分の考えを中国語で効果的に文章にまとめられる。
1.Acquire the skill to write logically with attention to punctuation and paragraph structure, using correct Chinese grammar and clear, readable language.
2.Achieve a level of writing ability that can pass the HSK Level 5 exam upon completing the fall semester.
3.Cultivate interest in the language and culture of Chinese-speaking regions and be able to effectively express personal thoughts in written Chinese from a global perspective.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・本授業は講義形式と演習形式を組み合わせて行う。
・秋学期は配布資料を用いて授業を進める。具体的進め方は以下の通りである。
＊授業前の事前学習
授業前に配布されたリーディング資料を読み、感想や意見を考える。
＊授業の進め方と方法
1. 事前学習したリーディン資料について要約や感想文を書く。
2. 受講生同士でフィードバックを行う。
3. HSK5級作文トレーニング。
4. 教員が宿題の作文を添削し、中から数点を選んでプリントにまとめて、受講生全体で共有してフィードバックを行う。
なお以下の授業計画は暫定的なものである。受講人数や受講者のニーズに応じて進捗のペースや実施の順番を調整する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習	春学期に学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。
2	HSK5級自由作文	HSK5級作文問題説明、自由作文の練習、フィードバック
3	リーディング＆ライティング	リーディング資料（故事）について要約、感想文を書く、フィードバック
4	HSK5級自由作文	HSK5級自由作文の練習、よく使う語句をまとめる、フィードバック
5	リーディング＆ライティング	リーディング資料（エッセイ）について要約、感想文を書く、フィードバック
6	HSK5級自由作文	HSK5級自由作文の練習、テンプレートを作る、フィードバック
7	リーディング＆ライティング	リーディング資料（論説文）について要約、感想文を書く、フィードバック
8	HSK5級自由作文	HSK5級自由作文の練習、フィードバック
9	リーディング＆ライティング	リーディング資料（ショートショート）について要約、感想文を書く、フィードバック
10	HSK5級単語指定作文	HSK5級単語指定作文の練習、フィードバック
11	HSK5級単語指定作文	HSK5級単語指定作文説明、作文の練習、よく使う語句をまとめる、フィードバック
12	HSK5級単語指定作文	HSK5級単語指定作文の練習、テンプレートを作る、フィードバック
13	HSK5級単語指定作文	HSK5級単語指定作文の練習、フィードバック
14	総括	この授業で学んだ内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業前に配付資料や宿題の作文を用いて授業を進めることがあるため、配付資料を必ず熟読すること、宿題はあらかじめ取り組んでください（こなしていない場合は授業参加が難しくなる）。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
・Since classes may involve homework exercises and essay writing, please make sure to complete your homework in advance (it will be difficult to participate in class without doing the homework).
・The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要な資料は担当教員が適宜準備する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・期末課題を50%、平常点（授業への積極的参加度、作文、フィートバックなど）を50%として合計100点満点とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
・本授業は期末試験は実施しない。
・The final assignment will account for 50%and class participation (active participation in discussions, essays, feedback, etc.) will account for 50%, making a total of 100 points. Students who achieve 60%or more of the course objectives based on this grading system will pass.
・There will be no final exam for this course.

【学生の意見等からの気づき】
本年度より新規開講のため、フィードバックできません。

【その他の重要事項】
・中国語の文法知識があること（最低1年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。
・事前学習は必須である。事前学習していることを前提に授業を進める。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】
This course is designed to improve Chinese composition skills. Since reading and writing are interrelated skills, the autumn semester will focus on connecting Chinese reading and writing. Students will read short stories and essays written in Chinese and engage in training such as summaries, reflection essays, and free writing by applying previously learned writing skills. Additionally, by examining Chinese from a contrastive perspective between Japanese and Chinese, students will develop an awareness of the grammatical features of Japanese, which they often use unconsciously. Please ensure that you review the "Other Important Information" section at the end of this syllabus before enrolling in the course.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語コミュニケーション中級A　2017年度以降入学者

周　重雷

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火3**/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文法の復習をしつつ、中国語でのさまざまな会話パターンを作り、練習していく。
中国語のコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】
1、文法をきちんと把握する。
2、発音を綺麗にする。
3、日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回配布されている教材に沿って文法を確認する。またさまざまな会話パターンを作り、授業内発表を行う。
また毎回発表した内容の訂正版の音声をLINEなどで受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布 受講生のレベルのチェック
第2回	発音練習	ピンインの復習 発音をチェックする
第3回	人称代名詞と指示代名詞 日常会話	文法を確認したのち、あいさつなどの日常会話を復習する
第4回	述語 会話（1）	文法の確認と自己紹介
第5回	受け答え 授業内発表（1）	文法を確認したのち、自己紹介を各自に発表する
第6回	在と有	方位や場所を意味する表現を学ぶ
第7回	数量詞と連体修飾語	数量詞と連体修飾語の練習をする
第8回	疑問文 会話（2）	ものの尋ね方を学ぶ レストランでの会話を作る
第9回	連用修飾語（1） 授業内発表（2）	副詞と時間詞につい勉強する レストランでの会話を発表する
第10回	完了と変化	「了」の様々を学ぶ
第11回	連用修飾語（2）	前置詞構造と副詞を学ぶ
第12回	三量補語 会話（3）	文法を確認したのち、買い物する時の会話パターンを作る
第13回	復習と質疑応答 授業内発表（3）	買い物のシミュレーションをする
第14回	まとめ及び期末テスト	文法のまとめ、と会話の口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教員によるプリント配布

【参考書】
必要であればその都度に指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績（60％）と発表（40％）で評価される。
term-end test:60%
presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】
自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
HSKや中国語検定の受験も推奨される。
留学生の受講も歓迎される。

【Outline (in English)】
This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners.　The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill.　We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.
We should talk by accurate pronunciation.
We should talk daily conversation well.
We should prepare and review about two hours a week.
Term-end test:60%
Presentation:40%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語コミュニケーション中級Ｂ　2017年度以降入学者

周　重雷

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文法を確認しつつ、中国語のさまざまな会話パターンを作り、練習していく。
中国語コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】
１、文法をきちんと把握する。
２、作文能力を高める。
３、日常会話をできるようにする。
４、面接やスピーチなど、より高度なコミュニケーション能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
文法と作文の練習を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表をする。
また発表した内容の訂正版の音声をLINEなどで受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	持続態と進行形 作文	文法を確認したのち、「私の夏休み」を作る
第2回	程度補語 作文のチェック	程度補語について勉強する 作文の添削をする
第3回	比較文と連動文 会話（１）	文法を確認する ホテルでの会話パターンを作る
第4回	構文分析 授業内発表（１）	構文を分析する ホテルでの会話を発表する
第5回	強調と重複	強調構文と重複表現について勉強する
第6回	方向補語	方向補語の用法を学ぶ
第7回	複合方向補語の派生的用法 会話（２）	文法を確認したのち、乗り物を使う場合の会話を作る
第8回	結果補語 授業内発表（２）	文法を確認したのち、会話を発表する
第9回	可能補語 会話（３）	可能補語を学ぶ スピーチ/ものを語る
第10回	使役と受身 授業内発表（３）	文法を確認したのち、スピーチを発表する
第11回	処置と倒置 ヒアリング（１）	処置文と倒置文について勉強する 映像教材を使って聞き取りをする
第12回	複文一 ヒアリング（２）	複文について勉強する 映像教材の聞き取り
第13回	複文二	接続詞を確認する 復習と質疑応答
第14回	まとめ	口頭テストと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教員によるプリント配布

【参考書】
必要であればその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末テストの成績（60％）と発表（40％）で評価される。
term-end test:60%
presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】
自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
HSKや中国語検定の受験も推奨される。
留学生の受講も歓迎される。

【Outline (in English)】
This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill. We should do some writing and talk by accurate pronunciation. Achieve the high-level that we can use the language for study-abroad or working.
We should prepare and review about two hours a week.
Term-end test:60%
Presentation:40%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語翻訳･通訳 A

2017年度以降入学者

王　安

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語入門～初級を修了した学習者を対象に、HSK3級～5級（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期はHSK3級～4級レベル（中国語検定試験3級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に着け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】
１、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に着ける。
２、中国語中級レベルの重要文法事項を把握する。
３、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業では、毎回３、4個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、HSK試験や中検試験の受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。
課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。HSKに関する説明
第2回	中国語重要文型の復習（その１）	名詞述語文、形容詞述語文、動詞述語文、二つの否定副詞
第3回	中国語重要文型の復習(その２）	各種の疑問文、主述述語文
第4回	動作の状態の表し方（その１）	将来の動作、動作の進行と持続、動作の経験の表し方
第5回	動作の状態の表し方（その２）	アスペクト助詞の”了”と語気助詞”了”（その１）
第6回	動作の状態の表し方（その３）	アスペクト助詞の”了”と語気助詞”了”（その２）
第7回	中国語の離合詞と動詞の重ね型について	離合詞の特徴と文型、重ね型の文型と機能
第8回	これまでの復習	総合復習（１）、中間テスト
第9回	翻訳・通訳練習	様々な翻訳パターン
第10回	重要な前置詞（介詞、その１）	“在”“从"“到”“離”
第11回	重要な前置詞（介詞、その２）	“往”“朝”“向”“对于”“对”“通過”“按照”“关于”など）
第12回	様々な形容詞について	性質形容詞と状態形容詞の特徴と使い方
第13回	連体修飾と連用修飾	連体修飾の作り方、連用修飾の作り方
第14回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各３時間を標準とします。
・当日授業で説明した重要ポイントを必ず整理し、復習してください。

【テキスト（教科書）】
授業で資料を配布する。

【参考書】
『WHY？ にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著　2,500円（同学社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題）４０％＋中間テスト（３０％）＋期末テスト（３０％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業の雰囲気が明るく、文法の説明が分かりやすいとの評価を頂いてうれしいです。今後もたくさんの用例を提示しながら丁寧に文法項目を説明し、様々な工夫をして学習効果を確実に上げていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
１日中中日辞書を用意してください。
２授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は中間・期末試験の復習資料となります。
３、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【Outline (in English)】
Outline:
This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the first semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK levels 3 to 4. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire difficult grammar points for intermediate Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.
Objectives
1.　To develop advanced Chinese writing, reading, and understanding ability.
2.　to master the important grammar items of intermediate Chinese.
3.　to improve Chinese translation and comprehensive ability through much writing practice.
Grading method:
assignment（40%） + mid-term test (30%) + final test (30%)
Work to be done outside of class (preparation:
The standard time for preparation and review is ３ hours each.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語翻訳･通訳Ｂ

2017年度以降入学者

王　安

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月**3/Mon.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語初級を修了した学習者を対象に、HSK3級～5級（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期に引き続き、後期ではＨＳＫ4級～５級レベル（中国語検定試験3～２級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に着け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】
１、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に着ける。
２、中国語中級～上級レベルの重要文法事項を把握する。
３、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業では、毎回３、4個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、HSK試験や中検試験における受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。
課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。前期の復習
第2回	中国語の助動詞	各種の助動詞の使い方
第3回	引用、伝聞を表す構文	引用を表す構文、伝聞を表す構文
第4回	特殊構文（その１）	使役文
第5回	特殊構文（その２）	受け身文
第6回	特殊構文（その３）	“是…的”構文
第7回	翻訳・通訳練習	様々な翻訳パターン
第8回	これまでの復習	総合復習（１）、中間テスト
第9回	特殊構文（その４）	”把”構文
第10回	中国語の補語（その１）	結果補語と方向補語
第11回	中国語の補語（その２）	可能補語、数量補語
第12回	中国語の補語（その３)）	数量補語、様態補語
第13回	翻訳通訳練習	日中通訳の現場でよく使われる表現
第14回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各３時間を標準とします。
・当日の授業で紹介した重要ポイントを必ず復習してください。

【テキスト（教科書）】
授業で資料を配布する。

【参考書】
『WHY？ にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著　2,500円（同学社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題）４０％+中間テスト（３０％）+期末テスト（３０％）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業の雰囲気が明るく、文法の説明が分かりやすいとの評価を頂いてうれしいです。今後もたくさんの用例を提示しながら丁寧に文法項目を説明し、様々な工夫をして学習効果を確実に上げていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
１日中中日辞書を用意してください。
２授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は期末試験の復習資料となります。
３、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【その他の重要事項】
連絡先：　annwang@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
Outline:
This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the second semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK levels 4 to 5. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire grammar points that are difficult for intermediate advanced Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.
Objectives
1. To develop advanced Chinese writing, reading, and understanding ability.
2. to master the important grammar items of intermediate advanced Chinese.
3. to improve Chinese translation and comprehensive ability through much writing practice.
Grading method:
assignment（40%） + mid-term test (30%) + final test (30%)
Work to be done outside of class (preparation:
The standard time for preparation and review is 3 hours each.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語講読中級A

2017年度以降入学者

岩田　和子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水3**/Wed.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）に慣れるための授業です。春学期はHSK３、４級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。中国語文を読むのに苦手意識のある方はぜひ受講してください。

【到達目標】
中国語文の精読を通して、HSK３，４級レベルの読解力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、受講者と話し合いながら授業を進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。
2	HSK３，４級閲読対策：練習問題①	HSK３，４級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK３，４級閲読対策：練習問題②	HSK３，４級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK３，４級閲読対策：練習問題③	HSK３，４級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK３，４級閲読対策：練習問題④	HSK３，４級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK３，４級閲読対策：練習問題⑤	HSK３，４級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK３，４級閲読対策：練習問題⑥	HSK３，４級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK３，４級閲読対策：練習問題⑦	HSK３，４級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK３，４級閲読対策：練習問題⑧	HSK３，４級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK３，４級閲読対策：練習問題⑨	HSK３，４級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK３，４級閲読対策：練習問題⑩	HSK３，４級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK３，４級閲読対策：練習問題⑪	HSK３，４級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	HSK３，４級レベルの閲読練習①～⑪の復習
14	まとめ	①～⑪のまとめと確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを配布します。

【参考書】
千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』（三省堂）
そのほか、適宜教場で示します。

【成績評価の方法と基準】
①平常点（授業への参加度）50%
②期末試験（授業で扱った内容を翻訳する確認テスト）50%

【学生の意見等からの気づき】
引きつづき丁寧な分かりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】
最終回の授業内試験はオンラインで実施しますので、PCで受講できる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to pass 4th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your final grade will be calculated according to the following process:
Usual performance score 50%，Term-end examination: 50%.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語講読中級Ｂ

2017年度以降入学者

岩田　和子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**3/Wed.3
単位数：**2単位**

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）に慣れるための授業です。秋学期はHSK４、５級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。中国語文を読むのに苦手意識のある方はぜひ受講してください。

【到達目標】
中国語文の精読を通して、HSK４，５級レベルの読解力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、受講者と話し合いながら授業を進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。
2	HSK４，５級閲読対策：練習問題①	HSK４，５級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK４，５級閲読対策：練習問題②	HSK４，５級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK４，５級閲読対策：練習問題③	HSK４，５級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK４，５級閲読対策：練習問題④	HSK４，５級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK４，５級閲読対策：練習問題⑤	HSK４，５級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK４，５級閲読対策：練習問題⑥	HSK４，５級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK４，５級閲読対策：練習問題⑦	HSK４，５級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK４，５級閲読対策：練習問題⑧	HSK４，５級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK４，５級級閲読対策：練習問題⑨	HSK４，５級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK４，５級級閲読対策：練習問題⑩	HSK４，５級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK４，５級級閲読対策：練習問題⑪	HSK４，５級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	HSK４，５級レベルの閲読練習①～⑪の復習
14	まとめ	①～⑪のまとめと確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜配布します。

【参考書】
千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
①平常点（授業への参加度）50%
②期末試験（授業で扱った内容を翻訳する確認テスト）50％

【学生の意見等からの気づき】
引きつづき丁寧な分かりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】
最終回の授業内試験はオンラインで実施しますので、PCで受講できる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to pass 5th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your final grade will be calculated according to the following process:
Usual performance score 50%，Term-end examination: 50%.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

資格中国語上級A

2017年度以降入学者

任　麗潔

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火3**/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は今まで習得した中国語の基礎を生かし、聞く、話す、読む、書く力の向上を図ります。そして、HSK（漢語水平考試）の5級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とします。

【到達目標】
過去問題や模擬問題を解くことで、HSKレベル5に合格するために必要な力、文法力、語彙力、作文力を身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回プリントを配布し、過去問題や模擬問題の一部を課題とします。授業前に解いてもらい、授業中答え合わせした上で、受講生の疑問点をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。受講生の出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要 HSK概要 レベルチェック
2	HSK5級の聴解対策①	聴解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
3	HSK5級の聴解対策②	聴解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
4	HSK5級の聴解対策③	聴解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
5	HSK5級の聴解対策④	聴解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
6	HSK5級の読解対策①	読解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
7	HSK5級の読解対策②	読解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
8	HSK5級の読解対策③	読解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
9	HSK5級の読解対策④	読解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
10	HSK5級の作文対策①	作文の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の添削及び解説
11	HSK5級の作文対策②	作文の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の添削及び解説
12	HSK5級の作文対策③	作文の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の添削及び解説
13	HSK5級の作文対策④	作文の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の添削及び解説
14	総まとめ	期末試験 まとめ 質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の宿題・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
学習態度 40%
宿題と課題 40%
期末試験 20%

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will utilize the basic Chinese you have learned so far to improve your listening, speaking, reading and writing skills, and aim to develop Chinese language skills to the level of passing the HSK (Chinese Language Qualification Examination) Level 5.
【Learning Objectives】
By solving past exam questions and mock tests, acquire the listening, grammar, vocabulary, and writing skills necessary to pass HSK Level 5.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Attendance and learning attitude 40%
Homework completion 40%
Final exam 20%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

資格中国語上級Ｂ

2017年度以降入学者

任　麗潔

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火**3/Tue.3
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は今まで習得した中国語の基礎を生かし、聞く、話す、読む、書く力の向上を図ります。そして、HSK（漢語水平考試）の6級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とします。

【到達目標】
過去問題や模擬問題を解くことで、HSKレベル6に合格するために必要な力、文法力、語彙力、作文力を身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回プリントを配布し、過去問題や模擬問題の一部を課題とします。授業前に解いてもらい、授業中答え合わせした上で、受講生の疑問点をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。受講生の出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要 HSK概要 レベルチェック
2	HSK6級の聴解対策①	聴解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
3	HSK6級の聴解対策②	聴解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
4	HSK6級の聴解対策③	聴解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
5	HSK6級の聴解対策④	聴解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
6	HSK6級の読解対策①	読解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
7	HSK6級の読解対策②	読解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
8	HSK6級の読解対策③	読解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
9	HSK6級の読解対策④	読解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
10	HSK6級の作文対策①	作文の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
11	HSK6級の作文対策②	作文の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
12	HSK6級の作文対策③	作文の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
13	HSK6級の作文対策④	作文の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
14	総まとめ	期末試験 まとめ 質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の宿題・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
学習態度 40%
宿題と課題 40%
期末試験 20%

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will utilize the basic Chinese you have learned so far to improve your listening, speaking, reading and writing skills, and aim to develop Chinese language skills to the level of passing the HSK (Chinese Language Qualification Examination) Level 6.
【Learning Objectives】
By solving past exam questions and mock tests, acquire the listening, grammar, vocabulary, and writing skills necessary to pass HSK Level 6.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Attendance and learning attitude 40%
Homework completion 40%
Final exam 20%

ARSe300LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

岩田　和子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水2**/Wed.2
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「担仔麺に小籠包、臭豆腐、茶葉蛋、豆花…。台湾を代表する現代詩人が民間に根づいた食べものを題目に冠し、その味わいを綴る六十篇」（みすず書房HPより抜粋）を収める焦桐『味の台湾』（川浩二訳、みすず書房、2021年。原書『味道福爾摩莎』）をテキストとし、日本語訳された内容を味わいながら台湾の食文化への理解を深めます。適宜、原文も確認しながら中国語の世界にも慣れ親しむ予定です。
※中国語の学習経験がなくても構いません。

【到達目標】
・映像資料の鑑賞・中国語文献の確認作業を通して、中国語の世界に慣れ親しむ。
・地理、地域の特色、食材、調理、生活、習慣等に対する調査を通して、中国語圏の食文化への理解を深める。
・各自でレストランを訪れ、地域の特色のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。
・プレゼンテーションに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・焦桐『味の台湾』（川浩二訳、みすず書房、2021年）をテキストとします。各自担当したい項目を選んで、それに関する内容の整理、調査結果をまとめてパワーポイントを作成し、プレゼンします。プレゼンをもとに参加者はリアクションペーパーに感想・質問等をまとめ、ディスカッションを行います。
・シラバス記載の項目は一例です。
・調査結果や質問等へのフィードバックは授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明。
2	プレゼンテーション例と担当決め	各自エッセイのなかから一篇を選ぶ。「台湾珈琲」を例にプレゼン。
3	『味の台湾』から読み解く食文化②	「肉臊飯（豚角切り肉の煮込みぶっかけ飯）」篇に関する調査と発表
4	『味の台湾』から読み解く食文化③	「米粉湯（米めん入りスープ）」篇に関する調査と発表
5	『味の台湾』から読み解く食文化④	「芒果牛奶氷（マンゴーミルクかき氷）」篇に関する調査と発表
6	『味の台湾』から読み解く食文化⑤	「蚵仔煎（カキのオムレツ）」篇に関する調査と発表
7	『味の台湾』から読み解く食文化⑥	「小籠包（スープ入り小肉饅頭）」篇に関する調査と発表
8	『味の台湾』から読み解く食文化⑦	「川味紅燒牛肉麺（四川風牛肉煮込み汁麺）」篇に関する調査と発表
9	『味の台湾』から読み解く食文化⑧	「永和豆漿（永和豆乳）」篇に関する調査と発表
10	『味の台湾』から読み解く食文化⑨	「仏跳牆（さまざまな乾物と肉類の蒸しスープ）」篇に関する調査と発表
11	『味の台湾』から読み解く食文化⑩	「刈包（豚肉の醤油煮こみをはさんだ蒸しパン）」篇に関する調査と発表
12	『味の台湾』から読み解く食文化⑪	「豆花（おぼろ豆腐）」篇に関する調査と発表
13	春学期のまとめ①	授業のふりかえりと各自での実地調査
14	春学期のまとめ②	授業のふりかえりと各自での実地調査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
焦桐『味の台湾』（川浩二訳、みすず書房、2021年）

【参考書】
焦桐『味道福爾摩莎』（二魚文化事業有限公司、2015年）など

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への参加度、リアクションペーパー）：50%
・プレゼンテーション：50%

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【Outline (in English)】
The aim of this seminar is to develop students'understanding of Chinese society and culture.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your final grade will be calculated according to the following process:
Usual performance score 50%, Presentation 50%.

ARSe300LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

岩田　和子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水**2/Wed.2
単位数：**2単位**
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「吃貨（くいしんぼう）」のための食エッセイを収める崔岱遠『中国くいしんぼう辞典』（川浩二訳、2019年、みすず書房。原書『吃貨辞典』2014年、商務印書館）をテキストのひとつとして使用します。日本語訳された内容を味わいながら中国語圏の食文化への理解を深めます。適宜、原文も確認しながら外国語にも慣れ親しむ予定です。
※中国語の学習経験がなくても構いません。

【到達目標】
・映像資料の鑑賞・文献の確認作業を通して、外国語の世界に慣れ親しむ。
・地理、地域の特色、食材、調理、生活、習慣等に対する調査を通して、中国語圏の食文化への理解を深める。
・各自でレストランを訪れ、地域の特色のあるメニューを実食し、授業で得た知見を経験として身につける。
・プレゼンテーションに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
・崔岱遠『中国くいしんぼう辞典』（川浩二訳、みすず書房、2019年）をテキストとします。各自担当したい項目を選んで、それに関する内容の整理、調査結果をまとめてパワーポイントを作成し、プレゼンします。プレゼンをもとに参加者はリアクションペーパーに感想・質問等をまとめ、ディスカッションを行います。
・シラバス記載の項目は一例です。
・調査結果や質問等へのフィードバックは授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明。
2	プレゼンテーション例と担当決め	各自エッセイのなかから一篇を選ぶ。「燙干絲（湯通しした細切り押し豆腐）」篇を例にプレゼンテーション
3	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化①	「紅焼肉（豚の角煮）」篇に関する調査と発表
4	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化②	「炸醤麺（煎りみそ和え麺）」篇に関する調査と発表
5	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化③	「包子（まんじゅう）」篇に関する調査と発表
6	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化④	「涮羊肉（羊のしゃぶしゃぶ）」篇に関する調査と発表
7	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑤	「粽子（ちまき）」篇に関する調査と発表
8	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑥	「生煎（焼き小籠包）」篇に関する調査と発表
9	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑦	「牛大碗（手延べ牛肉麺）」篇に関する調査と発表
10	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑧	「過橋米麺（各種の付け合わせを添えた汁米麺）」篇に関する調査と発表
11	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑨	「夫妻肺片（薄切りにした牛肉と牛モツの辛み和え）」篇に関する調査と発表
12	『中国くいしんぼう辞典』から読み解く食文化⑩	「雲呑麺（ワンタンメン）」篇に関する調査と発表
13	秋学期のまとめ①	授業のふりかえりと各自での実地調査
14	秋学期のまとめ②	授業のふりかえりと各自での実地調査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
崔岱遠『中国くいしんぼう辞典』（川浩二訳、2019年、みすず書房）

【参考書】
崔岱遠『吃貨辞典』（2014年、商務印書館など）

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への参加度・リアクションペーパー）：50%
・プレゼンテーション：50%

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【Outline (in English)】
The aim of this seminar is to develop students'understanding of Chinese society and culture.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your final grade will be calculated according to the following process:
Usual performance score 50%, Presentation 50%.

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

第三外国語としてのスペイン語Ａ　2017年度以降入学者

杉下　由紀子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木2**/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】
スペイン語の特徴を把握し、正しく発音する。
自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。
スペイン語が話されている国の概要を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
すべて対面で行う。対面が不可になった場合はZoomによるリアルタイム双方向式で行う。
教員が文法事項を説明し、履修生は音声を聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループアクティビティを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。
アクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 第０課　イントロダクション	授業の進め方、学習方法、スペイン語の特徴、スペイン語圏諸国
2	第１課　スペイン語で友だちになろう	アルファベット、発音、アクセント、数詞0～10、スペイン語圏の名前
3	第２課　慣用句を便利に使おう	名詞の性数、職業、冠詞、指示詞
4	第３課　感動を伝えよう	主格人称代名詞、動詞ser、国籍、数詞11～20
5	第３課　感動を伝えよう	疑問文と否定文、形容詞、感嘆文
6	小テスト 第４課　いろいろな動詞を使おう	規則動詞、疑問詞１、数詞21～30
7	第４課　いろいろな動詞を使おう	所有詞、親族名称、アメリカ合衆国とメキシコ
8	第５課　お願いしたり、指示を理解しよう	動詞estar、直接目的語と間接目的語、数詞31～100、
9	第５課　お願いしたり、指示を理解しよう	tú と usted への肯定命令、グアテマラ
10	第６課　どこにいるか、何があるか確認しよう	動詞estar, hay、位置関係を表す語句
11	第６課　どこにいるか、何があるか確認しよう	疑問詞２、コスタリカ
12	第７課　しなければいけない、するつもり	１人称単数不規則動詞、天候表現
13	第７課　しなければいけない、するつもり	動詞tener, ir、キューバ
14	期末試験、ふりかえり	春学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書や付属の語彙集で調べておく。舞台となっている地域の位置を地図で確認し、その特徴なども調べる。
復習：新たに学んだことをノートにまとめて復習し、音声を聴いて発音練習を繰り返す。
宿題：練習問題
標準学習時間：計４時間

【テキスト（教科書）】
柳田玲奈／吉野達也『ラテアメ！ スペイン語―ラテンアメリカ縦断』朝日出版社、2023年

【参考書】
岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
高橋覚二、伊藤ゆかり、古川亜矢『とことんドリル！ スペイン語文法項目別』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50％）、小テスト（10％）、期末試験（40％）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】
いろいろな学部・学年・バックグラウンドをもった学生が受講しているので、できるだけグループアクティビティを取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
テキストの音声を聴くための機器（パソコン、スマートフォンなど）とインターネット環境。

【その他の重要事項】
長期的にスペイン語を勉強するのなら、紙媒体の辞書を使うことお薦めします。西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のもの。自動翻訳機や生成AIの使用厳禁。

【Outline (in English)】
This course introduces the basic of Spanish to beginners.
The goals are to pronounce Spanish correctly, express your daily life in Spanish and apprehend Spanish-speaking world.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process;
in class contribution 50%, short exam 10%, term-end examination 40%.

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

第三外国語としてのスペイン語Ｂ　2017年度以降入学者

杉下　由紀子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木2**/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】
現在と過去の動詞の時制の活用と用法を覚える。
簡単な日常会話・文章読解・作文ができるようにする。
スペイン語圏の社会や文化に関する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
すべて対面で行う。対面が不可になった場合はZoomによるリアルタイム双方向式で行う。
教員が文法事項を説明し、履修生は音声を聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループアクティビティを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。
アクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第８課　許可を求めたり、相手の希望を尋ねたりしよう	語幹母音変化動詞
2	第８課　許可を求めたり、相手の希望を尋ねたりしよう	不規則動詞、頻度の表現
3	第９課　好きなものを伝えよう	目的格人称代名詞
4	第９課　好きなものを伝えよう	前置詞格人尿代名詞、動詞gustar
5	第１０課　日常生活について話そう	再帰動詞
6	第１０課　日常生活について話そう	時刻、曜日、コロンビア
7	小テスト 第１１課　今していることや、これまでの経験を話そう	現在分詞、過去分詞
8	第１１課　今していることや、これまでの経験を話そう	現在完了、不定語・否定語
9	第１２課　過去の出来事を伝えよう	点過去規則動詞
10	第１２課　過去の出来事を伝えよう	比較、ペルー
11	第１３課　過去の出来事を伝えよう	点過去不規則動詞
12	第１３課　主語のない文を使おう	無人称表現、muyとmucho
13	第１４課　昔のことを語等	線過去、アルゼンチン
14	期末試験、ふりかえり	秋学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書や付属の語彙集で調べておく。舞台となっている地域の位置を地図で確認し、その特徴なども調べる。
復習：新たに学んだことをノートにまとめて復習し、音声を聴いて発音練習を繰り返す。
宿題：練習問題
標準学習時間：計４時間

【テキスト（教科書）】
柳田玲奈／吉野達也『ラテアメ！ スペイン語―ラテンアメリカ縦断』朝日出版社、2023年

【参考書】
岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
高橋覚二、伊藤ゆかり、古川亜矢『とことんドリル！ スペイン語文法項目別』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50％）、小テスト（10％）、期末試験（40％）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】
いろいろな学部・学年・バックグラウンドをもった学生が受講しているので、できるだけグループアクティビティを取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
テキストの音声を聴くための機器（パソコン、スマートフォンなど）とインターネット環境。

【その他の重要事項】
長期的にスペイン語を勉強するのなら、紙媒体の辞書を使うことお薦めします。西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のもの。自動翻訳機や生成AIの使用厳禁。

【Outline (in English)】
This course introduces the basic of Spanish to beginners.
The goals are to master basic daily Spanish conversation, reading and composition and apprehend Spanish-speaking world.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process;
in class contribution 50%, short exam 10%, term-end examination 40%.

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

スペイン語上級A

2017年度以降入学者

佐々木　直美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火2**/Tue.2
単位数：**2単位**
定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際文化学部SAスペインを修了した学生、または同程度のスペイン語力を持つ学生を対象の授業です。スペイン語によるコミュニケーション力のさらなる向上を目指します。スペイン語の基礎文法を再確認しながら、身近な事柄や個人的なテーマについて簡潔に文章を作成したり、わかりやすい口頭発表ができるようになることを目指します。

【到達目標】
*仮説のことがらを表現できるようになる。
*計画を提案したり、進言することができるようになる。
*フォーマルな状況で、適切な対応ができるようになる。
*他者の言ったことを伝えることができるようになる。
*身近なテーマについて、議論を交わすことができる様になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業はスペイン語と日本語を交えて、演習中心のテキストに沿って進めます。受講生がスペイン語によるプレゼンテーションを行ったり、スペイン語で議論をする機会を積極的に作ります。リアクション・ペーパーや課題に対するフィードバックは、授業内もしくは授業支援システムを活用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業についての説明
2	挨拶 個人の情報	個人の情報を伝えたり、求めたりする表現
3	授業内でのコミュニケーション	*義務、禁止、許可の表現 *授業中に質問ができる
4	文化と様々なイベント1	*過去の行動について話すことができる
5	文化と様々なイベント2	＊出来事の描写ができる
6	祝祭1	*願望や感情の表現ができる
7	祝祭2	*社交辞令の表現
8	都市と環境1	*助言を求めたり、対策を相談したり、解決策を提案したりする
9	都市と環境2	*意見を述べたり、賛否を表現する
10	移住と旅行1	*今後の予定と課題について話す *エピソードを伝える
11	移住と旅行2	*相手の話に興味を示したり、話を促す *人から聞いたことを伝える
12	動物、楽器、スポーツ	*比較表現ができる
13	日常生活の道具	原因、目的、結果について表現する
14	期末試験・まとめと解説	学習内容の理解度を確かめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習：その日授業で扱う範囲についてはあらかじめテキストに目を通し、知らない単語/表現やことがらについては調べておくこと。
・復習：授業内で新しく学んだことについて振り返り、1年次に購入した『段階別ドリル』を使って、知識の定着をはかること。
・そのほか：適宜指示される課題に取り組むこと。
この授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『エレラボＢ１』ガルシア、濱本他、朝日出版、定価（税込）3,135円

【参考書】
『段階別　ドリル』、朝日出版

【成績評価の方法と基準】
期末試験50％、授業内での貢献度・課題50％を目安として総合的に評価する。
この授業は演習中心の授業であるため、出席は必須とする。
3回以上欠席した場合や5回以上遅刻した場合は、「不可」と評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This class is for the students who have finished SA Spain Program or have a similar level of Spanish proficiency. We aim to further improve our communication skills in Spanish. While reconfirming basic Spanish grammar, you will aim to be able to write concise sentences on familiar and personal topics and make easy to understand oral presentations.
The principal goal of this class is to achieve B1level in DELE.
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、in class contribution: 50%.

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

スペイン語上級Ｂ

2017年度以降入学者

佐々木　直美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火2**/Tue.2
単位数：**2単位**
定員制（40）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際文化学部SAスペインを修了した学生、または同程度のスペイン語力を持つ学生を対象の授業です。スペイン語によるコミュニケーション力のさらなる向上を目指します。スペイン語の基礎文法を再確認しながら、身近な事柄や個人的なテーマについて簡潔に文章を作成したり、わかりやすい口頭発表ができるようになることを目指します。

【到達目標】
*仮説のことがらを表現できるようになる。
*計画を提案したり、進言することができるようになる。
*フォーマルな状況で、適切な対応ができるようになる。
*他者の言ったことを伝えることができるようになる。
*身近なテーマについて、議論を交わすことができる様になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
授業はスペイン語と日本語を交えて、演習中心のテキストに沿って進めます。受講生がスペイン語によるプレゼンテーションを行ったり、スペイン語で議論をする機会を積極的に作ります。リアクション・ペーパーや課題に対するフィードバックは、授業内もしくは授業支援システムを活用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり /Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業についての説明
2	迷信と日常生活1	*直説法未来完了 *直説法未来と可能性を表す直説法過去未来
3	迷信と日常生活2	*接続法過去 *条件文
4	観光、旅、休暇1	*方法・様態と場所を示す関係副詞 *結果を表す文
5	観光、旅、休暇2	*計画の提案・招待を受け入れる/断る *前置詞を伴う疑問文
6	仕事1	*時を表す副詞節Ⅱ *形容詞の語尾消失
7	仕事2	*就職の面接と履歴書作成に役立つ表現
8	食文化1	*直接話法と間接話法
9	食文化2	*食品や味に関する表現
10	人間関係1	*譲歩節 *逆説の接続詞
11	人間関係2	*不定代名詞と不定形容詞 *付き合いや人間関係を表す動詞
12	映画1	映画の世界について外観する
13	映画2	映画製作のプロセスを学ぶ
14	映画3	短編映画の撮影にチャレンジする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習：その日授業で扱う範囲についてはあらかじめテキストに目を通し、知らない単語/表現やことがらについては調べておくこと。
・復習：授業内で新しく学んだことについて振り返り、1年次に購入した『段階別ドリル』を使って、知識の定着をはかること。
・そのほか：適宜指示される課題に取り組むこと。
この授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『エレラボＢ１』ガルシア、濱本他、朝日出版、定価（税込）3,135円

【参考書】
『段階別　ドリル』、朝日出版

【成績評価の方法と基準】
期末試験50％、授業内での貢献度・課題50％を目安として総合的に評価する。
この授業は演習中心の授業であるため、出席は必須とする。
3回以上欠席した場合や5回以上遅刻した場合は、「不可」と評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This class is for the students who have finished SA Spain Program or have a similar level of Spanish proficiency. We aim to further improve our communication skills in Spanish. While reconfirming basic Spanish grammar, you will aim to be able to write concise sentences on familiar and personal topics and make easy to understand oral presentations.
The principal goal of this class is to achieve B1level in DELE.
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、in class contribution: 50%.

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

スペイン語コミュニケーション中級A

2017年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講座では、スペイン語圏の文化や習慣を学びながら、語彙や表現を豊かにする練習を行います。毎回、モデル文章のリスニング、語彙の解説、ディクテーション、発音練習を行います。
すべての授業は対面形式で行われます。

【到達目標】
スペイン語圏の文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業の予習があらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えること仲間との練習で使う１０個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通してくることが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の紹介 花見	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペイン語のよくある疑問	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペイン語ジェスチャー	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペイン語を話す国々	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	アンデスの言語	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	ケチュア語の紹介	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	アンデスのペルーの食べ物　(I)：クイ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	アンデスのペルーの食べ物　(II)：チューニュ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
9	ペルー料理	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	ペルーを代表するセビッチェのレシピ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	ペルーでよく食べらるデザートのレシピ：Arroz con leche y mazamorra morada	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	ペルーにおける子供の誕生日祝い	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	女性の15歳の誕生日のお祝い	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	期末のレポートと口頭試験	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業の予習があらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えること仲間との練習で使う１０個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通してくることが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
辞書 (電子辞書可)/Shogakukan DICCIONARIO ESPAÑOL - JAPONÉS

【成績評価の方法と基準】
1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又, 授業での態度や積極的な参加度など→ 60％
2. 期末のレポートと口頭試験に基づく点数　→　40％

【学生の意見等からの気づき】
対面授業になるので、口頭試験を行うことにした。

【Outline (in English)】
In this course, you will learn about the culture and customs of Spanish-speaking countries while simultaneously practicing and enriching your vocabulary. Each lesson will include the following activities: listening to a model text, reading the text individually and then in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.
The goal is to learn about the cultural practices of the Spanish-speaking world while strengthening Spanish vocabulary and developing expressive abilities.
Each session begins with an exercise consisting of 5 to 10 questions in Spanish with classmates, followed by a review of the previous lesson.
Activities include listening to a model text, reading it individually and in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.
For each session, students will be assigned homework consisting of 5 to 10 questions to discuss with classmates during the following session. At the end of the semester, students will write a report in Spanish on "The Japanese Coming of Age Ceremony" and deliver an oral presentation. During the presentation, they will answer questions in Spanish about the content.
Grading Criteria:
Class performance, including answers to in-class questions, assignments, attitude, and active participation → 60%
Reports and oral exam at the end of the term → 40%
To prepare for each lesson, students are expected to memorize the new vocabulary provided in the weekly PDF and practice answering the 5 to 10 questions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week.
As this is a communication-focused course, students will primarily work in pairs or groups.
毎回、最初にクラスメート同士で10個のスペイン語の質問を練習することから始まります。その後、前回の復習を行い、新しいモデル文章のリスニング、語彙の解説、ディクテーション、発音練習などを行います。

本授業には課題があり、期末試験として「日本の成人式」について
スペイン語でレポートを提出してもらいます。

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

スペイン語コミュニケーション中級B

2017年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**3/Fri.3
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講座では、スペイン語圏の文化や習慣を学びながら、語彙や表現を豊かにする練習を行います。毎回、モデル文章のリスニング、語彙の解説、ディクテーション、発音練習を行います。

【到達目標】
スペイン語圏の文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化し、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
毎回最初に仲間同士で１０個のスペイン語の質問の練習から始まる。その後前回の復習をしてから、新しいモデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習などを行う。
本授業には課題や小テストがあり。期末試験として「日本のクリスマスとお正月」についてスペイン語でレポートを提出してもらう。さらにその内容に関してのスペイン語での口頭試験もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スペイン語圏のの伝統的なダンス(I)	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペイン語圏の伝統的なダンス(II)	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペイン語圏の伝統的な音楽(I)楽器	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペイン語圏の伝統的な音楽(II)ラ・ジョローナ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	スペイン語圏の物語(I)マテ茶の起源	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	スペイン語圏の物語(II)ラ・ジョローナ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	スペイン語圏の映画の上映(I)ラ・ジョローナ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	スペイン語圏の映画の上映(II)ラ・ジョローナ	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習 小テスト
9	スペイン語圏の伝統的なお祭り	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	ペルーアンデスのハサミ踊り。	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	ペルーアンデスのクリスマス踊り。	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	ペルーのクリスマス料理	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	ペルーのクリスマスとお正月	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	期末のレポートと口頭試験	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業の予習があらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えること仲間との練習で使う１０個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通してくることが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
辞書 (電子辞書可)/Shogakukan DICCIONARIO ESPAÑOL - JAPONÉS

【成績評価の方法と基準】
1.授業内で指された時の返事に基づく点数。小テスト、又, 授業での態度や積極的な参加度など → 60％

2.期末のレポートと口頭試験に基づく点数　→　40％

【学生の意見等からの気づき】
対面授業になるので、口頭試験を行うことにした。

【Outline (in English)】
In this course, you will learn about the culture and customs of Spanish-speaking countries while simultaneously practicing and enriching your vocabulary. Each lesson will include the following activities: listening to a model text, reading the text individually and then in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.
The goal is to learn about the cultural practices of the Spanish-speaking world while strengthening Spanish vocabulary and developing expressive abilities.
Each session begins with an exercise consisting of 5 to 10 questions in Spanish with classmates, followed by a review of the previous lesson.
Activities include listening to a model text, reading it individually and in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.
For each session, students will be assigned homework consisting of 5 to 10 questions to discuss with classmates during the following session. At the end of the semester, students will write a report in Spanish on "The Japanese Coming of Age Ceremony" and deliver an oral presentation. During the presentation, they will answer questions in Spanish about the content.
Grading Criteria:
Class performance, including answers to in-class questions, assignments, attitude,midterm exam,and active participation → 60%
Reports and oral exam at the end of the term → 40%
To prepare for each lesson, students are expected to memorize the new vocabulary provided in the weekly PDF and practice answering the 5 to 10 questions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week.
As this is a communication-focused course, students will primarily work in pairs or groups.

すべての授業は対面形式で行われます。毎回、最初にクラスメート同士で10個のスペイン語の質問を練習することから始まります。その後、前回の復習を行い、新しいモデル文章のリスニング、語彙の解説、ディクテーション、発音練習などを行います。
本授業には課題があり、期末試験として「日本のクリスマスとお正月」についてスペイン語でレポートを提出してもらいます。

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

久木　正雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木2**/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生を対象として（※後述の【その他の重要事項】の欄を参照のこと）、講読・講義・ゼミ形式でスペイン語圏の詩と歌（歌詞）について学ぶ。春学期は詩を講読対象とし、主に20世紀の作品を時代順・地域毎に取り上げていく。また、それぞれの作品と同時代に記された批評や現代の研究文献を併読することで、作品の背景にある歴史・社会・文化について考えていく。

【到達目標】
(1) スペイン語圏の詩に関する基本的な理解を得る。
(2) 作品の背景にある歴史・社会・文化に対する理解と関心を深める。
(3) 上述の(1)、(2)に関する各自の考えを、ディスカッションにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
スペイン語テクストの講読、教員による講義、受講生とのディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	ルベン・ダリーオとモデルニスモ	ルベン・ダリーオとその詩およびモデルニスモについて学ぶ。
3	「98年世代」の詩人たち	「98年世代」の詩人たちとその詩について学ぶ。
4	「14年世代」から「27年世代」へ	「14年世代」と「27年世代」の詩人たちとその詩について学ぶ。
5	スペイン内戦、抵抗、亡命	スペイン内戦期の詩について学ぶ。
6	フェデリーコ・ガルシア・ロルカ	フェデリーコ・ガルシア・ロルカとその詩について学ぶ。
7	フランコ体制下の詩	フランコ体制下の詩について学ぶ。
8	ポスト・フランコ期の詩	ポスト・フランコ期の詩について学ぶ。
9	パブロ・ネルーダ	パブロ・ネルーダとその詩について学ぶ。
10	ニカノール・パラ	ニカノール・パラとその詩について学ぶ。
11	レイナルド・アレーナスとキューバ革命	レイナルド・アレーナスとその詩およびキューバ革命について学ぶ。
12	ロケ・ダルトンと中米の動乱	ロケ・ダルトンとその詩および中米の動乱について学ぶ。
13	ホルヘ・ルイス・ボルヘスの詩論	ホルヘ・ルイス・ボルヘスとその詩論について学ぶ。
14	まとめ	今学期の学習内容を総括的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、各回で扱う予定のテクストを読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直しておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点：100％。

【学生の意見等からの気づき】
各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
- この授業ではスペイン語テクストの読解を行うため、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生（１年次必修クラスを履修済みの学生）を対象とする。ただし、スペイン語圏の詩や歌に強い関心を持つ学生であればこの限りではなく、初回授業時または事前に担当教員へ相談を寄せていただきたい。
- 履修予定者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が定員を超過した場合は初回授業で選抜を行うこととし、その旨と選抜方法を前日のうちに同システムで通知する。

【Outline (in English)】
《Course outline》
This course is designed to provide the students with an opportunity to view the Spanish and Latin American histories, societies and cultures, through reading poetry and song lyrics written in Spanish, lecture and discussion about them.
《Learning Objectives》
Students will gain the basic knowledge of poetry and song lyrics in the Spanish-speaking world and its histories, societies and cultures, and the ability of express own ideas accurately in discussion.
《Learning activities outside of classroom》
Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
《Grading Criteria /Policy》
Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contribution (100%).

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

久木　正雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木**2/Thu.2
単位数：**2単位**
定員制（30）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生を対象として（※後述の【その他の重要事項】の欄を参照のこと）、講読・講義・ゼミ形式でスペイン語圏の詩と歌（歌詞）について学ぶ。秋学期は歌（歌詞）を講読対象とし、主に20世紀の作品を時代順・地域毎に取り上げていく。また、それぞれの作品と同時代に記された批評や現代の研究文献を併読することで、作品の背景にある歴史・社会・文化について考えていく。

【到達目標】
(1) スペイン語圏の歌に関する基本的な理解を得る。
(2) 作品の背景にある歴史・社会・文化に対する理解と関心を深める。
(3) 上述の(1)、(2)に関する各自の考えを、ディスカッションにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
スペイン語テクストの講読、教員による講義、受講生とのディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	国歌と「国民的」歌謡曲	スペイン語圏の国歌と「国民的」とされる歌謡曲について学ぶ。
3	カンテ・フラメンコとその系譜	カンテ・フラメンコとその系譜について学ぶ。
4	「ラテン」音楽の諸相	ラテン音楽と総称される音楽ジャンルの多様性について学ぶ。
5	タンゴとタンゴ・オペリータ	タンゴとタンゴ・オペリータについて学ぶ。
6	ビオレータ・パラ	ビオレータ・パラとその歌について学ぶ。
7	ビクトル・ハラ	ビクトル・ハラとその歌について学ぶ。
8	プエルトリコ、キューバ、パナマと米国	プエルトリコ、キューバ、パナマと米国の関係について楽曲とその歌詞から学ぶ。
9	ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ	映画『ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ』とその楽曲について学ぶ。
10	ヒスパニック社会とサルサ	米国のヒスパニック社会とサルサについて学ぶ。
11	ウィリー・コロン	ウィリー・コロンとその歌について学ぶ。
12	ルベン・ブラーデス	ルベン・ブラーデスとその歌について学ぶ。
13	カバー曲における翻訳と翻案	カバー曲における翻訳と翻案について学ぶ。
14	まとめ	今学期の学習内容を総括的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、各回で扱う予定のテクストを読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直しておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点：100％。

【学生の意見等からの気づき】
各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
- この授業ではスペイン語テクストの読解を行うため、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生（１年次必修クラスを履修済みの学生）を対象とする。ただし、スペイン語圏の詩や歌に強い関心を持つ学生であればこの限りではなく、初回授業時または事前に担当教員へ相談を寄せていただきたい。
- 履修予定者は、秋学期の初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が定員を超過した場合は初回授業で選抜を行うこととし、その旨と選抜方法を前日のうちに同システムで通知する。

【Outline (in English)】
《Course outline》
This course is designed to provide the students with an opportunity to view the Spanish and Latin American histories, societies and cultures, through reading poetry and song lyrics written in Spanish, lecture and discussion about them.
《Learning Objectives》
Students will gain the basic knowledge of poetry and song lyrics in the Spanish-speaking world and its histories, societies and cultures, and the ability of express own ideas accurately in discussion.
《Learning activities outside of classroom》
Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
《Grading Criteria /Policy》
Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contribution (100%).

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

スペイン語講読 A

2017年度以降入学者

若林　大我

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金**1/Fri.1
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧に復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】
初級・中級文法（学期終了までに、およそ接続法現在まで）の理解を深めながら、辞書を引きつつ短い読み物を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれた短い読み物を、語彙、文法、表現等に注目しながら読み解いていく。
課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	1課　文法復習	教科書第1課の文法復習（直説法現在形、serとestar、estarとhay、現在分詞など）
3	2課　文法復習	教科書第2課の文法復習（再帰動詞など）
4	2課　読解	教科書第2課の本文読解
5	3課　文法復習	教科書第3課の文法復習（直説法現在完了、直説法点過去など）
6	4課　文法復習	教科書第4課の文法復習（直説法線過去など）
7	4課　読解	教科書第4課の本文読解
8	中間テスト	今学期の中間テストを実施
9	5課　文法復習	教科書第5課の文法復習（直説法過去完了、受身表現など）
10	6課　文法復習	教科書第6課の文法復習（直説法未来、直説法過去未来など）
11	6課　読解	教科書第6課の本文読解
12	7課　文法復習	教科書第7課の文法復習（関係詞など）
13	8課　文法復習 8課　読解	教科書第8課の文法復習（接続法現在など） 教科書第8課の本文読解
14	試験・まとめと解説	今学期の期末テストを実施 まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書各課の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）や宿題（教科書の練習問題）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
二宮哲『一歩進んだスペイン語-中級スペイン語-』同学社、2016年、ISBN: 978-4-8102-0430-8

【参考書】
必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、中間テスト30％、期末テスト40％として総合的に評価する。
なお授業への出席は単位修得の前提条件であることから、学期中の出席が3分の2に満たない場合は、一律単位を付与しない。

【学生の意見等からの気づき】
履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。
文法をしっかりと復習しながら読解を進めるので、既習文法の理解に自信が無い場合も心配しないでほしい。

【Outline (in English)】
In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Read short stories in Spanish
- Have interest in Hispanic cultures and history
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process:
- In-class contribution (30%)
- Mid-term exam (30%)
- Term-end exam (40%)

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

スペイン語講読 B

2017年度以降入学者

若林　大我

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金**1/Fri.1
単位数：**2単位**
定員制（30）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧に復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】
初級・中級文法の理解を深めながら、スペイン語で書かれたある程度の長さの映画脚本を読解できるようになる。またこれを通じ、スペイン語圏の文化に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
教員による補足説明を踏まえながら、現代スペイン映画の巨匠ペドロ・アルモドバル（Pedro Almodóvar）監督の代表作の一つである『オール・アバウト・マイ・マザー』（原題: Todo sobre mi madre、1999年）のスペイン語脚本を、一学期間をかけて丁寧に読み解いていく。
問題の箇所が日本語の字幕ではどのように表現されているかを適宜確認しながら、翻訳という営みの奥深さにも触れていく。
現代劇なので崩れた言い回しや俗語等が多用されているが、それらを通じて生きた現代スペイン語に親しむ。
課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	シーン0～11	シーン0から11までの読解
3	シーン12～23	シーン12から23までの読解
4	シーン24～35	シーン24から35までの読解
5	シーン36～47	シーン36から47までの読解
6	シーン48～59	シーン48から59までの読解
7	シーン60～71	シーン60から71までの読解
8	中間テスト	今学期の中間テストを実施
9	シーン72～83	シーン72から83までの読解
10	シーン84～95	シーン84から95までの読解
11	シーン96～107	シーン96から107までの読解
12	シーン108～119	シーン108から109までの読解
13	シーン120～122	シーン120から最後までの読解
14	試験・まとめと解説	今学期の期末テストを実施 まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回読解する箇所の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、中間テスト30％、期末テスト40％として総合的に評価する。
なお授業への出席は単位修得の前提条件であることから、学期中の出席が3分の2に満たない場合は、一律単位を付与しない。

【学生の意見等からの気づき】
1学期間でテキスト全体を読み通すことを無理に目指さず、履修生の理解度を確認しつつ進める。

【その他の重要事項】
春学期開講の「スペイン語講読A」において学習した内容を踏まえて授業を進めることも多いため、同科目と合わせての履修を推奨する。

【Outline (in English)】
In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading a movie script written in Spanish.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Read long conversation texts in Spanish
- Have interest in Hispanic cultures
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process:
- In-class contribution (30%)
- Mid-term exam (30%)
- Term-end exam (40%)

法政大学
HOSEI University